

岐阜県文化財保護センター
調査報告書 第159集

公文垣内南遺跡

2023

岐阜県文化財保護センター

く も がい と みなみ い せき
公文垣内南遺跡

2023

岐阜県文化財保護センター



発掘区透景（南西から）



灰釉陶器



綠釉陶器 (84)



常滑片口鉢 (122)



寶島磁器 (123・124)



中世陶器 (107 ~ 115・117 ~ 120)

序

岐阜県の南東部に位置する瑞浪市は「化石の町」として知られ、市の中央部を流れる土岐川に沿って国道19号線や中央自動車道・JR中央本線が通じ、古来より東山道、中山道、下街道などの街道が整備された交通の要所です。

このたび、国土交通省中部地方整備局多治見砂防国道事務所による国道19号瑞浪恵那道路事業に伴い、瑞浪市釜戸町にある公文垣内南遺跡の発掘調査を実施しました。公文垣内南遺跡は、古代から中世にかけての複合遺跡です。今回の発掘区では、9軒の掘立柱建物のほか、塀・柵、排水溝と想定される溝などを確認し、古代から中世にかけて断続的に集落が営まれていたことが分かりました。本報告書が埋蔵文化財に対する認識を深めるとともに、当地の歴史研究の一助となれば幸いです。

最後となりましたが、発掘調査及び出土遺物の整理・報告書作成に当たりまして、御支援・御協力をいただきました関係諸機関並びに関係者各位、瑞浪市教育委員会、地元地区の皆様に深く感謝申し上げます。

令和5年3月

岐阜県文化財保護センター
所長 岡田 知也

例 言

- 1 本書は、岐阜県瑞浪市釜戸町に所在する公文垣内南遺跡（岐阜県遺跡番号 21208-07925）の発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、国道19号瑞浪恵那道路事業に伴うもので、国土交通省中部地方整備局から岐阜県文化財保護センターが委託を受けた。発掘作業及び整理等作業は、岐阜県文化財保護センターが実施した。
- 3 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所林正憲氏の指導のもとに、発掘作業は令和2年度に、整理等作業は令和3年度に実施した。
- 4 発掘作業及び整理等作業の担当は、本書第1章第2節に一括掲載した。
- 5 本書の執筆及び編集は、磯貝龍志が行った。
- 6 発掘作業における現場管理、掘削、測量、景観写真撮影などの支援業務と、出土遺物の洗浄・注記は株式会社イビノクに委託して行った。整理等作業における作業管理、出土遺物の整理作業、挿図・写真図版作成などの支援業務は、株式会社ユニオンに委託して行った。
- 7 遺物の写真撮影は、アートフォト右文に委託して行った。
- 8 木製品の年代測定は、株式会社パレオ・ラボに委託して行い、第4章に掲載した。第4章第1節は磯貝が執筆した。
- 9 発掘調査及び報告書の作成に当たって、次の方々や諸機関から御指導・御協力をいただいた。記して感謝の意を表する次第である（敬称略・五十音順）。
多治見市教育委員会、藤澤良祐、瑞浪市教育委員会、渡邊博人
- 10 本文中の方位は座標北であり、座標は国土交通省告示の平面直角座標系第Ⅶ系を使用する。
- 11 土層の色調は、小山正忠・竹原秀雄 2015『新版標準土色帖』（日本色研事業株式会社）による。
- 12 調査記録及び出土遺物は、岐阜県文化財保護センターで保管している。

目次

巻頭図版

序

例言

第1章 調査の経過

第1節 調査に至る経緯…………… 1

第2節 調査の方法と経過…………… 4

第2章 遺跡の環境

第1節 地理的環境…………… 7

第2節 歴史的環境…………… 8

第3章 調査の成果

第1節 基本層序…………… 13

第2節 遺構の概要…………… 16

第3節 遺物の概要…………… 18

第4節 古代の遺構・遺物…………… 20

第5節 中世の遺構・遺物…………… 32

第6節 その他の遺構・遺物…………… 67

第7節 表土・包含層・攪乱・試掘坑出土遺物…………… 70

発掘区全城図、遺構一覧表、遺物観察表

第4章 自然科学分析

第1節 分析の概要と成果…………… 104

第2節 放射性炭素年代測定…………… 104

第5章 総括

第1節 遺構の変遷…………… 107

第2節 遺物について…………… 111

第3節 まとめ…………… 119

引用・参考文献…………… 121

写真図版

報告書抄録

挿図目次

図 1	遺跡位置図	1	図 34	SA 4 遺構図	47
図 2	試掘・確認調査坑	2	図 35	SP 1、SP 8、SP10 遺構図・遺物実測図	48
図 3	グリッド設定図	5	図 36	SD 2、SD 8 遺構図・遺物実測図	49
図 4	発掘区周辺の地質概略図	7	図 37	SD 6、SD 7、SD13 遺構図・遺物実測図	50
図 5	周辺遺跡位置図	11	図 38	SD11、SD16、SD18 遺構図	52
図 6	基本層序柱状図	15	図 39	SD11、SD16、SD18 遺物実測図	53
図 7	遺構属性模式図	17	図 40	SD19、SD20 遺構図・遺物実測図	54
図 8	SB 8 遺構図 (1)	21	図 41	SD22 遺構図	55
図 9	SB 8 遺構図 (2)・遺物実測図	22	図 42	SD26 遺構図・遺物実測図	56
図 10	SP 3、SP 6 遺構図・遺物実測図	23	図 43	SK 1、SK 5、SK 6 遺構図・遺物実測図	57
図 11	SD 4 遺構図	23	図 44	SK 7、SK10、SK11 遺構図・遺物実測図	58
図 12	SD14 遺構図・遺物実測図	24	図 45	SK48、SK55、SK61 遺構図・遺物実測図	59
図 13	SD23 遺構図・遺物実測図	25	図 46	SK95、SK99、SK112 遺構図・遺物実測図	61
図 14	SD37 遺構図	26	図 47	SK127、SK140、SK145 遺構図・遺物実測図	62
図 15	SK23、SK31、SK122 遺構図・遺物実測図	27	図 48	SK180、SK193、SK209 遺構図	63
図 16	SK132、SK169、SK216 遺構図・遺物実測図	28	図 49	SK226、SK230、SK233 遺構図	64
図 17	SK241、SK242、SK311 遺構図・遺物実測図	29	図 50	SK238、SK250、SK338 遺構図・遺物実測図	65
図 18	SK323 遺構図・遺物実測図	30	図 51	SK415 遺構図	66
図 19	SK400 遺構図・遺物実測図	31	図 52	SA 1 遺構図	68
図 20	SB 1 遺構図 (1)	33	図 53	SA 5 遺構図	68
図 21	SB 1 遺構図 (2)・遺物実測図	34	図 54	SP17 遺構図・遺物実測図	69
図 22	SB 2 遺構図 (1)	35	図 55	表土・包含層・攪乱出土遺物実測図 (1)	71
図 23	SB 2 遺構図 (2)・遺物実測図	36	図 56	表土・包含層・攪乱出土遺物実測図 (2)	72
図 24	SB 3 遺構図・遺物実測図	37	図 57	表土・包含層・攪乱出土遺物実測図 (3)	73
図 25	SB 4 遺構図	38	図 58	表土・包含層・攪乱出土遺物実測図 (4)	74
図 26	SB 5 遺構図 (1)	39	図 59	試掘坑出土遺物実測図	75
図 27	SB 5 遺構図 (2)	40	図 60	発掘区全域図 割付図	76
図 28	SB 6 遺構図	41	図 61	発掘区全域図 分割図 (1)	77
図 29	SB 7 遺構図 (1)	42	図 62	発掘区全域図 分割図 (2)	78
図 30	SB 7 遺構図 (2)	43	図 63	発掘区全域図 分割図 (3)	79
図 31	SB 9 遺構図	44	図 64	発掘区全域図 分割図 (4)	80
図 32	SA 2 遺構図	45	図 65	発掘区全域図 分割図 (5)	81
図 33	SA 3 遺構図	46	図 66	発掘区全域図 分割図 (6)	82

図 67	発掘区全域図 分割図 (7)	83	図 70	遺構変遷図 (2)	109
図 68	暦年校正結果	105	図 71	高台法量散布図	114
図 69	遺構変遷図 (1)	108	図 72	丸石 2 号窯器種比率	117

表目次

表 1	試掘・確認調査結果	3	表 20	土坑一覧表 (7)	94
表 2	周辺遺跡一覧表	10	表 21	土坑一覧表 (8)	95
表 3	検出遺構一覧表	16	表 22	土坑一覧表 (9)	96
表 4	出土遺物一覧表	18	表 23	土器観察表 (1)	96
表 5	掘立柱建物一覧表	84	表 24	土器観察表 (2)	97
表 6	掘立柱建物付属遺構一覧表 (1)	84	表 25	土器観察表 (3)	98
表 7	掘立柱建物付属遺構一覧表 (2)	85	表 26	土器観察表 (4)	99
表 8	塀・柵一覧表	85	表 27	土器観察表 (5)	100
表 9	塀・柵付属遺構一覧表	86	表 28	土器観察表 (6)	101
表 10	単独柱穴一覧表	86	表 29	土器観察表 (7)	102
表 11	溝状遺構一覧表 (1)	86	表 30	土器観察表 (8)	103
表 12	溝状遺構一覧表 (2)	87	表 31	木製品観察表	103
表 13	溝状遺構付属遺構一覧表	87	表 32	測定試料及び処理	104
表 14	土坑一覧表 (1)	88	表 33	放射性炭素年代測定及び暦年校正の結果	105
表 15	土坑一覧表 (2)	89	表 34	須恵器・灰釉陶器の破片数	112
表 16	土坑一覧表 (3)	90	表 35	山茶碗の破片数	112
表 17	土坑一覧表 (4)	91	表 36	古瀬戸の破片数	112
表 18	土坑一覧表 (5)	92	表 37	土器出土量の推移	113
表 19	土坑一覧表 (6)	93	表 38	底部調整比率	115

挿入写真目次

写真 1	調査前風景 (南東から)	6	写真 7	東区耕地整理前地境杭列検出状況 (北東から)	14
写真 2	表土掘削作業	6	写真 8	西区耕地整理前地境杭列検出状況 (北東から)	14
写真 3	包含層掘削作業	6	写真 9	底部外面回転ヘラケズリ	115
写真 4	遺構検出作業	6	写真 10	底部外面ナデ	115
写真 5	遺構掘削作業	6	写真 11	底部外面回転糸切痕	115
写真 6	遺構測量作業	6			

写真図版目次

- 図版 1 遺構 (1)
東区全景 (西が上)
西区全景 (東が上)
- 図版 2 遺構 (2)
SB 8 完掘状況 (西から)
SP 3 土層断面 (南東から)
SP 6 土層断面 (南から)
SD 4 遺物出土状況 (北から)
SK132 土層断面 (南西から)
- 図版 3 遺構 (3)
SB 1 完掘状況 (北西から)
SB 1-P 2 土層断面 (南から)
SB 1-P 5 土層断面 (西から)
SB 2 完掘状況 (北西から)
- 図版 4 遺構 (4)
SB 2-P 1 土層断面 (南から)
SB 2-P 2 土層断面 (南西から)
SB 4-P 3 土層断面 (南西から)
SB 4-P 4 土層断面 (南西から)
SB 4-P 5 土層断面 (南西から)
SB 4-P 6 土層断面 (南東から)
SB 5-P 2 土層断面 (南西から)
SB 6-P 2 土層断面 (東から)
- 図版 5 遺構 (5)
SB 5 完掘状況 (北から)
SB 6 完掘状況 (北東から)
- 図版 6 遺構 (6)
SB 7 完掘状況 (北東から)
SB 9 完掘状況 (北東から)
- 図版 7 遺構 (7)
SA 2-P 1 土層断面 (南東から)
SA 2-P 4 土層断面 (南西から)
SA 3 完掘状況 (南から)
SA 4 完掘状況 (南東から)
- SA 3-P 1 土層断面 (南西から)
SP 1 土層断面 (西から)
- 図版 8 遺構 (8)
SP 8 土層断面 (南から)
SP10 土層断面 (南東から)
SD 2 遺物出土状況 (北東から)
SD 2 完掘状況 (南東から)
SD 8 完掘状況 (北東から)
- 図版 9 遺構 (9)
SD 6 完掘状況 (北から)
SD 7 完掘状況 (南から)
SD13 完掘状況 (南から)
SD11 遺物出土状況 (南東から)
SD11G・H12 グリッド完掘状況 (東から)
SD11E・G 11~12 グリッド完掘状況 (東から)
SD16G・H12~13 グリッド完掘状況 (南東から)
SD16G13~14 グリッド完掘状況 (北から)
- 図版 10 遺構 (10)
SD18 完掘状況 (東から)
SD19・20 完掘状況 (南東から)
SD26C-C' 土層断面 (西から)
SD26D-D' 土層断面 (北西から)
SD26 付属遺構完掘状況 (南東から)
- 図版 11 遺構 (11)
SK226 土層断面 (南東から)
SK226 礫出土状況 (南東から)
SA 1 完掘状況 (北東から)
SA 5 完掘状況 (南西から)
SA 1-P 1 土層断面 (南東から)
SP17 土層断面 (東から)
- 図版 12 出土遺物：遺構
- 図版 13 出土遺物：遺構
- 図版 14 出土遺物：表土・排土・包含層
- 図版 15 出土遺物：遺構・表土・包含層・試掘坑

第1章 調査の経過

第1節 調査に至る経緯

公文垣内南遺跡は、瑞浪市の中央部を東西に流れる土岐川の左岸に位置する遺跡で、瑞浪市釜戸町地内に所在する（図1）。遺跡の所在する瑞浪市釜戸町は市の東部に位置する。土岐川に沿って中央自動車道や国道19号線、JR中央本線が通るなど、交通の要所として重要な位置を占める。平成22年度に瑞浪市が実施した市内遺跡詳細分布調査では灰軸陶器や山茶碗が採取されており、古代から中世にかけての遺物散布地として知られていた¹⁾。

今回の発掘調査は、瑞浪市土岐町から恵那市長島町の約12.5kmの区間の整備を目的とした国道19号瑞浪恵那道路事業に伴うもので、この事業予定地は公文垣内南遺跡と重なることから、国土交通省中部地方整備局多治見砂防国道事務所（以下、「国道事務所」という。）より岐阜県教育委員会教育長（以下、「県教育長」という。）宛てに試掘・確認調査の実施依頼（平成31年3月11日付け国部整多計第97号）があり、令和元年5月13日から令和3年1月20日にかけて岐阜県環境生活部県民文化局文化伝承課（以下、「文化伝承課」という。）が、試掘・確認調査を実施した。その結果、TP24・TP26・TP27では古代から中世にかけての遺構や遺物、遺物包含層を確認した（図2、表1）。

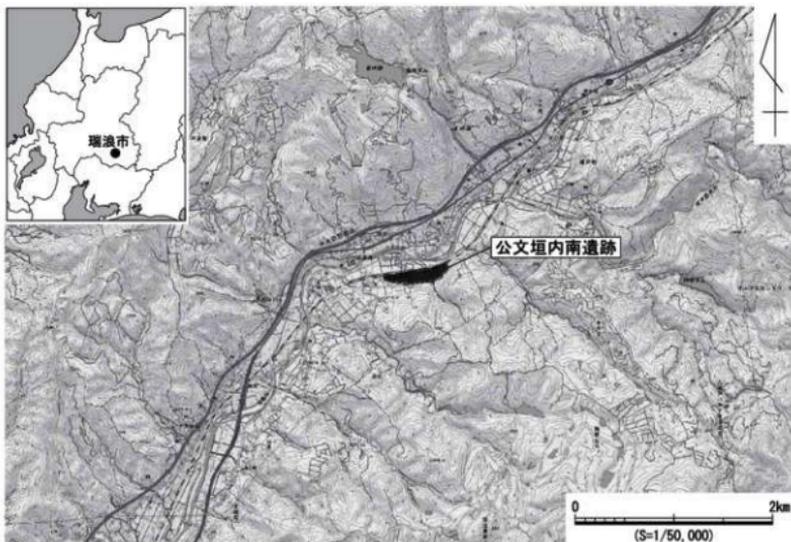


図1 遺跡位置図

（令和3年国土院発行の2万5千分1電子地形図「瑞浪」「土岐」「武笠」を使用したものである）

2 第1章 調査の経緯

この試掘・確認調査の結果をもとに、令和元年12月24日、令和2年8月4日、令和3年3月19日に実施した岐阜県埋蔵文化財発掘調査検討会において、1391.7㎡の本発掘調査が必要との意見をまとめた。

本工事については、文化財保護法第94条第1項の規定に基づき、国道事務所長から岐阜県知事（以下、「県知事」という。）あて埋蔵文化財発掘通知（令和2年1月10日付け国部整多計第101号）が提出され、同条第4項の規定に基づき、県知事から同事務所長あて発掘調査実施勧告（令和2年1月28日付け文伝第94号の185）を通知した。同事務所長は、発掘調査の実施を決定すると共に、その実施を県知事に依頼した。それを受け、令和2年度に岐阜県文化財保護センター（以下、「当センター」という。）が、1,391.7㎡を対象に、本発掘調査を実施した。当センターは調査着手後、文化財保護法第99条第1項の規定に基づく発掘調査の報告（令和2年5月22日付け文財セ第54号）を県知事に提出した。

注

- 1) 瑞浪市教育委員会2014『瑞浪市遺跡詳細分布報告書』（瑞浪市埋蔵文化財調査報告書 第6集）

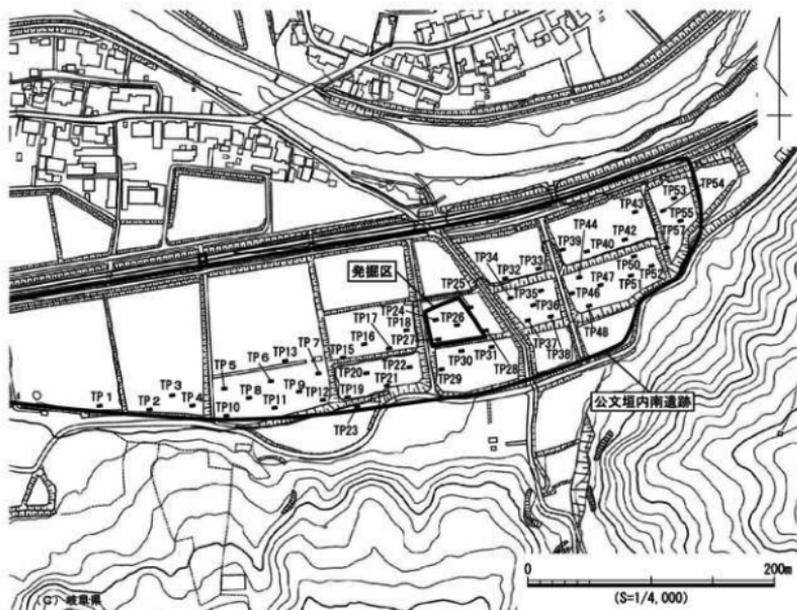


図2 試掘・確認調査坑

表1 試掘・確認調査結果

調査坑No.	検出遺構(基數)	出土遺物(接合前破片數)						合計
		土師器	須恵器	灰軸陶器	山茶碗	中近世陶磁器	土製品	
TP1	なし(0)	0	0	0	7	2	0	9
TP2	なし(0)	0	0	0	0	2	0	2
TP3	なし(0)	0	0	0	1	2	0	3
TP4	なし(0)	0	0	0	4	2	0	6
TP5	なし(0)	0	0	0	31	13	2	46
TP6	なし(0)	0	0	0	3	4	0	7
TP7	なし(0)	3	0	0	7	3	0	13
TP8	なし(0)	1	0	0	4	8	0	13
TP9	なし(0)	0	0	0	0	0	0	0
TP10	なし(0)	1	0	0	2	10	1	14
TP11	なし(0)	0	0	0	6	0	0	6
TP12	なし(0)	0	0	0	8	3	0	11
TP13	なし(0)	0	0	0	3	2	0	5
TP14		欠番						
TP15	なし(0)	1	0	1	26	7	0	35
TP16	なし(0)	0	0	0	9	2	0	11
TP17	なし(0)	0	0	0	2	0	0	2
TP18	なし(0)	0	0	0	1	1	0	2
TP19	なし(0)	0	0	0	12	5	0	17
TP20	なし(0)	0	0	0	23	3	0	26
TP21	なし(0)	0	0	0	3	2	0	5
TP22	なし(0)	0	0	0	3	1	0	4
TP23	なし(0)	0	0	0	0	0	0	0
TP24	土坑(4)	0	0	2	12	3	0	17
TP25	なし(0)	0	0	0	1	0	0	1
TP26	土坑(2)	0	1	4	3	1	0	9
TP27	土坑(3)、溝状遺構(1)	1	0	9	32	2	0	44
TP28	なし(0)	0	0	0	0	1	0	1
TP29	なし(0)	0	0	0	1	0	0	1
TP30	なし(0)	0	0	0	0	5	0	5
TP31	なし(0)	0	0	0	4	5	0	9
TP32	なし(0)	0	0	0	1	2	0	3
TP33	なし(0)	0	0	0	0	0	0	0
TP34	なし(0)	0	0	0	1	1	0	2
TP35	なし(0)	1	0	0	0	2	0	3
TP36	なし(0)	0	0	0	0	0	0	0
TP37	なし(0)	0	0	0	0	0	0	0
TP38	なし(0)	0	1	0	0	0	0	1
TP39	なし(0)	0	0	0	2	1	0	3
TP40	なし(0)	0	0	0	0	1	0	1
TP41		欠番						
TP42	なし(0)	0	0	1	5	2	0	8
TP43	なし(0)	0	0	0	1	2	0	3
TP44	なし(0)	0	0	0	0	5	0	5
TP45		欠番						
TP46	なし(0)	0	0	0	0	2	0	2
TP47	なし(0)	0	0	0	5	4	0	9
TP48	なし(0)	0	0	0	0	0	0	0
TP49		欠番						
TP50	なし(0)	0	0	0	0	15	0	15
TP51	なし(0)	0	0	0	0	3	0	3
TP52	なし(0)	0	0	0	0	0	0	0
TP53	なし(0)	0	0	0	1	1	0	2
TP54	なし(0)	0	0	0	8	5	0	13
TP55	なし(0)	0	0	0	1	0	0	1
TP56		欠番						
TP57	なし(0)	0	0	0	0	0	0	0
合計	土坑(9)、溝状遺構(1)	8	2	17	233	135	3	398

第2節 調査の方法と経過

1 調査の方法

発掘作業は1,391.7㎡を対称に実施した。排土処理のため発掘区を東区と西区に分け、反転調査を行った。発掘区を世界測地系座標のX=-66,700、Y=11,300を原点として5m毎に区切り、南北列に北からA～T、東西列に西から1～20の番号を付してその組み合わせを調査グリッド名とした(図3)。なお、発掘区と原点が離れているのは、調査範囲が不明確な状態でグリッドを設定したことによる。

表土掘削は重機を用いて行った。遺物包含層掘削、遺構検出、遺構掘削はスコップ、草刈り鎌、移植ゴテ等を用いて人力で実施した。遺構埋土は半截又は4分割して土層堆積状況などの必要な記録を作成した後に完掘した。基盤層と遺構埋土の識別が困難な場合は、必要最低限のサブトレンチを設定し、両者の識別を明確にした上で、遺構埋土を掘削した。検出した遺構は、原則として検出順に通番を付し、整理等作業時に遺構種別ごとに番号を振り替えた。

遺構等の実測作業は、原則として平面図をデジタル測量、断面図を手測り測量にて実施した。写真撮影はデジタル一眼レフカメラとコンパクトデジタルカメラを使用した。また、発掘区全体の景観写真撮影は、ラジコンコントロールヘリコプターにより撮影した。

遺物包含層掘削及び遺構検出時に出土した遺物は、層位・グリッド単位で取り上げた。遺構出土遺物は、半截前後で取り上げ方法を変えた。半截前は検出面から約5cmまでをa層、約5cm～10cmをb層というように遺構内を概ね5cm単位の人工層位で取り上げ、半截後は分層した層位ごとに取り上げた。遺構との関係性が検討できる出土状況のものについては、出土状況図を作成した。遺物には、取り上げ単位ごとに遺物ラベルを添付した。遺物ラベルには「西暦下二桁とKM(遺跡名略号)」「出土場所(遺構番号又はグリッド番号)」「出土層位」「取上日」「備考」を記入し、この記録をもとに遺物台帳を作成した。

2 調査の経過

現地での調査経過は以下の通りである。

- 第1週(5/7～5/8) 東区表土掘削開始(5/7)。
- 第2週(5/11～5/15) 東区表土掘削完了(5/13)。東区人力掘削開始(5/15)。
- 第3週(5/18～5/22) F17～18グリッド遺構検出完了(5/20)。
- 第4週(5/25～5/29) サブトレンチ1掘削(5/25)。SA5検出(5/28)。
- 第5週(6/1～6/5) SD26(F15グリッドより東側)検出(6/4)。
- 第6週(6/8～6/12) サブトレンチ2掘削(6/10)。
- 第7週(6/15～6/19) SB9・SD16検出(6/17)。
- 第8週(6/22～6/26) SB8(F14グリッド範囲)検出(6/23)。
- 第9週(6/29～7/3) C14・D14グリッド遺構検出(7/2)。
- 第10週(7/6～7/10) 長雨により作業中止(7/6～10)。
- 第11週(7/13～7/17) B12～14・C12～13・D12～13・E13・F13グリッド包含層掘削完了(7/13・15・16)。

- 第12週 (7/20～7/22) SD 8 (F13グリッド範囲) 検出 (7/20)。
- 第13週 (7/27～7/31) SD26完掘 (7/30)。
- 第14週 (8/3～8/7) 東区景観写真撮影実施 (8/7)。
- 第15週 (8/11～8/14) 東区全体図校正実施 (8/11)。夏期休業 (8/12～14)。
- 第16週 (8/17～8/21) 東区埋戻し作業開始 (8/17)。東区埋戻し作業完了、西区表土掘削開始 (8/18)。
- 第17週 (8/24～8/28) 西区表土掘削完了 (8/25)。西区人力掘削開始 (8/26)。
- 第18週 (8/31～9/4) SB 7 検出 (8/31)。
- 第19週 (9/7～9/11) B12・C11～12・D11～12・E12・G10～11グリッド包含層掘削完了 (9/8・9・11)。
- 第20週 (9/14～9/18) SD11遺物 (28等) 出土状況図作成 (9/17)。
- 第21週 (9/23～9/25) SB 5 検出 (9/24)。
- 第22週 (9/28～10/2) SB 1・SB 3 検出 (9/29)。SB 6 検出、第2回遺跡調査検討委員会を現地で開催 (9/30)。
- 第23週 (10/5～10/10) SD 2 遺物 (23) 出土状況図作成 (10/5)。現地見学会の実施を計画したが、降雨のため中止 (10/10)。
- 第24週 (10/12～10/16) SB 4 検出 (10/12)。指導調査員林正憲氏 (独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所) 現地指導 (10/14)。西区景観写真撮影実施 (10/15)。

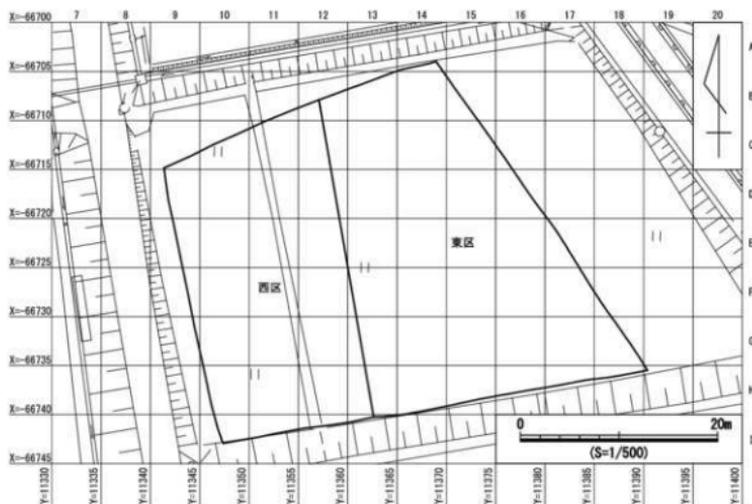


図3 グリッド設定図

第25週 (10/19～10/23) 西区全体図校正実施 (10/20)。一次整理事業開始 (10/21)。西区埋戻し作業開始、現場事務所撤収 (10/22)。

第26週 (10/26～10/30) 西区埋戻し作業完了 (10/27)。

第27週 (11/2～11/6) 現地引渡し (11/5)。

第28週 (11/9～11/13) 一次整理事業完了 (11/12)。

出土遺物の洗浄や注記等の一次整理事業は令和2年度に、遺物実測や挿図作成等の整理等作業は令和3年度に当センターにおいて実施した。令和3年10月29日に藤澤良祐氏(愛知学院大学)に灰釉陶器と中近世陶磁器に関する指導を受けた。令和4年1月13日に林正憲氏(奈良文化財研究所)に調査成果全体についての指導を受けた。

令和2年度に出土木製品の放射性炭素年代測定(第4章第2節)を実施した。

3 調査体制

発掘作業調査及び整理等作業の体制は、以下のとおりである。

センター所長	森 勝利(令和2年度)、岡田 知也(令和3年度)
総務課長	布施 三千代(令和2・3年度)、中通 珠子(令和3年度)
調査課長	春日井 恒(令和2年度)
調査担当係総括 担当職員	佐藤 恵太(令和2年度)、大木 直人(令和3年度)、 磯貝 龍志(令和2・3年度)



写真1 調査前風景 (南東から)



写真2 表土掘削作業



写真3 包含層掘削作業



写真4 遺構検出作業



写真5 遺構掘削作業



写真6 遺構測量作業

第2章 遺跡の環境

第1節 地理的環境¹⁾

当遺跡が所在する瑞浪市は、岐阜県の南東部に位置し、恵那市、土岐市、可児郡御嵩町、加茂郡八百津町と愛知県豊田市と隣接する。市の面積の約8割を恵那山系の一部である東濃丘陵地帯が占め、中津川市から恵那市に至る屏風山断層帯が市域の南西から北東に延びる。市内には、木曾三川の一つに数えられる木曾川と土岐川が伊勢湾に向かって注ぎ、土岐川は恵那市夕立山を水源とし、瑞浪市、土岐市、多治見市の盆地とその間の峡谷部へ流れる。

当遺跡は砂礫台地上及び、土岐川によって形成された谷底平野・氾濫平野上に位置し、発掘区は砂礫台地上にあたる(図4)。ただし、発掘区周辺では発掘区東側を北流する矢部川が、砂礫台地上に形成した小規模な扇状地が広がる。今回の調査では、この扇状地性の堆積物の上で遺構を検出した。なお、発掘区は調査前には、水田として利用されていた。

注

1) 地質・地形に関する記述は、以下の文献を参考とした。

岐阜県1988『5万分の1土地分類基本調査(表層地質図) 恵那・中津川』

岐阜県1988『5万分の1土地分類基本調査(地形分類図) 恵那・中津川』

瑞浪市1974『瑞浪市史』歴史編

瑞浪市2008『歴史の道 中山道保存整備事業報告書』

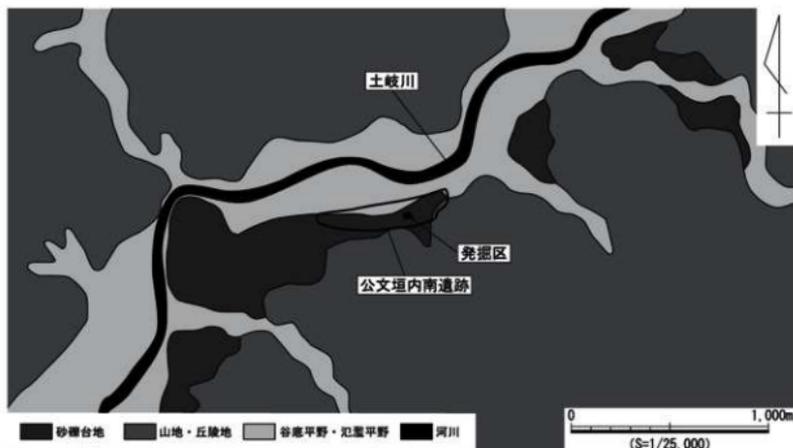


図4 発掘区周辺の地質概略図 (岐阜県企画部地域振興課1989『地形分類図1/50,000 恵那・中津川』を基に作成)

第2節 歴史的環境

1 周辺の遺跡

当遺跡周辺には土岐川流域の両岸を中心に多く遺跡が分布する。本節では周辺の遺跡について、概要を時代順に記す¹⁾。なお、本文中の遺跡名に続く括弧内の番号は、表2及び図5²⁾と一致する。

旧石器時代 当該期に属する周辺遺跡は釜戸上平遺跡(6)のみである。釜戸上平遺跡では、昭和50年に実施された圃場整備の際などに多くの遺物が表採されている。近年、瑞浪市陶磁資料館により、これらの遺物の整理が実施され³⁾、ナイフ形石器の存在が確認された。

縄文時代 土岐川流域の河岸段丘上や台地上に当該期の遺跡が点在する。釜戸裏山遺跡(5)は、早期以降の遺跡とされ、石器や縄文土器が出土している。釜戸上平遺跡では、草創期の可能性がある尖頭器等の石器や前期から晩期にかけての縄文土器が確認されている。中切上屋遺跡(12)は、早期或いは前期以降の遺跡とされる。瑞浪市教育委員会による中央自動車道の建設に伴う発掘調査では、後期の石組遺構が確認されたほか、石器や中期から晩期にかけての縄文土器が出土している。名滝遺跡(19)は、前期以降の遺跡とされ、石鏃や石錐が出土している。土岐上平遺跡(20)では、当センターにより国道19号瑞浪恵那道路事業に伴う発掘調査が実施されており、当該期に属する可能性がある石器が出土している。

弥生時代 当遺跡周辺では、当該期に属する遺跡は少ない。釜戸上平遺跡では近年の整理により、弥生時代以降の遺物も散見できることが確認されている。土岐上平遺跡では、当該期に属する可能性のある石器が出土している。

古墳時代 当該期には、津島古墳(2)・大島古墳群(3・4)・鉢伏古墳(7)・天徳古墳群(10)・岩倉古墳(16)・百田古墳群(18)・洞田古墳群(21)・段古墳群(22)・桜堂洞1号古墳(30)などの古墳や古墳群の他、桜堂洞横穴墓群(32)などの横穴墓が土岐川両岸の丘陵部に造営される。これらの古墳群及び横穴墓のうち、津島古墳は宅地造成に伴い、大島古墳群(大島1・2号古墳)・段古墳群(段1・2号古墳)・天徳古墳群(天徳2・7号古墳)は中央自動車道路建設に伴い、それぞれ瑞浪市教育委員会が発掘調査を実施し、耳環・玉類といった装身具や直刀・鉄鏃といった武器類の他、刀子・馬具・須恵器などの後期に属する副葬品が出土している。古墳や横穴墓以外に、土岐上平遺跡では、当該期初頭の竪穴建物や掘立柱建物、後期の竪穴建物等の遺構を確認した。また、高屋遺跡(24)では、当センターが実施した国道19号瑞浪恵那道路事業に伴う発掘調査により、後期の柱穴や土坑を確認した。

古代 釜戸町西部に位置する当遺跡は、『和妙類聚抄』巻七国郡部に記載される土岐郡内の日吉、檜原、異味、土岐、余戸、駅家の6郷のうち、駅家郷若しくは檜原郷に位置するとされる。また、土岐郡には、東山道美濃八駅の一つである土岐駅がおかれたとされ、『延喜式』には「土岐駅馬十疋、土岐郡伝馬五疋」とある。土岐駅の所在については、現在の小田町や土岐町、当遺跡の位置する釜戸町に求める説がある。「土岐」の名称は、奈良県明日香村の飛鳥池遺跡から出土した「丁丑年刀支評」の木簡にみられる。丁丑年(天武天皇6(677)年)の三野国刀支評(後の美濃国土岐郡)から都に送られた荷札木簡で、「恵奈五十戸」とみえ、この時点で恵那評はなく、刀支評の一部であったことが明らかになった。この他、『日本書紀』には、天武天皇5(676)年に「詔美濃國司曰在幡村郡紀臣阿佐麻呂之子、

遷東國、即爲其國之百姓。」とあり、土岐郡の紀臣河佐麻呂の子を東國に移して百姓になるよう命じたことや、朱鳥元（686）年には大津皇子の謀反に連座して逮捕された三十余人の中に「竊作道作」なる人物があり、「但竊作道作流伊豆」とあるように伊豆国に流罪されたと記されている。当遺跡周辺にも当該期の遺跡が複数認められる。土岐上平遺跡では、当該期の遺構は確認できていないが、灰軸陶器が出土している。高屋遺跡では、7世紀～8世紀後半の掘立柱建物や9世紀の区画溝などの居住域を確認した。三諦上人供養塔（28）は弘仁3（812）年に瑞櫻山妙法寺（通称：櫻堂薬師）を開基したとされる三諦上人の供養塔であり、花崗岩製の三重の塔である。桜堂遺跡（29）では、瑞浪市教育委員会により、範囲内容確認のための発掘調査が実施されている。10世紀～11世紀の須恵器や灰軸陶器が出土し、山寺の建立が古代に遡る可能性が指摘されている。そのほかに、公文垣内遺跡（14）と羽根南遺跡（36）が、当該期の遺物散布地として知られる。

中世 土岐の地名を冠する土岐氏は摂津源氏の系統で、源頼光の子の頼国の子孫が美濃国土岐郡に土着し、子孫の光衡（1159～1206年）の代に土岐氏を称したとする説が有力視される。土岐氏の勢力伸張に伴い、平安時代末期から鎌倉時代初期にかけて「土岐庄」が発生すると、やがて土岐六郷にまで「土岐庄」の範囲が及び、発掘区周辺は「釜戸郷」に再編されたとされる。釜戸の名は、平安時代末から鎌倉時代にまとめられた『夫木和歌集』や『経信卿母集』等にみられ、鎌倉街道の宿となったことで郷名として用いられるようになったとされる。京都府山科区に位置し、醍醐天皇の命によって建立された勧修寺に伝わる「勧修寺文書」には、延元元（1336）年に「釜戸郷」の名が載せられていることから室町時代には勧修寺領の荘園であったとされる。当遺跡周辺には、「公文垣内」の字名が残ることから、周辺に公文屋敷が置かれたことが想定されている。土岐氏に関連する遺跡としては、土岐光衡の居館と伝えられる一日市場館跡（図5の地図外）や、光衡による築城と伝えられる鶴ヶ城跡（26）の他、土岐頼兼墓（23）・土岐頼貞墓（図5の地図外）などがある。また、桜堂遺跡や桜堂薬師遺跡（31）・笹山遺跡（33）などの寺社跡や経塚も認められる。笹山遺跡と桜堂遺跡は谷を挟んで南北に位置する遺跡で、笹山遺跡でも、瑞浪市教育委員会により、範囲内容確認のための発掘調査が実施されている。桜堂遺跡では13世紀以降に整備された本堂や坊院が確認され、笹山遺跡と共に経塚群と大規模な集石墓群からなる墓域が営まれる。本堂は15世紀中頃に現在地に移転し、墓域も16世紀には衰退したとされる。また、土岐上平遺跡では、区画溝と考えられる13世紀前葉以降の溝状遺構が確認されており、一般的な階層の居住域が展開していたことが想定されている。高屋遺跡では、古代の地割を踏襲した耕作溝が確認された。中町遺跡（25）では、瑞浪市教育委員会が中央自動車道の建設に伴い実施した発掘調査により、中世のものと考えられる溝が確認されている。なお、釜戸上平遺跡・中切町裏遺跡（9）・中切上屋遺跡・公文垣内遺跡・釜戸宿遺跡（17）・名滝遺跡・根竹遺跡（27）・羽根北遺跡（34）・下今尻遺跡（35）・羽根南遺跡は当該期の遺物散布地として知られる。

近世 当遺跡周辺においては、17世紀初頭に中山道が整備され、恵那市の横ヶ根付近で中山道より分かれ土岐川沿いに名古屋城下町へ至る下街道としてよく利用されたとされる。また、江戸時代以降、当遺跡周辺は旗本馬場氏の所領に含まれる。馬場氏に関係する遺跡としては、旗本馬場氏墓（8）や馬場氏の陣屋跡である釜戸陣屋跡（13）がある。その他の当該期の遺跡としては、瑞浪市教育委員会により中央自動車道建設に伴う発掘調査が実施された際に、炭焼き窯跡の可能性が考えられる遺構が検出された大仙奈遺跡（11）や溝状遺構が確認された土岐上平遺跡・桜堂薬師遺跡などがある。ま

た、今回の発掘区南側には、大明神と呼ばれる洞の入口に建てられた旧公文垣内村の氏神を祀った諏訪神社（15）がある。創立年代は不詳だが、美濃国土岐郡釜戸村住人保母想右門尉正次の心願により再興した旨を記した、寛文2（1662）年の棟札が残っている。

以上、当遺跡周辺は、縄文時代以降の遺跡が土岐川沿いの河岸段丘や台地上に点在して認められる。古墳時代後期以降には複数の群集墳や横穴墓が造営されており、古代には小田台地に土岐郡家が設置されたこととされる。東山道や古下街道は当遺跡の北側に東西に往来したとされ、当遺跡周辺に土岐駅が置かれたとされる説もある。また、鎌倉時代以降には美濃国守護として国内を統治した土岐氏に関連する館や城跡などが、近世以降には旗本馬場氏によって陣屋などが街道に沿って営まれることなどから、古墳時代後期以降、当遺跡周辺は街道沿いの要所として主要な位置を占めたと考えられる。

表2 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	種別	時代
1	公文垣内南遺跡	集落跡・散布地	古代・中世
2	津島古墳	古墳	古墳
3	大島1号古墳	古墳	古墳
4	大島古墳群	散布地	古墳
5	釜戸裏山遺跡	散布地	縄文
6	釜戸上平遺跡	古墳	石器器～弥生・中世
7	鉢伏古墳	古墳	古墳
8	旗本馬場氏墓	その他の墓	近世
9	中切町墓遺跡	散布地	縄文・中世
10	天徳古墳群	古墳	古墳
11	大仙奈遺跡	不明	近世
12	中切上屋遺跡	散布地	縄文・中世
13	釜戸陣屋跡	城館跡	中世・近世
14	公文垣内遺跡	散布地	古代・中世
15	諏訪神社	神社	近世・近現代
16	岩倉古墳	古墳	古墳
17	釜戸寮遺跡	散布地	中世
18	百田古墳群	古墳	古墳

番号	遺跡名	種別	時代
19	名滝遺跡	散布地	縄文・中世
20	土岐上平遺跡	集落跡・散布地	縄文・古墳～近世
21	洲田古墳群	古墳	古墳
22	段古墳群	古墳	古墳
23	土岐頼兼基墓	その他の墓	中世
24	高屋遺跡	集落跡・散布地	縄文・古墳～中世
25	中町遺跡	散布地	中世
26	鶴ヶ城跡	城館跡	中世
27	椋竹遺跡	散布地	中世
28	三跡上人供養塔	その他の墓	古代
29	桜堂遺跡	神社跡・その他の墓	古代・中世
30	桜堂洞1号古墳	古墳	古墳
31	桜堂薬師遺跡	神社跡	中世・近世
32	桜堂洞横穴墓群	横穴墓	古墳
33	笠山遺跡	その他の墓・その他（経塚）	古代・中世
34	羽根北遺跡	散布地	中世
35	下今瓦遺跡	散布地	中世
36	羽根南遺跡	散布地	古代・中世

2 公文垣内南遺跡の調査記録について

これまで、当遺跡で発掘調査は実施されていないが、昭和57年の圃場整備の際に遺物の散布を確認した旨を加藤寛治氏が記録している⁴⁾。これによると弥生時代の可能性がある石器や、須恵器・土師器・山茶碗が出土したようである。

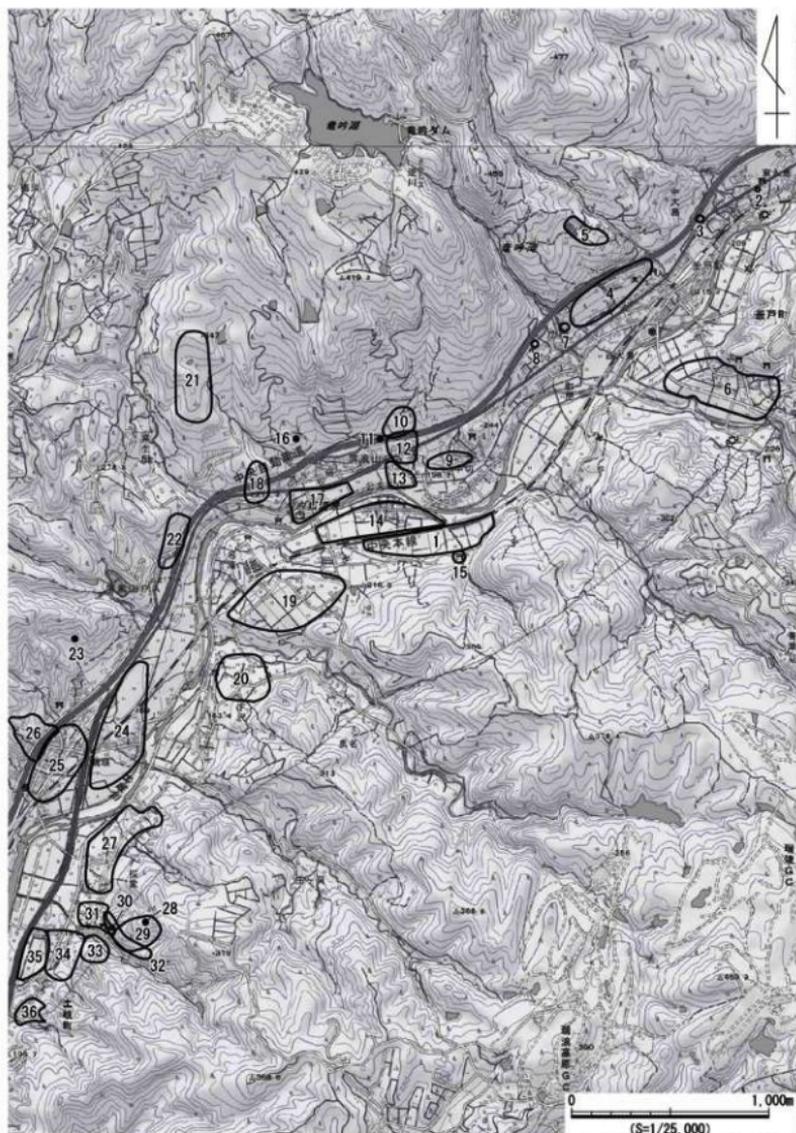


図5 周辺遺跡位置図
 (令和3年国土地理院発行の2万5千分1電子地形図「瑞波」「武並」を使用したものである)

注

1) 各遺跡の記述は、以下の文献を参考とした。

伊藤秋男 1988 「瑞浪市の古墳と古東山道」『瑞浪陶磁資料館研究紀要』第4号 瑞浪陶磁資料館

宇治谷孟 1986 『全訳一現代文 日本書紀』下巻、創芸出版株式会社

加藤寛治 1982 『からむし』第2号

岐阜県教育委員会 1924 『濃飛両国通史』

岐阜県教育委員会 2004 『岐阜県中世城館跡総合調査報告書』第3集

岐阜県神社庁瑞浪支部 1998 『瑞浪市の神社一七十二社参拝案内』

岐阜県文化財保護センター2021 『高屋遺跡』(岐阜県文化財保護センター調査報告書第149集)

岐阜県文化財保護センター2022 『土岐上平遺跡』(岐阜県文化財保護センター調査報告書第156集)

近藤行仁 2012 「釜戸上平遺跡における旧石器～縄文時代遺物の詳細報告」『瑞浪陶磁資料館研究紀要』第14号

中野効四郎 1956 「三跡上人供養塔」『岐阜県指定文化財調査報告書』第3巻、岐阜県教育委員会

奈良国立文化財研究所 1998 『飛鳥藤原宮発掘調査出土木簡概報 13』発掘調査出土木簡概報

瑞浪市 1974 『瑞浪市史』歴史編

瑞浪市教育委員会 1964 『瑞浪市の古墳』(瑞浪市史学研究報告書第1号)

瑞浪市教育委員会 1966 『岐阜県瑞浪市釜戸町吉原津島古墳発掘調査報告書』(瑞浪市史学研究報告書第4号)

瑞浪市教育委員会 1981 『瑞浪市中央自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書』

瑞浪市教育委員会 2008 『歴史の道 中山道保存整備事業報告書』

瑞浪市陶磁資料館 2011 『瑞浪市歴史資料集』第1集

瑞浪市教育委員会 2014 『瑞浪市遺跡地図』 瑞浪市文化財調査報告第6集

瑞浪市教育委員会 2014 『笹山遺跡』(瑞浪市文化財調査報告第7集)

瑞浪市教育委員会 2017 『桜堂遺跡』範囲内容確認調査報告書 (瑞浪市文化財調査報告第8集)

瑞浪市陶磁資料館 2012 『薬師寺 1200年展』

2) 図5及び表2は岐阜県教育委員会 2007 『改訂版 岐阜県 遺跡地図』を基に、新たな成果をふまえて作成したが、時代については発掘調査報告書の記載も参考にした。

3) 1)の近藤 2012に同じ。

4) 加藤 1982の「公文埴内」の付記に当時の様子が記載されている。

第3章 調査の成果

第1節 基本層序

令和元年度に文化伝承課が実施した試掘・確認調査と、令和2年度に当センターが実施した本発掘調査の結果を基に、基本層序を以下のように設定した(図6)。

I a 層 調査前の水田耕作土

10YR4/2 灰黄色土で、しまりはない。発掘区全域で確認できる。調査前に利用されていた現代の水田の耕作土である。

I b 層 調査前の水田床土

10YR4/1 褐灰色粘質土で、しまりがある。発掘区全域で確認できる。調査前に利用されていた現代の水田の床土である。

I c 層 耕地整理時の造成土

2.5Y5/3 黄褐色土、2.5Y6/1 黄灰色土、7.5Y6/1 灰色土等で、しまりがややある。いずれもブロック土が多く混じり、径3～50cm程の礫やコンクリートブロック、ビニールをまばらに含む。発掘区全域で確認できる。発掘区周辺で、昭和50～60年代にかけて実施された耕地整理の際に盛られた造成土である。

I d 層 耕地整理前の水田(発掘区中央)に伴う土

2.5Y5/1 黄灰色土、2.5Y6/3 にぶい黄色土、2.5Y6/2 灰黄色土、5Y7/1 灰白色土で、しまりがややある。概ね発掘区の北半に認められるが、北西側では確認できない。耕地整理前には、今回の発掘区の範囲に複数枚の水田が存在していたようであり、この層は発掘区中央に存在した水田に伴うものと考え(図6平面図:耕地整理前水田区画)。南側は耕地整理時に削平された可能性がある。

I e 層 耕地整理前の水田(発掘区北西側)に伴う土

2.5Y7/1 灰白色土で、しまりがややある。発掘区の北西側で確認した。この土層は、I d 層よりも低い位置で検出したため、発掘区北西側の水田に伴うものとする。部分的に人力掘削を実施した際に、近現代陶磁器が出土した。また、II層(包含層)との境付近(図6平面図:I e 層・II層境)から、発掘区中央に存在した水田と発掘北西側に存在した水田の地境を示したものと考えられる杭列を確認した(写真7・8)。

I f 層 矢部川洪水層

2.5Y7/3 浅黄色砂質土、N7/灰白色砂質土で、しまりが無い。発掘区の北東側のみに認められる。土質は均質で、発掘区の東側を流れる矢部川が氾濫した際の洪水層と考える。遺物は出土しなかった。

I g 層 洪水以前の水田に伴う土

10YR6/3 にぶい黄褐色土、10YR5/2 灰黄褐色土で、しまりがややある。発掘区北側の一部に確認でき、北西側には認められない。洪水層(I f 層)が堆積する以前に営まれた水田に伴う土と想定され、この頃に存在したと考えられる畦畔の痕跡(図6柱状図:④)も確認した。

II層 遺物包含層

2.5Y4/1 黄灰色粘質土で、しまりがややある。発掘区のほぼ全域で確認できる（図6平面図：II層残存範囲）が、南側の一部は耕地整理時に削平されている。また、北西側でも一部がIe層に掘り込まれており、耕地整理前に発掘区北西側に存在した水田を設ける際に削平されたようである。ただし、さらに北西側の低い部分では一部残存する。古代から中世にかけての遺物を含む。

III層 基盤層

旧地形を形成する堆積で、土色と土質の違いから3層に分ける。IIIa層は5Y5/1 灰色粘質土で、しまりがあり、植物遺体を多く含む。発掘区北東部で確認できる（図6平面図：IIIa層・IIIb層境）。耕地整理前の矢部川は、西側に膨らむように湾曲して南流しており（図6平面図：旧矢部川（耕地整理前））、IIIa層は旧矢部川に由来する自然堆積層と考えられる。IIIb層は5Y7/1 灰白色粘質土で、しまりがあり、IIIa層が存在する発掘区北東部と発掘区南側に認められる攪乱の範囲を除く広い範囲で確認できる。ほとんどの遺構はIIIb層上面で検出した。IIIc層は2.5Y7/3 浅黄色砂質土で、しまりはなく、礫を多く含む。発掘区南側にある攪乱の底面の一部や、いくつかの遺構の底面で確認できる。この層の上面では遺構は検出できなかった。III層から遺物は出土しなかった。

今回の発掘区においては、II層が削平された範囲があり、Ic層とIe層の下でIIIa層・IIIb層を確認した部分がある。そのため、この範囲で検出した遺構の検出面は、「I層基底面」とする。基本層序とおりの堆積が確認でき、II層の除去後に検出した遺構の検出面は「III層上面」とする。



写真7 東区耕地整理前地境杭検出状況（北東から）



写真8 西区耕地整理前地境杭検出状況（北東から）

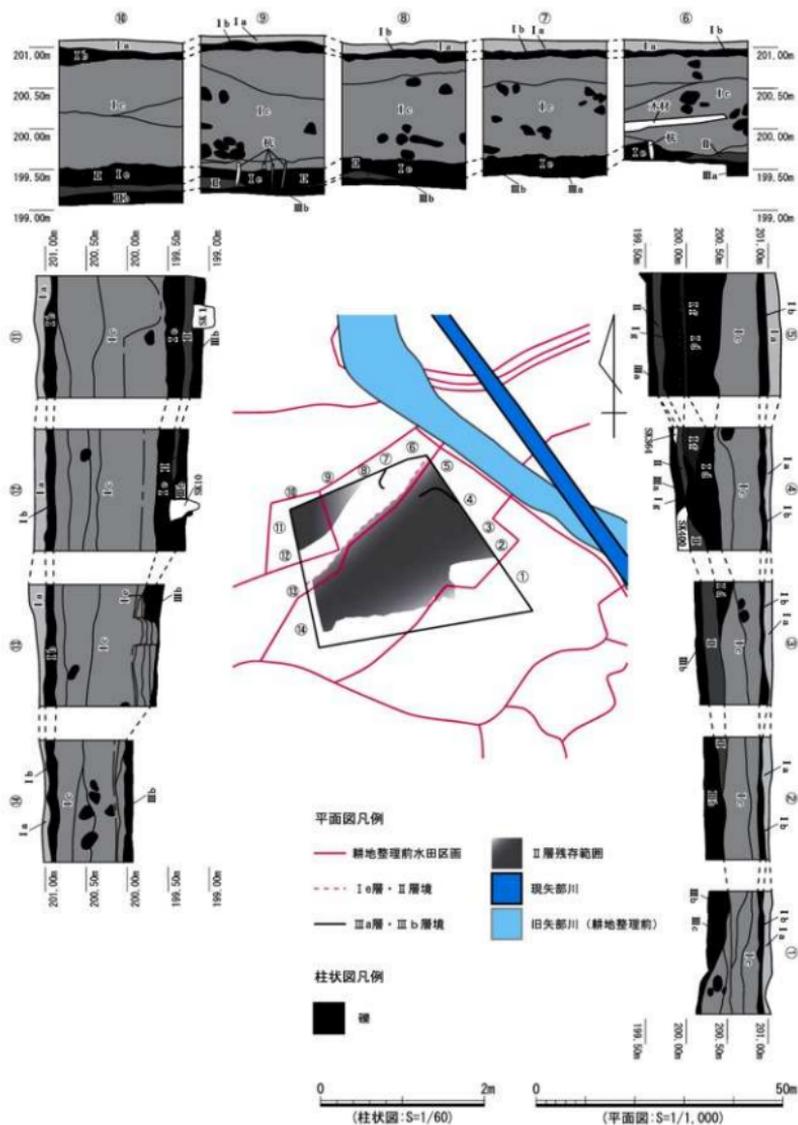


図6 基本層序柱状図

(平面図の耕地整理前水田区画及び旧矢部川は「環境省国土改良事業愛媛西部地区現形図其之一」を基に作成したものである)

第2節 遺構の概要

1 概要

今回の調査では、古代、中世の遺構を検出した。検出した遺構数は表3のとおりである。遺構の時期決定は、出土遺物や遺構の重複関係、検出状況や埋土、長軸方位の類似性等から判断したが、時期不明なものも多い。また、出土遺物が複数の時代にまたがる場合は原則として新しい時期を選択したが、出土状況や出土量も判断材料とした。

本報告書では、これらの遺構のうち、掘立柱建物、塀・櫓は遺跡の性格を反映すると考えられることから、全て報告する。溝状遺構、単独柱穴・杭穴、土坑は検出数が多いため、遺跡の性格を検討する上で重要なものや、時期決定が可能な遺物が出土したもの等を抽出して報告する。なお、各遺構の説明文の「遺物出土状況」に記載した出土点数は、接合前の破片数を示す。

表3 検出遺構一覧表

検出面	SB	SA	SP	SD	SK	合計
I層基底面	0	1	1	6	90	98
III層上面	9	4	16	31	335	395
合計	9	5	17	37	425	493

2 遺構の分類

各遺構は、形状や規模、構造から以下のように分類基準を設定し、原則として西側から略号と共に番号を付す。

掘立柱建物 (SB) 複数の穴が直線的に並び柱を埋めたことが想定できるもので、向かい合う2辺以上が確認でき、上屋構造を有すると想定できるもの。また、掘立柱建物を構成する柱穴は「SB●-P●」と表記する。

塀・櫓 (SA) 複数の穴が直線的に並び柱を埋めたことや、杭を打ち込んだことが想定できるもので、かつSBにならないと判断できるもの。また、塀・櫓を構成する柱穴は「SA●-P●」と表記する。

単独柱穴・杭穴 (SP) 土層で柱痕跡が確認できる若しくは礎盤石が確認できるもの、杭が打ち込まれたことが分かるもの。なお、他の遺構に付属するものは、「(付属する遺構番号)-P●」のように表記し、この遺構略号を使用しない。

溝状遺構 (SD) 長軸長が短軸長の3倍以上を有する細長く掘り込まれたもの。

土坑 (SK) 上記以外で、人為的に掘り窪められた穴のうち、性格不明なもの。

3 遺構一覧表

各遺構の位置や規模などの基礎的情報は、種別ごとに作成した遺構一覧表に示す。遺構種別により一覧表の項目は一部異なるが、共通する項目の内容は次のとおりである。

遺構番号 種別と通番で表記する。

地区割 南北方向をアルファベット、東西方向をアラビア数字で表記する。

検出面 基本層序の層位名を使用し、III層上面で検出した遺構は「III上」とし、I層基底面で検出した遺構は「I基」と表記する。

規模 () は残存長を示す。

平面形・底面形 以下のとおり、形状をアラビア数字で表記する。

- 1：円形（短径・長径の比が1：1.2未満）
- 2：楕円形（短径・長径の比が1：1.2以上3.0未満）
- 3：方形（短径・長径の比が1：1.2未満）
- 4：長方形（短径・長径の比が1：1.2以上3.0未満）
- 5：不定形
- 6：不明

堆積状況・断面形 図7の分類に基づき記載する。

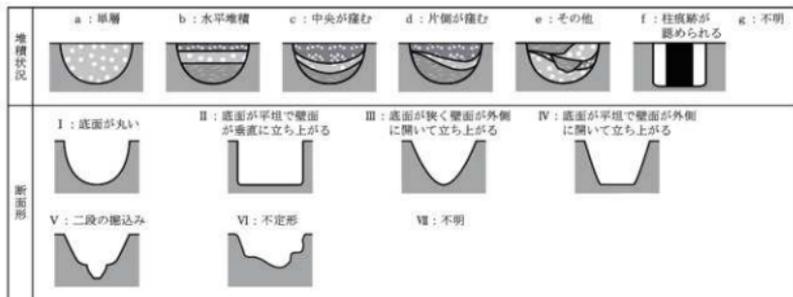


図7 遺構属性模式図

重複関係 「新>古」の関係を示す。

出土遺物 以下のとおり、記号化して表記する。

H－土師器、P－須恵器、K－灰釉陶器・灰釉系陶器、Y－山茶碗、T－その他の陶磁器、
D－土製品、W－木製品

第3節 遺物の概要

1 概要

今回の調査では土師器・須恵器・灰軸陶器・中近世陶磁器などの土器類・土製品・木製品が出土した。出土点数は表4のとおりである。本報告書では、これらの遺物のうち、遺構の性格や時期などを検討する上で必要なものや、分類別の代表的な遺物を中心に抽出して報告した。以下、各遺物の概要を記す。

表4 出土遺物一覧表

大別	種別・器種	接合前 破片数 (点)	接合後 破片数 (点)	接合後 破片数割合 (%)	質量 (g)	質量割合 (%)	
土器類	土師器	75	70	2.2%	521.7	1.7%	
	須恵器	52	49	1.5%	856.6	2.8%	
	灰軸陶器	1,257	1,010	31.1%	14,404.8	47.1%	
	灰軸系陶器	10	7	0.2%	177.6	0.6%	
	山茶碗	1,991	1,931	59.4%	11,671.4	38.1%	
	陶磁器	緑釉陶器	6	4	0.1%	14.6	0.0%
		古瀬戸	58	54	1.7%	1,338.6	4.4%
		大窯	3	3	0.1%	81.8	0.3%
		常滑	28	27	0.8%	822.8	2.7%
		中国産陶磁器	4	4	0.1%	60.7	0.2%
		近世・近代陶磁器	56	56	1.7%	564.4	1.8%
		不明	37	37	1.1%	96.2	0.3%
		小計	3,577	3,252	100%	30,611.2	100%
土製品	陶丸	1	1	—	5.4	—	
木製品	杭	1	1	—	2,100.0	—	
	合計	3,579	3,254	—	32,716.6	—	

(1) 土器類

種別ごとの点数は表4のとおりである。年代観や器種分類は既存の研究に従った¹⁾。時期は古代から中世のものが中心である。古代の遺物としては灰軸陶器²⁾が主で灰軸系陶器³⁾や土師器、緑釉陶器も僅かに認められた。中世は山茶碗が主で、その他に土師器・古瀬戸・大窯・常滑・中国産陶磁器が出土している。また、近世・近代の陶磁器も僅かに確認できる。

(2) 土製品

陶丸が1点出土したのみである。

(3) 木製品

杭が1点出土したのみである。

2 遺物観察表

本報告書に掲載した遺物の観察表は、種別ごとに作成し、掲載番号順に記載した。なお、種別により一覧表の項目は一部異なる。

出土位置 複数の地区（グリッド）や遺構から出土した遺物が接合した場合は、すべての出土位置を表記した。項目ごとの内容は以下のとおりである。Ⅰ層及びⅡ層から出土した遺物は、基本層序名を表記した。また、遺構出土の場合、人工層位又は遺構層位を表記した。なお、複数の土層から出土した遺物が接合した場合は、すべての層位を表記した。

法量 () は復元長を示す。

口縁部残存率 X/12のXにあたる数値を記載した⁴⁾。

胎土 肉眼観察により、粗密や含有物を判断し、記載した。

焼成 肉眼観察により、良好か不良かを記載した。

色調 『新版標準土色帳』⁵⁾に基づき肉眼観察で判断し、記載した。

器面調整 摩滅等により不明な場合は「-」と記載した。

文様・その他 摩滅等により不明な場合や何も認められない場合は「-」と記載した。

重量 小数点第1位まで表示した。

石材 肉眼観察により判断し、記載した。

注

- 1) 出土遺物の年代観や器種分類は、以下の文献を参考とした。なお、古代・中近世陶器については藤澤良祐氏（愛知学院大学）から指導をいただいた。ただし、文責は筆者にある。

愛知県史編さん委員会 2007『愛知県史 別編 窯業2 中世・近世 瀬戸系』、愛知県

愛知県史編さん委員会 2015『愛知県史 別編 古代 猿投系』、愛知県

愛知県史編さん委員会 2012『愛知県史 別編 窯業3 中世・近世 常滑系』、愛知県

内堀信雄・井川洋子 1996『美濃における古代土師器煮炊具の様相』『鍋と甕そのデザイン』、東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会

各務原市教育委員会 1981『美濃須衛古窯跡群資料調査報告書』（各務原市資料調査報告書第4号）

田口昭二 1983『美濃焼』（考古学ライブラリー17）、ニューサイエンス社

太宰府市教育委員会 2000『太宰府条坊跡XV—陶磁器分類編—』（太宰府市の文化財第49集）

藤澤良祐 1994『山茶碗研究の現状と課題』『研究紀要』第3号、三重県埋蔵文化財センター

藤澤良祐 2015『付編 中世常滑窯編年の再検討—5型式期以降を中心に—』『上県2号窯跡第9次発掘調査概要報告書』（愛知学院大学考古学発掘調査報告20）、愛知学院大学文学部歴史学科

山内伸浩 2008『東濃地域における灰輪陶器・山茶碗生産の一様相一窟の分布とその変遷からの視点—』『日本考古学協会 2008年度愛知大会研究発表資料集』、日本考古学協会 2008年度愛知大会実行委員会

若尾正成 1992『第9章 白瓷・白瓷系陶器編年における一考察』明和古窯跡群発掘調査報告書、多治見市教育委員会

渡辺博人 2008『美濃須衛窯について』『日本考古学協会 2008年度愛知大会研究発表資料集』、日本考古学協会 2008年度愛知大会実行委員会

- 2) 灰輪陶器の碗Aと碗Bについては、高台の径と高さを基に分類した（第5章第2節）。

- 3) 灰輪系陶器の用語は以下の文献に従った。

恵那市教育委員会 1983『正家1号窯発掘区調査報告書』。

- 4) 口縁部残存率の計測は以下の文献を参考とし、12分の1未満の破片は12分の1に切り上げ、12分の1以上の破片は小数点以下第1位まで計測した。

宇野隆夫 1992『食器計量の意義と方法』『国立歴史民俗博物館研究報告』第40集、国立歴史民俗博物館

- 5) 小山正忠、竹原秀雄 2015『新版標準土色帳』、日本色研事業株式会社

第4節 古代の遺構・遺物

1 掘立柱建物

SB8 (図8・9)

検出状況 F・G13~14グリッド、Ⅲ層上面で検出した。P1とP2の間とP8とP9の間の柱穴は確認できなかった。後述するとおり本遺構を構成する柱穴はいずれも極めて浅いため、P1とP2の間の柱穴は後世に削平された可能性がある。P8とP9の間の柱穴はSD21・SK348に削平された可能性がある。P4とP6の間にP5を確認したことや、P2・P6・P9から概ね2間西側で対になるようにP1・P4・P8を確認したことから、一連の遺構と考えられ、もとは総柱建物であったと想定される。柱穴の平面形はP2・P4・P8・P9が明瞭、P1・P3・P5~P7・P10がやや不明瞭である。P1はSK276・SK279・SK280、P4はSK279・SK283、P9はSK352と重複し、それぞれ、SK276・SK279・SK280・SK283よりも古く、SK352よりも新しい。

規模・形状 桁行3間(5.98m、柱間1.92m-2.04m)、梁行2間(2.80m、柱間2.10m-1.70m)の側柱建物である。長軸方位はN-69°-Eで、北西方向にむかって緩やかに低くなる地形に影響を受けて設置されたと想定される。

柱穴 10基の柱穴を確認した。平面形はP2・P4・P5・P10が円形、P3・P6が楕円形、P8・P9が不整楕円形、P7が隅丸方形・P1が不整隅丸長方形である。径は0.16~0.50m、深さは0.04~0.16mである。いずれも柱痕跡等の特徴的な堆積状況は認められなかった。柱穴の底面は、概ね北西に向かって深くなる。本遺構を構成するP3の埋土から灰釉陶器1点が出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。

出土遺物 P3から出土した灰釉陶器の皿(1)を図示した。詳細な時期は不明である。

時期 出土遺物から古代のものと考える。詳細な時期は不明であるが、当遺跡から出土したその他の灰釉陶器は虎溪山1号窯式から丸石2号窯式に限られることから、本遺構は10世紀後半から11世紀前半のものとの可能性がある。

2 単立柱穴

SP3 (図10)

検出状況 D10グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.41m、短軸長0.33m、深さ0.33mで、平面形は不定形、断面形は2段の掘り込みである。

埋土 3層に分層した。1層は柱痕跡で、この層の下端が3層よりも1段低くなる。2・3層は柱掘方埋土である。a層から灰釉陶器1点が出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。

出土遺物 灰釉陶器は細片のため、図示しなかった。

時期 出土遺物から、本遺構は古代のものと考える。

SP6 (図10)

検出状況 G11グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSK122より古い。

規模・形状 長軸長0.34m、短軸長0.29m、深さ0.20mで、平面形は円形、断面形は方形である。

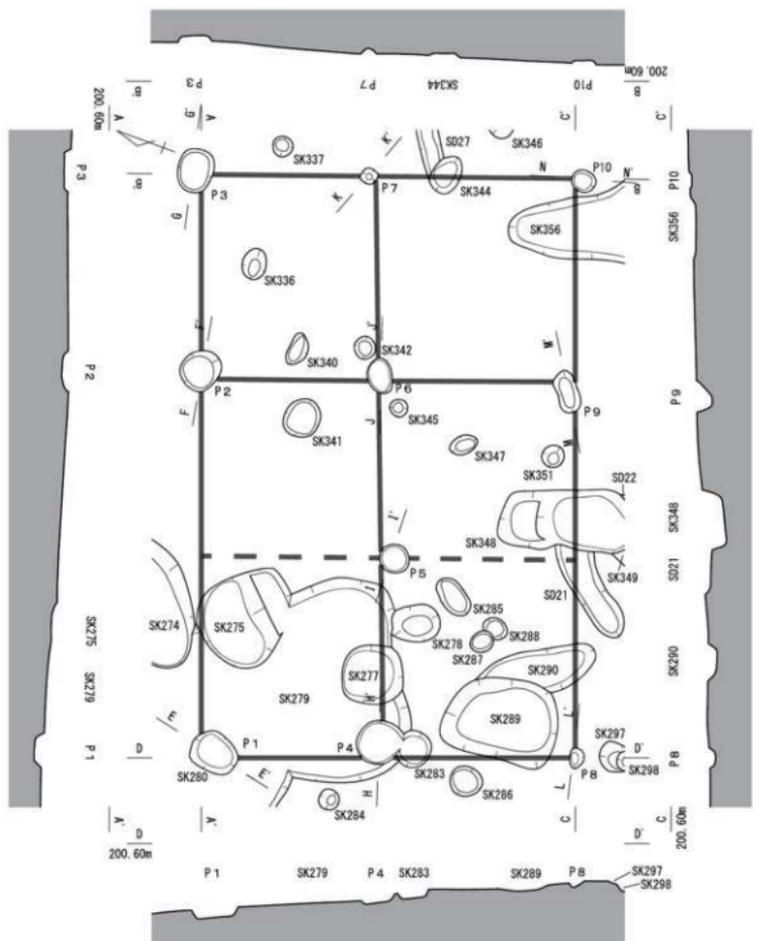


図8 SB 8遺構図(1)

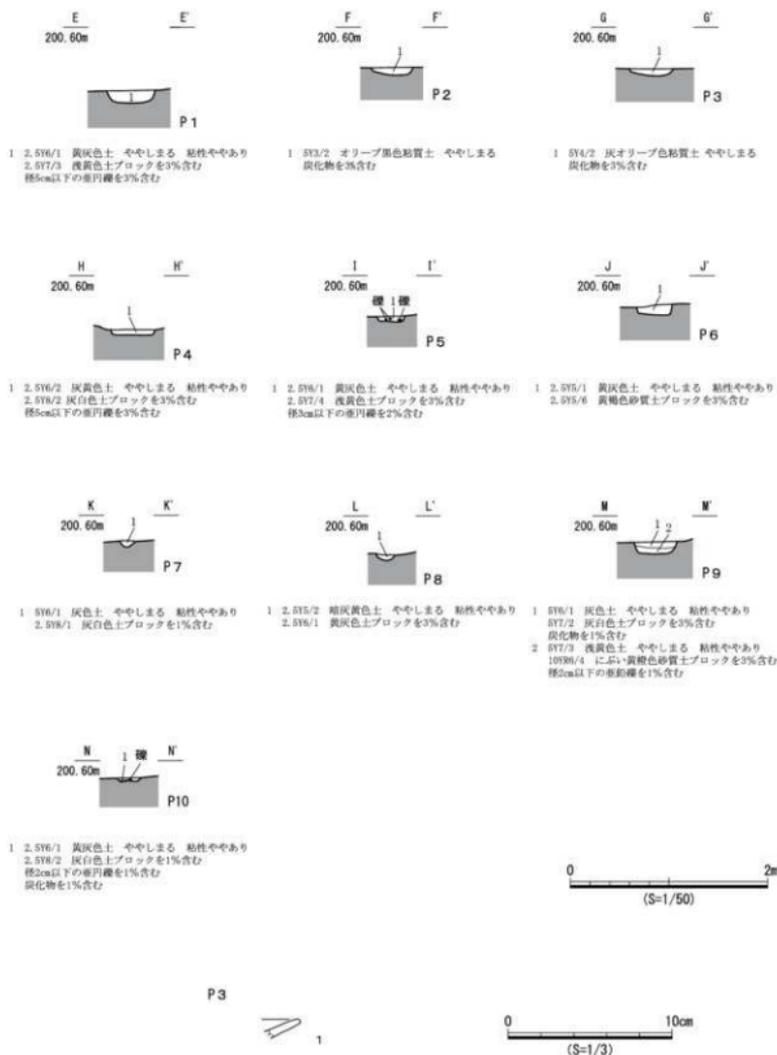


図9 SB8 遺構図(2)・遺物実測図

埋土 2層に分層した。1層は柱痕跡で、東部は壁面に接する。2層は柱掘方埋土である。a層と2層から灰軸陶器が1点ずつ出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。

出土遺物 丸石2号窯式の灰軸陶器の段皿(2)を図示した。段部分で割れた痕跡が認められるが意図的なものとは考えられない。

時期 柱掘方埋土の出土遺物から、本遺構は古代に設置されたものとする。

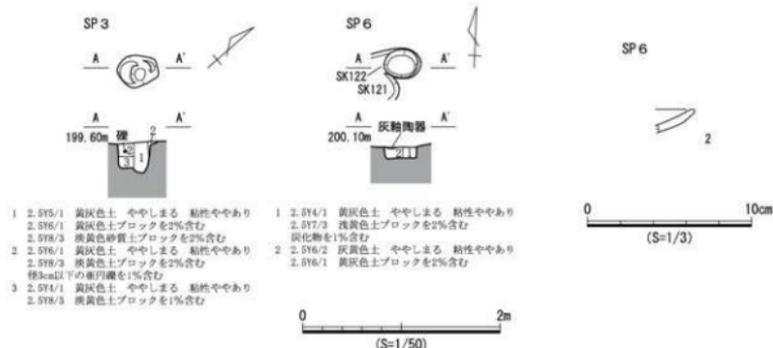


図10 SP3、SP6遺構図・遺物実測図

3 溝状遺構

SD4 (図11)

検出状況 D・E10~11グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭である。

規模・形状 平面形は直線的である。長軸方位はN-83°-Wである。最大幅0.33m、深さ0.08mで、

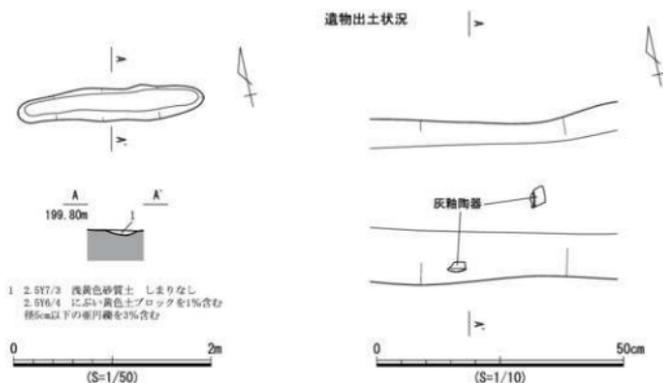


図11 SD4遺構図

断面形は逆三角形である。底面の標高は西端が199.45m、東端が199.49mで、西に向かって低くなる。

埋土 単層である。ブロック土や礫を含むが僅かであり、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から灰軸陶器3点が出土し、そのうち2点は底面付近から出土した。

出土遺物 灰軸陶器は皿と考えられるが、小片のため図示しなかった。

時期 遺構の底面付近から灰軸陶器が出土したことから、本遺構は古代のものとする。

SD14 (図12)

検出状況 H11～12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。西端はSD13と重複し、消失する。平面形は明瞭である。重複関係からSD13より古く、SK130～SK134より新しい。

規模・形状 平面形は蛇行する。長軸方位はN-72°-Wである。最大幅0.72m、深さ0.07mで、断面形は逆台形である。底面の標高は西端が200.01m、東端が200.11mで、北西に向かって低くなる。

埋土 単層である。ブロック土や礫を含むが僅かであり、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土師器1点と灰軸陶器12点が出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。

出土遺物 丸石2号窯式の灰軸陶器2点(3・4)を図示した。3は碗Aで、底部外面に回転ヘラケズリを施し、内面に重焼痕が認められる。また、内面に自然釉が付着する。4は碗で、体部外面に回転ヘラケズリを施す。

時期 本遺構より古いSK132から丸石2号窯式の灰軸陶器が出土したことや、本遺構から丸石2号窯式の灰軸陶器の碗が出土したことから、本遺構は10世紀後葉から11世紀前葉以降のものとする。

SD23 (図13)

検出状況 E14グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭である。重複関係からSK328より新しい。

規模・形状 平面形は直線的である。長軸方位はN-34°-Wである。最大幅0.32m、深さ0.11mで、断面形は逆台形である。底面の標高は北端が200.08m、南端が200.15mで、北東に向かって低くなる。

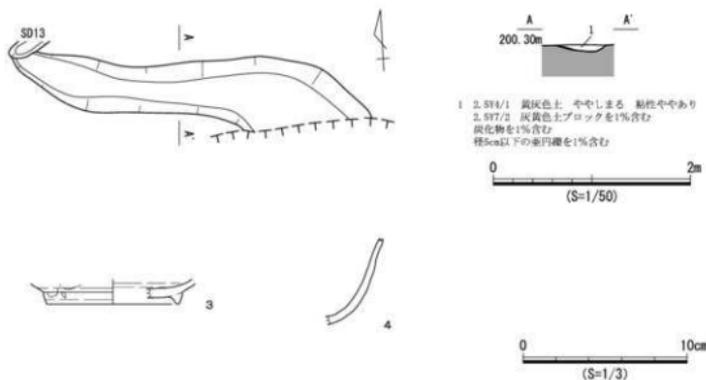


図12 SD14 遺構図・遺物実測図

埋土 単層である。ブロック土を含むが僅かであり、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土師器1点が出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。

出土遺物 土師器の甕(5)を図示した。全体に磨滅しており、調整は不明である。古代のものと考えるが、詳細は不明である。

時期 出土した遺物から、本遺構は古代のものと考える。

SD37 (図14)

検出状況 F・G15グリッド、I層基底面で検出した。平面形は不明瞭である。

規模・形状 平面形は弓形状で中央が幅広となる。長軸方位はN-14°-Wである。最大幅1.74m、深さ0.05mで、断面形は逆台形である。底面の標高は北端が200.24m、南端が200.45mで、北西に向かって低くなるが、北端付近にはテラスを有し、一段高くなる。

埋土 単層である。礫を多く含み、人為堆積の可能性がある。

遺物出土状況 埋土から灰釉陶器1点が出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。

出土遺物 灰釉陶器は細片のため、図示しなかった。

時期 出土した遺物から、本遺構は古代のものと考える。

4 土坑

SK23 (図15)

検出状況 D10グリッド、III層上面で検出した。西部がSK21・SK22と重複し部分的に消失する。平面形は明瞭であった。重複関係からSK21・SK22より古く、SK24より新しい。

規模・形状 長軸長0.63m、短軸長0.37m、深さ0.07mで、平面形は不整楕円形、断面形は逆台形である。

埋土 単層である。ブロック土・礫・炭化物を僅かに含む。堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から灰釉陶器1点が出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。

出土遺物 丸石2号窯式の灰釉陶器の碗B(6)を図示した。体部外面と底部外面に回転ヘラケズリを施す。

時期 出土遺物から、本遺構は10世紀後葉から11世紀前葉のものと考える。

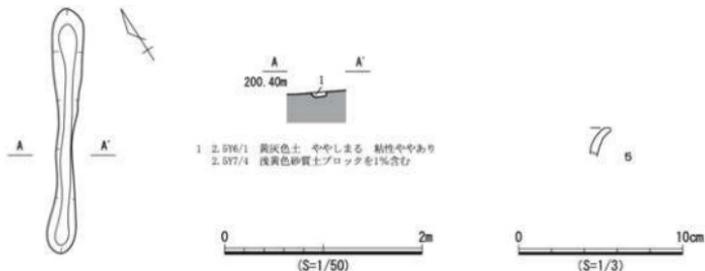


図13 SD23 遺構図・遺物実測図

SK31 (図15)

検出状況 D・E10グリッド、Ⅲ層上面で検出した。北部はSK30と重複し消失する。平面形は明瞭であった。重複関係からSK30より古い。

規模・形状 長軸長0.29m以上、短軸長0.26m、深さ0.14mで、平面形は不整形円形、断面形は半円形である。なお、基盤層の変色した土を遺構埋土と誤認し、埋土の半截時に南半を掘り下げすぎてしまった。

埋土 単層である。ブロック土と礫を多く含むことから、人為堆積の可能性がある。

遺物出土状況 埋土から須恵器1点が出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。

出土遺物 須恵器の坏蓋(7)を図示した。天井部外面に回転ヘラ切り後、回転ヘラケズリを施す。詳細な時期は不明である。

時期 出土遺物から、本遺構は古代のものとする。

SK122 (図15)

検出状況 G11グリッド、Ⅲ層上面で検出した。西部はSK120と重複し消失する。平面形は明瞭であった。重複関係からSK120より古く、SP6、SK121より新しい。

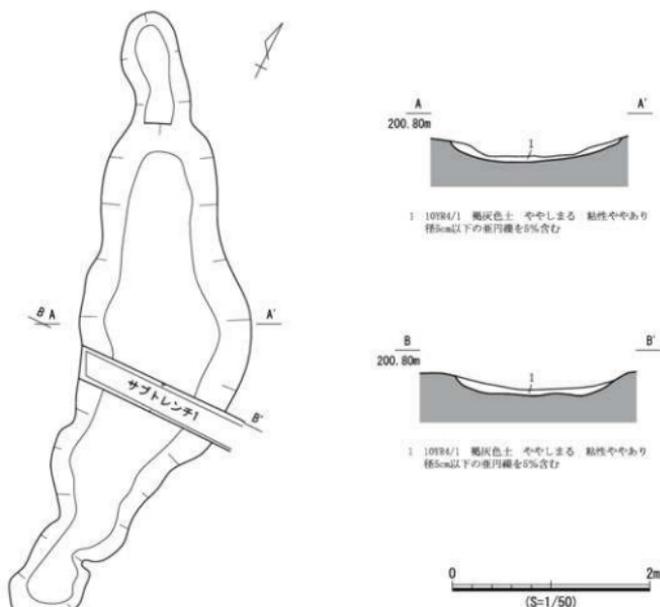


図14 SD37 遺構図

規模・形状 長軸長0.82m以上、短軸長0.28m、深さ0.04mで、平面形は不整楕円形、断面形は逆台形である。

埋土 単層である。ブロック土と礫を僅かに含む。堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から灰釉陶器1点が出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。

出土遺物 虎渓山1号窯式の耳皿(8)を図示した。口縁部にはヒダを施す。底部外面には高台が剝がれた痕跡が認められる。

時期 本遺構より古いSP6から丸石2号窯式の灰釉陶器の段皿が出土したことから、本遺構は10世紀後葉から11世紀前葉以降のものと考えられる。

SK132 (図16)

検出状況 H11~12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSD14・SK134より古く、SK133より新しい。

規模・形状 長軸長1.12m、短軸長0.86m、深さ0.42mで、平面形は不整楕円形、断面形は逆台形である。

埋土 3層に分層した。概ね水平堆積だが、それぞれの層界に凹凸が認められる。1層はブロック土・礫・炭化物を、2層・3層はブロック土と炭化物を多く含むことから、人為堆積の可能性がある。

遺物出土状況 埋土から土師器1点・須恵器1点・灰釉陶器7点・灰釉系陶器4点が出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。

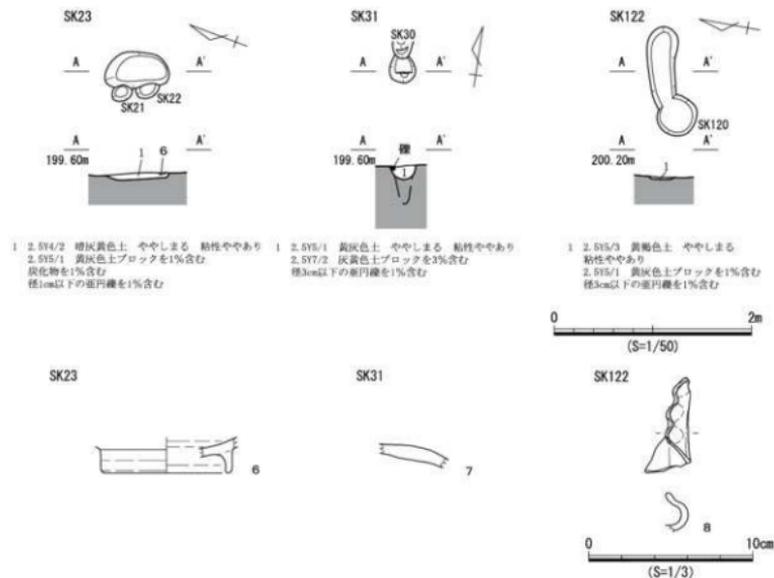


図15 SK23、SK31、SK122 遺構図・遺物実測図

出土遺物 土師器1点(9)と灰陶陶器2点(10・11)を図示した。9はロクロ土師器の碗で、全体的に磨滅している。10は丸石2号窯式の碗Aである。底部外面には回転糸切痕が認められる。11は丸石2号窯式の段皿である。底部外面に回転ヘラケズリを施す。

時期 出土遺物から、本遺構は10世紀後葉から11世紀前葉のものとする。

SK169 (図16)

検出状況 D12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや不明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.45m、短軸長0.40m、深さ0.12mで、平面形は円形、断面形は半円形である。

埋土 単層である。ブロック土と礫を多く含むことから、人為堆積の可能性がある。

遺物出土状況 埋土から灰陶陶器1点が出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。

出土遺物 丸石2号窯式の段皿(12)を図示した。12はSD4から出土した破片と接合した。口縁部内面に自然釉が付着する。

時期 出土遺物から、本遺構は10世紀後葉から11世紀前葉のものとする。

SK216 (図16)

検出状況 G11～12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.51m、短軸長0.35m、深さ0.07mで、平面形は不整楕円形、断面形は概ね逆台形である。なお、埋土の半載時に東半をやや掘り下げすぎてしまった。

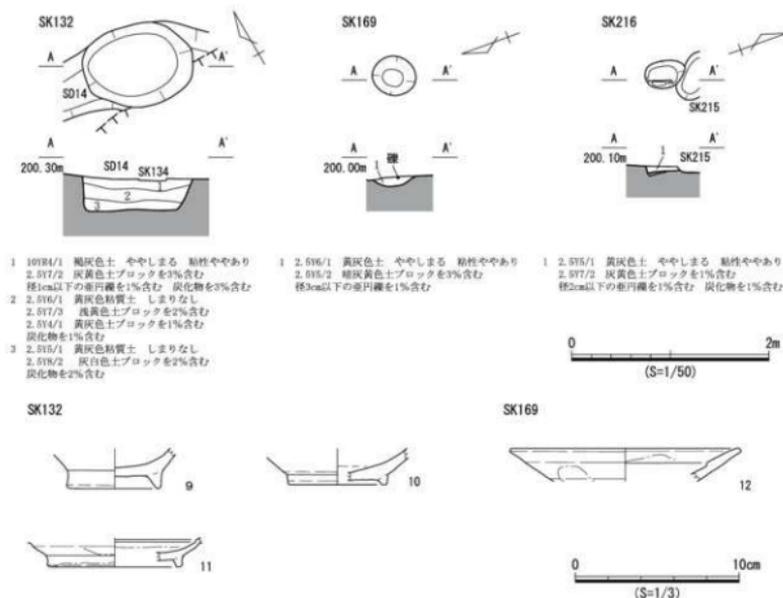


図16 SK132、SK169、SK216 遺構図・遺物実測図

埋土 単層である。ブロック土・礫・炭化物を僅かに含む。堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から灰軸陶器2点が出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。

出土遺物 出土した灰軸陶器は小片のため、図示しなかった。

時期 出土した灰軸陶器の詳細な時期は不明である。しかし、当遺跡から出土したその他の灰軸陶器は虎溪山1号窯式から丸石2号窯式に限られることから、10世紀後半から11世紀前葉のもの可能性がある。

SK241 (図17)

検出状況 H12グリッド、I層基底面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.66m、短軸長0.45m、深さ0.06mで、平面形は不整楕円形、断面形は逆台形である。

埋土 単層である。礫と炭化物を多く含むことから、人為堆積の可能性がある。

遺物出土状況 埋土から土師器3点が出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。

出土遺物 土師器の甕(13)を図示した。底部の破片で外面にスス、内面にコゲが認められる。

時期 出土遺物から、本遺構は古代のものとする。

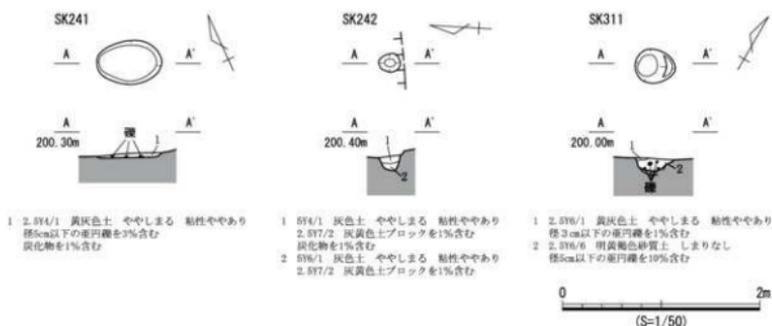
SK242 (図17)

検出状況 H12グリッド、I層基底面で検出した。平面形はやや不明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.22m、短軸長0.19m、深さ0.16mで、平面形は不整形、断面形は概ね逆台形である。

埋土 2層に分層した。1層は中央がやや窪む堆積である。1層はブロック土と炭化物を、2層はブロック土を僅かに含む。ともに堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から灰軸陶器1点が出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。



SK241



図17 SK241、SK242、SK311 遺構図・遺物実測図

出土遺物 出土した灰軸陶器は小片のため、図示しなかった。

時期 出土した灰軸陶器の詳細な時期は不明である。しかし、当遺跡から出土した灰軸陶器は虎渓山1号窯式から丸石2号窯式に限られることから、10世紀後半から11世紀前葉のもの可能性がある。

SK311 (図17)

検出状況 C・D14グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.40m、短軸長0.35m、深さ0.12mで、平面形は不整形、断面形は2段の掘り込みである。

埋土 2層に分層した。1層は西側に偏って堆積する。2層は礫を多く含むため、人為堆積の可能性はある。1層の堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から須恵器1点が出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。

出土遺物 須恵器は小片のため、図示しなかった。

時期 出土遺物から、本遺構は古代のものとする。

SK323 (図18)

検出状況 D13グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSK324より新しい。

規模・形状 長軸長0.40m、短軸長0.36m、深さ0.06mで、平面形は不整形、断面形は逆台形である。

埋土 単層である。ブロック土と礫を僅かに含む。堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から灰軸陶器1点が出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。

出土遺物 丸石2号窯式の灰軸陶器の折縁皿(14)を図示した。体部外面に回転ヘラケズリを施す。内面には使用による磨滅が認められる。

時期 出土遺物から、本遺構は10世紀後葉から11世紀前葉のものとする。

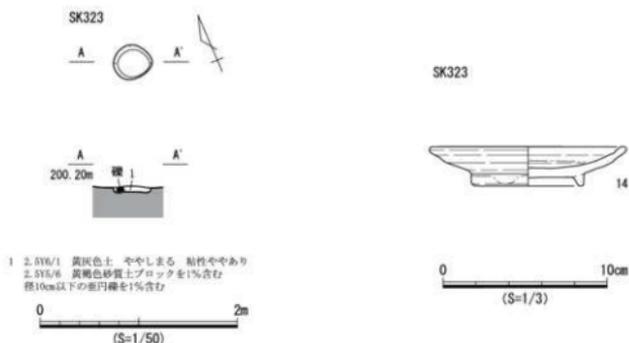


図18 SK323 遺構図・遺物実測図

SK400 (図19)

検出状況 C・D15～16グリッド、Ⅲ層上面で検出した。排水溝掘削時に遺構の東部を一部削平してしまった。発掘区外にも展開する。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長2.58m以上、短軸長1.10m以上、深さ0.19mで、平面形は不明、断面形は概ね逆台形である。

埋土 単層である。ブロック土と礫を多く含むことから、人為堆積の可能性がある。

遺物出土状況 埋土から土師器2点が出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。

出土遺物 土師器の甕(15)を図示した。全体に磨滅が著しく、調整は不明瞭である。外面にススが附着する。

時期 出土遺物から、本遺構は古代のものとする。

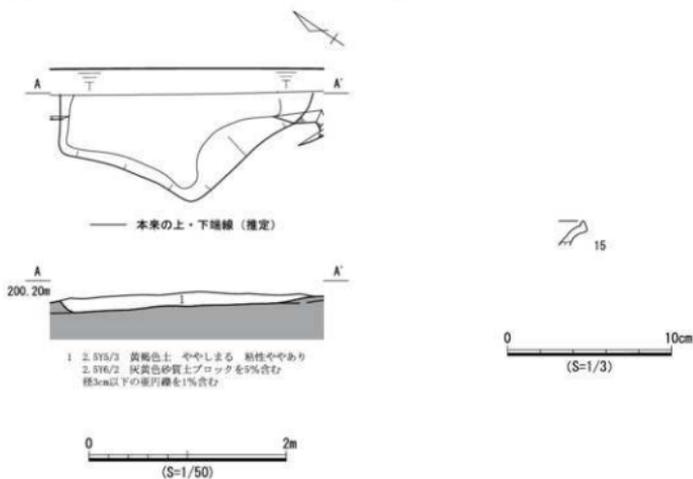


図19 SK400 遺構図・遺物実測図

第5節 中世の遺構・遺物

1 掘立柱建物

SB1 (図20・21)

検出状況 D・F9～10グリッド、P5・P7～P9はI層基底面、P1～P4・P6はIII層上面で検出した。発掘区北西隅で検出した遺構で、発掘区外に展開すると考えられる。P3は検出位置から、本遺構とSB2のいずれの柱穴の可能性もある。位置関係から、本遺構とSB2は同時期に存在したとは考えられず、P3は新しい建物の柱穴で、古い建物の柱穴は消失した可能性がある。ただし、本遺構とSB2は重複関係や出土遺物から明確な時期差を見出すことができず、P3がいずれの遺構に属するものかの判断が困難である。そのため、本遺構ではP3、SB2ではP6として、それぞれ報告する。また、P8の約1.40m北にはP5が存在する。P5～P6とP8～P9の柱間はやや異なるものの、P5で柱痕跡を確認したことから、本遺構を構成する柱穴の可能性があると考え、付属遺構に含めた。柱穴の平面形はいずれも明瞭である。P9はSK39と重複し、SK39よりも新しい。また、P9はSB3の西辺より東に位置するため、本遺構とSB3は同時期に存在したとは考えられない。SB3～P4からは本遺構から出土した遺物よりも新しい白土原1号窯式の山茶碗の碗が出土したことから、本遺構はSB3より古いと考える。

規模・形状 本遺構の北西部が発掘区外に展開するため、全体の規模や形状は不明だが、5間(6.30m、柱間1.10m～1.40m)×2間以上(4.00m、柱間2.00m)の側柱建物と考えられる。P5が本遺構に伴うとすれば、桁行5間の建物内に間仕切が設けられていた、若しくは桁行4間の身舎の南側に扉や縁が設けられていた可能性がある。長軸方位はN-33°-Wで、北西方向にむかって緩やかに低くなる地形に影響を受けて設置されたと想定される。

柱穴 9基の柱穴を確認した。平面形はP2・P6・P8が円形、P5が不整形円形、P3・P4が楕円形、P1・P9が不整形楕円形で、P7は西側が発掘区外に延びており不明である。径は0.17～0.28m、深さは0.04～0.32mである。P2・P5で柱痕跡を確認した。柱穴の底面は、北東辺はP6がやや浅いが概ね一定で、南東辺は東に向かって深くなる。本遺構を構成する柱穴の埋土から山茶碗4点が出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。

出土遺物 P7から出土した窯洞1号窯式の子茶碗の小皿(16)と、P9から出土した尾張型第5型式の子茶碗の碗(17)を図示した。17は内面に使用による磨減が認められる。

時期 出土遺物の最新型式から、本遺構は13世紀前半のものとする。

SB2 (図22・23)

検出状況 D10グリッド、III層上面で検出した。P6は検出位置から、本遺構とSB1のいずれの柱穴の可能性もある。位置関係から、本遺構とSB1は同時期に存在したとは考えられず、P6は新しい建物の柱穴で、古い建物の柱穴は消失した可能性がある。ただし、本遺構とSB1は重複関係や出土遺物から明確な時期差を見出すことができず、P6がいずれの遺構に属するものかの判断が困難である。そのため、本遺構ではP6、SB1ではP3として、それぞれ報告する。柱穴の平面形はいずれも明瞭である。

規模・形状 桁行2間(3.50m、柱間1.60m～1.90m)、梁行2間(2.70m、柱間1.30m～1.40m)の側柱建物である。長軸方位はN-76°-Eで、北西方向にむかって緩やかに低くなる地形に影響を受けて設置されたと想定される。

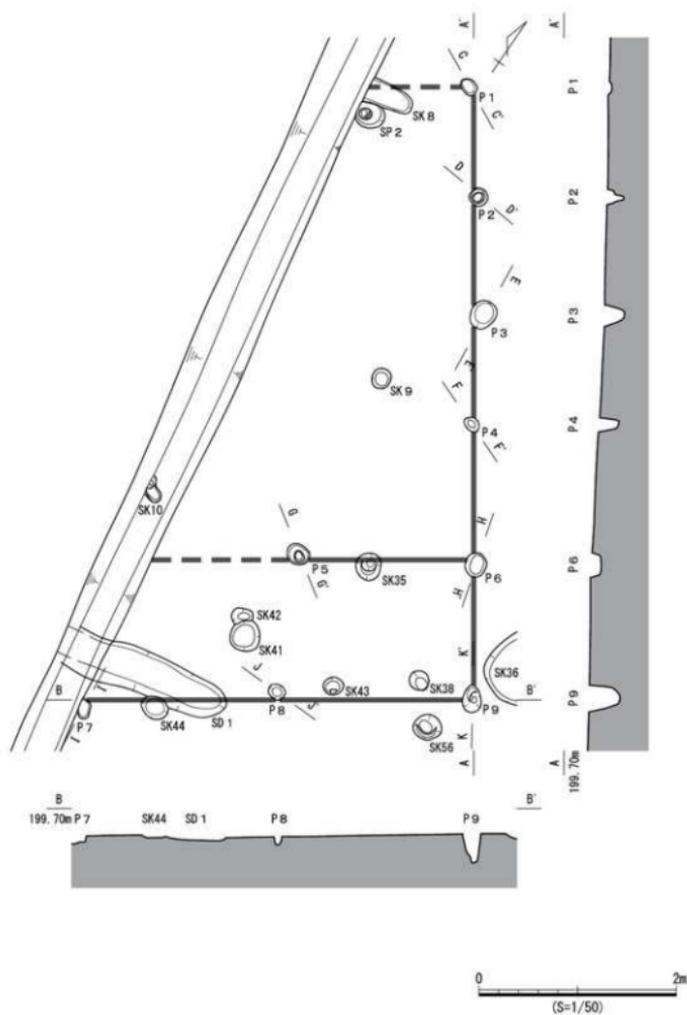


図20 SB1遺構図(1)

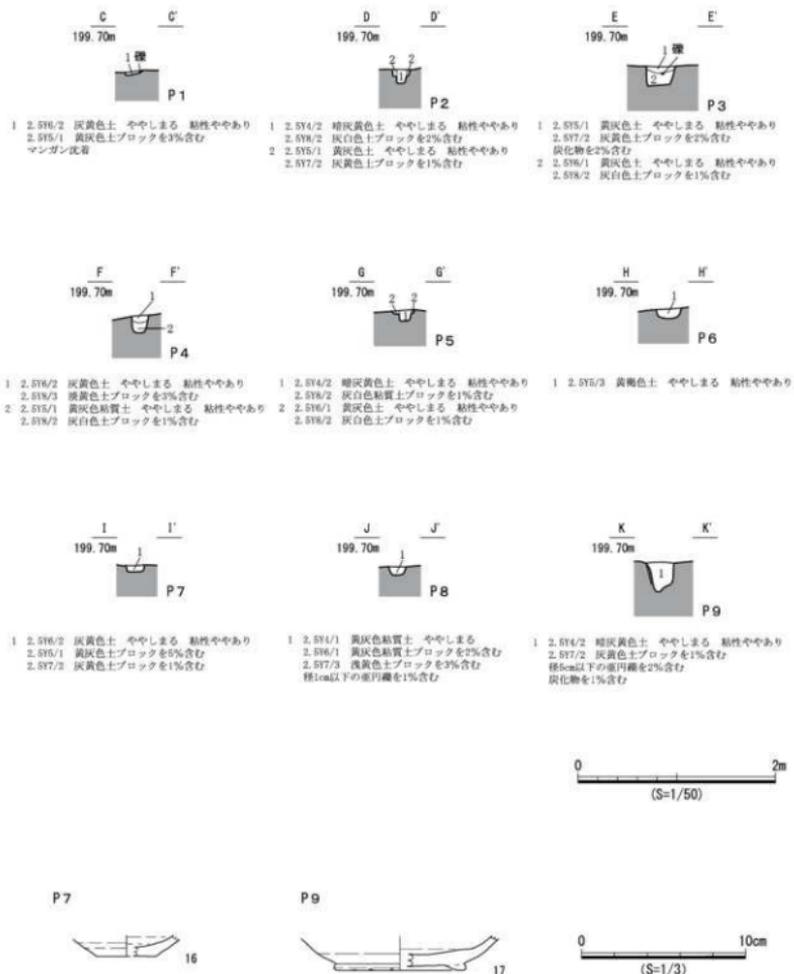


図21 SB1遺構図(2)・遺物実測図

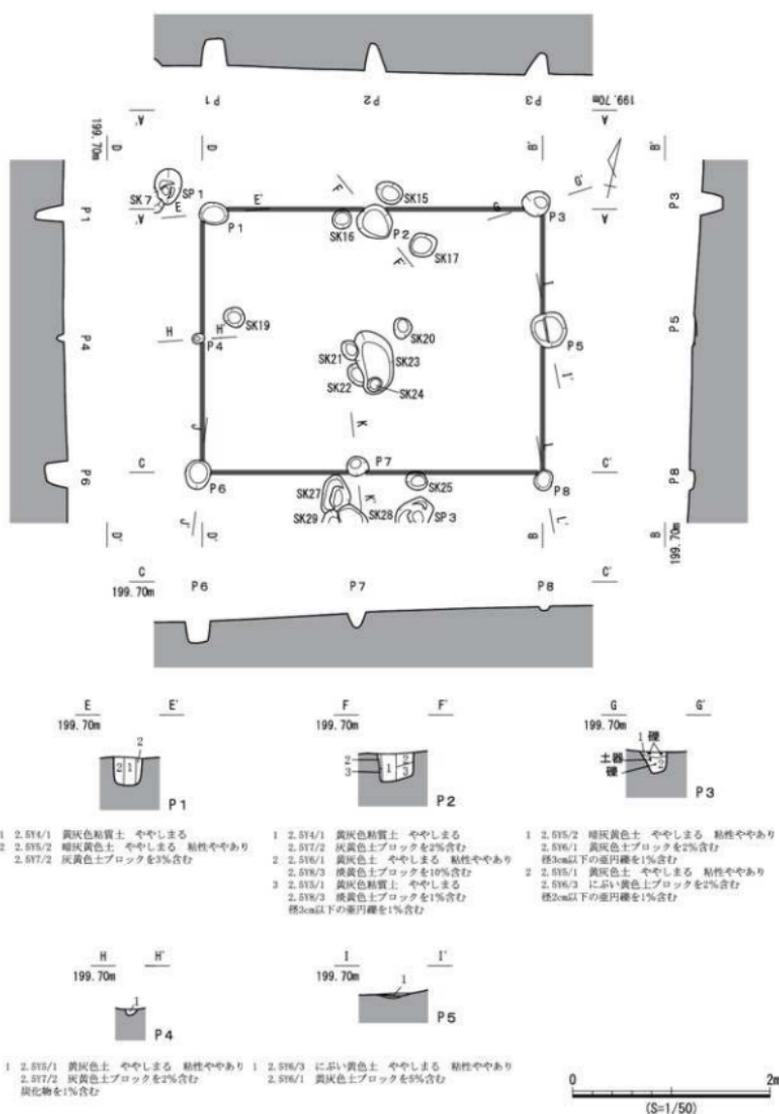


図 22 SB2 遺構図 (1)

柱穴 8基の柱穴を確認した。平面形はP2・P3・P5・P7が不整形円形、P1・P4・P6・P8が楕円形である。径は0.12～0.37m、深さは0.03～0.33mである。P1・P2で柱痕跡を確認した。柱穴の底面は概ね北西に向かって低くなる。本遺構を構成する柱穴の埋土から山茶碗3点が出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。

出土遺物 P2から出土した尾張型第4～第5型式の山茶碗の碗(18)を図示した。

時期 出土遺物から、本遺構は12世紀前葉から13世紀前葉のものとする。

SB3 (図24)

検出状況 E10～11グリッド、P3～P5はI層基底面、P1・P2はIII層上面で検出した。P2は北側の柱筋上にあり、P1とP2のほぼ中間に位置することから、本遺構を構成する柱穴の可能性があると考え、付属遺構に含めた。柱穴の平面形はP3～P5が明瞭でP1・P2はやや不明瞭である。P1はSK36と重複し、SK36よりも新しい。また、本遺構の西辺より東にSB1～P9が位置するため、本遺構とSB3は同時に存在したとは考えられない。SB1の付属遺構からは本遺構から出土した遺物よりも古い窯洞1号窯式の山茶碗の小皿が出土したことから、本遺構はSB1より新しいと考える。

規模・形状 桁行2間(2.50m)、梁行2間(2.20m、柱間1.10m)の側柱建物である。長軸方位はN-9°-Eで、南北軸に近い。

柱穴 5基の柱穴を確認した。平面形はP4・P5が円形、P1～P3が不整形円形である。径は0.19～0.52m、深さは0.06～0.29mである。いずれも柱痕跡等の特徴的な堆積状況は認められなかった。柱穴の底面は、P4が深い、他は概ね一定である。本遺構を構成する柱穴の埋土から土師器2点・山茶碗1点が出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。

出土遺物 P4から出土した土師器1点(19)と山茶碗1点(20)を図示した。19は高坏の脚部で、上部に坏部が剥がれた痕跡がある。外面の調整は磨滅により不明瞭だが部分的にナデと指頭圧痕が認められる。内面にはナデと指頭圧痕が認められる。時期は不明である。20は白土原1号窯式の山茶碗の碗である。

時期 SB1との新旧関係から、本遺構は13世紀前葉以降に設置され、出土遺物の最新型式から13世紀前半のものとする。

SB4 (図25)

検出状況 F11～12グリッド、III層上面で検出した。P2は北側、P4は西側、P5は東側の柱筋上にあ

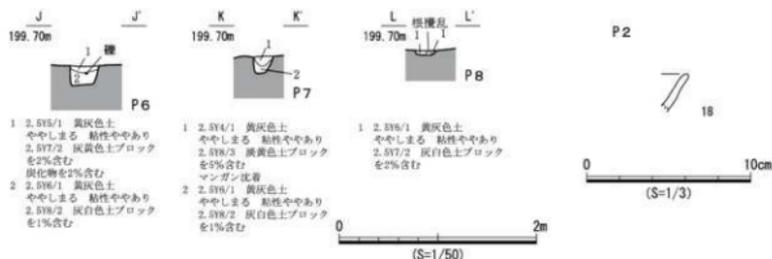


図23 SB2遺構図(2)・遺物実測図

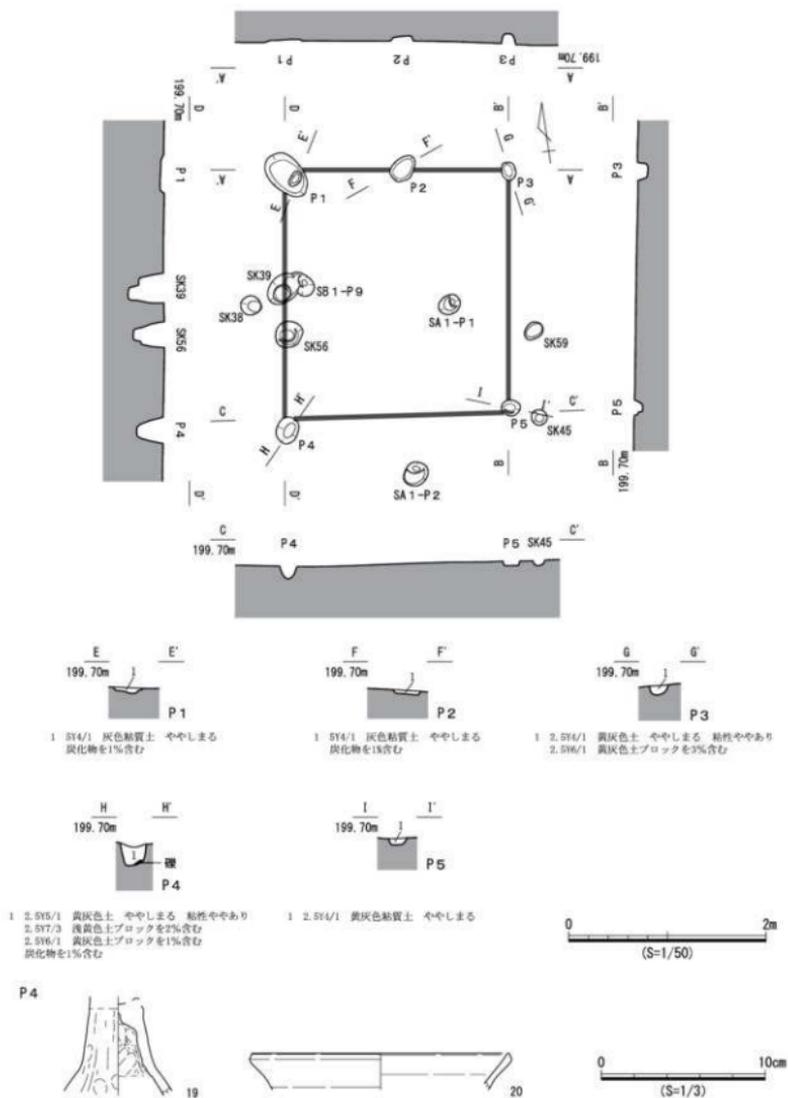


図24 SB 3 遺構図・遺物実測図

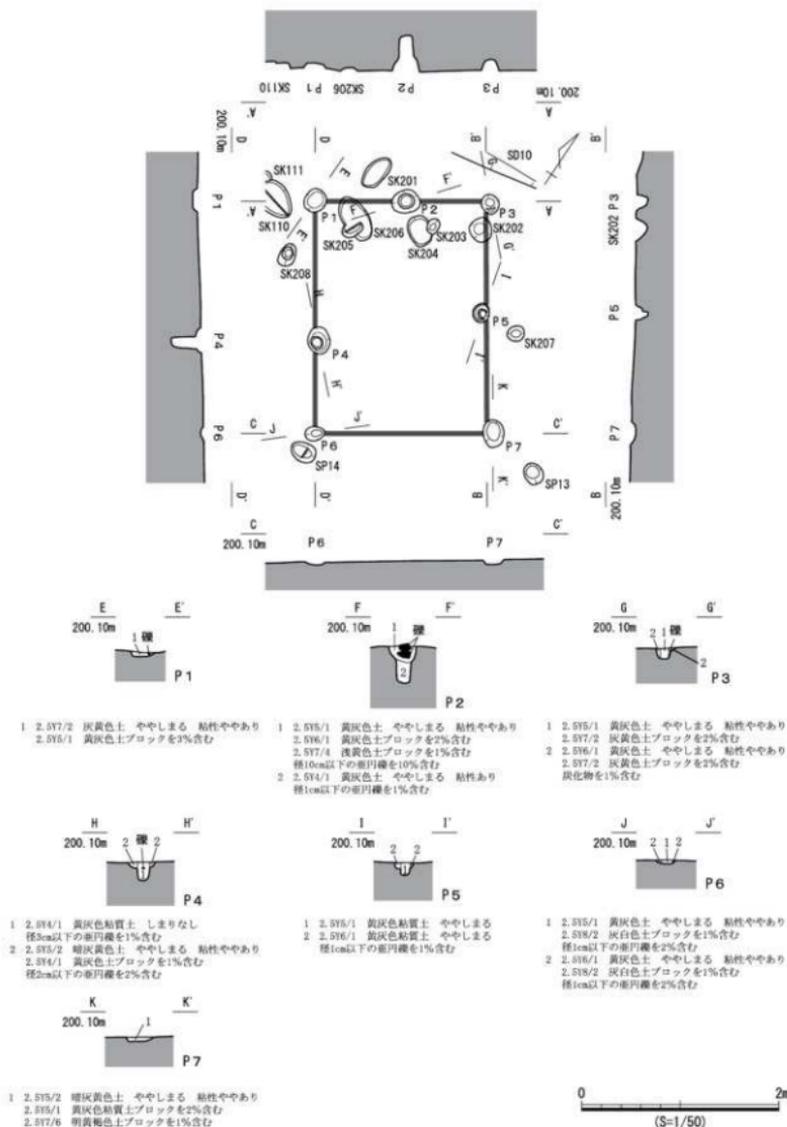


図25 SB4遺構図

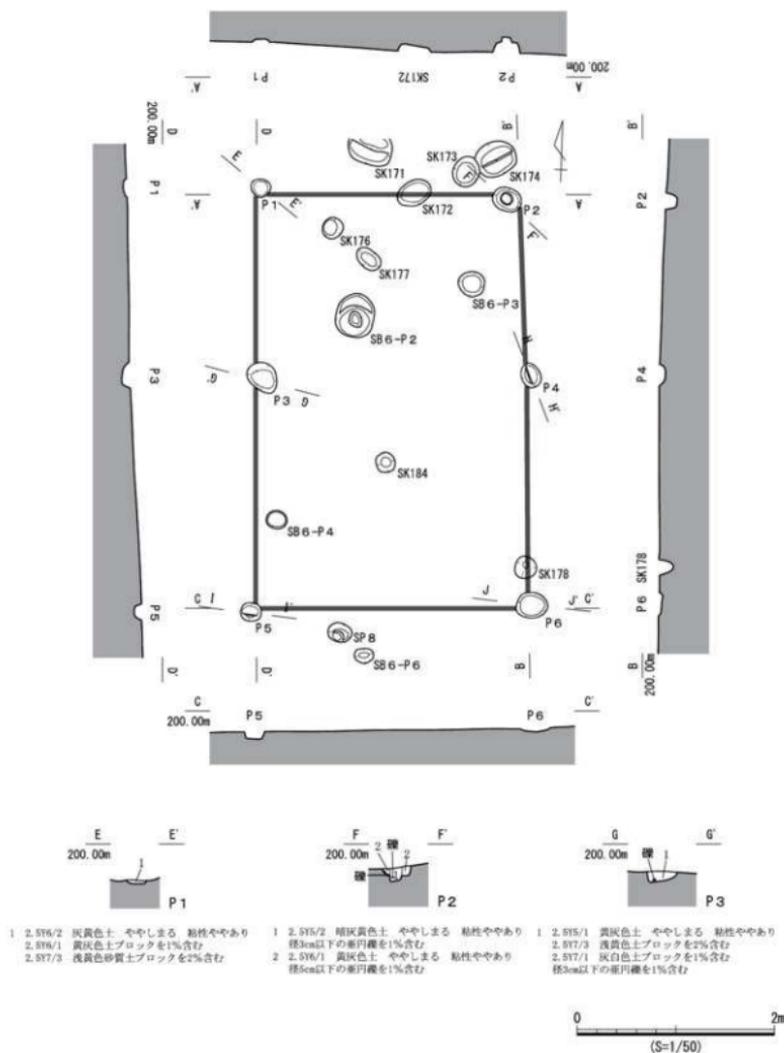


図 26 SB5遺構図(1)

り、P2はP1とP3、P5はP3とP7のほぼ中間に位置し、P4・P5では柱痕跡を確認した。これらのことから、P2・P4・P5は本遺構を構成する柱穴の可能性があると考え、付属遺構に含めた。柱穴の平面形はいずれも明瞭である。P7はSK212と重複し、SK212よりも新しい。

規模・形状 桁行2間(2.40m、柱間1.10m-1.40m)、梁行2間(1.80m、柱間0.90m)の側柱建物である。長軸方位はN-33°-Wで、北西方向にむかって緩やかに低くなる地形に影響を受けて設置されたと想定される。

柱穴 7基の柱穴を確認した。平面形はP1・P3・P5が円形、P2・P4・P6・P7が不整楕円形である。径は0.19~0.29m、深さは0.03~0.41mである。P3~P6で柱痕跡を確認した。また、P2は2段の掘り込みだが、層界と傾斜変換点が一致するため、もとは2つの遺構であった可能性がある。柱穴の底面は、概ね北側に向かって低くなり、P2・P4が他と比べて深い。本遺構を構成する柱穴から遺物は出土しなかった。

時期 本遺構は、排水の機能を有していた可能性があるL字の溝(SD11・SD16・SD18)の内側に位置することや、L字の溝と方向が類似することから、これらの溝と同時期のものとの可能性があり、13世紀前半以降に設置されたものと考えられる。

SB5 (図26・27)

検出状況 D・E12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。柱穴の平面形はP2~P6が明瞭で、P1が不明瞭である。P3はSK181、P4はSB6-P5と重複し、それぞれSK181・SB6-P5よりも新しい。

規模・形状 桁行2間(4.30m柱間1.94m-2.36m)、梁行1間(2.74m)の側柱建物である。長軸方位はN-1°-Eで、南北軸に近い。

柱穴 6基の柱穴を確認した。平面形はP1・P5が円形、P6が不整形、P2~P4が楕円形である。径は0.20~0.34m、深さは0.04~0.19mである。P2では柱痕跡を確認した。柱穴の底面は、概ね北西に向かって深くなる。本遺構を構成する柱穴から遺物は出土しなかった。

時期 近接するSB3と長軸方位が類似することや、SB6よりも新しいことから、本遺構は13世紀前半以降に設置されたものと考えられる。

SB6 (図28)

検出状況 E12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。P2は北側の柱筋上にあり、P1とP3のほぼ中間に位置することや柱痕跡を確認したことから、本遺構を構成する柱穴の可能性があると考え、付属遺構に含めた。柱穴の平面形はP1~P3・P5~P7が明瞭で、P4が不明瞭である。P1はSK182、P5はSB5

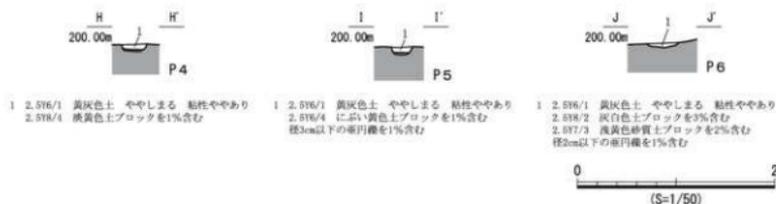


図27 SB5遺構図(2)

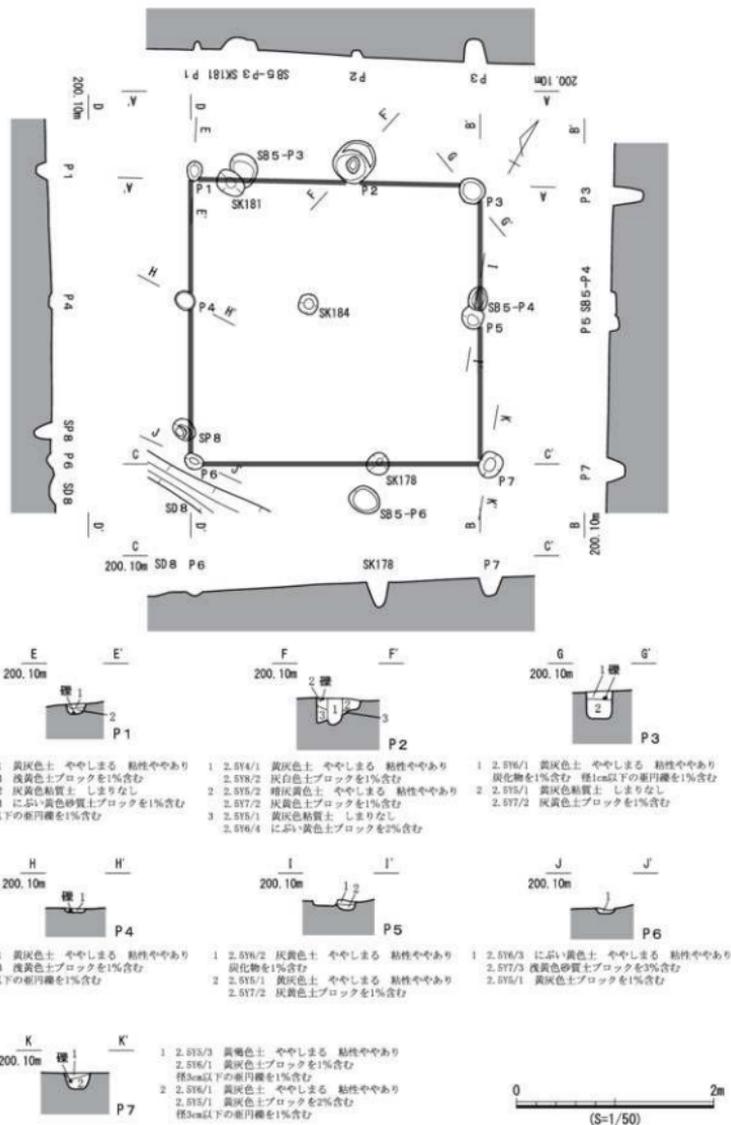


図 28 SB 5 遺構図

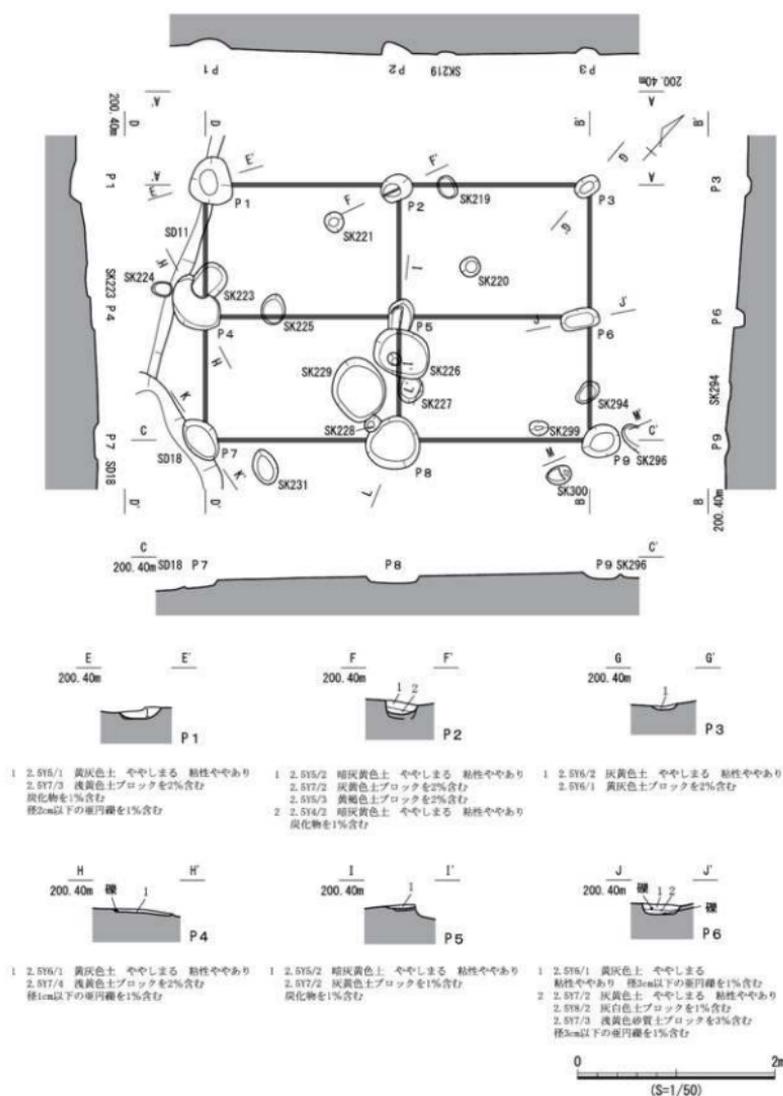


図 29 SB7 構構図 (1)

—P4、P7はSK185と重複し、それぞれSB5—P4より古く、SK182・SK185よりも新しい。

規模・形状 桁行2間(2.94m、柱間1.34m—1.60m)、梁行2間(2.90m、柱間1.30m—1.60m)のほぼ正方形の側柱建物である。長軸方位はN—62°—Eで、北西方向にむかって緩やかに低くなる地形に影響を受けて設置されたと想定される。

柱穴 7基の柱穴を確認した。平面形はP4・P5が円形、P2・P3が不整形円形、P1が楕円形、P6・P7が不整形円形である。径は0.20—0.45m、深さは0.04—0.30mである。P2では柱痕跡を確認した。柱穴の底面は、概ね北西に向かって深くなる。本遺構を構成する柱穴から遺物は出土しなかった。

時期 本遺構は、排水の機能を有していた可能性があるL字の溝(SD11・SD16・SD18)の内側に位置することや、L字の溝と方向が類似することから、これらの溝と同時期のものの可能性があり、13世紀前半以降に設置されたものと考えられる。

SB7(図29・30)

検出状況 F・G12~13グリッド、Ⅲ層上面で検出した。柱穴の平面形はP1・P3・P4・P7~P9が明瞭、P2・P5・P6がやや不明瞭である。P1はSD11、P4はSD11・SK223、P5はSK226、P7はSD18、P8はSK228、P9はSD17・SK294と重複し、それぞれSD11・SD18・SK223・SK226・SK228より古く、SD17・SK294よりも新しい。

規模・形状 桁行2間(3.80m、柱間1.90m)、梁行2間(2.60m、柱間1.30m)の総柱建物である。長軸方位はN—48°—Eで、北西方向にむかって緩やかに低くなる地形に影響を受けて設置されたと想定される。

柱穴 9基の柱穴を確認した。平面形はP8が不整形円形、P2・P4・P7・P9が不整形円形、P3・P6は隅丸長方形、P1は不定形で、P5は南側がSK226と重複しており、元の形状が不明である。径は0.27~0.59m、深さは0.05~0.14mである。いずれも柱痕跡等の特徴的な堆積状況は認められなかった。柱穴の底面は、概ね北西に向かって深くなる。本遺構を構成する柱穴から遺物は出土しなかった。

時期 SD11よりも古いことから、本遺構は13世紀前半以前に設置されたものと考えられる。

SB9(図31)

検出状況 G14グリッド、Ⅲ層上面で検出した。P3は西側の柱筋上に位置することや、他の柱穴と規模や形状、埋土が類似することから、本遺構を構成する柱穴の可能性があると考え、付属遺構に含めた。柱穴の平面形はいずれも明瞭である。

規模・形状 桁行2間(2.40m、柱間1.60m—0.80m)、梁行1間(1.90m)の側柱建物である。長軸方位はN—5°—Eで、南北軸に近い。

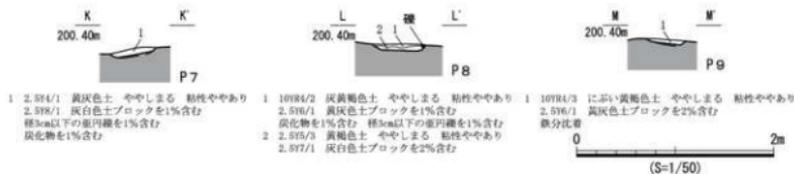


図30 SB7遺構図(2)

柱穴 5基の柱穴を確認した。平面形はP2・P3・P5は円形、P1・P4は楕円形である。径は0.20～0.28m、深さは0.10～0.14mである。いずれも柱痕跡等の特徴的な堆積状況は認められなかった。柱穴の底面は、概ね北西に向かって深くなる。本遺構を構成する柱穴から遺物は出土しなかった。

時期 本遺構と同様に長軸方位が南北軸に近いSB3・SB5は、いずれも地形に影響を受けて設置されたSB1・SB6よりも新しい。そのため、本遺構も地形に影響を受けて設置された建物よりも新しいものの可能性がある。SB3・SB5の時期から、本遺構は13世紀前半以降のものとする。

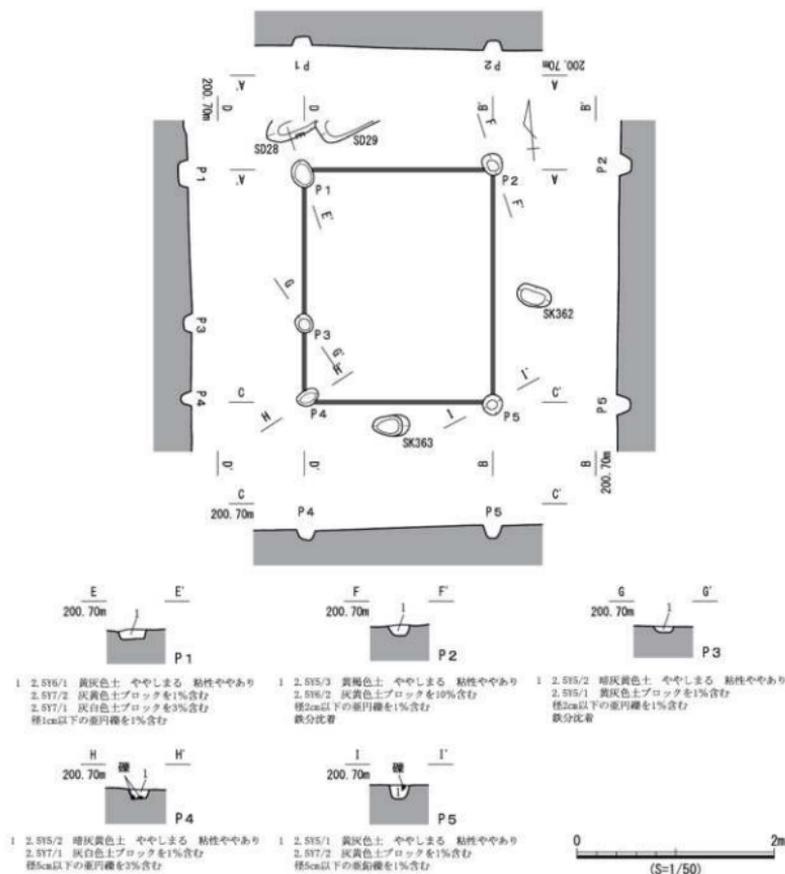


図 31 SB9遺構図

2 塀・櫓

SA2 (図32)

検出状況 F10～11グリッド、Ⅲ層上面で検出した。4基の柱穴がほぼ等間隔で直線的に並ぶ。柱穴の平面形はいずれも明瞭である。

規模・形状 3間(6.00m、柱間1.98m-2.02m)である。長軸方位はN-59°-Eで、北西方向にむかって緩やかに低くなる地形に影響を受けて設置されたと想定される。

柱穴 平面形はP1が円形、P2・P3が楕円形、P4が不整形円形で、径は0.27～0.33m、深さは0.07～0.13mである。P1・P4で柱痕跡を確認した。本遺構を構成する柱穴から遺物は出土しなかった。

時期 本遺構と長軸方位が類似する若しくは直交する掘立柱建物や溝状遺構は、いずれも中世に属することから、本遺構は中世のものとする。ただし、SD11が排水の機能を有していたとすれば、本遺構とSD11が同時期に存在したとは考えにくい。詳細は不明である。

SA3 (図33)

検出状況 G10グリッド、P3はⅠ層基底面、P1・P2はⅢ層上面で検出した。3基の柱穴がほぼ等間隔で直線的に並ぶ。柱穴の平面形はP1・P2が明瞭、P3が不明瞭である。P3はSK61と重複し、SK61よりも新しい。

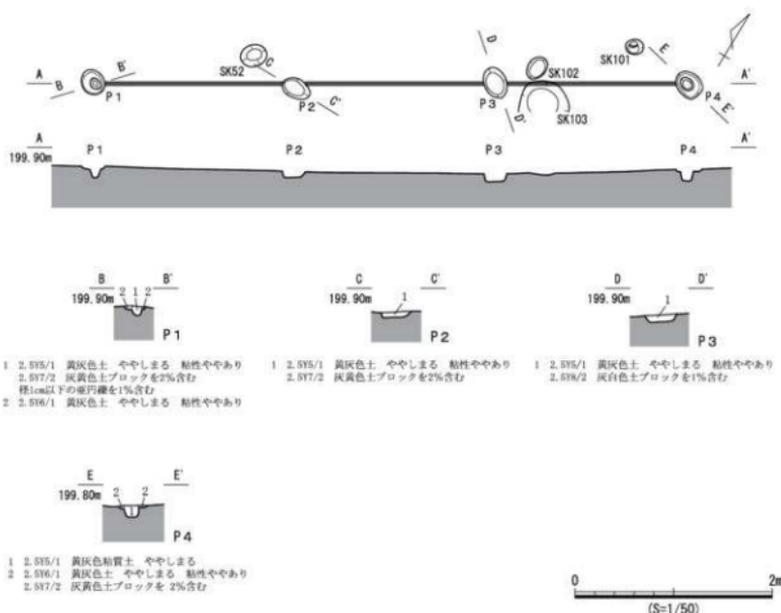


図32 SA2遺構図

規模・形状 2間(3.20m、柱間1.60m)である。長軸方位は $N-2^{\circ}-W$ で、南北軸に近い。

柱穴 平面形はP2が円形、P3が不整形形、P1が楕円形で、径は0.17~0.24m、深さは0.11~0.27mである。P1で柱痕跡を確認した。本遺構を構成する柱穴の埋土から山茶碗1点が出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。

出土遺物 山茶碗は小片のため図示しなかった。

時期 本遺構や本遺構より古いSK61から山茶碗が出土したことから、中世以降のものとする。また、本遺構と同様に長軸方位が南北軸に近いSB3・SB6は、いずれも地形に影響を受けて設置されたSB1・SB6よりも新しい。そのため、本遺構も地形に影響を受けて設置された遺構よりも新しいものの可能性があり、SB3・SB6の時期から、13世紀前半以降のものとする。

SA4 (図34)

検出状況 F12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。4基の柱穴がほぼ等間隔で直線的に並ぶ。柱穴の平面形はP2~P4が明瞭、P1がやや不明瞭である。P1はSD10と重複し、SD10よりも新しい。

規模・形状 3間(4.40m、柱間1.40m~1.60m)である。長軸方位は $N-44^{\circ}-W$ で、北西方向にむかって緩やかに低くなる地形に影響を受けて設置されたと想定される。

柱穴 平面形はP4が円形、P2・P3が不整形形、P1が楕円形で、径は0.21~0.26m、深さは0.07~0.19mである。いずれも柱痕跡等の特徴的な堆積状況は認められなかった。本遺構を構成する柱穴から遺物は出土しなかった。

時期 配置からSB4に伴う可能性があり、本遺構は13世紀前半以降に設置されたものとする。

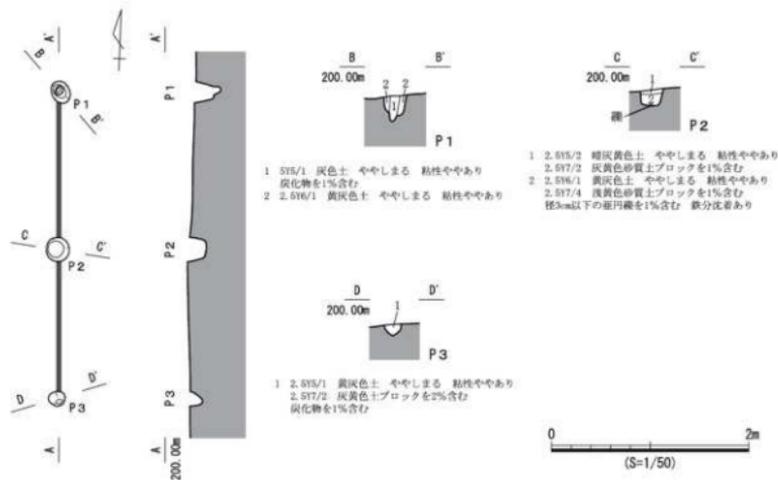


図33 SA3遺構図

3 単立柱穴

SP 1 (図35)

検出状況 D 9グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSK 7より新しい。

規模・形状 長軸長0.37m、短軸長0.27m、深さ0.33mで、平面形は楕円形、断面形は2段の掘り込みである。

埋土 2層に分層した。1層は柱痕跡で、この層の下端が2層よりも1段低くなる。2層は柱掘方埋土である。2層から山茶碗1点が出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。

出土遺物 山茶碗は細片のため、図示しなかった。

時期 本遺構より古いSK 7から尾張型第5型式の山茶碗の碗が出土したことから、12世紀後葉から13世紀前葉以降のものとする。

SP 8 (図35)

検出状況 E 12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.24m、短軸長0.20m、深さ0.24mで、平面形は楕円形、断面形は2段の掘り込みで、底面に柱当たりが認められる。

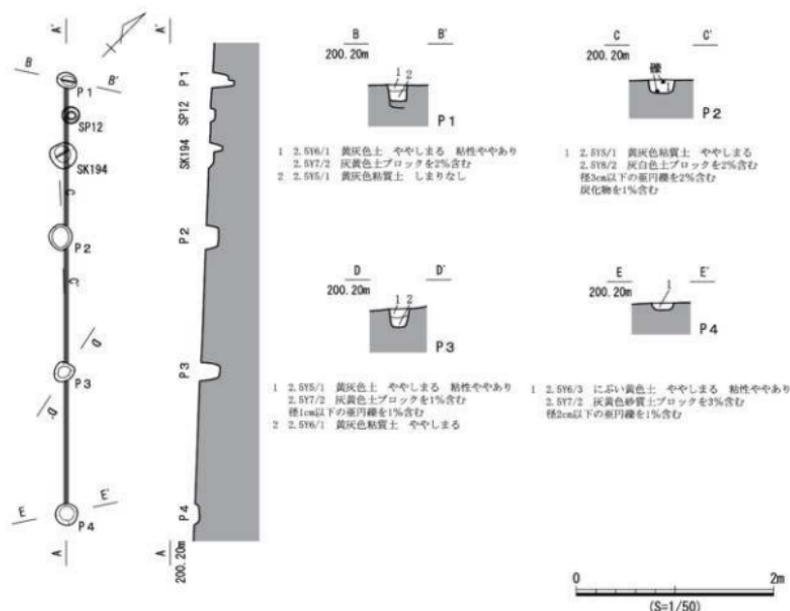


図 34 SA 4 遺構図

埋土 2層に分層した。1層は柱痕跡で、2層は柱掘方埋土である。b層から山茶碗1点が出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。

出土遺物 白土原1号窯式の山茶碗の碗(21)を図示した。

時期 出土遺物から、本遺構は13世紀前半のものとする。

SP10 (図35)

検出状況 E・F12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.22m、短軸長0.20m、深さ0.11mで、平面形は不整形円形、断面形は2段の掘り込みである。

埋土 2層に分層した。1層は柱痕跡で、この層の下端が2層よりも1段低くなる。2層は柱掘方埋土である。1層から山茶碗1点が出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。

出土遺物 明和1号窯式の山茶碗の碗(22)を図示した。

時期 柱痕跡の出土遺物から、本遺構は13世紀中葉以降に埋没したものとする。

4 溝状遺構

SD2・SD8 (図36)

これらの溝状遺構は延長線上に位置することや、両者の幅や深さ、埋土が類似することから、本来は一連の遺構であった可能性が高いと考えるため、併せて報告する。

検出状況 E・F9～13グリッド、Ⅲ層上面で検出した。SD2は発掘区外西側に延びる。平面形はい

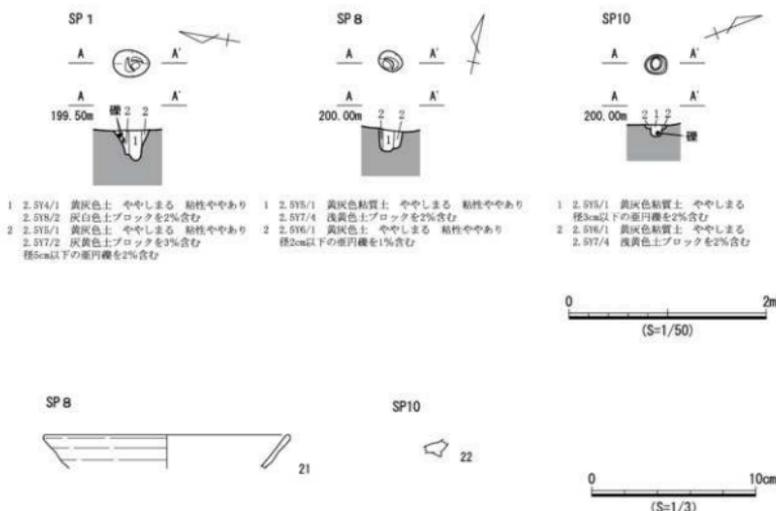


図35 SP1、SP8、SP10 遺構図・遺物実測図

ずれも明瞭である。重複関係からSD 2はSK48、SD 8はSD 9・SK271より新しい。

規模・形状 平面形はいずれもやや蛇行する。長軸方位はSD 2が $N-89^{\circ}-E$ 、SD 8が $N-85^{\circ}-E$ である。近接するSB 3・SB 5と向きが類似し、SD 6・SD 7・SD13とほぼ平行する。最大幅0.45m、深さ0.11mで、断面形は半円形若しくは逆台形である。底面の標高はSD 2の西端が199.39m、東端が199.50m、SD 8の西端が199.48m、東端が199.86mで、概ね西に向かって低くなる。

埋土 いずれも単層でブロック土や礫を多く含むため、人為堆積の可能性がある。

遺物出土状況 SD 2の埋土から灰軸陶器3点、SD 8の埋土から山茶碗3点が出土した。灰軸陶器の碗B (23) がSD 2の底面に接して逆位で出土した。その他に特徴的な出土状況は認められなかった。

出土遺物 SD 2から出土した丸石2号窯式の灰軸陶器の碗B (23) を図示した。体部外面と底部外面

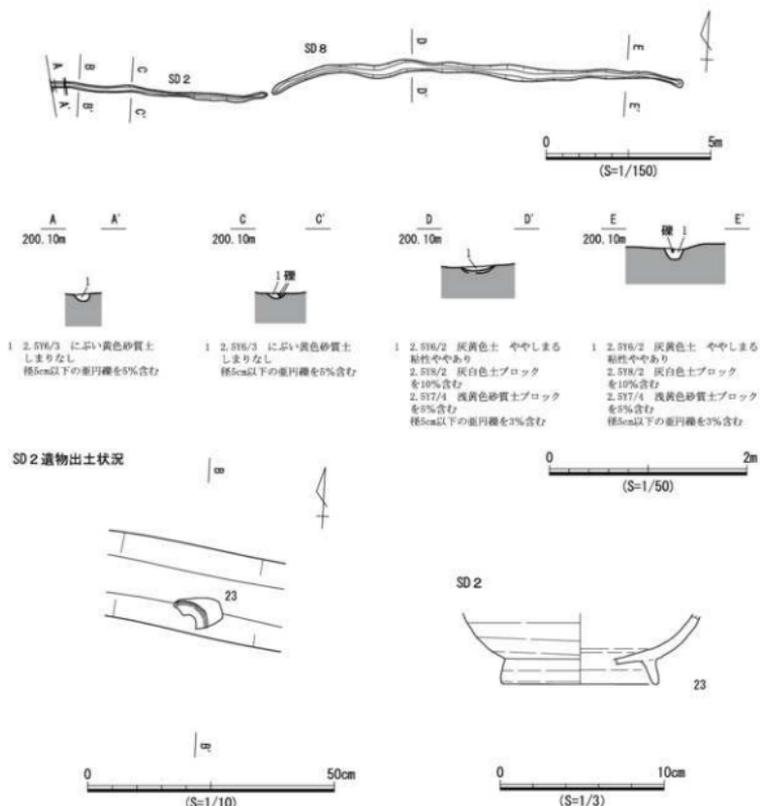


図 36 SD 2、SD 8 遺構図・遺物実測図

に回転ヘラケズリを施す。内面に使用による磨滅が認められる。なお、山茶碗は小片のため、図示できなかった。

時期 SD6・SD7・SD13と向きが類似することや、SD2より古いSK48や、本遺構の埋土から山茶碗が出土したことから、これらの遺構は中世以降のものとする。

SD6・SD7・SD13 (図37)

これらの溝状遺構は延長線上に位置することや、それぞれの幅や深さ、埋土が類似することから、本来は一連の遺構であった可能性が高いと考えるため、併せて報告する。

検出状況 G・H10～11グリッド、III層上面で検出した。SD6は発掘区外西側に延びる。平面形はそれぞれ明瞭である。重複関係からSD13はSD14より新しい。

規模・形状 平面形はSD6・SD7は直線的で、SD13はやや蛇行する。長軸方位はSD6がN-82°-E、SD7がN-80°-E、SD13がN-62°-Eである。SD2・SD8とはほぼ平行する。最大幅0.25m、深さ0.09mで、断面形は半円形若しくは逆台形である。底面の標高はSD6の西端が199.85m、東端が199.90m、SD7の西端が199.94m、東端が199.96m、SD13の西端が199.98m、東端が200.02mで、概ね西に向かって低くなる。

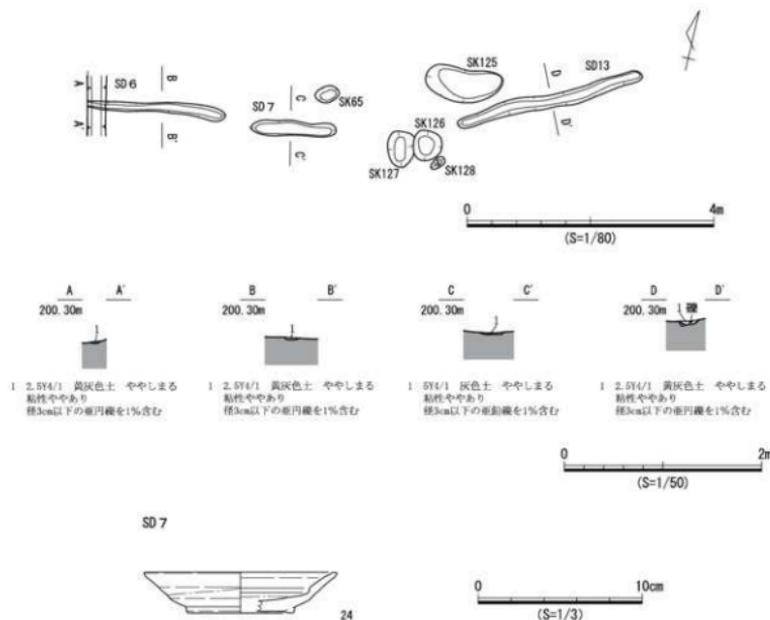


図37 SD6、SD7、SD13 遺構図・遺物実測図

埋土 いずれも単層である。いずれも礫を含むが僅かであり、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 SD7の埋土から灰軸陶器2点、SD13の埋土から灰軸陶器3点・山茶碗1点が出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。

出土遺物 SD7から出土した丸石2号窯式の灰軸陶器の段皿(24)を図示した。底部外面に回転糸切痕が認められ、内外面に自然軸が付着する。内面に使用による磨減が認められる。なお、山茶碗は小片のため、図示できなかった。

時期 SD2・SD8と向きが類似することや、SD13より古いSD14やSD13の埋土から灰軸陶器が出土したこと、本遺構から山茶碗が出土したことから、これらの遺構は中世以降のものとする。

SD11・SD16・SD18 (図38・39)

検出時には、SD11・SD16はSD18が重複すると考え、調査した。しかし、それぞれの埋土が類似しており遺構同士の境が不明瞭であったことや、それぞれの幅や深さが類似することを踏まえると、本来は一連の遺構であった可能性が高いと考えるため、併せて報告する。

検出状況 F・G・H11～13グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はいずれもやや不明瞭である。重複関係からSK215・SK222・SK232・SK233より古くSB7・SD19・SD20・SD22・SK109・SK112・SK217・SK224・SK238・SK301より新しい。

規模・形状 平面形はL字で、SD11はやや蛇行し、SD16・SD18は概ね直線的である。長軸方位はSD11がN-32°-W、SD16がN-57°-E、SD18がN-57°-Wである。SD16は地形の傾斜にほぼ直交し、SD11・SD18は地形の傾斜にほぼ沿う。最大幅0.89m、深さ0.12mで、断面形は概ね逆台形である。底面の標高はSD11の北端が199.67m、南端が200.06m、SD16の西端が200.24m、東端が200.32m、SD18の北端が200.02m、南端が200.20mで、北西に向かって低くなる。地形に沿うことや傾斜の方向から、南側から流れてきた水をSD16が受け、SD18・SD11に向けて排水する機能があった可能性がある。溝の内側には、本遺構と方向が類似するSB4・SB6が認められる。

埋土 いずれも単層である。ブロック土や礫を含むが僅かであり、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 SD11の埋土から土師器1点・灰軸陶器7点・山茶碗9点・常滑1点、SD16の埋土から灰軸陶器5点・山茶碗1点、SD18の埋土から灰軸陶器3点・山茶碗3点が出土した。このうち常滑の甕の破片と灰軸陶器の段皿(28)がSD11の底面に接して逆位で出土した。そのほかの遺物は特徴的な出土状況は認められなかった。

出土遺物 SD11から出土した灰軸陶器4点(25～28)、SD16から出土した灰軸陶器1点(29)、SD18から出土した灰軸陶器2点(30・31)を図示した。時期は28のみ虎溪山1号窯式で、その他はいずれも丸石2号窯式である。25は碗Aで、底部外面に回転糸切痕が認められる。26は碗Bで、体部外面に回転ヘラケズリを施す。27は皿で、底部外面の回転糸切痕を部分的にナゲ消した痕跡が認められる。28は段皿である。底部外面及び体部外面に回転ヘラケズリを施し、内面に重焼痕が認められる。また、内面に使用により磨減が認められる。29は皿で、底部外面に回転ヘラケズリを施す。30は碗Bで、底部外面の回転糸切痕を部分的にナゲ消した痕跡が認められる。31は皿で、底部外面に回転ヘラケズリを施す。また、内面に使用による磨減が認められる。なお、山茶碗は小片のため、図示できなかった。

時期 SD11より古いSK112から白土原1号窯式の子茶碗の碗が出土したことや、SD16より古いSD20から白土原1号窯式の子茶碗の皿が出土したこと、本遺構から山茶碗が出土したことから、これらの遺構

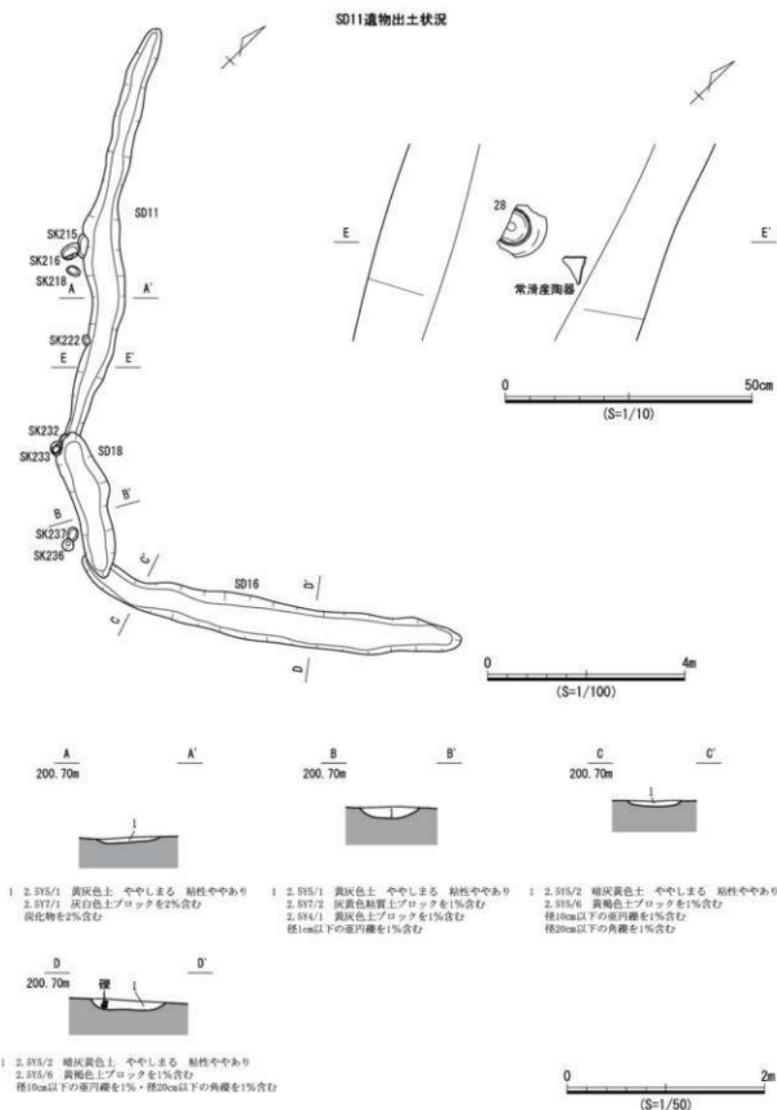


図 38 SD11、SD16、SD18 遺構図

は13世紀前半以降のものとする。

SD19・SD20 (図40)

これらの溝状遺構は延長線上に位置することや、それぞれの幅や深さ、埋土が類似することから、本来は一連の遺構であった可能性が高いと考えるため、併せて報告する。

検出状況 G・H13～14グリッドでSD16完掘時にⅢ層上面で検出した。SD19の東端とSD20の西端はSK301とSD20の東端はSD22と重複する。平面形はいずれも明瞭である。重複関係からSD16・SD22・SK301より古い。

規模・形状 平面形は概ね直線的である。長軸方位はSD19がN-48° - E、SD20がN-52° - Eである。最大幅0.30m、深さ0.10mで、断面形は逆台形である。底面の標高はSD19の西端が200.18m、東端が200.29m、SD20の西端が200.30m、東端が200.23mで、SD19は西に向かって、SD20は東に向かって低くなる。

埋土 いずれも単層である。ブロック土を含むが僅かであり、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 SD20の埋土から山茶碗2点出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。

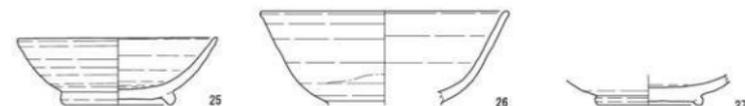
出土遺物 SD20から出土した白土原1号窯式の山茶碗の小皿(32)を図示した。

時期 SD16より古いことや出土遺物から、本遺構は13世紀前半以前のものとする。

SD22 (図41)

検出状況 G14グリッド、Ⅲ層上面で検出した。北端はSK348、南端はSD16と重複し、消失する。平面形は基盤層との境は明瞭だが、重複する遺構との境は不明瞭である。

SD11



SD16



SD18

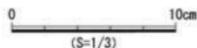
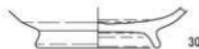


図39 SD11、SD16、SD18 遺物実測図

規模・形状 平面形は直線的である。長軸方位は $N-14^{\circ}-W$ である。最大幅0.46m、深さ0.13mで、断面形は逆台形である。底面の標高は北端が200.21m、南端が200.24mで、北に向かって低くなる。

埋土 2層に分層した。1層は概ね水平に堆積する。ブロック土や礫を含むが僅かであり、堆積状況は不明である。2層はブロック土や礫を多く含み、人為堆積の可能性がある。

遺物出土状況 埋土から遺物は出土しなかった。

時期 本遺構より古いSD20から白土原1号窯式の山茶碗の皿が出土したことから、本遺構は13世紀前半以降のものとする。

SD26 (図42)

検出状況 E・F13~16グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭である。

規模・形状 平面形は緩い弓形で、中央付近がやや幅広となる。長軸方位は $N-75^{\circ}-W$ である。最大幅0.90m、深さ0.10mで、断面形は逆台形である。底面の標高は西端が200.11m、東端が200.31mで、北西に向かって低くなる。

埋土 1層から3層に分層した。B-B'は単層である。C-C'では1層・2層が3層を、D-D'では1層が2層を掘り込むような堆積を確認したことから、掘り直しを行ったと考える。また、遺構の概ね中央より東では礫を多く含み、中央より西では礫が僅かであり、埋土の様相に差がみられた。B-B'1層は礫を、C-C'1層・2層とD-D'1層はブロック土と礫を多く含むため、人為堆積の可能性がある。C-C'3層とD-D'2層はブロック土を含むが僅かであり、堆積状況は不明である。

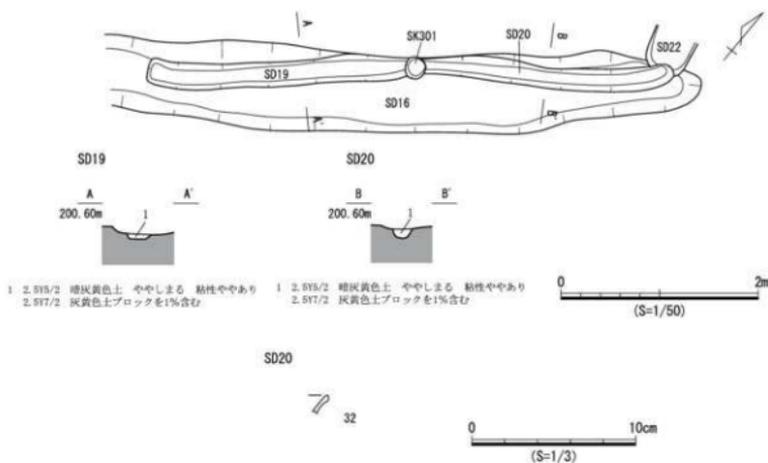


図40 SD19、SD20 遺構図・遺物実測図

付属遺構 本遺構の東部の底面で6基の柱穴(SD26-P1~P6)を検出した。直線的に並ぶことから、SD26内に設けられた塀・柵と考えられる。5間(3.90m、柱間0.44m-1.20m)である。長軸方位はN-76°-Wである。平面形はP1・P2・P4~P6が不整楕円形、P3が不定形である。いずれも柱痕跡等の特徴的な堆積状況は認められなかった。

遺物出土状況 B-B' 1層から灰釉陶器1点、C-C' 2層から灰釉陶器1点、a層から土師器1点・須恵器1点・灰釉陶器6点、b層から灰釉陶器1点・山茶碗2点が出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。なお、付属遺構から遺物は出土しなかった。

出土遺物 須恵器1点(33)・灰釉陶器1点(34)・山茶碗1点(35)を図示した。33は甕で外面に平行タタキ目、内面に同心円当具痕が認められる。34は丸石2号窯式の皿で底部外面に回転糸切痕が認められる。35は谷迫間2号窯式の碗である。

時期 出土した遺物から、本遺構は12世紀以降に埋没したものと考ええる。

5 土坑

SK1(図43)

検出状況 D9グリッド、Ⅲ層上面で検出した。排水溝掘削時に遺構の西部を削平してしまった。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.29m以上、短軸長0.11m以上、深さ0.26mで、平面形は不明、断面形は概ね方形である。

埋土 2層に分層した。1層は中央がやや窪む堆積である。1層はブロック土と礫を2層はブロック土と炭化物を多く含むことから、ともに人為堆積の可能性がある。

遺物出土状況 埋土から山茶碗2点が出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。

出土遺物 尾張型第5型式の山茶碗の碗(36)を図示した。口縁部内外面に自然釉が付着する。内面には使用による磨滅が認められる。

時期 出土遺物から、本遺構は12世紀後葉から13世紀前葉のものと考ええる。

SK5(図43)

検出状況 D9グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は基盤層との境は明瞭であったが、SK6との境は不明瞭であった。重複関係からSK6よりも新しい。

規模・形状 長軸長0.33m、短軸長0.27m、深さ0.04mで、平面形は不整楕円形、断面形は逆台形である。

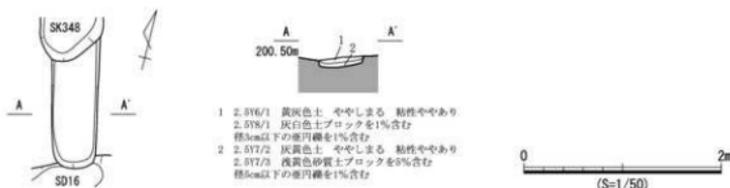


図41 SD22 遺構図

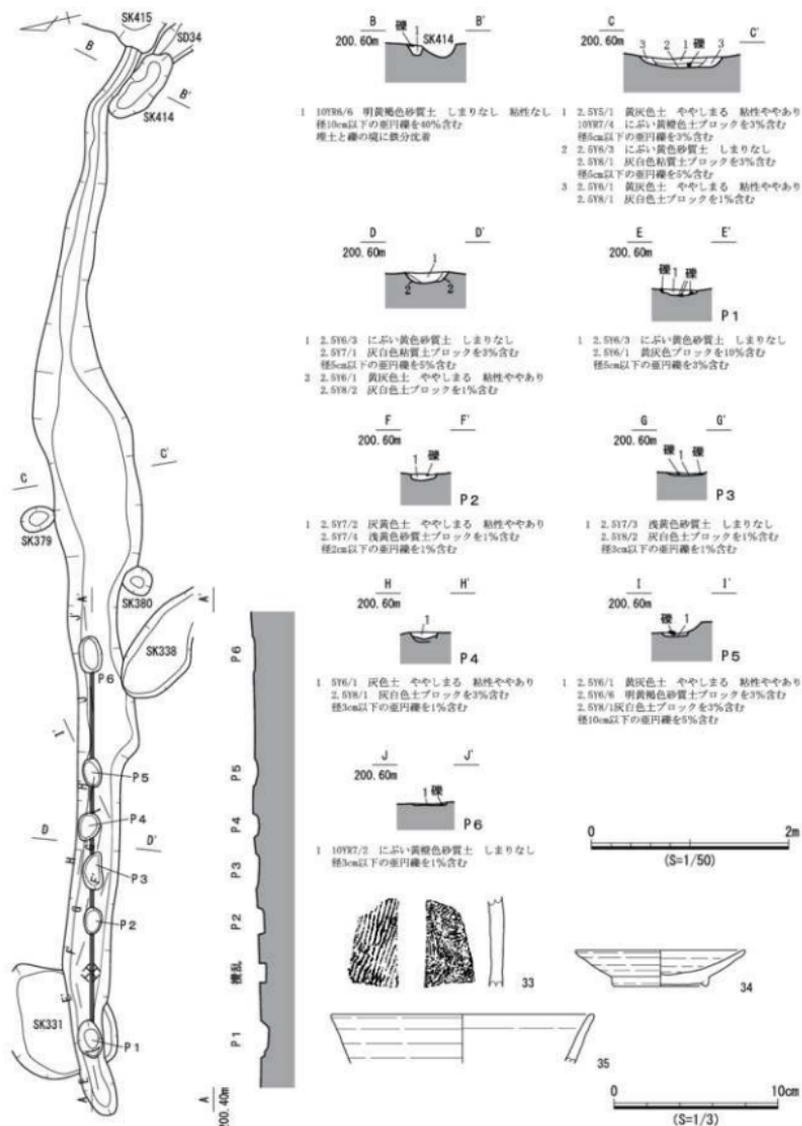


図42 SD26 遺構図・遺物実測図

埋土 単層である。ブロック土と礫を僅かに含む。堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から灰軸陶器1点と山茶碗1点が出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。

出土遺物 尾張型第5型式の山茶碗の碗(37)を図示した。内面に使用による磨滅認められる。

時期 本遺構より古いSK6から白土原1号窯式の碗が出土したことから、本遺構は13世紀前半以降のもの考える。

SK6 (図43)

検出状況 D9グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は基盤層との境は明瞭であったがSK5との境は不明瞭であった。重複関係からSK5よりも古い。

規模・形状 長軸長0.34m、短軸長0.26m、深さ0.05mで、平面形は不整楕円形、断面形は逆台形である。

埋土 単層である。ブロック土を僅かに含む。堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から山茶碗2点が出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。

出土遺物 山茶碗の碗を2点(38・39)図示した。38は尾張型第5型式で内面に重焼痕と使用による

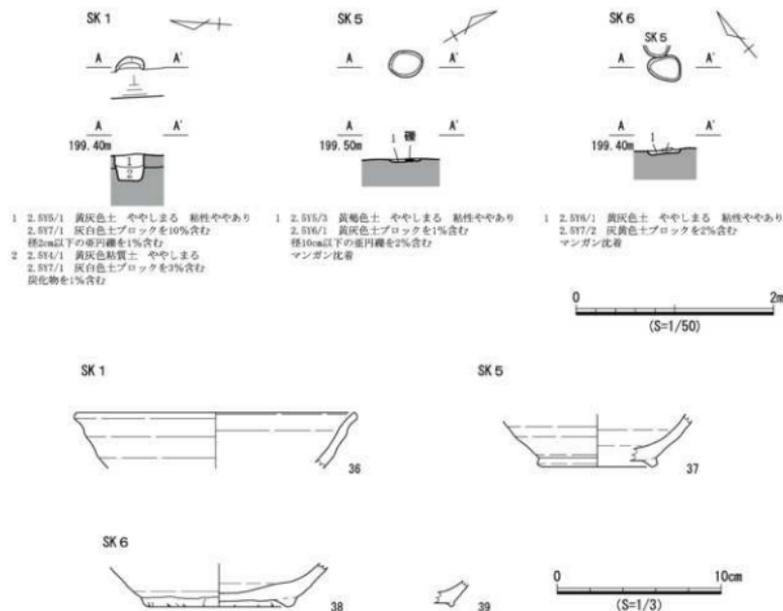


図43 SK1、SK5、SK6遺構図・遺物実測図

磨滅が認められる。また、内面に自然軸が付着する。39は白土原1号窯式の碗である。

時期 出土遺物から、本遺構は13世紀前半のものと考える。

SK7 (図44)

検出状況 D9グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSP1よりも古い。

規模・形状 長軸長0.24m、短軸長0.22m以上、深さ0.18mで、平面形は概ね円形、断面形は逆三角形である。

埋土 単層である。ブロック土と礫を僅かに含む。堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から山茶碗2点が出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。

出土遺物 尾張型第5型式の山茶碗の碗(40)を図示した。内面に使用による磨滅が認められる。

時期 出土遺物から、本遺構は12世紀後葉から13世紀前葉のものと考える。

SK10 (図44)

検出状況 E9グリッド、Ⅲ層上面で検出した。排水溝掘削時に遺構の西部を削平してしまった。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.21m以上、短軸長0.12m以上、深さ0.35mで、平面形は不明、断面形は2段の掘り込みである。

埋土 3層に分層した。2層と3層の層界と傾斜の変換が一致することから、1層～2層と3層とはもとは別遺構であった可能性がある。1層はブロック土と礫を、2層はブロック土と炭化物を多く含

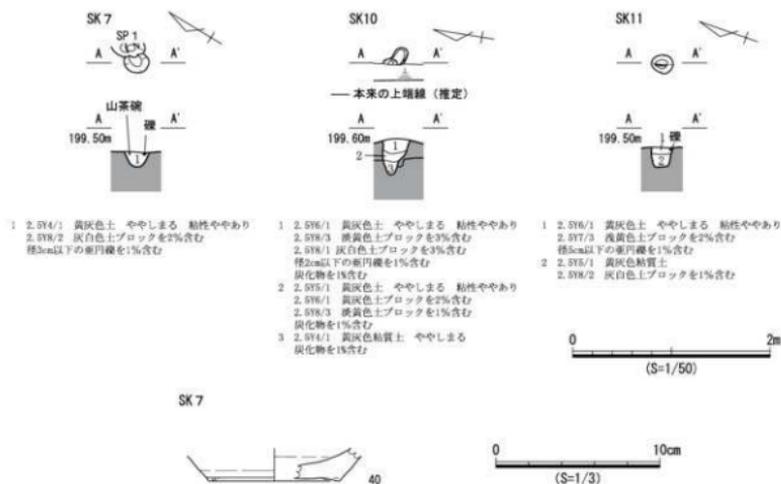


図44 SK7、SK10、SK11 遺構図・遺物実測図

むことから、ともに人為堆積の可能性がある。3層は炭化物を僅かに含む。3層の堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から山茶碗1点が出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。

出土遺物 出土した山茶碗は細片のため、図示しなかった。

時期 出土遺物から、本遺構は中世のものとする。

SK11 (図44)

検出状況 D10グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.22m、短軸長0.19m、深さ0.10mで、平面形は不整形、断面形は逆台形である。なお、埋土の半截時に西半をやや掘りすぎた。

埋土 2層に分層した。1層は概ね水平に堆積する。1層はブロック土と礫を、2層はブロック土を僅かに含む。ともに堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から山茶碗1点が出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。

出土遺物 出土した山茶碗は細片のため、図示しなかった。

時期 出土遺物から、本遺構は中世のものとする。

SK48 (図45)

検出状況 F10グリッド、Ⅰ層基底面で検出した。平面形はやや不明瞭であった。重複関係からSD2よりも古い。

規模・形状 長軸長0.20m、短軸長0.15m、深さ0.15mで、平面形は不整形、断面形は半円形である。

埋土 単層である。均質で堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から山茶碗1点が出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。

出土遺物 出土した山茶碗は細片のため、図示しなかった。

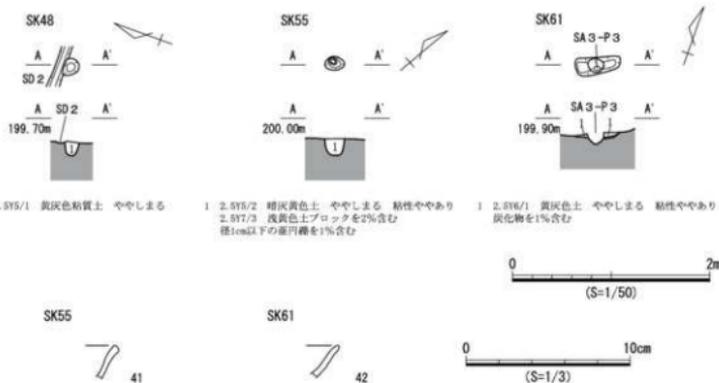


図45 SK48、SK55、SK61 遺構図・遺物実測図

時期 出土遺物から、本遺構は中世のものとする。

SK55 (図45)

検出状況 F10グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.20m、短軸長0.14m、深さ0.18mで、平面形は不整楕円形、断面形は隅丸方形である。

埋土 単層である。ブロック土と礫を僅かに含む。堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から山茶碗1点が出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。

出土遺物 白土原1号窯式の山茶碗の碗(41)を図示した。

時期 出土遺物から、本遺構は13世紀前半のものとする。

SK61 (図45)

検出状況 G10グリッド、Ⅰ層基底面で検出した。平面形は基盤層との境は明瞭だが、SA3-P3との境は不明瞭であった。重複関係からSA3-P3より古い。

規模・形状 長軸長0.46m、短軸長0.19m、深さ0.07mで、平面形は不整隅丸長方形、断面形は逆台形である。

埋土 単層である。炭化物を僅かに含む。堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から山茶碗1点が出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。

出土遺物 浅間窯下1号窯式から窯洞1号窯式の山茶碗の碗(42)を図示した。

時期 出土遺物から、本遺構は12世紀後葉から13世紀前葉のものとする。

SK95 (図46)

検出状況 E11グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.47m、短軸長0.31m、深さ0.07mで、平面形は不整楕円形、断面形は逆台形である。

埋土 単層である。ブロック土を僅かに含む。堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から山茶碗1点が出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。

出土遺物 出土した山茶碗は細片のため、図示しなかった。

時期 出土遺物から、本遺構は中世のものとする。

SK99 (図46)

検出状況 F11グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSD9・SK100より新しい。

規模・形状 長軸長0.25m、短軸長0.20m、深さ0.37mで、平面形は不整楕円形、断面形は2段の掘り込みである。

埋土 3層に分層した。1層は水平堆積で2層は西側に偏って堆積する。1層はブロック土と礫を、2層と3層はブロック土を僅かに含む。堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から灰軸陶器1点と山茶碗1点が出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。

出土遺物 丸石2号窯式の灰軸陶器の皿(43)を図示した。見込に

円文を施す。43の破片は包含層から出土した破片と接合した。なお、出土した山茶碗は小片のため、

図示しなかった。

時期 出土遺物から、本遺構は中世のものとする。

SK112 (図46)

検出状況 F11グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSD11より古い。

規模・形状 長軸長0.21m、短軸長0.19m、深さ0.21mで、平面形は隅丸方形、断面形は方形である。

埋土 単層である。ブロック土と礫を僅かに含む。堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から山茶碗1点が出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。

出土遺物 白土原1号窯式の子茶碗の碗(44)を図示した。内面に自然軸が付着する。

時期 出土遺物から、本遺構は13世紀前半のものとする。なお、重複関係から、SD11は本遺構埋没後に掘削されたものとする。

SK127 (図47)

検出状況 H11グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSK126より古い。

規模・形状 長軸長0.60m、短軸長0.44m、深さ0.22mで、平面形は不整楕円形、断面形は概ね逆台形である。

埋土 2層に分層した。1層は中央がやや窪む堆積である。1層はブロック土や礫を含むことから、

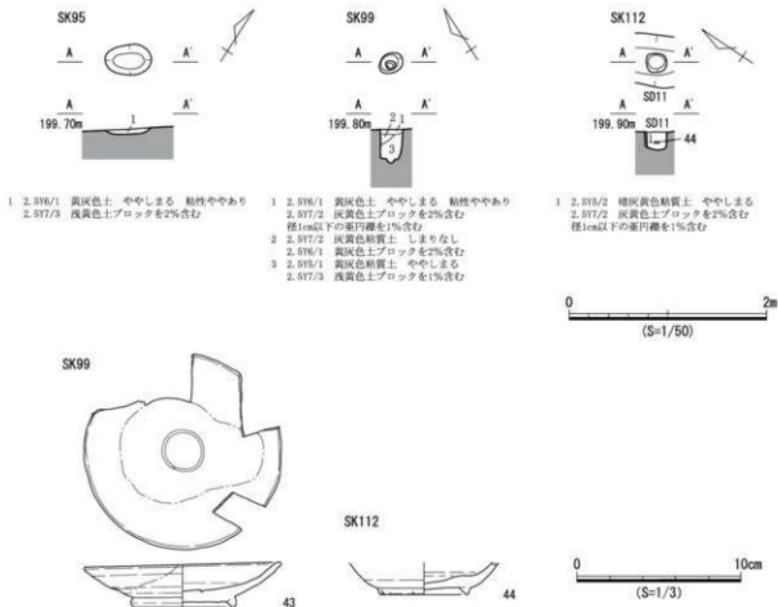


図46 SK95、SK99、SK112 遺構図・遺物実測図

人為堆積の可能性がある。2層はブロック土や礫を僅かに含む。2層の堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土師器1点、山茶碗2点が出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。

出土遺物 土師器の甕(45)を図示した。口縁部外面と胴部外面・口縁部内面にスス、胴部内面にコゲが認められる。なお、出土した山茶碗は小片のため、図示しなかった。

時期 出土遺物から、本遺構は中世のものとする。

SK140 (図47)

検出状況 H11グリッド、I層基底面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.23m、短軸長0.22m、深さ0.08mで、平面形は円形、断面形は逆台形である。

埋土 単層である。ブロック土や礫を僅かに含む。堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から山茶碗1点が出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。

出土遺物 窯洞1号窯式の子茶碗の碗(46)を図示した。

時期 出土遺物から、本遺構は13世紀前葉のものとする。

SK145 (図47)

検出状況 H11グリッド、I層基底面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.23m、短軸長0.19m、深さ0.08mで、平面形は不整形円形、断面形は逆台形である。

埋土 単層である。均質で堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から山茶碗1点が出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。

出土遺物 出土した山茶碗は細片のため、図示しなかった。

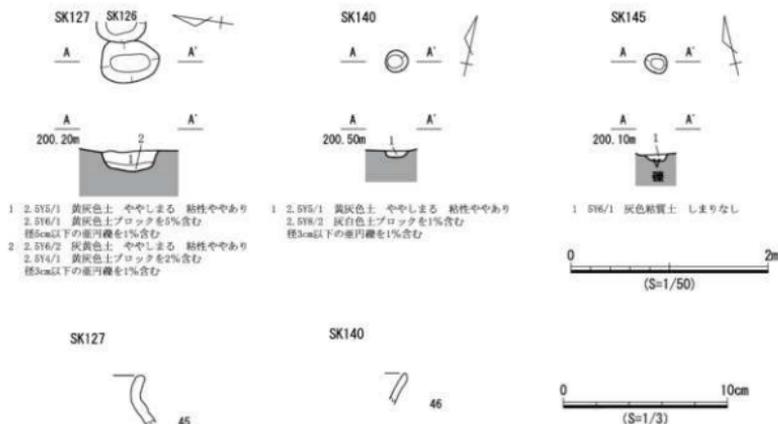


図47 SK127、SK140、SK145 遺構図・遺物実測図

時期 出土遺物から、本遺構は中世のものとする。

SK180 (図48)

検出状況 E12~13グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。埋土中央に根攪乱を確認した。

規模・形状 長軸長0.28m、短軸長0.21m、深さ0.08mで、平面形は楕円形、断面形は半円形である。

埋土 単層である。ブロック土と礫を多く含むことから、人為堆積の可能性がある。

遺物出土状況 埋土から山茶碗2点が出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。

出土遺物 出土した山茶碗は細片のため、図示しなかった。

時期 出土遺物から、本遺構は中世のものとする。

SK193 (図48)

検出状況 F12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.17m、短軸長0.15m、深さ0.20mで、平面形は円形、断面形は隅丸長方形である。

埋土 単層である。ブロック土と礫を多く含むことから、人為堆積の可能性がある。

遺物出土状況 埋土から山茶碗1点が出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。

出土遺物 出土した山茶碗は細片のため、図示しなかった。

時期 出土遺物から、本遺構は中世のものとする。

SK209 (図48)

検出状況 F12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.22m、短軸長0.20m、深さ0.32mで、平面形は円形、断面形は逆台形である。

埋土 単層である。炭化物を僅かに含む。堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から山茶碗1点が出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。

出土遺物 出土した山茶碗は細片のため、図示しなかった。

時期 出土遺物から、本遺構は中世のものとする。

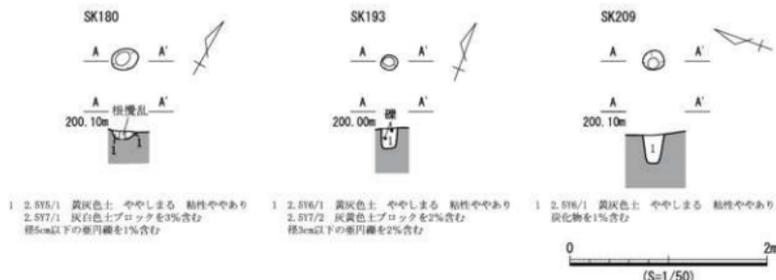


図48 SK180、SK193、SK209 遺構図

SK226 (図49)

検出状況 G12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSB7-P5・SK227より新しい。

規模・形状 長軸長0.59m、短軸長0.47m、深さ0.23mで、平面形は不整楕円形、断面形は概ね逆台形である。

埋土 4層に分層した。1層・3層・4層は炭化物を含み、特に3層に多い。1層・3層・4層はブロック土と炭化物を、2層はブロック土を多く含むことから、人為堆積の可能性がある。また、底面から径10cmほどの礫が2つ出土した。

遺物出土状況 埋土から土師器1点・灰釉陶器3点・山茶碗2点が出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。

出土遺物 出土した山茶碗は細片のため、図示しなかった。

時期 SB7より新しいことから、本遺構は13世紀前半以降のものとする。

SK230 (図49)

検出状況 G13グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.45m、短軸長0.28m、深さ0.11mで、平面形は楕円形、断面形は逆台形である。

埋土 単層である。炭化物を僅かに含む。堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から山茶碗2点が出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。

出土遺物 出土した山茶碗は細片のため、図示しなかった。

時期 出土遺物から、本遺構は中世のものとする。

SK233 (図49)

検出状況 G・H12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は基本的に明瞭であったがSK232との境は

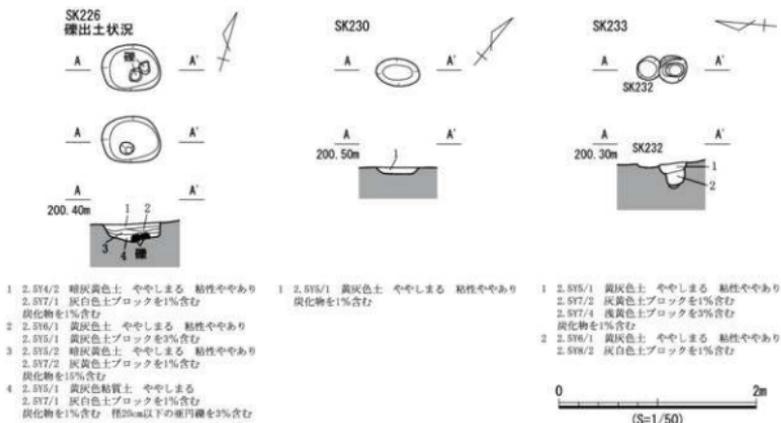


図49 SK226、SK230、SK233 遺構図

不明瞭であった。重複関係からSK232より古く、SD11・SD18より新しい。

規模・形状 径0.28m、深さ0.22mで、平面形は円形、断面形は2段の掘り込みである。

埋土 2層に分層した。1層と2層の層界と傾斜変換点が一致することから、もとは別遺構であった可能性がある。1層はブロック土と炭化物を多く含むことから、人為堆積の可能性がある。2層はブロック土を僅かに含む。2層の堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から灰軸陶器1点が出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。

出土遺物 出土した灰軸陶器は細片のため、図示しなかった。

時期 SD11・SD18より新しいことから、本遺構は13世紀前半以降のものと考ええる。

SK238 (図50)

検出状況 H12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。SD18と重複し北部が消失する。重複関係からSD18より古い。

規模・形状 長軸長0.37m以上、短軸長0.27m以上、深さ0.08mで、平面形は不明、断面形は逆台形である。

埋土 単層である。ブロック土と炭化物を僅かに含む。堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から山茶碗1点が出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。

出土遺物 出土した山茶碗は細片のため、図示しなかった。

時期 出土遺物から、本遺構は中世のものと考ええる。

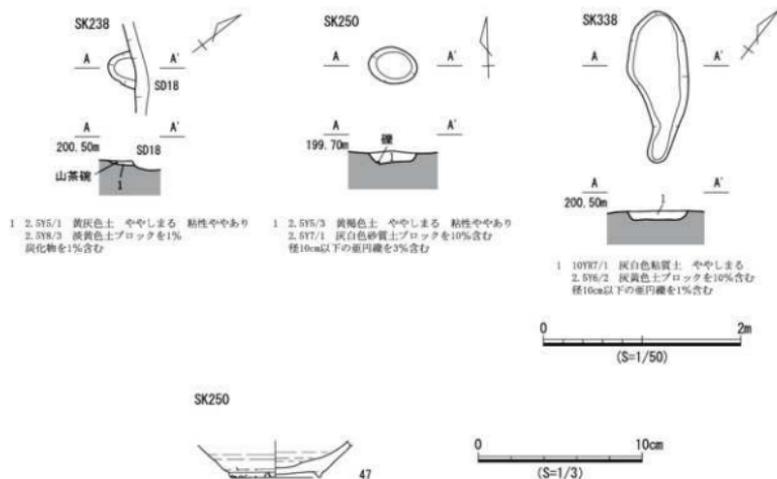


図50 SK238、SK250、SK338 遺構図・遺物実測図

SK250 (図50)

検出状況 C13グリッド、I層基底面で検出した。平面形はやや不明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.50m、短軸長0.37m、深さ0.12mで、平面形は楕円形、断面形は逆台形である。

埋土 単層である。ブロック土と礫を多く含むことから、人為堆積の可能性がある。

遺物出土状況 埋土から山茶碗2点が出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。

出土遺物 明和1号窯式の子茶碗の碗(47)を図示した。内面に重焼痕が認められる。

時期 出土遺物から、本遺構は13世紀中葉のものとする。

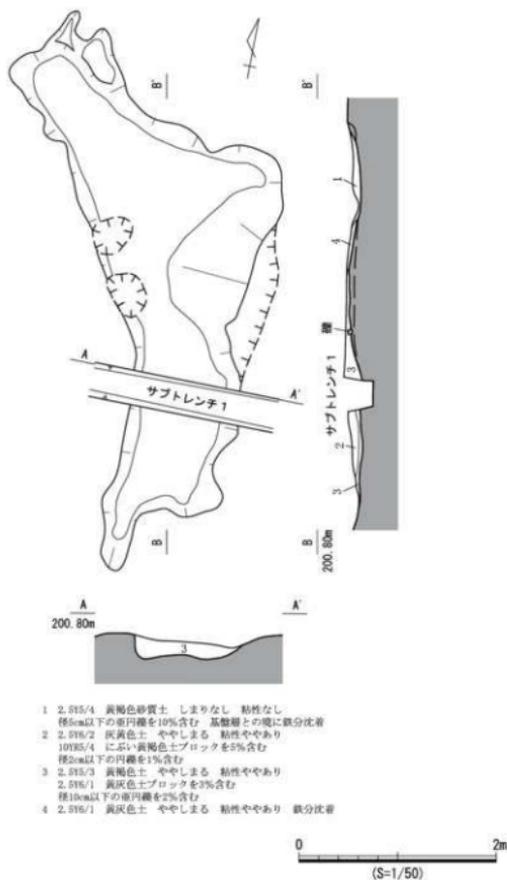


図51 SK415 遺構図

SK338 (図50)

検出状況 F14～15グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSD26・SK339より新しい。

規模・形状 長軸長1.55m、短軸長0.62m、深さ0.14mで、平面形は不定形、断面形は逆台形である。

埋土 単層である。ブロック土と礫を多く含むことから、人為堆積の可能性がある。

遺物出土状況 埋土から灰軸陶器1点が出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。

出土遺物 出土した灰軸陶器は細片のため、図示しなかった。

時期 SD26より新しいことから、本遺構は12世紀以降のものとする。

SK415 (図51)

検出状況 F16～17グリッド、1層基底面で検出した。平面形は不明瞭であった。西部と東部が、攪乱により部分的に消失する。重複関係からSD26・SK416より新しい。

規模・形状 長軸長5.73m以上、短軸長2.10m、深さ0.24mで、平面形は不定形、断面形は概ね逆台形である。北部にテラスを2箇所有する。

埋土 4層に分層した。1層は礫を、2層・3層はブロック土と礫を多く含むことから、人為堆積の可能性がある。4層は均質で堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から山茶碗1点が出土したが、特徴的な出土状況は認められなかった。

出土遺物 出土した山茶碗は細片のため、図示しなかった。

時期 出土遺物から、本遺構は中世のものとする。

第6節 その他の遺構・遺物

1 塀・柵

SA1 (図52)

検出状況 E・F10グリッド、1層基底面で検出した。3基の柱穴がほぼ等間隔で直線的に並ぶ。柱穴の平面形はP1・P2が明瞭、P3がやや不明瞭である。また、P1はSB3の南辺より北に位置するため、本遺構とSB3は同時に存在したとは考えられないが新旧関係は不明である。

規模・形状 2間(3.70m、柱間1.80m-1.90m)である。長軸方位はN-20°-Eである。

柱穴 平面形はP1が楕円形、P2・P3が不整形で、径は0.23～0.27m、深さは0.07～0.19mである。P1で柱痕跡を確認した。本遺構を構成する柱穴から遺物は出土しなかった。

時期 本遺構は、遺物が出土していないことや、周辺に関連する遺構が見出せないこと、長軸方位が類似する若しくは直交する遺構が見出せないことから詳細な時期は不明である。

SA5 (図53)

検出状況 E16グリッド、Ⅲ層上面で検出した。4基の柱穴がほぼ等間隔で直線的に並ぶ。柱穴の平面形はP1・P2が明瞭、P3・P4が不明瞭である。

規模・形状 3間(3.10m、柱間0.90m-1.20m)である。長軸方位はN-36°-Eで北西方向にむかって緩やかに低くなる地形に影響を受けて設置されたと想定される。

柱穴 平面形はP4が楕円形、P1～P3が不整形楕円形で、径は0.26～0.37m、深さは0.04～0.08mであ

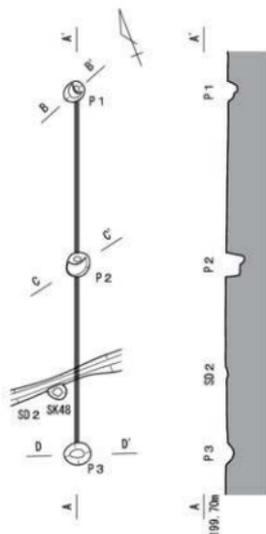


図 52 SA 1 構造図

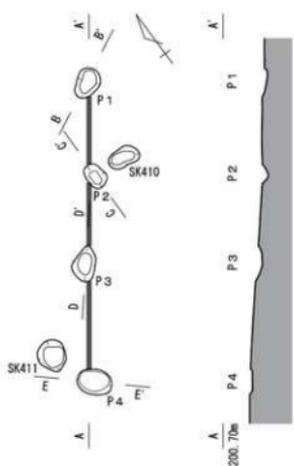
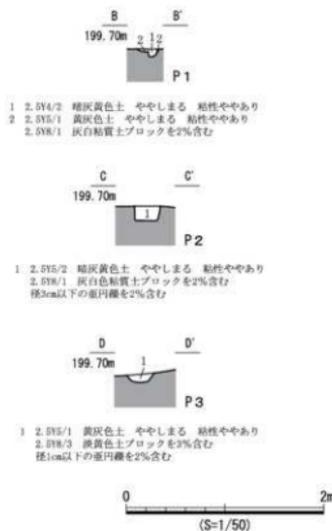
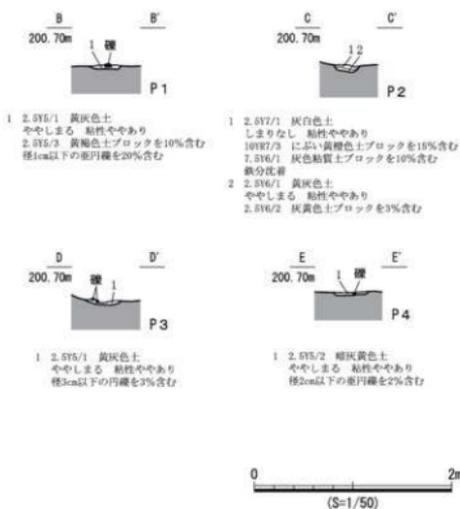


図 53 SA 5 構造図



る。いずれも柱痕跡等の特徴的な堆積状況は認められなかった。本遺構を構成する柱穴から遺物は出土しなかった。

時期 本遺構は、遺物が出土していないことや、周辺に関連する遺構が見出せないこと、長軸方位が類似する若しくは直交する遺構が見出せないことから詳細な時期は不明である。

2 杭穴

SP17 (図54)

検出状況 F14グリッド、I層基底面で検出した。検出時には柱根が残存する単独柱穴と考えた。しかし、半截したところ柱掘方と考えた掘り込みは極めて浅く、木製品は杭であることが分かり、2つの遺構であると判明した。浅い掘り込みであるSK394の埋没後に杭が打ち込まれたと考える。

規模・形状 径0.12m、深さ0.32mである。杭が残存しており、いわゆる杭穴である。

出土遺物 残存していた杭(48)を図示した。上部は折損する。全体的に磨滅しているが、先端の一部が残存しており、刃先痕跡や刃端痕、区画稜線といった加工痕が認められる。

時期 出土した杭の放射性炭素年代測定の結果(第4章)から、本遺構は17世紀後半から20世紀中葉に設置されたものとする。

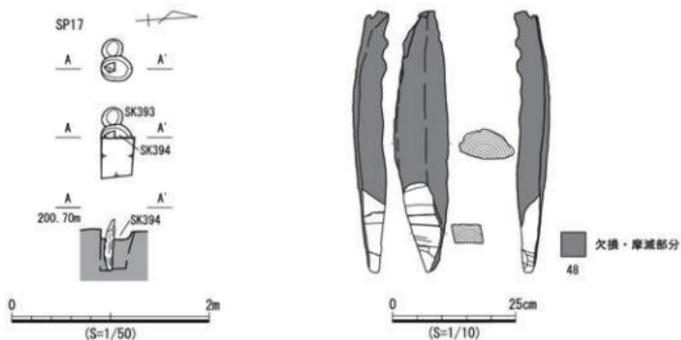


図54 SP17遺構図・遺物実測図

第7節 表土・包含層・攪乱・試掘坑出土遺物

ここでは、表土・包含層・攪乱・試掘坑から出土した遺物のうち、残存状態が良好なものを中心に図示した。包含層出土遺物は、時期や組成が網羅できるように選択した。表土・攪乱出土遺物は、遺構・包含層から出土していない器種を中心に選択した。試掘坑出土遺物は、墨書土器2点を図示した。

1 表土・包含層出土遺物（図55～58）

49～54は須恵器である。49は猿投窯産の坏蓋である。天井部と口縁部との境の稜が残存する。天井部に沈線を施す。形態からI-101号窯式以前のものと考えられるが、詳細は不明である。50は美濃須衛III期第3小期からIV期第1小期の坏蓋である。51は美濃須衛III期第3小期からIV期の有台坏で、底部外面に高台が剥がれた痕跡が認められる。52は美濃須衛IV期第3小期からV期第1小期の甕である。53は壺類の口縁部で、時期・産地ともに詳細不明である。54は厚みがあり、壺類の脚部の可能性がある。時期・産地ともに詳細不明である。

55～80は灰釉陶器である。55～57は虎渓山1号窯式の碗Aである。いずれも胴部外面と底部外面に回転ヘラケズリを施し、内面には使用による磨滅が認められる。55・57には内面に重焼痕が認められる。58～61は丸石2号窯式の碗Aである。いずれも底部外面に回転糸切痕が認められる。58は内面に自然釉が付着する。59は底部外面に墨書が認められるが、釈読不能である。60・61は内面に使用による磨滅が認められる。62・63は虎渓山1号窯式の碗Bである。62は体部外面と底部外面、63は底部外面に回転ヘラケズリを施し、いずれも内面に使用による磨滅が認められる。64～69は丸石2号窯式の碗Bである。64～68は胴部外面と底部外面に回転ヘラケズリを施す。64は見込に円文を施す。65は口縁部内面に沈線を施す。65・66は内面に使用による磨滅が認められる。67は内外面に自然釉が付着する。69は底部外面の回転糸切痕をヨコナデによりナデ消した痕跡が認められる。内面に自然釉が付着する。70は丸石2号窯式の輪花碗である。71・72は虎渓山1号窯式の皿である。いずれも底部外面に回転ヘラケズリを施し、内面に使用による磨滅が認められる。73は丸石2号窯の皿である。底部外面には回転ヘラケズリを施す。また、見込側から底部が剥がれた部分を見ると回転糸切痕が認められ、底部円柱づくりで製作されたことが窺える。74は虎渓山1号窯式の段皿である。底部外面に回転ヘラケズリを施す。75～77は丸石2号窯式の段皿である。75は底部外面に回転ヘラケズリを施す。内面には自然釉が付着する。76・77は底部外面に回転糸切痕が認められる。78は丸石2号窯の折縁皿である。底部外面に回転糸切痕が認められる。内面には使用による磨滅が認められる。79・80は広口瓶でいずれも詳細な時期は不明である。79は口縁部から頸部にかけてで、内外面に自然釉が付着する。80は頸部で、内外面に明確な刷毛塗りの痕跡が認められる。

81～83は灰釉系陶器である。いずれも甕で、詳細な時期は不明である。81・82は胴部外面に回転ヘラケズリを施す。

84は緑釉陶器の碗である。細片のため、詳細な時期は不明である。

85～106は山茶碗で、85～89が尾張型、90～106が東濃型である。85は尾張型第5型式の碗で、内面に使用による磨滅が認められる。86は尾張型第6型式の碗で、内面に自然釉が付着する。また、内面に使用による磨滅が認められる。87は尾張型第4型式の片口鉢で、外面に自然釉が付着する。88は尾張型第5型式の片口鉢である。89は尾張型第6型式の片口鉢で、内面に自然釉が付着する。90は浅間

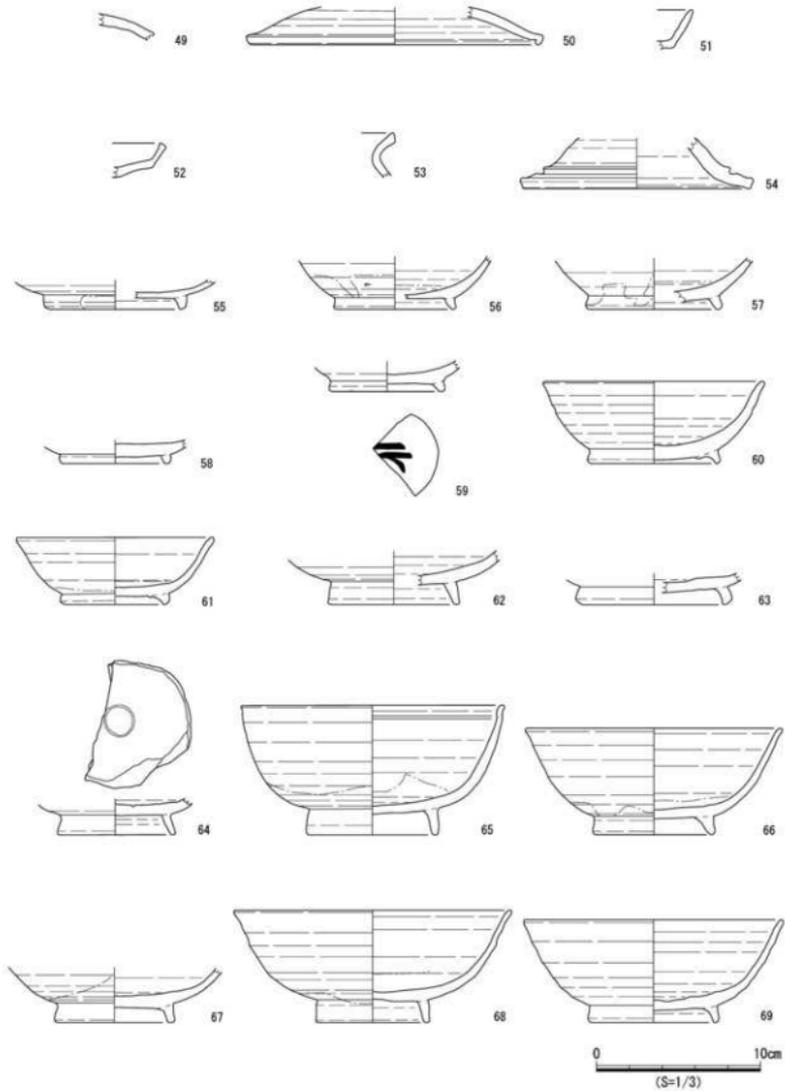


図55 表土・包含層・攪乱出土遺物実測図(1)

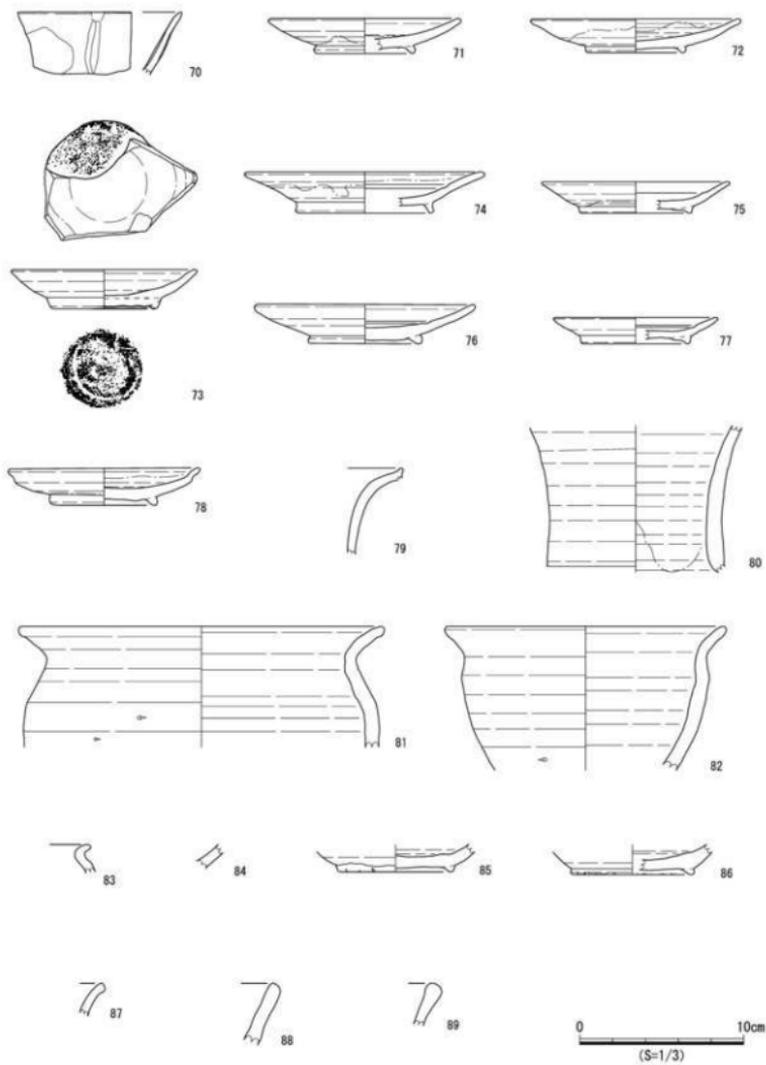


図56 表土・包含層・攪乱出土遺物実測図(2)

窯下1号窯式の碗で、内面に自然釉が付着する。91は丸石3号窯式の碗で、内面に自然釉が付着する。また、内面に使用による磨滅が認められる。92は白土原1号窯の碗である。93・94は明和1号型式の碗である。93は内面に使用による磨滅が認められる。94は内面に自然釉が付着する。95は大畑大洞4号窯式の碗で、内面に自然釉が付着する。96は大谷洞14号窯式の碗である。97は大洞東1号窯式の碗である。98は脇之島3号窯式の碗である。99・100は生田2号窯の碗である。101・102は窯洞1号窯式の小皿である。101は内面に自然釉が付着する。103は白土原1号窯の小皿で、底部内面に指圧痕が認められる。104は明和1号窯式から大畑大洞4号窯式の小皿で、底部内面に指圧痕が認められる。105は大洞東1号窯式から脇之島3号窯式の山茶碗の小皿である。106は陶丸で、部分的にナデと指頭圧痕が認められる。

107から117は古瀬戸である。107は後Ⅲ期からⅣ期の天目茶碗で、内外面に鉄釉を施す。108・109は後Ⅳ期古段階の緑釉小皿で、いずれも口縁部内外面に灰釉を施す。110は後Ⅳ期古段階の鉞皿で、片口部が残存する。口縁部付近に灰釉を施す。111は中Ⅲ期、112は後Ⅰ期の折縁深皿で、いずれも内外面に灰釉を施す。113は後Ⅱ期の直縁大皿で、内外面に灰釉を施す。114は後Ⅳ期古段階の播鉢で、内外

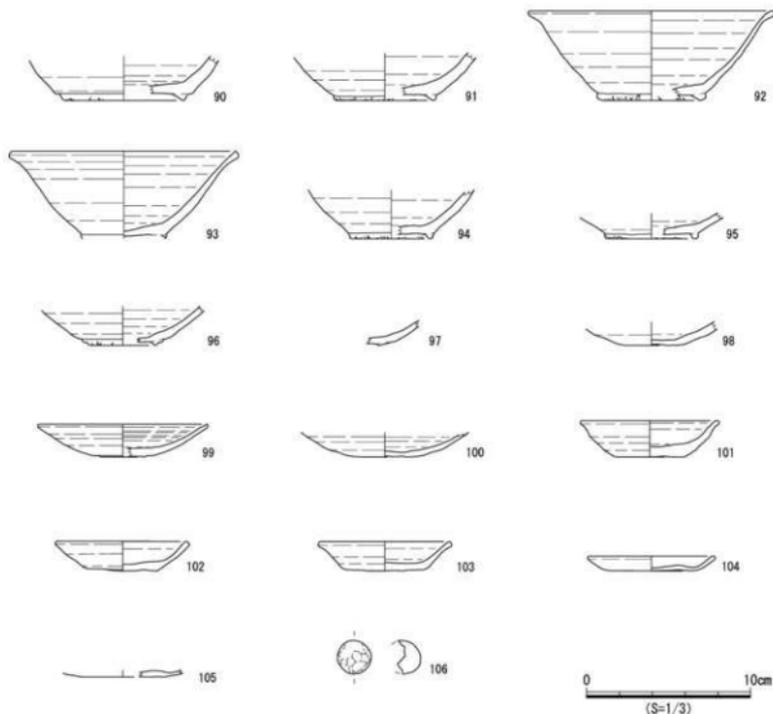


図57 表土・包含層・擾乱出土遺物実測図(3)

面に錆釉を施す。115は後IV期古段階の筒形香炉である。116は後IV期古段階の仏供である。117は後IV期の桶で、横位に2条、帯状の粘土を貼付する。内外面に鉄釉を施す。

118~120は大甕である。118は第1段階の稜花皿で、口縁部内面に櫛状工具により、5条の波状文を施す。また、内外面に灰釉を施す。119は第3段階後半から第4段階前半の折縁皿である。被熱により、釉は不明である。120は第2段階の播鉢で、内外面に錆釉を施す。

121・122は常滑である。121は1b型式の甕で、内面に自然釉が付着する。122は8型式の片口鉢である。外面左下に押印が認められるが破損により、詳細は不明である。内面に使用による磨滅が認められる。

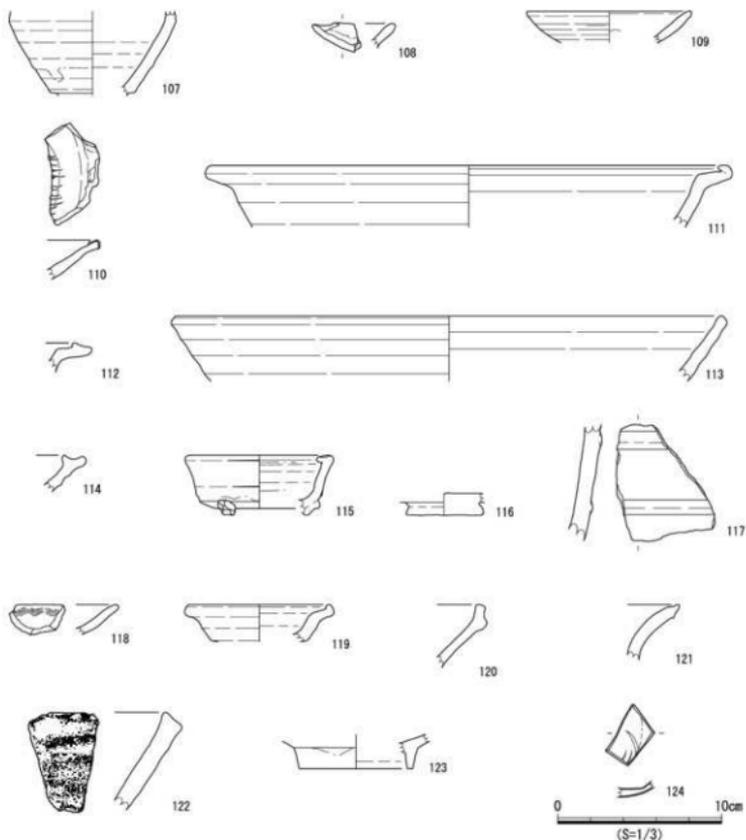


図58 表土・包含層・攪乱出土遺物実測図(4)

123は白磁碗の底部である。124は龍泉窯系の青磁皿である。見込に文様が認められるが、詳細は不明である。

2 試掘坑出土遺物（図59）

125・126はいずれもTP15から出土した窯洞1号窯式の山茶碗の碗である。125は底部外面に「井」の墨書が認められる。

126の底部にも墨書が認められ、記号の可能性はあるが、詳細は不明である。

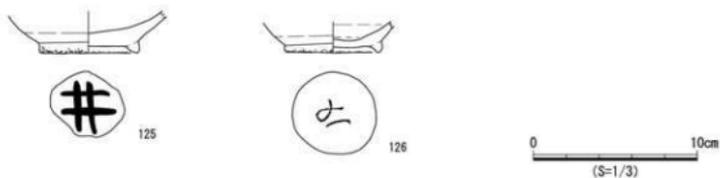


図59 試掘坑出土遺物実測図

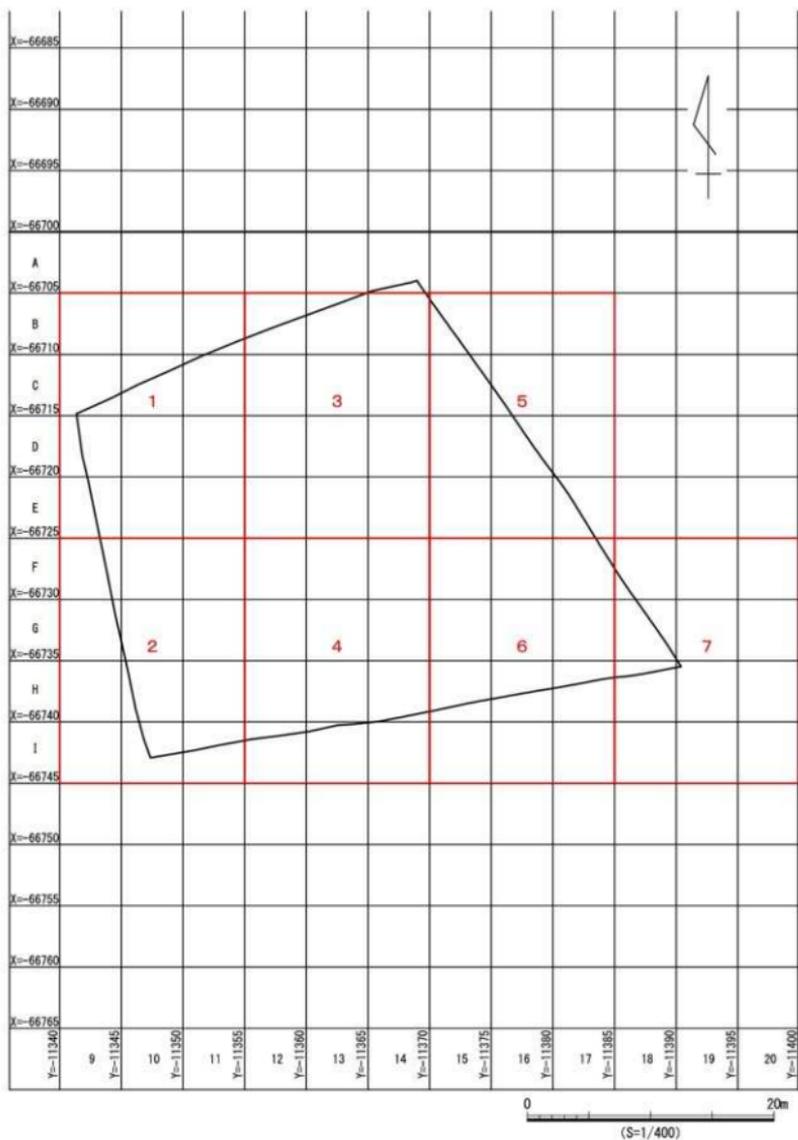


図 60 発掘区全域図 割付図

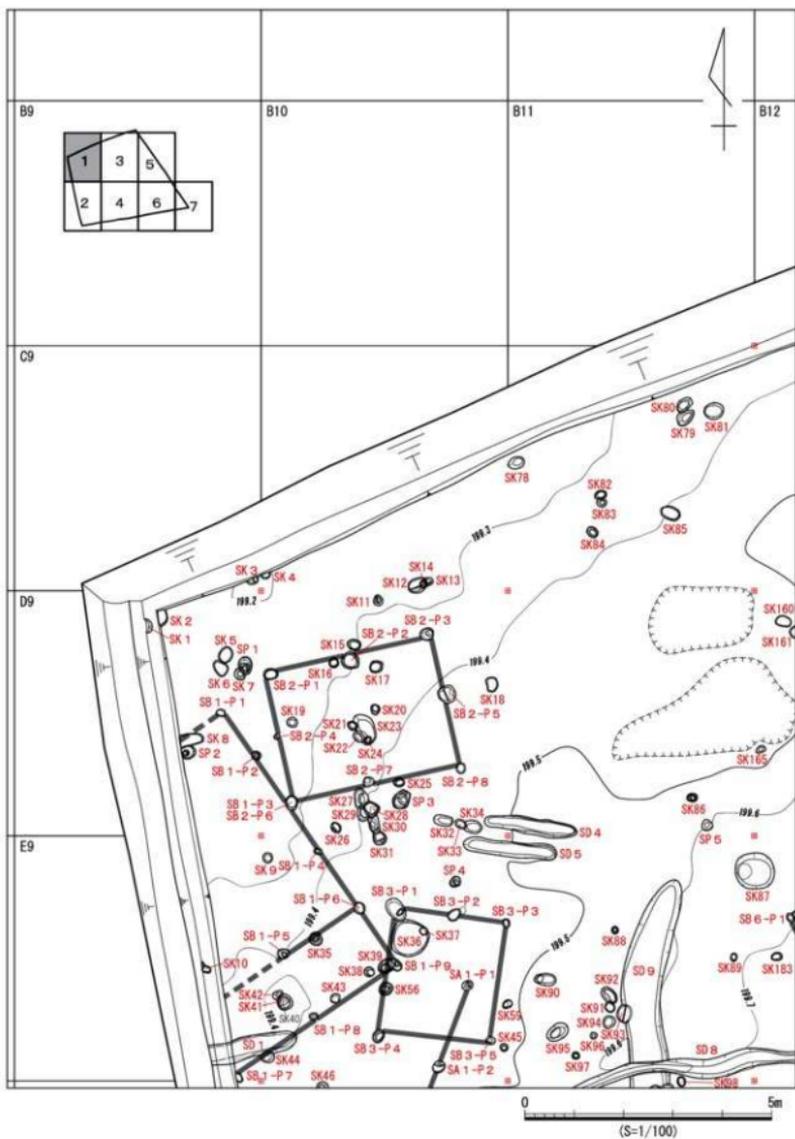


图 61 发掘区全城图 分割图 (1)

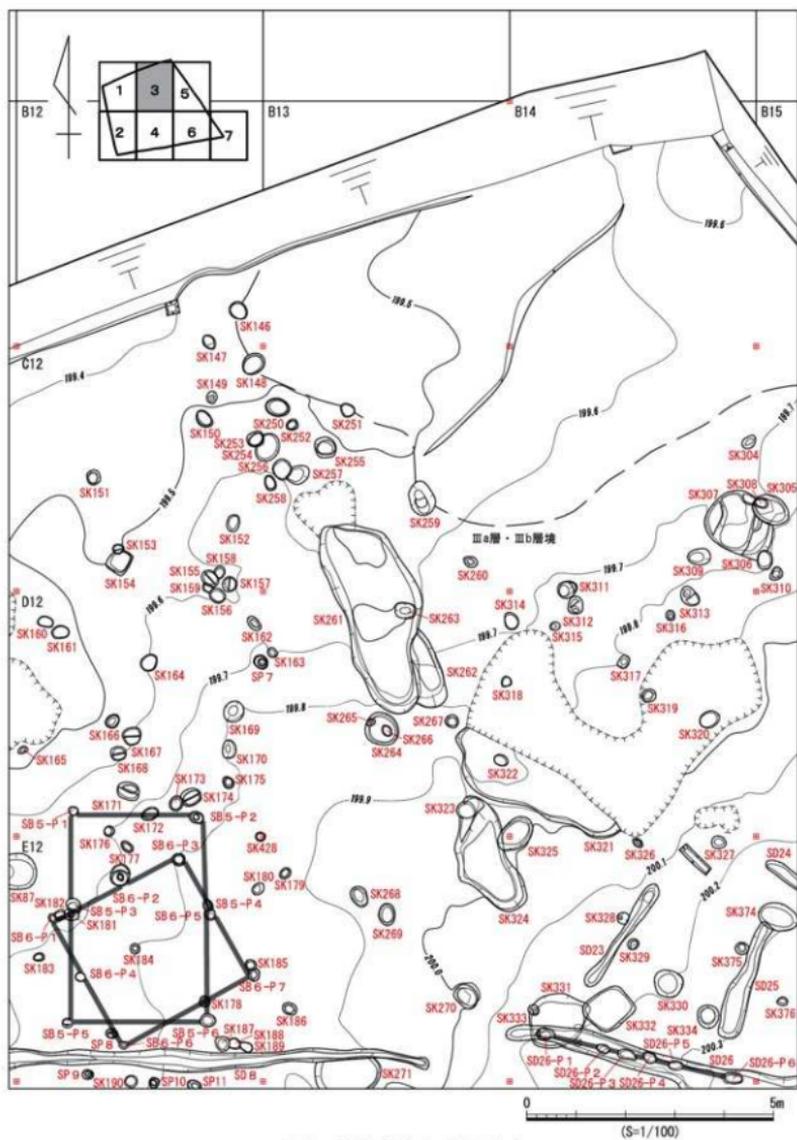


図 63 発掘区全域図 分割図 (3)

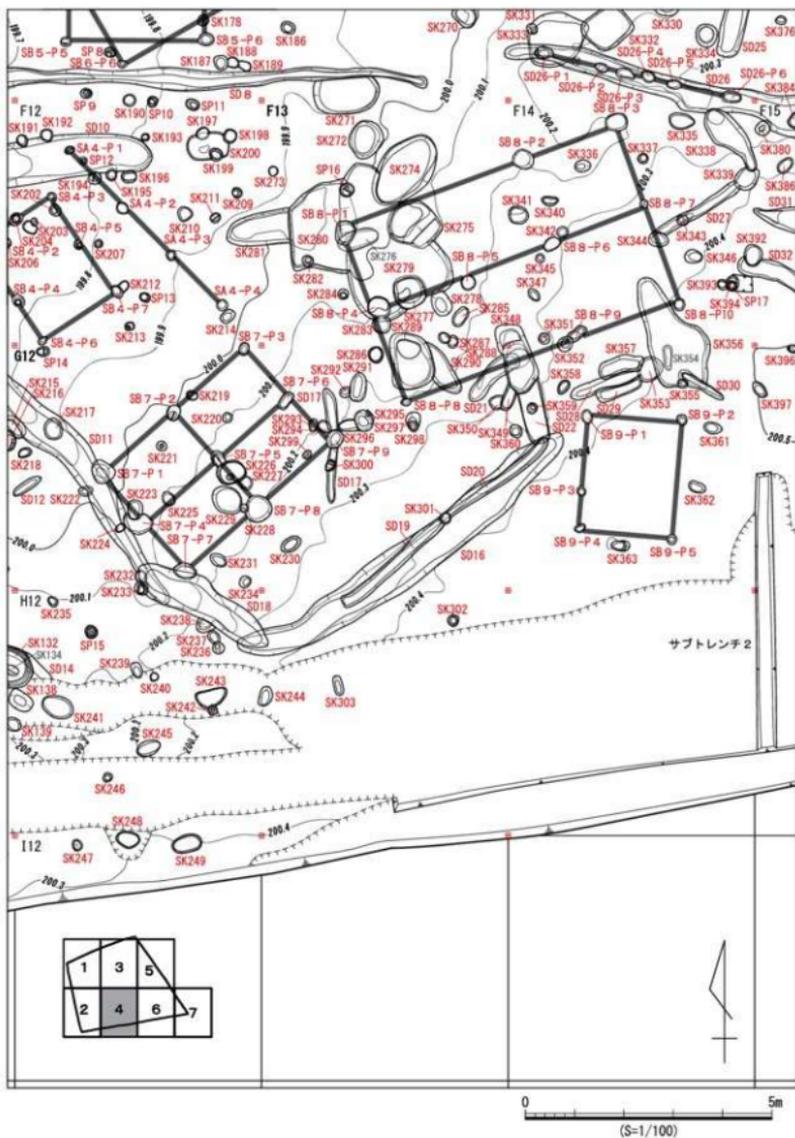


図 64 発掘区全域図 分割図 (4)

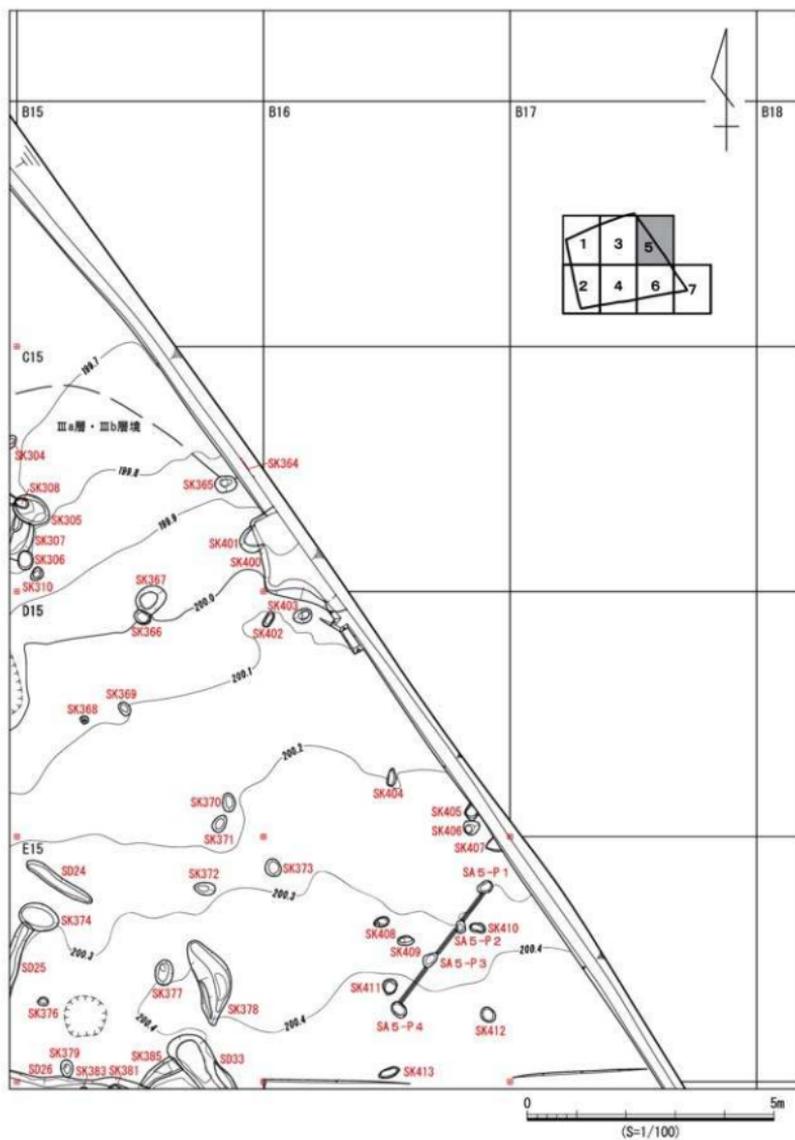


図 65 発掘区全域図 分割図 (5)

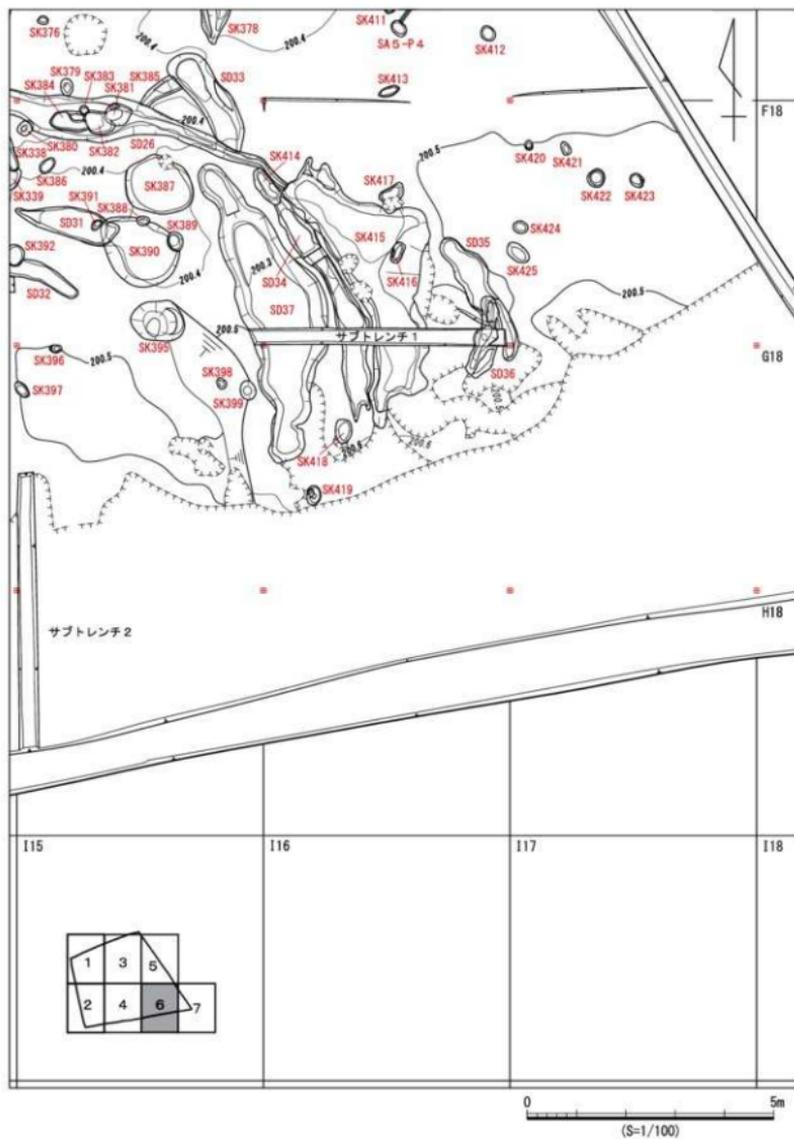


図 66 発掘区全域図 分割図 (6)

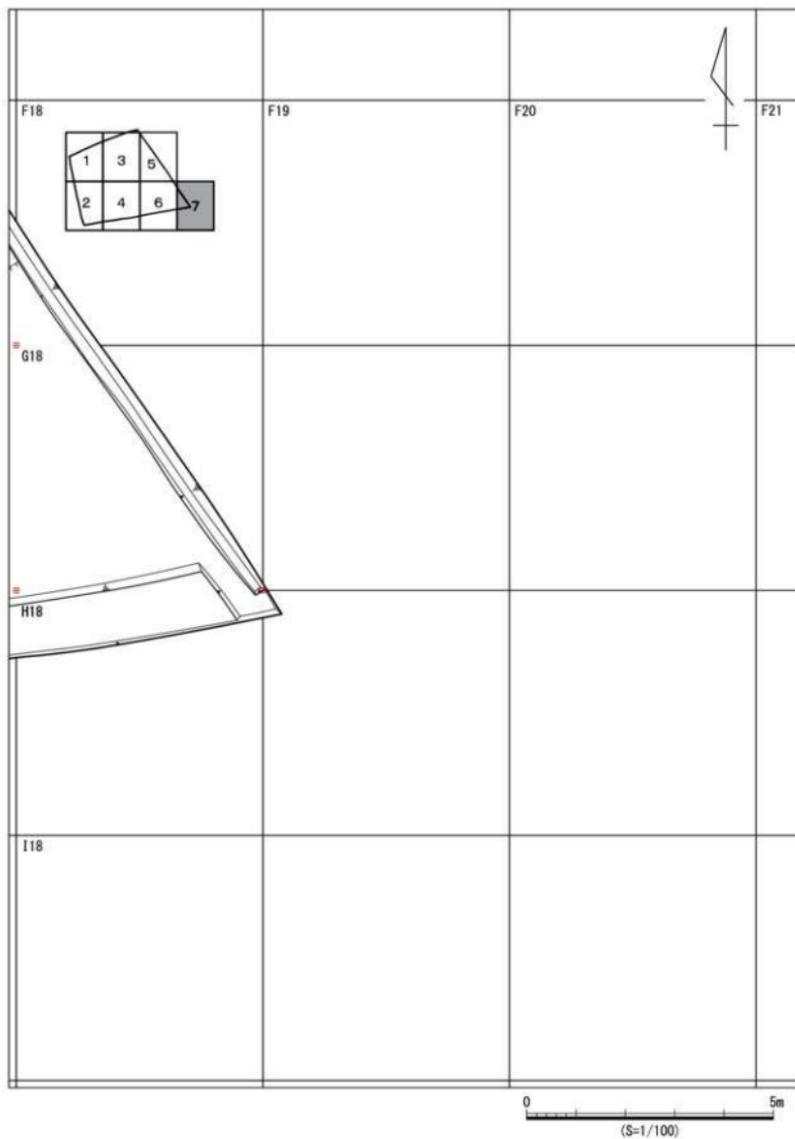


图 67 发掘区全域图 分割图 (7)

表5 掘立柱建物一覧表

遺構番号	地区別		検出面	長軸方位	柱間	規模 (m)		重複関係		出土遺物	棟高	段版	
	南北	東西				桁行	梁行	新	旧				
SB1	D-F	9-10	I 掘上	N-33°-W	3間×2間以上	6.30	4.00	-	SK39	Y4	30 21	3	
SB2	B	10	掘上	N-76°-E	2間×2間	3.50	2.70	-	-	Y3	22 23	3	
SB3	E	10-11	I 掘上	N-9°-E	2間×2間	2.50	2.20	-	SK36	H2, Y1	24	-	
SB4	F	11-12	掘上	N-33°-W	2間×2間	2.40	1.80	-	SK212	-	25	-	
SB5	D-E	12	掘上	N-1°-E	2間×1間	4.30	2.74	-	SB6-P5, SK181	-	26	5	
SB6	E	12	掘上	N-62°-E	2間×2間	2.94	2.90	-	SB5-P4, SK182, SK185	-	27	5	
SB7	F-G	12-13	掘上	N-48°-E	2間×2間	3.80	2.60	-	SB11, SB18, SK223, SK226, SK228	SD17, SK294	-	29 30	6
SB8	F-G	13-14	掘上	N-69°-E	3間×2間	3.98	2.80	-	SK276, SK279, SK280, SK283	SK352	K1	8 9	2
SB9	G	14	掘上	N-5°-E	2間×1間	2.40	1.90	-	-	-	-	31	6

表6 掘立柱建物付属遺構一覧表(1)

遺構番号	地区別		検出面	断面規模	断面形状	底面形状	規模 (m)				深さ	重複関係		出土遺物	棟高	段版		
	南北	東西					上層					梁長	梁幅				梁高	梁厚
							長軸長	短軸長	長軸長	短軸長								
SB1-P1	D	9	掘上	a	IV	2	2	0.19	0.14	0.14	0.10	0.04	-	-	-	30 21	-	
SB1-P2	D	9	掘上	f	V	1	2	0.18	0.18	0.09	0.07	0.18	-	-	-	30 21	3	
SB1-P3	D	10	掘上	e	IV	2	1	0.20	0.15	0.21	0.18	0.23	-	-	Y1	30 21	-	
SB1-P4	E	10	掘上	c	II	2	2	0.17	0.13	0.09	0.06	0.22	-	-	-	30 21	-	
SB1-P5	E	10	I 掘上	f	V	1	2	0.23	0.22	0.08	0.06	0.13	-	-	-	30 21	3	
SB1-P6	E	10	掘上	a	I	1	2	0.25	0.21	0.19	0.13	0.10	-	-	-	30 21	-	
SB1-P7	E-F	9	I 掘上	a	II	6	6	0.20	(0.12)	0.16	(0.10)	0.07	-	-	Y1	30 21	-	
SB1-P8	E	10	I 掘上	a	IV	1	1	0.17	0.15	0.10	0.09	0.12	-	-	-	30 21	-	
SB1-P9	E	10	I 掘上	a	V	2	2	0.28	0.19	0.07	0.05	0.32	-	SK39	Y2	30 21	-	
SB2-P1	D	10	掘上	f	II	2	2	0.29	0.22	0.22	0.16	0.30	-	-	-	22 4	-	
SB2-P2	D	10	掘上	f	II	1	2	0.37	0.34	0.31	0.24	0.33	-	-	Y1	22 21	4	
SB2-P3	D	10	掘上	e	IV	1	2	0.27	0.26	0.14	0.11	0.25	-	-	Y1	22	-	
SB2-P4	D	10	掘上	a	I	2	1	0.12	0.10	0.05	0.05	0.09	-	-	-	22	-	
SB2-P5	D	10	掘上	a	IV	1	1	0.35	0.35	(0.28)	0.26	0.03	-	-	-	22	-	
SB2-P6	D	10	掘上	e	IV	2	1	0.20	0.15	0.21	0.18	0.23	-	-	Y1	22 23	-	
SB2-P7	D	10	掘上	e	IV	1	1	0.22	0.20	0.10	0.09	0.19	-	-	-	22 23	-	
SB2-P8	D	10	掘上	a	IV	2	2	0.22	0.17	0.16	0.13	0.05	-	-	-	22 23	-	
SB3-P1	E	10	掘上	a	V	2	2	0.52	0.33	0.39	0.25	0.08	-	SK36	-	24	-	
SB3-P2	E	10	掘上	a	IV	2	2	0.30	0.22	0.24	0.16	0.06	-	-	-	24	-	
SB3-P3	E	10-11	I 掘上	a	I	2	2	0.19	0.14	0.13	0.07	0.12	-	-	-	24	-	
SB3-P4	E	10	I 掘上	a	IV	1	2	0.26	0.22	0.17	0.09	0.29	-	-	H2, Y1	24	-	
SB3-P5	E	10	I 掘上	a	IV	1	2	0.19	0.16	0.09	0.07	0.09	-	-	-	24	-	
SB4-P1	F	11	掘上	a	IV	1	2	0.24	0.21	0.17	0.14	0.05	-	-	-	25	-	
SB4-P2	F	11-12	掘上	d	V	2	1	0.29	0.24	0.11	0.11	0.41	-	-	-	25	-	
SB4-P3	F	12	掘上	f	V	1	1	0.21	0.18	0.09	0.08	0.12	-	-	-	25	4	
SB4-P4	F	11-12	掘上	f	V	2	1	0.27	0.22	0.09	0.09	0.31	-	-	-	25	4	
SB4-P5	F	12	掘上	f	V	1	1	0.19	0.17	0.07	0.06	0.16	-	-	-	25	4	
SB4-P6	F	12	掘上	f	V	2	2	0.21	0.14	0.11	0.06	0.03	-	-	-	25	4	
SB4-P7	F	12	掘上	a	IV	2	2	0.28	0.21	0.18	0.13	0.05	-	SK212	-	25	-	
SB5-P1	D	12	掘上	a	IV	1	1	0.20	0.19	0.15	0.14	0.04	-	-	-	26	-	
SB5-P2	D	12	掘上	f	V	2	2	0.30	0.23	0.10	0.08	0.19	-	-	-	26	4	

表7 掘立柱建物付属遺構一覽表(2)

遺構番号	地区別9		検出面	地相	掘市形	平面形	迄面形	規模(m)					重複関係		出土遺物	棟間	版
	南	北						上端		下端		深さ	新	旧			
								長軸長	短軸長	長軸長	短軸長						
S86-P3	E	12	掘上	a	IV	2	5	0.34	0.27	0.23	0.19	0.11	-	SK181	-	26	-
S86-P4	E	12	掘上	a	IV	2	2	0.26	0.19	0.19	(0.12)	0.06	-	S86-P5	-	26	27
S86-P5	E	12	掘上	a	IV	1	2	0.21	0.19	0.16	(0.11)	0.08	-	-	-	26	27
S86-P6	E	12	掘上	a	VI	1	1	0.31	0.26	0.25	0.20	0.04	-	-	-	26	27
S86-P1	E	12	掘上	d	IV	2	2	0.21	0.15	0.12	0.09	0.12	-	SK182	-	28	-
S86-P2	E	12	掘上	f	V	1	5	0.45	0.39	0.09	0.08	0.29	-	-	-	28	4
S86-P3	E	12	掘上	b	II	1	1	0.27	0.26	0.19	0.17	0.30	-	-	-	28	-
S86-P4	E	12	掘上	a	II	1	2	0.21	0.19	0.18	0.15	0.04	-	-	-	28	-
S86-P5	E	12	掘上	b	IV	1	1	0.22	(0.20)	0.14	0.12	0.14	S86-P4	-	28	-	
S86-P6	E	12	掘上	a	IV	2	2	0.20	0.15	0.10	0.06	0.05	-	-	-	28	-
S86-P7	E	12	掘上	d	IV	2	2	0.26	0.22	0.14	0.10	0.24	-	SK185	-	28	-
S87-P1	G	12	掘上	a	IV	5	2	0.49	0.44	0.26	0.17	0.12	SD11	-	29	-	
S87-P2	G	12	掘上	a	VI	2	2	0.32	0.26	0.17	(0.14)	0.14	-	-	-	29	-
S87-P3	F-G	12	掘上	a	IV	4	4	0.27	0.20	0.15	0.09	0.07	-	-	-	29	-
S87-P4	G	12	掘上	a	IV	2	2	0.59	(0.4)	0.55	(0.34)	0.06	SD11, SK223	-	29	-	
S87-P5	G	12	掘上	e	VI	6	6	(0.31)	0.25	(0.25)	(0.21)	0.04	SK226	-	29	-	
S87-P6	G	13	掘上	b	IV	4	4	0.39	0.21	0.29	0.12	0.12	-	-	-	29	-
S87-P7	G	12	掘上	a	IV	2	2	0.48	0.32	0.38	0.22	0.09	SD18	-	29	30	
S87-P8	G	12-13	掘上	b	IV	1	1	0.55	0.55	0.44	0.42	0.08	SK228	-	29	30	
S87-P9	G	13	掘上	a	IV	2	2	0.40	0.33	0.25	0.18	0.05	-	SD17, SK294	-	29	30
S88-P1	F	13	掘上	a	IV	4	2	0.50	0.39	0.38	0.28	0.12	SK276, SK279, SK280	-	8	9	
S88-P2	F	14	掘上	a	IV	1	1	0.43	0.38	0.32	0.30	0.09	-	-	-	8	9
S88-P3	F	14	掘上	a	IV	2	2	0.45	0.38	0.38	0.28	0.09	-	K1	-	8	9
S88-P4	F	13	掘上	a	IV	1	1	(0.47)	0.45	(0.43)	0.40	0.09	SK279, SK283	-	8	9	
S88-P5	F	13	掘上	a	IV	1	1	0.30	0.29	0.25	0.24	0.06	-	-	-	8	9
S88-P6	F	14	掘上	a	IV	2	2	0.36	0.25	0.32	0.21	0.10	-	-	-	8	9
S88-P7	F	14	掘上	a	III	3	1	0.16	0.16	0.06	0.06	0.07	-	-	-	8	9
S88-P8	G	13	掘上	a	I	2	2	0.21	0.15	0.12	0.07	0.07	-	-	-	8	9
S88-P9	F	14	掘上	a	IV	2	2	0.44	0.22	0.32	0.12	0.16	-	SK352	-	8	9
S88-P10	F	14	掘上	a	IV	1	1	0.25	0.22	0.18	0.16	0.04	-	-	-	8	9
S89-P1	G	14	掘上	a	IV	2	2	0.28	0.21	0.22	0.16	0.10	-	-	-	31	-
S89-P2	G	14	掘上	a	IV	1	1	0.23	0.20	0.12	0.10	0.11	-	-	-	31	-
S89-P3	G	14	掘上	a	IV	1	1	0.20	0.17	0.12	0.11	0.10	-	-	-	31	-
S89-P4	G	14	掘上	a	IV	2	2	0.23	0.16	0.16	0.09	0.10	-	-	-	31	-
S89-P5	G	14	掘上	a	IV	1	1	0.21	0.20	0.10	0.09	0.14	-	-	-	31	-

表8 掘・掘一覽表

遺構番号	地区別9		検出面	長軸方位	柱間	規模(m)	重複関係		出土遺物	棟間	版
	南	北					新	旧			
SA1	E-F	10	I基	N-20°-E	2間	3.70	-	-	-	52	11
SA2	F	10-11	掘上	N-09°-E	3間	6.00	-	-	-	32	-
SA3	G	10	I基 掘上	N-2°-W	2間	3.20	-	SK61	Y1	33	7
SA4	F	12	掘上	N-44°-W	3間	4.40	-	SD10	-	34	7
SA5	E	16	掘上	N-36°-E	3間	3.10	-	-	-	53	11

表9 堀・柵付属遺構一覧表

遺構番号	地区別り			検出面	地積	断面形	平面形	規模 (m)				重複関係		出土遺物	神鏡	銅版	
	南	北	東西					上端		下端		深さ	新				旧
								長軸長	短軸長	長軸長	短軸長						
SA1-P1	E	10	I 堀	F	V	2	2	0.23	0.19	0.07	0.05	0.10	-	-	-	52	11
SA1-P2	E	10	I 堀	a	II	1	2	0.25	0.22	0.08	0.05	0.19	-	-	-	52	-
SA1-P3	F	10	I 堀	a	IV	1	2	0.27	0.23	0.15	0.08	0.07	-	-	-	52	-
SA2-P1	F	10	竪上	F	V	1	2	0.27	0.23	0.06	0.04	0.13	-	-	-	32	7
SA2-P2	F	11	竪上	a	IV	2	2	0.30	0.20	0.22	0.14	0.07	-	-	-	32	-
SA2-P3	F	11	竪上	a	IV	2	2	0.33	0.23	0.24	0.17	0.09	-	-	-	32	-
SA2-P4	F	11	竪上	F	IV	2	1	0.29	0.24	0.09	0.08	0.13	-	-	-	32	7
SA3-P1	G	10	竪上	F	V	2	2	0.23	0.18	0.06	0.03	0.27	-	-	Y1	33	7
SA3-P2	G	10	竪上	b	II	1	1	0.24	0.23	0.17	0.16	0.18	-	-	-	33	-
SA3-P3	G	10	I 堀	a	III	1	2	0.17	0.15	0.07	0.05	0.11	-	SK61	-	33	-
SA4-P1	F	12	竪上	b	II	2	2	0.21	0.15	0.15	0.09	0.17	-	SD10	-	34	-
SA4-P2	F	12	竪上	a	II	1	2	0.26	0.23	0.21	0.17	0.13	-	-	-	34	-
SA4-P3	F	12	竪上	a	IV	1	1	0.21	0.20	0.13	0.11	0.19	-	-	-	34	-
SA4-P4	F	12	竪上	a	IV	1	1	0.23	0.22	0.15	0.15	0.07	-	-	-	34	-
SA5-P1	E	16	竪上	a	IV	2	2	0.33	0.24	0.24	0.16	0.05	-	-	-	53	-
SA5-P2	E	16	竪上	a	IV	2	2	0.26	0.18	0.14	0.09	0.08	-	-	-	53	-
SA5-P3	E	16	竪上	a	I	2	2	0.37	0.24	0.23	0.14	0.04	-	-	-	53	-
SA5-P4	E	16	竪上	a	IV	2	2	0.35	0.26	0.30	0.20	0.05	-	-	-	53	-

表10 単独柱穴一覧表

遺構番号	地区別り			検出面	地積	断面形	平面形	規模 (m)				重複関係		出土遺物	神鏡	銅版	
	南	北	東西					上端		下端		深さ	新				旧
								長軸長	短軸長	長軸長	短軸長						
SP1	D	9	竪上	F	V	2	1	0.37	0.27	0.08	0.07	0.33	-	SK7	Y1	35	7
SP2	D	9	竪上	F	V	1	1	(0.20)	0.26	0.08	0.05	0.09	-	SK8	-	-	-
SP3	D	10	竪上	F	V	5	2	0.41	0.33	0.12	0.10	0.33	-	-	K1	10	2
SP4	E	10	竪上	F	V	2	2	0.24	0.20	0.08	0.06	0.21	-	-	-	-	-
SP5	D	11	I 堀	F	I	1	1	0.23	0.21	0.10	0.10	0.08	-	-	-	-	-
SP6	G	11	竪上	F	II	1	2	0.34	0.29	0.28	0.20	0.20	SK122	-	K2	10	2
SP7	D	12-13	竪上	F	V	2	2	0.30	0.25	0.16	0.12	0.14	-	-	-	-	-
SP8	E	12	竪上	F	V	2	2	0.34	0.20	0.09	0.07	0.24	-	-	Y1	35	8
SP9	E	12	竪上	F	V	1	2	0.23	0.20	0.10	0.06	0.16	-	-	-	-	-
SP10	E-F	12	竪上	F	V	1	2	0.22	0.20	0.10	0.08	0.11	-	-	Y1	35	8
SP11	E-F	12	竪上	F	I	2	2	0.29	0.22	0.14	0.11	0.11	-	-	-	-	-
SP12	F	12	竪上	F	V	1	2	0.17	0.17	0.07	0.05	0.07	-	SD10	-	-	-
SP13	F	12	竪上	F	IV	1	1	0.22	0.19	0.13	0.13	0.33	-	-	-	-	-
SP14	G	12	竪上	F	I	2	2	0.26	0.20	(0.20)	0.12	0.05	-	-	-	-	-
SP15	H	12	竪上	F	IV	1	1	0.27	0.24	0.05	0.05	0.42	-	-	-	-	-
SP16	F	13	竪上	F	V	1	2	0.29	0.28	0.08	0.04	0.20	SK279, SK280	-	-	-	-
SP17	F	14	I 堀	-	-	-	-	0.12	0.12	-	-	0.32	-	-	W1	54	11

表11 溝状遺構一覧表 (1)

遺構番号	地区別り			検出面	地積	断面形	平面形	規模 (m)				重複関係		出土遺物	神鏡	銅版	
	南	北	東西					上端		下端		深さ	新				旧
								長軸長	短軸長	長軸長	短軸長						
SD1	E	9-10	I 堀	a	IV	1	1	1.79	0.43	1.73	0.29	0.05	SK44	-	-	-	-
SD2	F	9-11	竪上	a	I-IV	(6.50)	0.20	(6.54)	0.10	0.06	-	-	SK48	K3	36	8	
SD3	F	10	I 堀	a	IV	1	1	1.38	0.28	1.25	0.21	0.03	-	-	-	-	-
SD4	D-E	10-11	竪上	a	III	1	1	1.90	0.33	1.75	0.18	0.08	-	-	K3	11	2
SD5	E	10-11	竪上	a	IV	1	1	1.90	0.31	1.74	0.21	0.02	-	-	-	-	-
SD6	H	10	竪上	a	IV	(2.25)	0.17	(2.20)	0.10	0.09	-	-	-	-	-	37	9
SD7	H	10-11	竪上	a	IV	1	1	1.39	0.25	1.24	0.19	0.02	-	-	K2	37	9
SD8	E-F	11-13	竪上	a	I-IV	12.41	0.45	12.24	0.17	0.11	-	-	SD9, SK271	Y3	36	8	

表12 溝状遺構一覽表(2)

遺構番号	地区割り		検出面	地積	断面形	規模 (m)				重層関係		出土遺物	棟根	図版	
	南	北				上端		下端		深さ	新				旧
						長軸長	短軸長	長軸長	短軸長						
SD9	E-F	11	露上	a	IV	4.96	0.81	4.77	0.70	11.06	SD8, SK93, SK99, SK100	-	-	-	-
SD10	F	12	露上	a	IV	3.46	0.89	3.25	0.72	0.06	SA4-P1, SP12, SK191, SK192, SK194, SK195, SK196	-	-	-	-
SD11	F-C-II	11-12	露上	a	IV	9.33	0.79	9.18	0.45	0.05	SK215, SK222, SK232, SK233	S87-P1, S87-P4, SD18, SK108, SK112, SK217, SK224	H1, K7, Y9, T1	38 30	9
SD12	G	11-12	露上	a	IV	0.66	0.19	0.53	0.09	0.04	-	-	-	-	-
SD13	G-II	11	露上	a	IV	3.10	0.20	3.00	0.09	0.04	-	SD14	K3, Y1	37	9
SD14	H	11-12	露上	a	IV	(3.18)	0.72	(3.10)	0.44	0.07	SD13	SK130, SK131, SK132, SK133, SK134	H1, K12	12	-
SD15	H	11	露上	a	I	1.19	0.25	1.04	0.16	0.03	SK136	-	-	-	-
SD16	G-II	12-13	露上	a	IV	7.83	0.89	7.58	0.51	0.10	-	SD18, SD19, SD20, SD22, SK301	K3, Y1	38 30	9
SD17	G	13	露上	a	IV	2.35	0.23	2.21	0.16	0.07	S87-P9, SK294, SK306	-	-	-	-
SD18	G-II	12-13	露上	a	IV	3.05	0.81	2.70	0.49	0.12	SD11, SD16, SK232, SK233	S87-P7, SK238	K3, Y3	38 30	10
SD19	G-II	13	露上	a	IV	2.62	0.27	2.58	0.15	0.05	SD16, SK301	-	-	-	40
SD20	G	13-14	露上	a	IV	2.52	0.30	2.45	0.11	0.10	SD16, SD22, SK301	-	Y2	40	10
SD21	G	13-14	露上	a	IV	1.32	0.33	1.19	0.23	0.03	-	SK348	-	-	-
SD22	G	14	露上	b	IV	(1.34)	0.46	(1.28)	0.42	0.13	SD16, SK348	SD29, SK359	-	-	41
SD23	E	14	露上	a	IV	2.51	0.32	2.26	0.18	0.11	-	SK328	H1	13	-
SD24	E	15	露上	a	IV	1.55	0.25	1.44	0.14	0.03	-	-	-	-	-
SD25	E	14-15	露上	a	IV	(2.49)	0.45	(2.34)	0.32	0.09	SK374	-	-	-	-
SD26	E-F	13-16	露上	a・c	IV	10.90	0.90	10.80	0.80	0.10	SK331, SK338, SK379, SK380, SK414, SK415	SD26-P1, SD26-P2, SD26-P3, SD26-P4, SD26-P5, SD26-P6, SD26, SK381, SK382, SK383, SK384, SK385	H1, P1, K9, Y2	42	10
SD27	F	14	露上	a	IV	(1.90)	0.25	(1.90)	0.12	0.07	SK339, SK344	SK343	-	-	-
SD28	G	14	露上	a	IV	(1.5)	0.26	(1.38)	(0.17)	0.04	SK353	SD29, SK357	-	-	-
SD29	G	14	露上	a	I	0.96	(0.29)	0.85	0.18	0.05	SD28, SK353	-	-	-	-
SD30	G	14	露上	a	IV	1.05	0.26	0.89	0.09	0.06	SK355	SK356	-	-	-
SD31	F	14-15	露上	a	IV	2.15	0.62	1.98	0.53	0.12	SK390	SK391	-	-	-
SD32	F	14-15	露上	a	IV	1.70	0.40	1.59	0.28	0.07	SK392	-	-	-	-
SD33	E-F	15	露上	d	V	2.22	0.67	2.06	0.48	0.18	SD26	SK385	-	-	-
SD34	F-G	16	I基	a・b	IV	4.70	0.66	4.60	0.45	0.25	SK414	-	-	-	-
SD35	F-G	16-17	I基	a	I・II	2.82	0.66	1.14	0.04	0.04	-	SD26	-	-	-
SD36	F-G	16	I基	d	V	1.69	0.46	0.95	0.19	0.28	SD35	-	-	-	-
SD37	F-G	15	I基	a	IV	6.24	1.74	4.72	1.14	0.05	-	-	K1	14	-

表13 溝状遺構付属遺構一覽表

遺構番号	地区割り		検出面	地積	断面形	平面形	洗面形	規模 (m)				重層関係		出土遺物	棟根	図版	
	南	北						上端		下端		深さ	新				旧
								長軸長	短軸長	長軸長	短軸長						
SD26-P1	E	14	露上	a	V	2	2	0.49	0.24	0.20	0.13	0.10	SD26, SK331	-	-	42	-
SD26-P2	E	14	露上	a	IV	2	2	0.28	0.18	0.22	0.14	0.07	SD26	-	-	42	-
SD26-P3	E	14	露上	a	IV	5	5	0.38	0.20	0.30	0.14	0.03	SD26	-	-	42	-
SD26-P4	E	14	露上	a	II	2	2	0.30	0.22	0.24	0.16	0.11	SD26	-	-	42	-
SD26-P5	E	14	露上	a	IV	2	2	0.30	0.14	0.14	0.09	0.11	SD26	-	-	42	-
SD26-P6	E-F	14	露上	a	IV	2	2	0.37	0.23	0.32	0.15	0.07	SD26	-	-	42	-

表14 土坑一覧表(1)

遺構 番号	地区割り		検出 面	地層	平面 形状	平面 面積	規模 (m)				深さ	重複関係		出土 遺物	押 縄	図 版	
	南 北	東 西					上端		下端			前	目				
							長軸長	短軸長	長軸長	短軸長							
																	0.29
SK1	D	9	面上	a	II	6	6	(0.29)	(0.11)	(0.22)	(0.05)	0.26	-	-	Y2	43	-
SK2	D	9	面上	a	VI	6	6	(0.34)	(0.19)	(0.28)	(0.17)	0.06	-	-	-	-	-
SK3	C	9	面上	a	VI	6	6	0.25	(0.12)	0.20	(0.09)	0.02	-	-	-	-	-
SK4	C	10	面上	a	VI	6	6	0.20	0.11	0.16	0.09	0.07	-	-	-	-	-
SK5	D	9	面上	a	IV	2	2	0.33	0.27	0.23	0.21	0.04	-	SK6	X1, Y1	45	-
SK6	D	9	面上	a	IV	2	2	0.34	0.26	0.29	0.22	0.05	SK5	-	Y2	43	-
SK7	D	9	面上	a	II	1	1	0.24	(0.22)	(0.10)	0.10	0.18	SP1	-	Y2	44	-
SK8	D	9	面上	a	VI	6	6	(0.49)	0.25	(0.45)	0.20	0.05	SP2	-	-	-	-
SK9	E	10	面上	a	IV	1	1	0.21	0.20	0.14	0.13	0.07	-	-	-	-	-
SK10	E	9	面上	a	V	6	6	(0.21)	(0.12)	(0.05)	(0.05)	0.35	-	-	Y1	44	-
SK11	D	10	面上	b	IV	1	2	0.22	0.19	0.13	(0.09)	0.10	-	-	Y1	44	-
SK12	C-D	10	面上	a	IV	2	2	0.40	0.30	0.33	0.22	0.05	-	SK13, SK14	-	-	-
SK13	C	10	面上	a	VI	6	6	(0.18)	0.18	(0.13)	0.13	0.04	SK12	SK14	-	-	-
SK14	C	10	面上	a	II	1	1	0.17	0.15	0.10	0.09	0.17	SK12, SK13	-	-	-	-
SK15	D	10	面上	a	IV	1	2	0.27	0.22	0.18	0.14	0.24	-	-	-	-	-
SK16	D	10	面上	d	II	1	1	0.20	0.20	0.14	0.12	0.33	-	-	-	-	-
SK17	D	10	面上	c	II	3	1	0.29	0.25	0.20	0.18	0.24	-	-	-	-	-
SK18	D	10	面上	a	IV	4	4	0.30	0.24	0.26	0.18	0.05	-	-	-	-	-
SK19	D	10	面上	a	IV	1	1	0.22	0.20	0.13	0.12	0.07	-	-	-	-	-
SK20	D	10	面上	a	IV	1	1	0.21	0.19	0.13	0.10	0.19	-	-	-	-	-
SK21	D	10	面上	a	IV	2	2	0.22	0.18	0.13	0.10	0.19	-	SK23	-	-	-
SK22	D	10	面上	a	IV	2	2	0.30	0.23	0.20	0.13	0.05	-	SK23, SK24	-	-	-
SK23	D	10	面上	a	IV	2	2	0.63	0.37	0.51	0.25	0.07	SK21, SK22	SK24	X1	15	-
SK24	D	10	面上	a	II	1	1	0.15	0.14	0.10	0.09	0.10	SK22, SK23	-	-	-	-
SK25	D	10	面上	d	II	1	2	0.21	0.18	0.14	0.10	0.31	-	-	-	-	-
SK26	D	10	面上	a	IV	2	2	0.23	0.19	0.18	0.09	0.14	-	-	-	-	-
SK27	D	10	面上	a	II	5	2	0.39	0.29	0.17	0.08	0.10	-	SK28, SK29	-	-	-
SK28	D	10	面上	c	IV	3	4	0.32	0.30	0.24	0.20	0.34	SK27	SK29, SK30	-	-	-
SK29	D	10	面上	a	IV	6	6	0.31	0.21	0.19	0.12	0.32	SK27, SK28	SK30	-	-	-
SK30	D	10	面上	a	IV	6	2	0.35	0.20	0.12	0.08	0.21	SK28, SK29	SK31	-	-	-
SK31	D-E	10	面上	a	I	2	2	(0.29)	0.28	(0.22)	0.17	0.14	SK30	-	P1	15	-
SK32	D	10	面上	a	IV	4	2	0.39	0.21	0.28	0.12	0.04	-	-	-	-	-
SK33	D	10	面上	a	IV	2	2	0.24	0.17	0.17	0.11	0.04	-	SK34	-	-	-
SK34	D	10	面上	a	IV	2	2	(0.34)	0.28	0.27	0.16	0.05	SK33	-	-	-	-
SK35	E	10	I 基	d	VI	1	2	0.29	0.25	0.08	0.07	0.31	-	-	-	-	-
SK36	E	10	I 基	a	IV	1	1	0.74	0.74	0.65	0.65	0.06	S13-P1	SK37	-	-	-
SK37	E	10	I 基	b	II	1	1	0.16	0.15	0.14	0.13	0.20	SK36	-	-	-	-
SK38	E	10	I 基	c	VI	1	2	0.20	0.20	0.14	0.11	0.31	-	-	-	-	-
SK39	E	10	I 基	c	V	2	1	(0.33)	0.27	0.14	0.14	0.38	S11-P9	-	-	-	-
SK40	E	10	I 基	a	IV	6	6	0.20	(0.21)	0.10	(0.07)	0.14	-	SK41	-	-	-
SK41	E	10	I 基	a	II	1	1	0.33	0.30	0.22	0.22	0.17	SK40	SK42	-	-	-
SK42	E	10	I 基	a	I	6	2	0.22	0.17	0.12	0.07	0.10	SK41	-	-	-	-
SK43	E	10	I 基	a	IV	1	1	0.21	0.18	0.14	0.12	0.10	-	-	-	-	-
SK44	E	9-10	I 基	a	IV	1	1	0.28	0.24	0.19	0.16	0.09	-	SD1	-	-	-
SK45	E	10	I 基	a	IV	1	1	0.16	0.15	0.08	0.08	0.13	-	-	-	-	-
SK46	F	10	I 基	a	II	1	2	0.25	0.22	0.11	0.08	0.09	-	-	-	-	-
SK47	F	10	I 基	b	IV	1	1	0.20	0.17	0.10	0.09	0.07	-	-	-	-	-
SK48	F	10	I 基	a	I	1	1	0.20	0.15	0.09	0.08	0.15	SD2	-	Y1	45	-
SK49	F	10	I 基	a	IV	1	1	0.15	0.14	0.11	0.11	0.03	-	-	-	-	-
SK50	F	10	I 基	a	IV	2	2	0.18	0.14	0.12	0.07	0.06	-	-	-	-	-
SK51	F	10	面上	b	IV	4	4	0.45	0.28	0.38	0.18	0.07	-	-	-	-	-

表15 土坑一覽表(2)

遺構 番号	地区別		地 域	地 形	断面 形	平面 形	底面 形	規模 (m)				重複関係		出土 遺物	神 關	図 版	
	南 北	東 西						上端		下端		深 さ	新				旧
								長軸長	短軸長	長軸長	短軸長						
SK52	F	10	郡上	a	IV	2	2	0.27	0.22	0.15	0.11	0.04	-	-	-	-	-
SK53	F	10	郡上	a	IV	2	1	0.23	0.19	0.14	0.12	0.09	-	-	-	-	-
SK54	F	10	郡上	b	IV	1	2	0.15	0.13	0.09	0.07	0.06	-	-	-	-	-
SK55	F	10	郡上	a	II	2	2	0.20	0.14	0.05	0.04	0.18	-	-	Y1	45	-
SK56	E	10	1基	c	V	1	2	0.27	0.25	0.14	0.10	0.32	-	-	-	-	-
SK57	G	10	郡上	a	IV	1	2	0.23	0.20	0.18	0.15	0.03	-	-	-	-	-
SK58	G	10	郡上	a	IV	3	4	0.21	0.19	0.17	(0.09)	0.08	-	-	-	-	-
SK59	E	10-11	1基	a	II	2	2	0.20	0.16	0.18	0.11	0.20	-	-	-	-	-
SK60	G	10	郡上	a	III	1	1	0.28	0.25	0.07	0.07	0.11	-	-	-	-	-
SK61	G	10	1基	a	IV	4	4	0.46	0.19	0.38	0.10	0.07	SK3-PT3	-	Y1	45	-
SK62	G	10	郡上	a	IV	5	5	0.42	0.23	0.35	(0.17)	0.03	-	-	-	-	-
SK63	G	10	郡上	a	IV	4	4	0.26	0.18	0.20	0.12	0.04	-	-	-	-	-
SK64	G-中	9	郡上	a	IV	5	5	0.30	0.18	0.21	0.11	0.07	-	-	-	-	-
SK65	H	10-11	郡上	a	IV	2	2	0.37	0.27	0.25	0.15	0.03	-	-	-	-	-
SK66	H	10	郡上	a	II	1	1	0.23	0.21	0.20	0.18	0.21	-	-	-	-	-
SK67	H	10	郡上	a	IV	1	1	0.23	0.20	0.15	0.14	0.04	-	-	-	-	-
SK68	H	10	1基	a	IV	4	1	0.30	0.25	0.17	0.15	0.05	-	-	-	-	-
SK69	H	10-11	郡上	a	IV	2	2	0.35	0.27	0.22	0.17	0.07	-	SK70	-	-	-
SK70	H	10	郡上	a	IV	1	1	0.19	0.19	0.11	0.11	0.07	SK69	-	-	-	-
SK71	H	10	1基	a	VI	2	2	0.45	0.29	0.24	0.13	0.06	-	-	-	-	-
SK72	H	10	郡上	a	IV	2	2	0.37	0.30	0.28	0.23	0.04	-	-	-	-	-
SK73	H	10	郡上	a	III	2	2	0.27	0.20	0.16	0.11	0.06	-	-	-	-	-
SK74	H	10	郡上	a	IV	2	2	0.38	0.22	0.35	0.17	0.03	-	-	-	-	-
SK75	I	10	1基	a	IV	2	2	0.26	0.20	0.19	0.14	0.06	-	-	-	-	-
SK76	I	10	1基	a	IV	2	2	0.22	0.15	0.13	0.10	0.12	-	-	-	-	-
SK77	I	10	1基	a	I	1	2	0.25	0.23	0.13	0.09	0.06	-	-	-	-	-
SK78	C	11	郡上	a	IV	2	1	0.34	0.23	0.24	0.20	0.04	-	SK90	-	-	-
SK79	C	11	1基	a	IV	2	2	0.41	0.27	0.24	0.12	0.12	-	-	-	-	-
SK80	C	11	郡上	a	IV	2	2	0.37	0.23	0.28	0.14	0.06	SK78	-	-	-	-
SK81	C	11	1基	a	IV	1	2	0.39	0.34	0.33	0.23	0.03	-	-	-	-	-
SK82	C	11	1基	d	II	2	2	0.25	0.18	0.17	0.11	0.17	-	SK83	-	-	-
SK83	C	11	1基	b	I	1	1	0.20	(0.17)	0.09	0.09	0.07	SK82	-	-	-	-
SK84	C	11	1基	a	I	2	2	0.25	0.20	0.13	0.09	0.19	-	-	-	-	-
SK85	C	11	1基	a	IV	2	2	0.41	0.27	0.35	0.20	0.05	-	-	-	-	-
SK86	D	11	1基	f	V	1	1	0.20	0.17	0.07	0.06	0.13	-	-	-	-	-
SK87	E	11-12	郡上	a	I	1	2	0.79	0.74	0.67	0.54	0.06	-	-	-	-	-
SK88	E	11	1基	a	I	1	2	0.15	0.14	0.07	0.05	0.16	-	-	-	-	-
SK89	E	11	郡上	a	II	2	2	0.17	0.12	0.11	0.09	0.18	-	-	-	-	-
SK90	E	11	1基	a	IV	2	2	0.45	0.25	0.34	0.15	0.04	-	-	-	-	-
SK91	E	11	郡上	b	IV	2	2	0.22	0.18	0.16	0.14	0.08	-	SK92	-	-	-
SK92	E	11	郡上	a	IV	2	2	0.39	0.25	0.30	0.17	0.10	SK91	-	-	-	-
SK93	E	11	郡上	a	IV	2	2	0.37	(0.30)	0.34	(0.24)	0.05	-	SD9	-	-	-
SK94	E	11	郡上	a	IV	1	2	0.27	0.23	0.19	0.15	0.06	-	-	-	-	-
SK95	E	11	郡上	a	IV	2	2	0.47	0.31	0.31	0.16	0.07	-	-	Y1	46	-
SK96	E	11	郡上	a	IV	1	1	0.14	0.14	0.07	0.06	0.05	-	-	-	-	-
SK97	E	11	郡上	a	IV	1	1	0.15	0.15	0.08	0.08	0.10	-	-	-	-	-
SK98	E-F	11	郡上	a	II	1	2	0.20	0.17	0.17	0.12	0.23	-	-	-	-	-
SK99	F	11	郡上	e	V	2	2	0.25	0.20	0.07	0.05	0.37	-	SD9, SK100	SL, Y1	46	-
SK100	F	11	郡上	g	III	2	2	(0.25)	0.21	(0.21)	0.15	0.04	SK99	SD9	-	-	-
SK101	F	11	郡上	a	IV	2	1	0.18	0.15	0.12	0.11	0.23	-	-	-	-	-
SK102	F	11	郡上	a	IV	2	2	0.25	0.19	0.19	0.14	0.03	-	-	-	-	-

表16 土坑一覧表(3)

遺構 番号	地区別		出土 品	地 層	断面 形	平面 形	規模 (m)				重複関係		出土 遺物	挿 刷	図 版			
	南 北	東 西					上層		下層		深さ	前				目		
							長軸長	短軸長	長軸長	短軸長								
SK103	F	11	面上	a	V	1	1	0.97	0.90	0.33	0.29	0.22	-	-	-	-	-	
SK104	F	11	面上	a	IV	1	2	0.25	0.22	0.17	0.13	0.05	-	SK106	-	-	-	
SK105	F	11	面上	a	II	2	2	0.38	0.28	0.33	0.21	0.04	-	SK106	-	-	-	
SK106	F	11	面上	a	IV	2	2	0.42	0.30	0.31	0.23	0.08	SK104, SK106	-	-	-	-	
SK107	F	11	面上	a	IV	1	2	0.18	0.16	0.07	0.05	0.18	-	-	-	-	-	
SK108	F	11	面上	a	IV	2	2	0.21	0.12	0.13	0.06	0.12	-	-	-	-	-	
SK109	F	11	面上	a	IV	2	2	0.36	0.22	0.24	0.10	0.06	SD11	-	-	-	-	
SK110	F	11	面上	a	II	2	2	0.44	0.30	0.39	0.24	0.08	-	SK111	-	-	-	
SK111	F	11	面上	a	IV	6	6	0.30	(0.18)	0.24	(0.13)	0.04	SK110	-	-	-	-	
SK112	F	11	面上	a	II	3	2	0.21	0.19	0.17	0.14	0.21	SD11	-	VI	46	-	
SK113	G	11	面上	a	II	2	2	0.35	0.27	0.30	0.22	0.06	-	SK114, SK115	-	-	-	
SK114	G	11	面上	a	IV	2	2	0.28	0.24	0.23	0.18	0.07	SK113	-	-	-	-	
SK115	G	11	面上	a	IV	4	2	0.17	0.12	0.08	0.05	0.09	SK113	-	-	-	-	
SK116	G	11	面上	a	III	2	2	0.26	0.19	0.09	0.07	0.08	-	-	-	-	-	
SK117	G	11	面上	a	IV	2	2	0.34	0.28	0.20	0.18	0.04	-	-	-	-	-	
SK118	G	11	面上	a	IV	1	1	0.21	0.19	0.13	0.12	0.09	-	-	-	-	-	
SK119	G	11	面上	a	IV	2	2	0.35	0.20	0.26	0.13	0.04	-	-	-	-	-	
SK120	G	11	面上	a	IV	1	1	0.41	0.39	0.33	0.33	0.05	-	SK121, SK122	-	-	-	
SK121	G	11	面上	a	IV	6	6	1.19	(0.64)	1.08	(0.60)	0.11	SK120, SK122	-	-	-	-	
SK122	G	11	面上	a	IV	2	2	(0.82)	0.28	(0.82)	0.19	0.04	SK120	SP6, SK121	K1	15	-	
SK123	G	11	面上	a	IV	1	2	0.34	0.27	0.32	0.21	0.04	-	-	-	-	-	
SK124	G	11	面上	a	III	2	2	0.22	0.18	0.12	0.09	0.07	-	-	-	-	-	
SK125	H	11	面上	a	VI	5	5	1.25	0.55	1.02	0.43	0.09	-	-	-	-	-	
SK126	H	11	面上	a	IV	1	1	0.49	0.47	0.30	0.26	0.07	-	SK127	-	-	-	
SK127	H	11	面上	a	IV	2	2	0.60	0.44	0.39	0.18	0.22	SK126	-	III, V2	47	-	
SK128	H	11	面上	a	V	2	2	0.26	0.15	0.05	0.04	0.09	-	-	-	-	-	
SK129	H	11	面上	a	III	2	2	0.29	0.21	0.20	0.11	0.09	-	SK130, SK131	-	-	-	
SK130	H	11	面上	b	II	2	2	0.27	0.20	0.13	0.09	0.27	SD14, SK129	SK131	-	-	-	
SK131	H	11	面上	a	VI	6	6	(0.27)	(0.22)	(0.20)	(0.16)	0.08	SD14, SK129, SK130	-	-	-	-	
SK132	H	11-12	面上	b	IV	2	2	1.12	0.86	0.91	0.63	0.42	SD14, SK134	SK133	-	III, P1, K11	16	2
SK133	H	11	面上	a	VI	6	6	0.16	(0.11)	0.11	0.08	0.18	SD14, SK132	-	-	-	-	
SK134	H	11-12	面上	a	IV	2	2	0.29	0.21	0.26	(0.16)	0.03	SD14	SK132	-	-	-	
SK135	H	11	面上	a	IV	6	6	0.37	(0.27)	0.25	(0.22)	0.07	-	-	-	-	-	
SK136	H	11	面上	a	IV	1	2	0.32	0.28	0.27	(0.20)	0.04	-	SD15	-	-	-	-
SK137	H	11	I 基	a	V	2	2	0.34	0.26	0.15	(0.11)	0.19	-	-	-	-	-	
SK138	H	11-12	I 基	a	IV	4	4	0.51	0.36	0.26	0.16	0.03	-	-	-	-	-	
SK139	H	11-12	I 基	a	IV	2	2	0.33	0.27	0.26	0.19	0.13	-	-	-	-	-	
SK140	H	11	I 基	a	IV	1	1	0.23	0.22	0.16	0.13	0.08	-	-	VI	47	-	
SK141	H	11	I 基	a	IV	2	2	0.73	0.60	0.57	0.43	0.09	-	SK142, SK143, SK144	-	-	-	-
SK142	H	11	I 基	d	IV	1	1	0.70	0.60	0.45	0.34	0.10	SK141	-	-	-	-	
SK143	H	11	I 基	b	IV	2	2	0.22	0.15	0.13	0.08	0.08	SK141	-	-	-	-	
SK144	H	11	I 基	a	IV	2	2	0.21	0.16	0.10	0.08	0.04	SK141	-	-	-	-	
SK145	H	11	I 基	a	IV	2	2	0.23	0.19	0.14	0.10	0.08	-	-	VI	47	-	
SK146	B	12	I 基	a	II	1	1	0.39	0.34	0.33	0.28	0.05	-	-	-	-	-	
SK147	B-C	12	I 基	a	IV	2	2	0.32	0.24	0.28	0.18	0.04	-	-	-	-	-	
SK148	C	12-13	I 基	a	IV	2	2	0.48	0.40	0.41	0.30	0.11	-	-	-	-	-	
SK149	C	12	I 基	a	IV	2	1	0.24	0.20	0.14	0.12	0.10	-	-	-	-	-	
SK150	C	12	I 基	a	IV	2	2	0.39	0.28	0.33	0.19	0.07	-	-	-	-	-	
SK151	C	12	I 基	a	IV	3	2	0.29	0.27	0.21	0.17	0.05	-	-	-	-	-	
SK152	C	12	I 基	a	IV	2	2	0.35	0.25	0.27	0.18	0.07	-	-	-	-	-	
SK153	C	12	I 基	a	IV	1	1	0.23	0.20	0.27	(0.20)	0.04	-	SK154	-	-	-	-

表17 土坑一覽表(4)

遺構 番号	地区割り		地 出 面	地 出 形	平 面 形	深 面 形	規模 (m)				重複関係		出 土 遺 物	特 異	図 版			
	南 北	東 西					上端		下端		深 さ	新				旧		
							長軸長	短軸長	長軸長	短軸長								
SK154	C	12	I	基	a	IV	3	3	0.49	0.45	0.37	0.33	0.10	SK153	-	-	-	-
SK155	C	12	I	基	a	VI	2	2	0.37	0.30	0.29	(0.24)	0.03	-	SK158, SK159	-	-	-
SK156	C-D	12	I	基	a	IV	1	2	0.33	0.28	0.27	0.21	0.09	-	SK159	-	-	-
SK157	C	12	I	基	a	VI	1	1	0.31	0.29	0.24	(0.22)	0.04	-	-	-	-	-
SK158	C	12	I	基	a	VI	1	1	0.23	(0.22)	(0.18)	0.16	0.04	SK155	-	-	-	-
SK159	C-D	12	I	基	a	VI	6	6	(0.24)	(0.15)	(0.17)	(0.13)	0.05	SK155, SK156	-	-	-	-
SK160	D	12	I	基	a	IV	2	2	0.32	0.22	0.29	0.18	0.07	-	-	-	-	-
SK161	D	12	I	基	a	IV	2	2	0.36	0.26	0.32	0.22	0.05	-	-	-	-	-
SK162	D	12	礎上	a	IV	2	2	0.34	0.20	0.22	0.10	0.13	-	-	-	-	-	-
SK163	D	13	礎上	a	I	1	2	0.21	0.18	0.14	0.09	0.05	-	-	-	-	-	-
SK164	D	12	I	基	a	IV	1	1	0.37	0.31	0.32	0.27	0.07	-	-	-	-	-
SK165	D	12	I	基	a	IV	2	2	0.20	0.14	0.10	0.07	0.07	-	-	-	-	-
SK166	D	12	礎上	a	I	2	2	0.31	0.25	0.16	0.11	0.13	-	-	-	-	-	-
SK167	D	12	礎上	a	IV	3	3	0.38	0.36	0.32	(0.30)	0.05	-	-	-	-	-	-
SK168	D	12	礎上	a	IV	1	1	0.31	0.27	0.27	(0.23)	0.04	-	-	-	-	-	-
SK169	D	12	礎上	a	I	1	2	0.45	0.40	0.21	0.17	0.12	-	-	51	18	-	-
SK170	D	12	礎上	a	I	2	2	0.38	0.28	0.16	0.10	0.07	-	-	-	-	-	-
SK171	D	12	礎上	a	IV	1	2	0.46	0.35	0.29	0.10	0.06	-	-	-	-	-	-
SK172	D	12	礎上	a	IV	2	2	0.36	0.25	0.28	0.18	0.11	-	-	-	-	-	-
SK173	D	12	礎上	a	IV	1	1	0.31	0.26	0.21	0.18	0.07	-	SK174	-	-	-	-
SK174	D	12	礎上	a	IV	1	1	(0.40)	0.35	0.34	(0.23)	0.05	SK173	-	-	-	-	
SK175	D	12	礎上	b	III	1	2	0.28	0.22	0.14	0.13	0.22	-	-	-	-	-	-
SK176	D	12	礎上	c	IV	1	1	0.22	0.20	0.15	0.13	0.17	-	-	-	-	-	-
SK177	E	12	礎上	a	IV	2	2	0.28	0.18	0.18	0.10	0.06	-	-	-	-	-	-
SK178	E	12	礎上	c	III	1	1	0.23	0.22	0.08	0.06	0.06	-	-	-	-	-	-
SK179	E	13	礎上	a	IV	2	2	0.25	0.19	0.17	0.12	0.14	-	-	-	-	-	-
SK180	E 12-13		礎上	a	I	2	2	0.28	0.21	0.15	0.12	0.08	-	-	Y2	48	-	-
SK181	E	12	礎上	a	I	2	2	0.31	0.23	0.12	0.09	0.15	S96-P3	SK182	-	-	-	-
SK182	E	12	礎上	a	VI	6	6	0.20	(0.17)	0.07	0.03	0.16	S96-P1, SK181	-	-	-	-	-
SK183	E	12	礎上	a	I	2	5	0.21	0.16	0.14	0.10	0.08	-	-	-	-	-	-
SK184	E	12	礎上	a	I	1	1	0.21	0.19	0.10	0.10	0.14	-	-	-	-	-	-
SK185	E	12	礎上	a	VI	1	1	(0.22)	0.21	0.09	0.08	0.13	S96-P7	-	-	-	-	-
SK186	E	13	礎上	a	VI	2	2	0.30	0.24	0.17	0.14	0.15	-	-	-	-	-	-
SK187	E	12	礎上	a	IV	1	1	0.31	0.28	0.21	0.18	0.06	-	SK188	-	-	-	-
SK188	E	12	礎上	a	IV	2	2	(0.24)	0.22	(0.21)	0.18	0.03	SK187	SK189	-	-	-	-
SK189	E	12	礎上	a	II	2	2	(0.29)	0.20	(0.27)	0.17	0.04	SK188	-	-	-	-	-
SK190	F-P	12	礎上	a	IV	1	1	0.25	0.25	0.19	0.18	0.04	-	-	-	-	-	-
SK191	F	12	礎上	a	IV	1	2	0.25	0.22	0.18	0.15	0.07	-	SD10	-	-	-	-
SK192	F	12	礎上	a	IV	1	1	0.25	0.25	0.20	0.18	0.05	-	SD10	-	-	-	-
SK193	F	12	礎上	a	II	1	2	0.17	0.15	0.12	0.09	0.20	-	-	Y1	48	-	-
SK194	F	12	礎上	a	I	1	1	0.26	0.25	0.17	0.16	0.06	-	SD10	-	-	-	-
SK195	F	12	礎上	a	IV	1	1	0.25	0.21	0.18	0.14	0.07	-	SD10	-	-	-	-
SK196	F	12	礎上	a	IV	2	2	0.31	0.25	0.25	0.14	0.05	-	SD10	-	-	-	-
SK197	F	12	礎上	a	II	1	2	0.27	0.24	0.23	0.19	0.03	-	SK200	-	-	-	-
SK198	F	12	礎上	a	IV	1	1	0.29	0.27	0.22	0.20	0.06	-	SK200	-	-	-	-
SK199	F	12	礎上	a	I	1	2	0.29	0.25	0.19	0.13	0.08	-	SK200	-	-	-	-
SK200	F	12	礎上	a	II	4	4	0.85	0.56	0.82	0.50	0.05	SK197, SK198, SK199	-	-	-	-	-
SK201	F	11	礎上	a	II	2	2	0.38	0.20	0.35	0.16	0.06	-	-	-	-	-	-
SK202	F	12	礎上	a	IV	1	1	0.22	0.23	0.11	0.11	0.15	-	-	-	-	-	-
SK203	F	12	礎上	a	IV	2	2	0.17	0.12	0.08	0.05	0.06	-	SK204	-	-	-	-
SK204	F	12	礎上	a	IV	2	1	0.32	(0.23)	(0.19)	0.15	0.06	SK203	-	-	-	-	-

表18 土坑一覧表(5)

遺構 番号	地区割り		検出面	断面形	平面形	規模 (m)				深さ	重複関係		出土 遺物	押 縄	図 版			
	南 北	東 西				上層		下層			前	目						
						長軸長	短軸長	長軸長	短軸長									
																0.25	0.16	0.18
SK205	F	11	竪上	a	IV	2	2	0.25	0.16	0.18	(0.11)	0.03	-	SK206	-	-	-	
SK206	F	11	竪上	a	VI	2	2	0.49	0.26	0.43	0.22	0.05	SK205	-	-	-		
SK207	F	12	竪上	a	IV	1	2	0.17	0.16	0.10	0.08	0.11	-	-	-	-		
SK208	F	11	竪上	a	V	2	1	0.24	0.16	0.08	0.08	0.28	-	-	-	-		
SK209	F	12	竪上	a	IV	1	1	0.22	0.20	0.11	0.11	0.32	-	-	Y1	48	-	
SK210	F	12	竪上	a	IV	1	1	0.29	0.29	0.22	0.21	0.04	-	-	-	-	-	
SK211	F	12	竪上	a	II	1	2	0.21	0.19	0.18	(0.13)	0.05	-	-	-	-	-	
SK212	F	12	竪上	a	IV	6	6	(0.19)	0.18	0.17	0.15	0.04	SB4-P7	-	-	-	-	
SK213	F	12	竪上	a	II	1	2	0.20	0.17	0.04	0.03	0.33	-	-	-	-	-	
SK214	F	12	竪上	a	IV	4	2	0.30	0.22	0.19	0.14	0.08	-	-	-	-	-	
SK215	G	11-12	竪上	a	IV	2	2	0.53	0.31	0.40	0.19	0.07	-	SD11, SK216	-	-	-	
SK216	G	11-12	竪上	a	IV	2	2	0.51	0.35	0.30	(0.15)	0.07	SK215	-	K2	16	-	
SK217	G	12	竪上	a	IV	2	2	0.44	0.36	0.34	0.28	0.04	SD11	-	-	-	-	
SK218	G	12	竪上	a	IV	2	2	0.28	0.19	0.20	0.12	0.05	-	-	-	-	-	
SK219	G	12	竪上	a	IV	2	2	0.24	0.18	0.20	0.13	0.04	-	-	-	-	-	
SK220	G	12	竪上	a	III	1	1	0.20	0.20	0.11	0.11	0.05	-	-	-	-	-	
SK221	G	12	竪上	a	IV	1	2	0.21	0.19	0.10	0.08	0.07	-	-	-	-	-	
SK222	G	12	竪上	a	IV	2	2	0.29	0.20	0.20	0.11	0.06	-	SD11	-	-	-	
SK223	G	12	竪上	a	IV	4	4	0.41	0.31	0.34	0.20	0.06	-	SRT-P4	-	-	-	
SK224	G	12	竪上	a	IV	2	2	0.21	0.15	0.16	0.12	0.07	SD11	-	-	-	-	
SK225	G	12	竪上	a	IV	2	2	0.31	0.24	0.23	0.19	0.04	-	-	-	-	-	
SK226	G	12	竪上	b	IV	2	2	0.59	0.47	0.49	0.29	0.23	-	SRT-P6, SK227	II, K3, Y2	49	11	
SK227	G	12	竪上	a	VI	1	1	0.25	(0.24)	(0.19)	0.19	0.04	SK226	-	-	-	-	
SK228	G	12	竪上	a	III	3	1	0.17	0.16	0.07	0.06	0.07	-	SRT-P6, SK229	-	-	-	
SK229	G	12	竪上	a	IV	1	1	(0.62)	0.54	0.51	0.45	0.06	SK228	-	-	-	-	
SK230	G	13	竪上	a	IV	2	2	0.45	0.28	0.20	0.15	0.11	-	-	Y2	49	-	
SK231	G	12	竪上	a	IV	2	2	0.36	0.24	0.26	0.14	0.09	-	-	-	-	-	
SK232	G	12	竪上	a	IV	1	1	0.25	0.23	0.18	0.17	0.04	-	SD11, SD16, SK233	-	-	-	
SK233	G-II	12	竪上	b	V	1	2	0.28	0.28	0.19	0.14	0.22	SK232	SD11, SD18	K1	49	-	
SK234	G	12	竪上	a	IV	1	4	0.25	0.21	0.14	0.11	0.06	-	-	-	-	-	
SK235	H	12	竪上	a	IV	2	2	0.22	0.17	0.15	0.10	0.06	-	-	-	-	-	
SK236	H	12	竪上	a	III	1	2	0.26	0.24	0.10	0.08	0.13	-	SK237	-	-	-	-
SK237	H	12	竪上	a	VI	2	2	(0.30)	0.21	(0.20)	0.13	0.04	SK236	-	-	-	-	
SK238	H	12	竪上	a	IV	6	6	(0.37)	(0.27)	(0.21)	(0.22)	0.08	SD18	-	Y1	50	-	
SK239	H	12	竪上	a	IV	2	2	0.34	0.20	0.21	0.12	0.07	-	-	-	-	-	
SK240	H	12	I 葦	a	IV	1	1	0.18	0.18	0.14	0.13	0.04	-	-	-	-	-	
SK241	H	12	I 葦	a	IV	2	2	0.66	0.45	0.58	0.36	0.06	-	-	II3	17	-	
SK242	H	12	I 葦	a	IV	1	2	0.22	0.19	0.10	0.08	0.16	-	SK243	K1	17	-	
SK243	H	12	I 葦	a	IV	5	5	0.65	(0.38)	0.52	(0.32)	0.07	SK242	-	-	-	-	
SK244	H	12-13	I 葦	a	IV	2	2	0.40	0.26	0.29	0.15	0.07	-	-	-	-	-	
SK245	H	12	I 葦	a	IV	2	2	0.50	0.30	0.45	0.19	0.11	-	-	-	-	-	
SK246	H	12	I 葦	a	IV	3	1	0.19	0.18	0.11	0.11	0.04	-	-	-	-	-	
SK247	I	12	I 葦	a	IV	2	2	0.23	0.19	0.18	0.14	0.07	-	-	-	-	-	
SK248	II-T	12	I 葦	a	IV	2	2	0.49	0.34	0.41	0.28	0.09	-	-	-	-	-	
SK249	II-1	12	I 葦	a	IV	2	2	0.61	0.36	0.54	0.27	0.14	-	-	-	-	-	
SK250	C	13	I 葦	a	IV	2	2	0.50	0.37	0.37	0.27	0.12	-	-	Y3	50	-	
SK251	C	13	I 葦	a	II	1	2	0.30	0.27	0.27	0.22	0.05	-	-	-	-	-	
SK252	C	13	I 葦	a	IV	1	2	0.24	0.21	0.17	0.13	0.07	-	-	-	-	-	
SK253	C	12-13	I 葦	a	IV	2	2	0.35	0.26	0.35	0.20	0.11	-	SK254	-	-	-	-
SK254	C	12-13	竪上	a	IV	2	2	0.58	0.46	0.51	0.37	0.07	SK253	-	-	-	-	
SK255	C	13	I 葦	a	IV	5	5	0.48	0.43	0.29	0.25	0.08	-	-	-	-	-	

表19 土坑一覽表(6)

遺構 番号	地区別 ⁵⁾		地 出 面	地 積	南 面 形	平 面 形	北 面 形	規模 (m)				重積関係		出 土 遺 物	特 異	図 解		
	南 北	東 西						上 端		下 端		深 さ	新				旧	
								長軸長	短軸長	長軸長	短軸長							
SK256	C	13	I	基	a	VI	3	3	0.40	0.37	0.33	0.32	0.07	-	SK267	-	-	-
SK257	C	13	I	基	a	I	6	6	(0.50)	0.36	(0.36)	0.26	0.06	SK256	-	-	-	
SK258	C	13	I	基	a	IV	2	2	0.32	0.22	0.22	0.25	0.17	0.11	-	-	-	-
SK259	C	13	Ⅲ	上	a	I	2	2	0.70	0.51	0.46	0.23	0.09	-	-	-	-	
SK260	C	13	Ⅲ	上	a	Ⅲ	2	2	0.29	0.20	0.14	0.10	0.08	-	-	-	-	
SK261	D	12-13	Ⅲ	上	a	IV	2	2	4.10	1.59	3.35	1.32	0.16	-	SK262, SK263	-	-	-
SK262	D	13	Ⅲ	上	a	V	6	6	(1.63)	(0.55)	(1.38)	0.38	0.21	SK261	-	-	-	
SK263	D	13	Ⅲ	上	a	IV	4	4	0.42	0.30	0.20	0.12	0.12	SK261	-	-	-	
SK264	D	13	Ⅲ	上	a	IV	2	2	0.69	0.54	0.65	0.49	0.10	-	SK265, SK266	-	-	-
SK265	D	13	Ⅲ	上	a	IV	2	1	0.18	0.13	0.08	0.08	0.09	SK264	-	-	-	
SK266	D	13	Ⅲ	上	a	IV	2	2	0.24	0.18	0.19	0.14	0.07	SK264	-	-	-	
SK267	D	13	Ⅲ	上	a	IV	1	2	0.27	0.26	0.20	0.16	0.05	-	-	-	-	
SK268	E	13	Ⅲ	上	a	VI	2	2	0.44	0.33	0.28	0.17	0.09	-	-	-	-	
SK269	E	13	Ⅲ	上	a	IV	2	2	0.45	0.33	0.32	0.21	0.10	-	-	-	-	
SK270	E	13	Ⅲ	上	a	IV	2	2	0.52	0.41	0.41	0.30	0.14	-	-	-	-	
SK271	F-子	13	Ⅲ	上	a	V	6	6	1.34	(0.73)	1.15	(0.67)	0.16	SD8	-	-	-	
SK272	F	13	Ⅲ	上	a	IV	1	2	0.78	0.70	0.57	0.40	0.19	-	-	-	-	
SK273	F	13	Ⅲ	上	d	Ⅱ	1	1	0.20	0.19	0.18	0.16	0.14	-	-	-	-	
SK274	F	13	Ⅲ	上	a	IV	2	2	1.68	1.05	1.50	0.76	0.16	-	SK279	-	-	-
SK275	F	13	Ⅲ	上	a	IV	5	2	1.03	0.96	0.86	0.48	0.11	-	SK279	-	-	-
SK276	F	13	Ⅲ	上	a	IV	2	2	0.85	0.39	0.72	0.25	0.08	-	S88-P1, SK279, SK280	-	-	-
SK277	F	13	Ⅲ	上	a	IV	3	3	0.66	0.66	0.50	0.47	0.11	-	SK279	-	-	-
SK278	F	13	Ⅲ	上	a	IV	2	2	0.55	0.38	0.30	0.20	0.08	-	SK279	-	-	-
SK279	F	13	Ⅲ	上	a	IV	5	5	3.20	2.09	3.02	1.91	0.24	SK274, SK275, SK276, SK277, SK278	S88-P1, S88-P4, SP16, SK280, SK283	-	-	-
SK280	F	13	Ⅲ	上	a	IV	6	6	1.79	(1.05)	1.68	(0.97)	0.20	SK276, SK279	S88-P1, SP16, SK281, SK282	-	-	-
SK281	F	12-13	Ⅲ	上	a	IV	6	6	(1.30)	0.66	(1.22)	0.48	0.13	SK280	-	-	-	
SK282	F	13	Ⅲ	上	a	I	1	1	0.22	0.22	0.11	0.10	0.14	SK280	-	-	-	
SK283	F	13	Ⅲ	上	a	IV	1	1	0.38	0.35	0.28	0.27	0.11	SK279	S88-P4	-	-	-
SK284	F	13	Ⅲ	上	a	Ⅲ	1	2	0.21	0.20	0.10	0.08	0.10	-	-	-	-	
SK285	F	13	Ⅲ	上	a	IV	2	2	0.43	0.25	0.37	0.18	0.05	-	-	-	-	
SK286	G	13	Ⅲ	上	a	I	1	1	0.41	0.38	0.32	0.28	0.22	-	-	-	-	
SK287	F	13	Ⅲ	上	a	IV	1	2	0.25	0.21	0.20	0.14	0.07	-	SK288	-	-	-
SK288	F	13	Ⅲ	上	a	IV	2	1	0.25	(0.2)	0.16	(0.16)	0.04	SK287	-	-	-	
SK289	F-G	13	Ⅲ	上	a	IV	2	2	1.16	0.85	0.94	0.57	0.11	-	SK290	-	-	-
SK290	F-G	13	Ⅲ	上	a	IV	6	6	(1.22)	0.47	(1.12)	0.35	0.04	SK289	-	-	-	
SK291	G	13	Ⅲ	上	a	IV	2	2	0.74	0.33	0.66	0.16	0.07	-	SK292	-	-	-
SK292	G	14	Ⅲ	上	a	IV	6	2	(0.22)	0.20	0.14	0.10	0.05	SK291	-	-	-	
SK293	G	13	Ⅲ	上	a	IV	2	2	0.27	0.18	0.19	0.13	0.04	-	-	-	-	
SK294	G	14	Ⅲ	上	a	I	2	2	0.30	0.23	0.21	0.17	0.04	S87-P9	SD17	-	-	-
SK295	G	13	Ⅲ	上	a	I	2	2	0.44	(0.35)	0.22	0.18	0.07	-	SK296	-	-	-
SK296	G	13	Ⅲ	上	a	IV	6	6	0.36	0.24	0.34	0.16	0.06	SK295	-	-	-	
SK297	G	13	Ⅲ	上	a	IV	2	1	0.40	0.30	0.20	0.17	0.09	-	SK298	-	-	-
SK298	G	13	Ⅲ	上	a	I	1	1	0.22	0.20	0.11	0.10	0.18	SK297	-	-	-	
SK299	G	13	Ⅲ	上	a	IV	2	2	0.20	0.15	0.10	0.04	0.09	-	-	-	-	
SK300	G	13	Ⅲ	上	a	IV	2	2	0.25	0.19	0.06	0.03	0.07	-	SD17	-	-	-
SK301	G	13	Ⅲ	上	a	IV	3	1	0.23	0.23	0.17	0.17	0.15	SD16	SD19, SD20	-	-	-
SK302	H	13	Ⅲ	上	a	Ⅲ	1	1	0.24	0.22	0.13	0.11	0.22	-	-	-	-	
SK303	H	13	I	基	d	IV	4	2	0.41	0.18	0.26	0.08	0.07	-	-	-	-	
SK304	C	14	Ⅲ	上	a	IV	2	2	0.31	0.22	0.18	0.08	0.05	-	-	-	-	
SK305	C	14-15	Ⅲ	上	a	IV	2	2	0.78	0.58	0.68	0.40	0.20	-	SK307, SK308	-	-	-

表20 土坑一覧表(7)

遺構 番号	地区別り		検出 面	地 形	断面 形	平面 形	底面 形	規模 (m)				重畳関係		出土 遺物	押 縄	図 録	
	南 北	東 西						上層		下層		深さ	新				旧
								長軸長	短軸長	長軸長	短軸長						
SK306	C	15	露上	a	IV	2	2	0.40	0.31	0.31	0.25	0.09	-	SK307	-	-	-
SK307	C	14-15	露上	b	IV	3	5	1.43	1.23	1.10	0.55	0.21	SK305, SK306	SK308	-	-	-
SK308	C	14-15	露上	a	VI	2	2	0.28	0.20	0.22	0.14	0.07	SK305, SK307	-	-	-	-
SK309	C	14	露上	a	IV	2	2	0.46	0.33	0.28	0.19	0.05	-	-	-	-	-
SK310	C	15	露上	a	III	2	3	0.28	0.22	0.15	0.12	0.13	-	-	-	-	-
SK311	C-D	14	露上	d	V	1	2	0.40	0.35	0.23	0.18	0.12	-	-	P1	17	-
SK312	D	14	露上	a	IV	3	2	0.36	0.31	0.13	0.07	0.08	-	-	-	-	-
SK313	C-D	14	露上	a	IV	2	2	0.44	0.31	0.17	0.12	0.05	-	-	-	-	-
SK314	D	13-14	露上	a	IV	2	2	0.36	0.28	0.30	0.24	0.06	-	-	-	-	-
SK315	D	14	露上	a	I	1	1	0.20	0.18	0.10	0.09	0.04	-	-	-	-	-
SK316	D	14	露上	a	I	1	1	0.21	0.18	0.10	0.09	0.05	-	-	-	-	-
SK317	D	14	露上	a	I	4	1	0.27	0.21	0.13	0.12	0.11	-	-	-	-	-
SK318	D	13-14	露上	a	IV	1	1	0.20	0.20	0.16	0.15	0.03	-	-	-	-	-
SK319	D	14	I 墓	a	IV	1	1	0.29	0.25	0.20	0.17	0.09	-	-	-	-	-
SK320	D	14	I 墓	a	IV	2	2	0.42	0.33	0.35	0.27	0.06	-	-	-	-	-
SK321	D	13-14	露上	a	VI	6	6	3.86	(1.14)	3.54	(1.06)	0.12	-	SK322	-	-	-
SK322	D	13	露上	a	IV	2	2	0.29	0.22	0.25	0.17	0.06	SK321	-	-	-	-
SK323	D	13	露上	a	IV	1	1	0.40	0.36	0.32	0.28	0.06	-	SK324	K1	18	-
SK324	D-E	13-14	露上	b	IV	5	5	2.50	1.63	1.65	0.77	0.19	SK323	SK325	-	-	-
SK325	D-E	13-14	露上	a	IV	2	2	0.81	0.55	0.62	0.39	0.17	SK324	-	-	-	-
SK326	E	14	露上	a	IV	2	2	0.24	0.15	0.17	0.09	0.09	-	-	-	-	-
SK327	E	14	露上	a	IV	2	2	0.30	0.25	0.19	0.15	0.05	-	-	-	-	-
SK328	E	14	露上	a	IV	1	1	(0.24)	0.23	0.08	0.07	0.06	SD23	-	-	-	-
SK329	E	14	露上	a	IV	1	2	0.24	0.21	0.19	0.14	0.11	-	-	-	-	-
SK330	E	14	露上	a	IV	1	1	0.59	0.54	0.39	0.38	0.12	-	-	-	-	-
SK331	E	14	露上	a	IV	5	5	1.27	1.07	1.10	0.88	0.08	-	SD26, SD26-P1, SK332, SK333	-	-	-
SK332	E	14	露上	a	IV	4	4	0.92	0.74	0.84	0.67	0.06	SK331	-	-	-	-
SK333	E	14	露上	a	IV	1	1	0.22	0.20	0.12	0.10	0.14	SK331	-	-	-	-
SK334	E	14	露上	a	IV	1	1	0.48	0.43	0.33	0.31	0.10	-	-	-	-	-
SK335	F	14	露上	a	IV	2	2	0.52	0.33	0.47	0.26	0.07	-	-	-	-	-
SK336	F	14	露上	a	IV	2	1	0.32	0.25	0.18	0.10	0.06	-	-	-	-	-
SK337	F	14	露上	a	IV	1	1	0.21	0.20	0.14	0.12	0.15	-	-	-	-	-
SK338	F	14-15	露上	a	IV	5	5	1.55	0.62	1.47	0.47	0.14	-	SD26, SK339	K1	50	-
SK339	F	14-15	露上	a	IV	2	2	0.53	0.43	0.47	0.29	0.05	SK338	SD27	-	-	-
SK340	F	14	露上	a	IV	2	2	0.34	0.19	0.28	0.11	0.09	-	-	-	-	-
SK341	F	14	露上	a	IV	1	1	0.41	0.36	0.32	0.27	0.05	-	-	-	-	-
SK342	F	14	露上	a	IV	1	1	0.23	0.21	0.15	0.13	0.07	-	-	-	-	-
SK343	F	14	露上	a	IV	3	2	0.23	0.20	0.11	0.09	0.11	SD27	-	-	-	-
SK344	F	14	露上	a	IV	2	2	0.40	0.31	0.28	0.20	0.03	-	SD27	-	-	-
SK345	F	14	露上	a	IV	1	1	0.18	0.18	0.10	0.10	0.07	-	-	-	-	-
SK346	F	14	露上	a	IV	2	2	0.36	0.27	0.25	0.17	0.05	-	-	-	-	-
SK347	F	14	露上	a	IV	2	2	0.29	0.19	0.20	0.10	0.06	-	-	-	-	-
SK348	F-G	13-14	露上	d	IV	5	5	1.48	0.63	0.79	0.53	0.25	SD21	SD22, SK349	-	-	-
SK349	G	13-14	露上	a	IV	6	6	(0.54)	0.25	(0.49)	0.18	0.14	SK348	SK350	-	-	-
SK350	G	13	露上	a	IV	6	6	(0.31)	0.28	(0.26)	0.22	0.06	SK349	-	-	-	-
SK351	F	14	露上	a	IV	1	1	0.23	0.23	0.13	0.11	0.15	-	-	-	-	-
SK352	F-G	14	露上	d	IV	1	1	0.33	0.28	0.19	0.16	0.17	SH-99	-	-	-	-
SK353	G	14	露上	a	I	1	1	0.53	0.48	0.40	0.39	0.06	-	SD28, SD29, SK356, SK357	-	-	-
SK354	G	14	露上	a	IV	2	2	0.51	0.18	0.40	0.12	0.06	-	SK356	-	-	-
SK355	G	14	露上	a	IV	2	1	0.21	0.17	0.10	0.09	0.09	-	SD30, SK356	-	-	-

表21 土坑一覽表 (B)

遺構 番号	地区別		地 出 面	地 形	断面 形	平面 形	底 面 形	規模 (m)				前後関係		出土 遺物	棟 間	図 版	
	南 北	東 西						上端		下端		深さ	新				旧
								長軸長	短軸長	長軸長	短軸長						
SK356	F-G	14	露上	a	IV	5	5	(2.6)	1.24	(2.41)	1.06	0.04	SD30, SK363, SK364, SK365	-	-	-	-
SK357	G	14	露上	a	I	2	2	0.93	0.35	0.81	0.20	0.05	SD28, SK363	-	-	-	-
SK358	G	14	露上	a	IV	2	2	0.32	0.20	0.23	0.11	0.06	-	-	-	-	-
SK359	G	14	露上	a	IV	1	1	0.22	0.20	0.10	0.09	0.18	SD22	-	-	-	-
SK360	G	14	露上	b	IV	2	1	0.29	0.24	0.15	0.15	0.14	-	-	-	-	-
SK361	G	14	露上	a	IV	2	2	0.37	0.23	0.24	0.16	0.03	-	-	-	-	-
SK362	G	14	露上	a	IV	2	2	0.36	0.21	0.25	0.13	0.04	-	-	-	-	-
SK363	G	14	露上	b	V	2	2	0.38	0.21	0.22	0.15	0.10	-	-	-	-	-
SK364	G	15	露上	a	V	6	6	0.47	-	0.20	-	0.06	-	-	-	-	-
SK365	C	15	露上	a	III	2	2	0.45	0.32	0.24	0.15	0.09	-	-	-	-	-
SK366	D	15	露上	a	IV	2	2	0.36	0.27	0.23	0.17	0.06	-	SK367	-	-	-
SK367	C-D	15	露上	g	IV	2	2	0.63	0.52	0.36	0.28	0.06	SK366	-	-	-	-
SK368	D	15	露上	a	V	1	2	0.16	0.16	0.08	0.04	0.06	-	-	-	-	-
SK369	D	15	露上	a	IV	2	2	0.30	0.21	0.19	0.11	0.07	-	-	-	-	-
SK370	D	15	露上	a	IV	2	2	0.39	0.26	0.25	0.14	0.04	-	-	-	-	-
SK371	D	15	露上	a	I	2	2	0.37	0.25	0.22	0.14	0.06	-	-	-	-	-
SK372	E	15	露上	a	I	2	2	0.43	0.25	0.23	0.12	0.05	-	-	-	-	-
SK373	E	16	露上	a	I	1	2	0.36	0.31	0.25	0.20	0.05	-	-	-	-	-
SK374	E	15	露上	a	IV	2	2	0.81	0.55	0.67	0.35	0.06	-	SD25	-	-	-
SK375	E	14	露上	a	IV	1	1	0.27	0.25	0.16	0.16	0.08	-	-	-	-	-
SK376	E	15	露上	a	IV	2	2	0.22	0.17	0.16	0.09	0.05	-	-	-	-	-
SK377	E	15	露上	e	IV	2	2	0.62	0.35	0.38	0.20	0.12	-	-	-	-	-
SK378	E	15	露上	a	V	5	5	1.78	0.66	1.50	0.30	0.10	-	-	-	-	-
SK379	E	15	露上	a	I	2	2	0.35	0.25	0.20	0.14	0.05	-	SD26	-	-	-
SK380	F	15	露上	b	I	2	2	0.34	0.28	0.14	0.10	0.13	-	SD26	-	-	-
SK381	F	15	露上	a	IV	3	2	0.49	0.45	0.33	0.20	0.11	SD26	SK382	-	-	-
SK382	F	15	露上	a	VI	6	6	(0.52)	0.47	(0.48)	0.40	0.07	SD26, SK381	SK383, SK384	-	-	-
SK383	F	15	露上	g	VI	6	6	(0.18)	0.18	(0.14)	0.13	0.07	SD26, SK382	SK384	-	-	-
SK384	F	15	露上	a	V	6	6	(0.70)	0.40	(0.73)	0.32	0.07	SD26, SK382, SK383	-	-	-	-
SK385	E-F	15	露上	a	IV	6	6	0.85	0.31	0.85	0.19	0.13	SD26, SD33	-	-	-	-
SK386	F	15	露上	a	IV	2	2	0.38	0.24	0.30	0.16	0.05	-	-	-	-	-
SK387	F	15	露上	b	IV	2	2	1.43	1.16	1.26	1.02	0.11	-	-	-	-	-
SK388	F	15	露上	a	I	2	2	0.27	0.19	0.18	0.09	0.04	-	SK390	-	-	-
SK389	F	15	露上	a	I	2	2	0.41	0.32	0.30	0.20	0.07	-	SK390	-	-	-
SK390	F	15	露上	b	VI	2	4	1.72	1.50	1.53	1.04	0.09	SK388, SK389	SD31	-	-	-
SK391	F	15	露上	a	IV	2	2	0.25	0.17	0.13	0.09	0.09	SD31	-	-	-	-
SK392	F	14-15	露上	a	IV	2	2	0.44	0.36	0.48	0.38	0.05	-	SD32	-	-	-
SK393	F	14	露上	a	IV	1	2	0.21	0.20	0.16	0.11	0.05	-	SK394	-	-	-
SK394	F	14	露上	a	IV	1	2	0.29	0.26	0.26	0.18	0.09	SK393	-	-	-	-
SK395	F	15	露上	c	V	2	2	1.10	0.83	0.38	0.27	0.10	-	-	-	-	-
SK396	F-G	15	露上	a	V	2	1	0.25	0.16	0.10	0.10	0.04	-	-	-	-	-
SK397	G	14-15	露上	a	IV	1	1	0.38	0.22	0.22	0.14	0.04	-	-	-	-	-
SK398	G	15	露上	a	IV	2	2	0.24	0.18	0.15	0.09	0.03	-	-	-	-	-
SK399	G	15	露上	a	IV	2	1	0.39	0.32	0.18	0.16	0.06	-	-	-	-	-
SK400	C-D	15-16	露上	a	IV	6	6	(2.58)	(1.10)	2.08	0.96	0.19	-	SK401	図	19	-
SK401	C	15	露上	a	VI	6	6	0.53	(0.43)	0.36	(0.32)	0.12	SK400	-	-	-	-
SK402	D	16	露上	a	I	2	2	0.34	0.18	0.28	0.10	0.08	-	-	-	-	-
SK403	D	16	露上	a	IV	2	2	0.39	0.29	0.24	0.14	0.11	-	-	-	-	-
SK404	D	16	露上	a	IV	2	2	0.37	0.17	0.32	0.10	0.04	-	-	-	-	-
SK405	D	16	露上	a	VI	6	6	(0.28)	(0.25)	(0.22)	(0.19)	0.06	-	-	-	-	-
SK406	D	16	露上	a	I	1	1	0.34	0.30	0.15	0.13	0.07	-	-	-	-	-

表22 土坑一覧表(9)

遺構番号	地区別		検出面	地層形	断面形	平面形	底面形	規模 (m)				重複関係		出土遺物	挿筒	図版	
	南	東						上層		下層		深さ	新				旧
								長軸長	短軸長	長軸長	短軸長						
SK407	E	16	面上	a	I	6	6	(0.34)	(0.20)	(0.28)	(0.21)	0.05	-	-	-	-	-
SK408	E	16	面上	a	V	2	2	0.32	0.20	0.05	0.04	0.03	-	-	-	-	-
SK409	E	16	面上	a	IV	2	2	0.33	0.19	0.25	0.11	0.04	-	-	-	-	-
SK410	E	16	面上	a	IV	2	2	0.33	0.19	0.24	0.12	0.03	-	-	-	-	-
SK411	E	16	面上	a	I	1	1	0.30	0.29	0.23	0.22	0.04	-	-	-	-	-
SK412	E	16	面上	a	IV	1	1	0.33	0.28	0.24	0.20	0.06	-	-	-	-	-
SK413	E	16	面上	a	IV	2	2	0.45	0.19	0.36	0.11	0.05	-	-	-	-	-
SK414	F	15・16	I基	a	I	2	2	0.84	0.35	0.60	0.17	0.17	-	SD26, SD34	-	-	-
SK415	F	16・17	I基	e	IV	5	5	5.73	2.10	5.00	1.82	0.24	-	SD26, SK416	YI	31	-
SK416	F	16	I基	a	IV	2	2	0.43	0.23	0.32	0.10	0.03	SK415	-	-	-	-
SK417	F	16	I基	a	I	6	6	0.54	(0.29)	0.38	(0.15)	0.06	-	-	-	-	-
SK418	G	16	I基	a	IV	2	2	0.50	0.34	0.30	0.22	0.07	-	-	-	-	-
SK419	G	16	I基	a	V	2	2	0.40	0.28	0.10	0.04	0.09	-	-	-	-	-
SK420	F	17	I基	a	I	2	1	0.20	0.16	0.11	0.09	0.04	-	-	-	-	-
SK421	F	17	I基	c	IV	2	2	0.29	0.17	0.17	0.09	0.04	-	-	-	-	-
SK422	F	17	I基	a	I	1	1	0.37	0.35	0.22	0.22	0.05	-	-	-	-	-
SK423	F	17	I基	b	IV	2	2	0.31	(0.22)	0.16	0.07	0.07	-	-	-	-	-
SK424	F	16・17	I基	c	I	2	2	0.32	0.26	0.21	0.16	0.05	-	-	-	-	-
SK425	F	17	I基	a	I	2	2	0.52	0.31	0.36	0.17	0.05	-	-	-	-	-
SK426	G	11	面上	a	IV	1	2	0.38	0.23	0.15	0.12	0.10	-	-	-	-	-
SK427	G	10	面上	a	IV	2	2	0.27	0.20	0.22	0.15	0.07	-	-	-	-	-
SK428	D=	12-13	面上	a	IV	1	1	0.20	0.18	0.15	0.14	0.06	-	-	-	-	-

表23 土器観察表(1)

掲載番号	種別	器種	出土位置		大きさ (cm)	口縁部 厚さ (3/12)	胎土	焼成	色調 (内面/外面/断面)	器面調整 (内面/外面)	分期 時期	文様・その他	挿筒	図版	
			出土区・グリッド	遺構番号											
1	灰輪陶器	皿	-	SK8-P3 ①	I	- (1.2)	1.0	密	不良	10YR 8/1 10YR 8/1 10YR 8/1	回転ナデ/回転ナデ	-	-	9	12
2	灰輪陶器	段皿	-	SP6 ②	a	- (1.4)	1.0	密 (φ1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	2.5Y 8/1 10YR 8/1 10YR 8/1	回転ナデ/回転ナデ	丸石	内面灰輪 2.5Y 6/1 外面灰輪 2.5Y 6/1	10	12
3	灰輪陶器	碗A	-	SD14 ①	a	- 8.0 (1.6)	-	密 (φ1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	2.5Y 8/1 2.5Y 6/1 2.5Y 6/1	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ、取付高台	丸石	内面灰輪 2.5Y 7/1 外面灰輪 2.5Y 7/1 内面自然輪 付着・直線痕あり	12	12
4	灰輪陶器	碗	-	SD14 ②	a	- (5.3)	-	密 (φ1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	2.5Y 8/1 2.5Y 7/1 2.5Y 8/1	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	丸石	内面灰輪 2.5Y 8/1 外面灰輪 2.5Y 6/2	12	12
			G12	-	II	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	土師器	甕	-	SK23 ②	I	- (1.7)	1.0	やや粗 (φ1mm以下の長石、チャートを含む)	良好	5YR 6/4 5YR 6/4 5YR 6/4	-	-	-	13	12
6	灰輪陶器	碗B	-	SK23 ②	1	- 7.4 (2.2)	-	密 (長石をわずかに含む)	良好	2.5Y 7/1 2.5Y 7/1 7.5Y 7/1	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ、取付高台	丸石	-	15	12
7	須恵器	坏蓋	-	SK31 ①	I	- (1.5)	-	密 (φ1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	X 6 7.5Y 6/1 7.5Y 6/1	回転ナデ/回転ヘラ切り、回転ヘラケズリ	-	-	15	12
8	灰輪陶器	耳皿	-	SK122 ②	a	- (2.6)	1.0	密 (φ1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	2.5Y 7/1 2.5Y 7/1 2.5Y 7/1	回転ナデ、指摺瓦、指摺瓦、指摺瓦	鹿頭山、鹿頭山	内面灰輪 5Y 7/2 外面灰輪 5Y 7/2 内面自然輪付着	15	12

表24 土器観察表(2)

発掘番号	種類	器種	出土位置			大きさ (cm)	口縁部 残存率 (%/12)	胎土	焼成	色調 (内面 外面) (断面)	器面調整 内面/外面	分類・ 時期	文様・その他	採掘 区画	図録 表
			出土区・ グリット	遺構番号	層位										
9	土師器 (コタロ)	甕	—	SK132 ㉔	a	5.4 (2.4)	—	密(φ1mm以下の長石をわずかに含む)	不良	10YR 8/1 10YR 8/1	回転ナデ/回転ナデ、貼付高台	—	—	16	12
10	灰輪陶器	甕A	—	SK132 ㉔	b	— (5.9) (2.2)	—	密(φ1mm以下の長石、石英をわずかに含む)	良好	10YR 8/1 10YR 8/1 10YR 8/1	回転ナデ/回転ナデ、回転糸切砥、貼付高台	丸石2	内面自然輪付着・重燒痕あり	16	12
11	灰輪陶器	段皿	—	SK132 ㉑	2	— (8.0)	—	密(φ1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	10YR 6/2 10YR 7/2 10YR 7/2	回転ナデ/回転ナデ、貼付高台	丸石2	内面灰輪 10YR 8/1 外面灰輪 10YR 8/1	16	12
			H11	—	—	—	—								
12	灰輪陶器	段皿	—	SK169 ㉔	a	— (10.0)	3.6	密(φ1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	2.5Y 7/2 2.5Y 7/2 2.5Y 7/1	回転ナデ/回転ナデ	丸石2	内面灰輪 5Y 7/2 外面灰輪 2.5Y 7/2 内面自然輪付着	16	12
			SD4	㉑	1	— (2.0)	—								
			D12	—	—	—	—								
13	土師器	甕	—	SK241 ㉑	a	— (1.3)	—	やや粗(φ2mm以下の長石、チャート、雷母をわずかに含む)	不良	10YR 4/2 10YR 2/2 10YR 7/2	ナデ/ナデ	—	内面コグ付着、外面スス付着	17	12
			—	SK223 ㉔	a	11.5 6.3 2.4	5.3	密(φ1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	10YR 7/2 2.5Y 8/1 2.5Y 8/1	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラズリ、貼付高台	丸石2	内面灰輪 7.5YR 7/2 外面灰輪 7.5YR 8/2	18	12
			D13	—	—	—	—								
15	土師器	甕	—	SK400	—	— (1.4)	1.0	やや粗(φ1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	10YR 4/2 10YR 7/2 10YR 3/1	—/—	—	内面スス付着	19	12
16	山系陶 (東濃型)	小皿	—	SB1-P7 ㉑	1	— 3.8 (1.3)	—	密(φ1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	N 8 N 8 N 8	回転ナデ/回転ナデ、回転糸切砥	葉面1	—	21	13
17	山系陶 (尾張型)	甕	—	SB1-P9 ㉑	1	— (7.8) (2.1)	—	やや粗(φ2mm以下の長石、チャートをわずかに含む)	良好	5Y 6/1 10YR 7/2 10YR 7/1	回転ナデ/回転ナデ、回転糸切砥、貼付高台	第9型式	内面自然輪付着、底部外面輪紋痕あり	21	13
18	山系陶 (尾張型)	甕	—	SB2-P2 ㉔	a	— (2.3)	1.0	密(φ1mm以下の長石・チャートをわずかに含む)	良好	N 7 N 7 N 7	回転ナデ/回転ナデ	第4～8型式	内外面自然輪付着	23	13
19	土師器	高坏	—	SB3-P4 ㉑	1	— (6.2)	—	密(φ3mm以下の長石、チャートをわずかに含む)	良好	2.5Y 7/2 2.5Y 6/2 2.5Y 5/1	ナデ、磨頭圧痕/ナデ、磨頭圧痕	—	—	24	13
20	山系陶 (東濃型)	甕	—	SB3-P4 ㉑	1	— (15.6) (2.2)	1.4	密(φ1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	10YR 7/2 10YR 7/1 10YR 7/1	回転ナデ/回転ナデ	白土層1	内外面自然輪付着	24	13
21	山系陶 (東濃型)	甕	—	SP8	㉔	b	1.3	密(φ1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	10YR 8/1 10YR 8/1 10YR 8/1	回転ナデ/回転ナデ	白土層1	外面自然輪付着	35	13
22	山系陶 (東濃型)	甕	—	SP10 ㉑	1	— (1.0)	—	密	良好	N 8/ N 8/ N 8/	回転ナデ/回転ナデ、貼付高台	明和1	底部外面輪紋痕あり	35	13
23	灰輪陶器	甕B	—	SD2 ㉑	1	— 9.4 (4.3)	—	密(φ1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	5Y 8/1 10YR 8/1 10YR 8/2	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラズリ	丸石2	—	36	12
24	灰輪陶器	段皿	—	SD7 ㉑	1	— (11.6) (8.5) 2.8	5.2	密	良好	10YR 8/2 10YR 8/2 10YR 8/2	回転ナデ/回転ナデ、回転糸切砥、貼付高台	丸石2	内面灰輪 10YR 8/1 外面灰輪 10YR 8/1 内外面自然輪付着	37	12
			H11	—	—	—	—								
25	灰輪陶器	甕A	—	SD11 ㉑	a	— (12.0) (6.4) 6.1	1	密(φ3mm以下の長石をわずかに含む)	良好	10YR 8/2 10YR 8/2 10YR 8/2	回転ナデ/回転ナデ、回転糸切砥、貼付高台	丸石2	—	39	13
			F11	—	—	—	—								
			H11	—	—	—	—								
26	灰輪陶器	甕B	—	SD11 ㉑	a	— (14.8) (5.78)	1.1	密(φ1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	2.5Y 8/1 2.5Y 8/1 2.5Y 8/1	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラズリ	丸石2	内面灰輪 7.5Y 7/2 外面灰輪 2.5Y 8/2	39	13
27	灰輪陶器	皿	—	SD11 ㉑	1	— 6.3 (1.9)	—	密	良好	5Y 8/1 5Y 8/1 5Y 8/1	回転ナデ/回転ナデ、回転糸切砥、ナデ	丸石2	—	39	13

表25 土器観察表(3)

調査 番号	種別	器種	出土位置			大きさ (cm)	口縁部 残存率 (%/12)	胎土	焼成	色調 (内面) (外面) (断面)	器面装束 内面/外面	分類・ 時期	文様・その他	挿 入	図 版	
			出土区・ グリット													(1)径 残存 率高
			遺構番号	層位	階位											
28	灰輪陶器	段蓋	—	SH11	㊸	a	13.3 7.2 2.35	4.5	新	赤(φ1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	2.5Y 7/1 2.5Y 7/1 2.5Y 7/1	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ、貼付高台	内面灰輪 5Y 7/2 外面灰輪 5Y 7/1 内面黄緑色	39	13
			C10	—	—	II										
29	灰輪陶器	皿	—	SD16	㊸	a	— 5.5 (1.4)	—	新	良好	5 X 8 X 8	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	丸石2	—	39	13
30	灰輪陶器	碗	—	SD18	㊸	a	— (7.2) (2.5)	—	新	良好	2.5Y 8/2 2.5Y 8/2 2.5Y 8/2	回転ナデ/回転ナデ、回転赤切痕、貼付高台、ナデ	丸石2	—	39	13
31	灰輪陶器	皿	—	SD18	㊸	a	11.2 5.7 2.55	9.0	新	良好	2.5Y 8/2 7.5Y 7/4 2.5Y 8/2	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ、貼付高台	丸石2	内面灰輪 2.5Y 8/2 外面灰輪 2.5Y 8/2	39	13
32	山菜碗 (東農型)	小皿	—	SD20	㊸	a	— — (1.3)	1.0	新	良好	2.5Y 7/1 2.5Y 7/1 2.5Y 7/1	回転ナデ/回転ナデ	白土原1	内面自然釉付着	40	13
33	須恵器	甕	—	SD26	㊸	a	— — (5.7)	—	新	良好	2.5Y 7/2 2.5Y 7/2 2.5Y 7/2	同心円当具痕/平行タタキ	矢野須恵	内外面自然釉付着	42	13
34	灰輪陶器	皿	—	SD26	㊸	a	(10.2) (5.6) (2.3)	2.8	新	不 良	2.5Y 8/1 2.5Y 8/1 2.5Y 8/1	回転ナデ/回転ナデ、回転赤切痕、貼付高台	丸石2	—	42	13
35	山菜碗 (東農型)	碗	—	SD26	㊸	b	(15.9) — (3.6)	1.0	新	不 良	10YR 8/1 10YR 8/1 10YR 8/1	回転ナデ/回転ナデ	谷辺2	—	42	13
36	山菜碗 (尾張型)	碗	—	SK1	—	2	(17.0) — (3.4)	1.6	やや粗(φ1mm以下の長石、石英を含む)	良好	2.5Y 7/1 2.5Y 8/1 2.5Y 7/1	回転ナデ/回転ナデ	第5型式	内外面自然釉付着	43	13
37	山菜碗 (尾張型)	碗	—	SK5	㊸	1	— (6.7) (3.3)	—	やや粗(φ1mm以下の長石、チャートを含む)	良好	10YR 8/3 10YR 8/1 10YR 8/1	回転ナデ/回転ナデ、回転赤切痕、貼付高台	第5型式	—	43	13
38	山菜碗 (尾張型)	碗	—	SK6	—	1	— (8.4) (4.4)	—	新(φ2mm以下の長石、チャートを含)	不 良	7.5Y 8/1 10YR 8/1 10YR 8/1	回転ナデ/回転ナデ、貼付高台	第5型式	内面自然釉付着・黄緑色。底部外面釉剥離痕あり	43	13
39	山菜碗 (東農型)	碗	—	SK6	—	1	— — (1.4)	—	新(φ1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	2.5Y 7/1 2.5Y 7/2 2.5Y 8/1	回転ナデ/回転ナデ、貼付高台	白土原1	底部外面釉剥離痕あり	43	13
40	山菜碗 (尾張型)	碗	—	SK7	㊸	b	— (7.9) (2.0)	—	やや粗(φ1mm以下の長石、石英を含む)	良好	10YR 8/1 10YR 8/1 10YR 8/1	回転ナデ/回転ナデ、回転赤切痕、貼付高台	第5型式	底部外面釉剥離痕あり	44	13
			C10	—	—	II										
41	山菜碗 (東農型)	碗	—	SK35	㊸	a	— — (2.1)	1.0	新	良好	2.5Y 7/1 2.5Y 7/2 2.5Y 7/1	回転ナデ/回転ナデ	白土原1	—	45	13
42	山菜碗 (東農型)	碗	—	SK61	㊸	a	— — (2.0)	1.0	新	良好	10YR 7/1 10YR 7/1 10YR 7/1	回転ナデ/回転ナデ	浅間家下1~東原1	内外面自然釉付着	45	13
43	灰輪陶器	皿	—	SK99	㊸	d	12.0 — 2.6	7.5	新(φ1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	10YR 7/2 2.5Y 7/2 10YR 7/2	回転ナデ/回転ナデ、回転赤切痕、貼付高台	丸石2	内面灰輪 7.5Y 7/1 外面灰輪 10Y 6/2 見込に円文あり	46	12
			F11	—	—	II										
			G11	—	—	II										
44	山菜碗 (東農型)	碗	—	SK112	—	1	— (5.3) (2.0)	—	新(φ1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	7.5Y 7/1 7.5Y 7/1 7.5Y 7/1	回転ナデ、推定 /回転ナデ、回転赤切痕	白土原1	内面自然釉付着、底部外面釉付着・黄緑色・釉剥離痕あり	46	13
45	土師器	甕	—	SK127	㊸	b	— — (3.1)	1.0	やや粗(φ1mm以下の長石、石英、チャートを含む)	良好	10YR 8/1 10YR 8/3 10YR 8/2	ナデ/ナデ	—	内外面スス付着、内面コゲ付着	47	13
46	山菜碗 (東農型)	碗	—	SK140	㊸	a	— — (1.9)	1.0	新	不 良	10YR 8/2 10YR 8/2 10YR 8/1	回転ナデ/回転ナデ	東原1	—	47	13

表26 土器観察表(4)

発掘番号	種別	器種	出土位置			大きさ (cm)	口縁部 残存率 (0/12)	胎土	焼成	色調 (内面/外面) (断面)	器面調整 内面/外面	分類・ 時期	文様・その他	検出	採取		
			出土区・ グリッド	遺構番号	層位											I	II
47	山形碗 (高瀬型)	碗	-	SK200	I	-	-	良好	2.5Y 8/2 2.5Y 8/2	回転ナデ、階直 /回転ナデ、回転 糸切痕、貼付高台	明和1	内面重線焼痕あり	50	13			
49	須恵器	坏蓋	西	-	I	-	密(φ1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	N 7 N 6 5Y 7/2	回転ナデ/回転ナデ	鎌投	外面沈線	55	14			
50	須恵器	坏蓋	東	-	I	(17.4) (2.3)	密(φ2mm以下の長石をわずかに含む)	良好	5Y 6/1 5Y 6/1 5Y 6/1	回転ナデ/回転ナ デ、回転ヘラクス リ	美濃須恵 器Ⅳ期-3 ~Ⅳ期-1	-	55	14			
51	須恵器	有台杯	F13	-	II	-	密(φ1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	N 6/ N 6/ N 6/	回転ナデ/回転ナ デ、回転ヘラクス リ、貼付高台	美濃須恵 器Ⅳ期-3 ~Ⅳ期-1	-	55	14			
52	須恵器	盤	C11	-	I	-	密(φ1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	7.5Y 6/1 N 6 7.5Y 6/1	回転ナデ/回転ナ デ	美濃須恵 器Ⅳ期-3 ~Ⅳ期-1	-	55	14			
53	須恵器	直煎	西 鉢土	-	-	-	密(φ1mm以下の長石・チャートをわずかに含む)	良好	2.5Y 6/1 N 7 2.5Y 6/1	回転ナデ/回転ナ デ	-	-	55	14			
54	須恵器	直煎	西 鉢土	-	-	(13.7) (3.1)	密(φ1mm以下の長石・チャートをわずかに含む)	良好	N 6 N 5 N 6	回転ナデ/回転ナ デ	-	外面沈線	55	14			
55	灰輪陶器	碗A	G11	-	II	-	密(φ1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	2.5Y 7/1 10YR 7/2 10YR 7/1	回転ナデ/回転ナ デ、回転ヘラクス リ、貼付高台	-	内面灰輪 2.5Y 8/1 外面灰輪 10YR 7/1 内面重線焼痕	55				
56	灰輪陶器	碗A	E13	-	II	(7.0) (3.2)	密(φ1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	5Y 7/1 2.5Y 7/1 2.5Y 7/1	回転ナデ/回転ナ デ、回転ヘラクス リ、貼付高台	-	鹿浜山1	-	55			
57	灰輪陶器	碗A	G12	-	II	-	密(φ1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	10YR 8/1 10YR 8/1 10YR 8/1	回転ナデ/回転ナ デ、回転ヘラクス リ、貼付高台	-	内面灰輪 5Y 7/2 外面灰輪 5Y 8/1 内面重線焼痕	鹿浜山1	55			
58	灰輪陶器	碗A	G12	-	II	(6.5) (1.4)	密(φ1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	5Y 7/3 2.5YR 7/1 2.5YR 7/1	回転ナデ/回転ナ デ、回転糸切痕、 貼付高台	-	丸石2	内面自然焼付	55			
59	灰輪陶器	碗A	G11	-	II	(6.8) (1.9)	密(φ1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	2.5Y 8/1 2.5Y 8/1 2.5Y 8/1	回転ナデ/回転ナ デ、回転糸切痕、 貼付高台	-	丸石2	底部外面重 線あり	55	15		
60	灰輪陶器	碗A	G11	-	II	(13.2) (7.6) 5.0	-	不良	2.5Y 8/1 2.5Y 8/1 2.5Y 8/1	回転ナデ/回転ナ デ、回転糸切痕、 貼付高台	-	丸石2	-	55			
61	灰輪陶器	碗A	G11	-	II	(11.8) (6.0) 4.1	密(φ1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	10YR 7/3 2.5Y 7/2 2.5Y 7/2	回転ナデ/回転ナ デ、回転糸切痕、 貼付高台	-	丸石2	内面灰輪 10YR 8/1 外面灰輪 2.5YR 8/1	55	14		
62	灰輪陶器	碗B	G10	-	II	(8.0) (3.3)	密(φ1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	5Y 7/1 5Y 7/1 5Y 7/1	回転ナデ/回転ナ デ、回転ヘラクス リ、貼付高台	-	鹿浜山1	-	55			
63	灰輪陶器	碗B	G10	-	II	(8.7) (1.9)	密(φ2mm以下の長石をわずかに含む)	良好	2.5Y 7/1 10YR 7/2 2.5Y 7/1	回転ナデ/回転ナ デ、回転ヘラクス リ、貼付高台	-	鹿浜山1	-	55			
64	灰輪陶器	碗B	西	-	I	6.8 (2.2)	密	良好	5Y 8/1 5Y 8/1 5Y 8/1	回転ナデ/回転ナ デ、回転ヘラクス リ、貼付高台	-	丸石2	足込に凹文あり	55	14		
65	灰輪陶器	碗B	E12	-	II	(15.8) 7.8 7.9	密(φ2mm以下の長石をわずかに含む)	良好	2.5Y 7/1 10YR 7/1 10YR 7/1	回転ナデ/回転ナ デ、回転ヘラクス リ、貼付高台	-	丸石2	内面灰輪 2.5Y 7/2 外面灰輪 10YR 7/2 内面沈線	55	14		

表27 土器観察表(5)

陶器番号	種別	器種	出土位置			口縁部残存率(3/12)	胎土	焼成	色調(内面・外面)	器底調整内面・外面	分類・時期	文様・その他	標出	図版	
			出土区・ブロット	遺構番号	層位										
66	灰輪陶器	碗 ³	E14	-	-	II	(15.3)	密(φ1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	2.5Y 8/1 2.5Y 8/1 2.5Y 8/1	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ、貼付高台	丸石	内面灰輪 5Y 8/1 外面灰輪 5Y 8/1	55	
			E11	-	-	I	(7.9) 6.5								
67	灰輪陶器	碗 ³	G11	-	-	II	-	密(φ1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	5Y 6/4 2.5Y 7/2 2.5Y 7/2	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ、貼付高台	丸石	内面灰輪 5Y 6/2 外面灰輪 2.5Y 7/2 内外面自然輪付着	55	
			TP27	-	-	II	7.2 (3.4)								
68	灰輪陶器	碗 ³	H11	-	-	II	(16.8)	密(φ1mm以下の長石をわずかに含む)	不良	10YR 8/1 10YR 8/1 10YR 8/2	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ、貼付高台	丸石	内面灰輪 10YR 7/1 外面灰輪 10YR 8/1	55	
			G12	-	-	II	(6.4) 6.9								
69	灰輪陶器	碗 ³	G13	-	-	II	(15.5)	密(φ1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	5Y 7/1 5Y 7/1 5Y 7/1	回転ナデ/回転ナデ、底部コナデ、貼付高台	丸石	内面自然輪付着	55	
			F12	-	-	II	(7.7) 6.2								
70	灰輪陶器	梅花碗	G11	-	-	II	-	密	良好	2.5Y 8/2 2.5Y 8/1 2.5Y 8/1	回転ナデ/回転ナデ	丸石	-	56	14
71	灰輪陶器	皿	H11	-	-	II	(11.4)	密(φ1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	2.5Y 8/2 2.5Y 7/2 2.5Y 8/2	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ、貼付高台	丸石	内面灰輪 2.5Y 8/2 外面灰輪 2.5Y 8/2	56	
			G11	-	-	II	(5.6) 2.15								
72	灰輪陶器	皿	G11	-	-	II	(12.5)	密(φ1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	2.5Y 7/1 2.5Y 7/1 2.5Y 7/1	回転ナデ/回転ナデ、貼付高台	丸石	内面灰輪 2.5Y 8/1 外面灰輪 2.5Y 8/1	56	
			F11	-	-	II	(5.5) 2.1								
			練土	-	-	-	-								
73	灰輪陶器	皿	H11	-	-	II	(11.6)	密(φ1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	2.5Y 7/2 10YR 8/1 10YR 8/1	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ、貼付高台	丸石	内面灰輪 2.5Y 8/1 外面灰輪 10YR 8/1	56	
			E14	-	-	II	(14.2) (7.8) 2.5								
74	灰輪陶器	段皿	D12	-	-	I	(14.2)	密(φ1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	2.5Y 7/1 2.5Y 7/1 2.5Y 7/1	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ、貼付高台	丸石	内面灰輪 2.5Y 8/1 外面灰輪 2.5Y 8/1	56	
			E14	-	-	II	(7.8) 2.5								
75	灰輪陶器	段皿	H10	-	-	II	(11.4)	密(φ1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	10YR 8/1 10YR 8/1 10YR 8/1	回転ナデ/回転ナデ、貼付高台	丸石	内面灰輪 10YR 8/1 外面灰輪 10YR 8/1 内面自然輪付着	56	
			F11	-	-	II	(5.8) 1.9								
76	灰輪陶器	段皿	F11	-	-	II	(13.0)	密(φ1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	10YR 8/1 10YR 8/1 10YR 8/1	回転ナデ/回転ナデ、回転糸切瓶、貼付高台	丸石	-	56	
			F12	-	-	II	(5.8) 2.4								
77	灰輪陶器	段皿	G12	-	-	II	(9.8)	密(φ1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	10YR 8/1 10YR 8/1 10YR 8/1	回転ナデ/回転ナデ、貼付高台	丸石	-	56	14
78	灰輪陶器	折縁皿	F13	-	-	II	11.4	密(φ1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	2.5Y 8/1 10YR 8/1 2.5Y 8/1	回転ナデ/回転ナデ、回転糸切瓶、貼付高台	丸石	内面灰輪 5Y 7/2 外面灰輪 5Y 7/2	56	14
79	灰輪陶器	広口瓶	D14	-	-	II	-	密(φ1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	2.5Y 7/1 2.5Y 7/1 2.5Y 8/2	回転ナデ/回転ナデ	丸石	内外面自然輪付着	56	14
80	灰輪陶器	広口瓶	E13	-	-	II	-	密(φ4mm以下の長石をわずかに含む)	良好	2.5Y 7/1 2.5Y 7/1 2.5Y 7/1	回転ナデ/回転ナデ	丸石	内面灰輪 5Y 6/3 外面灰輪 5Y 6/2	56	14
81	灰輪系陶器	甕	F11	-	-	II	(21.8)	やや粗(φ2mm以下の長石、石英、チャートを含む)	良好	10YR 6/3 10YR 7/2 10YR 6/3	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	-	-	56	14
82	灰輪系陶器	甕	H11	-	-	II	(16.8)	やや粗(φ2mm以下の長石、チャートを含む)	良好	10Y 5/1 X 4 10Y 5/1	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	-	-	56	14
83	灰輪系陶器	甕	G12	-	-	II	-	やや粗(φ1mm以下の長石、石英、チャートを含む)	良好	5Y 5/1 5Y 5/1 5Y 4/1	回転ナデ/回転ナデ	-	-	56	14

表28 土器観察表(6)

掲載 番号	種別	器種	出土位置			大きさ (cm)	口縁部 残存率 (0/12)	胎土	焼 成	色調 (内面) (外面)	器面調整 内面/外面	分類・ 時期	文様・その他	挿 図	図 像
			出土区・ グリッド	遺構番号	層位										
84	縁輪陶器	甕	E11	-	I	- (1.4)	-	密	良好 7.5Y 6/3 5Y 8/1	回転ナデ/回転ナ デ	-	内面縁輪 7.5Y 6/3 外面縁輪 7.5Y 6/3	巻 頭 2	56	
85	山菜碗 (尾葉型)	碗	D9	-	II	- (7.0) (1.7)	-	やや粗(φ2mm以下 の長石、チャートを含 む)	良好 2.5Y 7/1 2.5Y 7/1 2.5Y 7/1	回転ナデ/回転ナ デ、回転糸切敷 貼付高台	第5型式	底部外面釉敷 あり	56	15	
86	山菜碗 (尾葉型)	碗	E10	-	I	- (7.3) (1.8)	-	やや粗(φ1mm以下 の長石、石英を含 む)	良好 2.5Y 7/2 2.5Y 7/2 2.5Y 7/2	回転ナデ/回転ナ デ、回転糸切敷 貼付高台	第6型式	内面自然釉付 着、底部外面 釉敷あり	56		
87	山菜碗 (尾葉型)	片口鉢	H10	-	III	- (2.0)	1.0	やや粗(φ1mm以下 の長石、石英、 チャートを含む)	良好 10YR 7/3 10YR 6/2 10YR 7/3	回転ナデ/回転ナ デ	第4型式	外面自然釉付 着	56	15	
88	山菜碗 (尾葉型)	片口鉢	C14	-	III	- (3.8)	1.0	やや粗(φ2mm以下 の長石、チャートを含 む)	良好 2.5Y 7/1 2.5Y 7/2 2.5Y 7/1	回転ナデ/回転ナ デ	第5型式	-	56	15	
89	山菜碗 (尾葉型)	片口鉢	D10	-	III	- (2.6)	1.0	やや粗(φ1mm以下 の長石、石英、 チャートを含む)	良好 10YR 7/1 10YR 7/1 10YR 7/1	回転ナデ/回転ナ デ	第6型式	内面自然釉付 着	56	15	
90	山菜碗 (東農型)	碗	D10	-	III	- (7.3) (2.7)	-	密(φ1mm以下の長 石をわずかに含む)	良好 2.5Y 7/1 2.5Y 7/1 2.5Y 7/1	回転ナデ/回転ナ デ、回転糸切敷 貼付高台	浅間窯 1	内面自然釉付 着、底部外面 釉敷あり	57	15	
91	山菜碗 (東農型)	碗	D11	-	III	- (5.9) (2.9)	-	密(φ1mm以下の長 石をわずかに含む)	良好 2.5Y 7/1 2.5Y 7/2 2.5Y 7/2	回転ナデ/回転ナ デ、回転糸切敷 貼付高台	丸石	内面自然釉付 着、底部外面 釉敷あり	57	15	
92	山菜碗 (東農型)	碗	TP27	-	III	(15.0) (6.5) 5.5	2.0	密	良好 10YR 7/2 10YR 7/2 10YR 7/1	回転ナデ/回転ナ デ、回転糸切敷 貼付高台	白土原	底部外面釉敷 あり	57	15	
93	山菜碗 (東農型)	碗	E12	-	III	(13.6) (5.4)	1.1	密	良好 10YR 8/3 2.5Y 7/2 10YR 8/3	回転ナデ、指圧痕 /回転ナデ、回転 糸切敷、貼付高台	明和1	底部外面釉敷 あり	57	15	
94	山菜碗 (東農型)	碗	C15	-	III	(4.8) (3.0)	-	密	良好 10YR 7/1 10YR 7/2 10YR 7/1	回転ナデ、指圧痕 /回転ナデ、回転 糸切敷、貼付高台	明和1	内面自然釉付 着、底部外面 飯目状文脈・ 釉敷あり	57		
95	山菜碗 (東農型)	碗	D9	-	III	- (8.3) (1.4)	-	密(φ1mm以下の長 石をわずかに含む)	良好 10YR 8/1 10YR 8/1	回転ナデ、指圧痕 /回転ナデ、回転 糸切敷、貼付高台	大塚大塚 1	内面自然釉付 着、底部外面 釉敷あり	57	15	
96	山菜碗 (東農型)	碗	D16	-	III	- (4.0) (2.4)	-	密	良好 5Y 7/1 5Y 7/1 5Y 7/1	回転ナデ/回転ナ デ、回転糸切敷 貼付高台	大谷洞14	底部外面釉敷 あり	57	15	
97	山菜碗 (東農型)	碗	D14	-	III	- (1.5)	-	密	良好 2.5Y 7/1 2.5Y 7/1 2.5Y 7/1	回転ナデ/回転ナ デ、貼付高台	大塚東1	底部外面釉敷 あり	57	15	
98	山菜碗 (東農型)	碗	D14	-	III	- (4.3) (1.5)	-	密	良好 10YR 8/1 10YR 8/1	回転ナデ/回転ナ デ、回転糸切敷	羅之島	底部外面飯目 状文脈あり	57	15	
99	山菜碗 (東農型)	碗	F12	-	I	(10.4) (2.7) 2.0	1.0	密(φ1mm以下の長 石をわずかに含む)	良好 10YR 6/1 10YR 6/1 2.5Y 6/1	回転ナデ/回転ナ デ、回転糸切敷	生田2	-	57	15	
100	山菜碗 (東農型)	碗	E16	-	III	- (4.2) (1.5)	-	密	良好 10YR 7/4 10YR 7/4 10YR 6/1	回転ナデ/回転ナ デ、回転糸切敷	生田2	-	57		
101	山菜碗 (東農型)	小皿	E12	-	III	(8.3) (4.0) 2.2	1.0	密	良好 2.5Y 7/2 2.5Y 7/2 2.5Y 7/1	回転ナデ/回転ナ デ、回転糸切敷	窯洞1	内面自然釉付 着	57		
102	山菜碗 (東農型)	小皿	西 砂土	-	-	7.8 4.3 1.8	11.5	密(φ2mm以下の長 石をわずかに含む)	良好 5Y 7/1 5Y 7/1 5Y 7/1	回転ナデ、指圧痕 /回転ナデ、回転 糸切敷	窯洞1	底部外面飯目 状文脈あり	57		
103	山菜碗 (東農型)	小皿	C10	-	III	(8.0) (5.0) 1.8	2.0	密(φ1mm以下の長 石をわずかに含む)	良好 2.5Y 7/1 2.5Y 7/1 2.5Y 7/1	回転ナデ、指圧痕 /回転ナデ、回転 糸切敷	白土原1	-	57		

表29 土器観察表(7)

掲載番号	種別	器種	出土位置			大きさ (cm)	口縁部 残存率 (5/12)	胎土	底 成	色澤 (内面) (外面) (断面)	器蓋調整 内面/外面	分類・ 時期	文様・その他	掲載 図	図版	
			出土区・ グロット	遺構番号	層位											
104	山形甕 (東濃型)	小瓶	C10	-	-	II	(7.5) (5.4) 0.9	1.0	縹 (ϕ 1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	2.5Y 7/1 2.5Y 7/1 2.5Y 7/1	回転ナデ、摺り肌 /回転ナデ、回転 糸切肌	明和1~ 大塚大割 4	-	57	
105	山形甕 (東濃型)	小瓶	B14	-	-	II	- (4.8) (0.4)	-	縹	良好	10YR 7/2 10YR 7/2 10YR 7/1	回転ナデ/回転ナ デ、回転糸切肌	大塚東1 ~東之島 3	-	57	
106	土製品	陶丸	D15	-	-	II	高さ 2.0 幅 2.0	-	縹	良好	- 2.5Y 7/2 2.5Y 7/2	ナデ、磨面仕肌	東濃	外面自然磨付 着	57	
107	古瀬戸	天目茶 碗	B16	-	-	II	- (5.2)	-	縹 (ϕ 2mm以下の長石をわずかに含む)	良好	2.5Y 3/1 2.5Y 7/2 2.5Y 7/1	回転ナデ/回転ナ デ、回転ヘラケズ リ	内面鉄軸 2.5Y 3/1 外面鉄軸 2.5Y 3/1	後Ⅱ~Ⅳ	巻頭 2	
108	古瀬戸	縁鉢小瓶	西 排土	-	-	-	- (1.5)	1.0	縹	良好	10YR 7/3 10YR 7/3 10YR 7/3	内面鉄軸 /回転ナ デ	後Ⅳ古	内面鉄軸 2.5Y 7/2 外面鉄軸 10YR 7/4	巻頭 2	
109	古瀬戸	縁鉢小瓶	C14	-	-	II	(10.0) (1.8)	1.0	縹 (ϕ 1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	2.5Y 7/2 2.5Y 7/2 2.5Y 7/1	回転ナデ/回転ナ デ、回転ヘラケズ リ	内面鉄軸 7.5Y 6/2 外面鉄軸 7.5Y 6/2	後Ⅳ古	巻頭 2	
110	古瀬戸	煎瓶	C13	-	-	I	- (2.4)	1.0	縹	良好	2.5Y 8/2 2.5Y 8/2 2.5Y 8/2	回転ナデ/回転ナ デ	内面鉄軸 2.5Y 7/3 外面鉄軸 2.5Y 7/3 内面磨目	後Ⅳ古	巻頭 2	
111	古瀬戸	折縁深 皿	C10	-	-	II	(31.6) (3.8)	1.1	縹	良好	2.5Y 7/2 5Y 7/2 5Y 7/1	回転ナデ/回転ナ デ	中Ⅱ	内面鉄軸 5Y 7/2 外面鉄軸 5Y 7/2	巻頭 2	
112	古瀬戸	折縁深 皿	B14	-	-	II	- (1.8)	1.0	縹 (ϕ 1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	2.5Y 7/1 2.5Y 7/1 2.5Y 7/1	回転ナデ/回転ナ デ	内面鉄軸 5Y 6/4 外面鉄軸 5Y 6/4	後Ⅰ	巻頭 2	
113	古瀬戸	直縁大 皿	西	-	-	I	(33.0) (4.6)	1.0	縹 (ϕ 1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	5Y 7/3 5Y 7/3 7.5Y 7/1	回転ナデ/回転ナ デ	内面鉄軸 5Y 7/3 外面鉄軸 5Y 7/3	後Ⅱ	巻頭 2	
114	古瀬戸	縁鉢	B14	-	-	II	- (2.2)	1.0	縹 (ϕ 1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	7.5YR 6/6 7.5YR 6/6 7.5YR 8/4	回転ナデ/回転ナ デ	内面鉄軸 7.5Y 6/6 外面鉄軸 7.5Y 6/6	後Ⅳ古	巻頭 2	
115	古瀬戸	筒型香 炉	C11	-	-	I	(8.8) (3.6)	1.0	縹 (ϕ 0.5mm以下の長石をわずかに含む)	良好	10YR 7/1 5Y 7/1 5Y 7/1	回転ナデ/回転ナ デ、磨面付	内面鉄軸 2.5Y 6/3 外面鉄軸 5Y 7/3	後Ⅳ古	巻頭 2	
116	古瀬戸	仏供	E16	-	-	II	- 4.6 (1.4)	-	縹 (ϕ 2mm以下の長石、チャートをおそらく含む)	良好	7.5YR 7/3 7.5YR 7/4 7.5YR 7/3	回転ナデ/回転ナ デ、回転糸切肌	内面鉄軸 7.5YR 8/4	後Ⅳ古	巻頭 2	
117	古瀬戸	桶	C15	-	-	II	- (7.1)	-	縹 (ϕ 1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	10YR 4/4 10YR 4/4 10YR 8/2	回転ナデ/回転ナ デ	内面鉄軸 10YR 4/4 外面鉄軸 10YR 4/4	後Ⅳ	巻頭 2	
118	大塚	梅花皿	西 排土	-	-	-	- (1.8)	1.0	縹 (ϕ 1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	2.5Y 7/2 2.5Y 7/2 2.5Y 7/2	回転ナデ/回転ナ デ	内面鉄軸 2.5Y 7/2 外面鉄軸 2.5Y 7/2 内面段状文 (5条)	第1段階	巻頭 2	
119	大塚	折縁深 皿	TP24	-	-	II	(8.6) (2.3)	1.2	縹	良好	7.5YR 8/1 7.5YR 8/1 7.5YR 8/1	回転ナデ/回転ナ デ、回転ヘラケズ リ	内面鉄軸 2.5Y 6/3 外面鉄軸 2.5Y 7/2 外面鉄軸 7.5YR 3/2	第3段階 後半~第 4段階前 半	被熱あり	巻頭 2
120	大塚	縁鉢	東	-	-	I	- (3.9)	1.0	縹 (ϕ 1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	7.5YR 3/2 7.5YR 3/2 10YR 8/2	回転ナデ/回転ナ デ	内面鉄軸 2.5Y 3/2 外面鉄軸 7.5YR 3/2	第2段階	巻頭 2	
121	常滑	甕	西 排土	-	-	-	- (3.8)	1.0	縹 (ϕ 1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	10YR 8/3 2.5Y 4/2 10YR 8/1	回転ナデ/回転ナ デ	内面自然磨付 着	I b型式	58	

表30 土器観察表(8)

掲載番号	種別	器種	出土位置			大きさ (cm)	口縁部 残存率 (%/12)	胎土	焼成	色調 (内面) (外面)	器面調整 内面/外面	分類・ 時期	特徴・その他	挿図	図版
			出土区・ グリット	遺構番号	層位										
122	常滑	片口鉢 耳瓶	西	跡土	—	— (3.9)	1.0	や今粗(φ1mm以下の長石・石英・チャートをおわずかに含む)	良好 10YR 5/4 10YR 5/3 10YR 5/1	回転ナデ、捺圧瓦 瓶/回転ナデ	8型式	外面押印あり	58	巻頭 2	
123	賀島 陶器部	白磁碗	C11	—	—	I (7.0) (2.1)	—	密	良好 2.5Y 8/2 2.5Y 8/2 2.5Y 8/2	回転ナデ/回転ヘ ラケズリ、ケズリ 出し高台	—	—	58	巻頭 2	
124	賀島 陶器部	青磁皿	D10	—	—	II (9.9)	—	密	良好 5Y 7/3 5Y 7/3 5Y 8/1	回転ナデ/回転ナ デ	龍泉式	内面灰釉 5Y 7/3 外面灰釉 5Y 7/3 見込文様あり	58	巻頭 2	
125	山形輪 (東濃型)	碗	TP15	—	—	3 造成土 (6.0) (2.6)	—	密(φ1mm以下の長石をおわずかに含む)	普通 10YR 8/1 10YR 8/1 10YR 8/1	回転ナデ/回転ナ デ、回転糸切痕、 足付高台	窯割1	内面自然釉付着、底面外面 磨毒(用)、板 目状気泡・粒 径痕あり	59	15	
126	山形輪 (東濃型)	碗	TP15	—	—	3 造成土 (5.6) (1.9)	—	密(φ2mm以下の長石をおわずかに含む)	普通 2.5Y 7/1 2.5Y 7/2 2.5Y 7/1	回転ナデ、捺圧瓦 /回転ナデ、回転 糸切痕、足付高台	窯割1	底面外面磨毒 (足号)、板目 状気泡・粒 径痕あり	59	15	

表31 木製品観察表

掲載番号	器種	出土位置			大きさ(cm)			木取り	年輪	樹種	備考	挿図	図版	
		出土区・ グリット	遺構番号	層位	長さ	幅	厚さ							
48	杭	—	SP17	—	—	53.5	11.0	6.0	芯持ち	3本/1cm	—	—	54	15

第4章 自然科学分析

第1節 分析の概要と成果

分析の経緯 SP17はいわゆる杭穴で、杭の根本が残存していた。形態や加工痕から中世以前の杭である可能性も考えられたが、詳細な時期を検討することが困難であるため、放射性炭素年代測定を実施した。

分析の概要と所見 年代測定の結果、杭の年代は1,672AD～1,954ADで近世前期から現代に比定され、包含層の上層から打ち込まれた時期的に新しいと遺構であることが判明した。

第2節 放射性炭素年代測定

1 はじめに

SP17から出土した杭について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った¹⁾。分析は、伊藤茂・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・ZaurLomtadidze・小林克也（株式会社パレオ・ラボ）が担当した。

2 試料と方法

試料は、SP17から出土した杭（48）1点（試料No. 1：PLD-43102）である。試料には、最終形成年輪は残っていなかったが、辺材部が残っていた。測定試料の情報、調製データは表32のとおりである。

試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製1.5SDH）を用いて測定した。得られた¹⁴C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、¹⁴C年代、暦年代を算出した。

表32 測定試料及び処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-43102	試料No.1 遺構：SP17 遺物No.48	種類：生材 試料の性状：辺材部 器種：杭 状態：wet	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L)

3 結果

表33に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（ $\delta^{13}\text{C}$ ）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した¹⁴C年代、図68に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

¹⁴C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。¹⁴C年代（yrBP）の算出には、¹⁴Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した¹⁴C年代誤差（ $\pm 1\sigma$ ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の¹⁴C年代がその¹⁴C年代誤差内に入る確率が68.27%であることを示す。

暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が5568年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い(^{14}C の半減期5730 \pm 40年)を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年較正にはOxCal1.4(較正曲線データ: Post-bomb atmospheric NH2)を使用した。なお、1 σ 暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する68.27%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に2 σ 暦年代範囲は95.45%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

表 33 放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP \pm 1 σ)	^{14}C 年代 (yrBP \pm 1 σ)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-43102 試料No. I SP17	-28.83 \pm 0.23	140 \pm 18	140 \pm 20	Post-bomb NH2 2013, Reimer et al 2020:	Post-bomb NH2 2013, Reimer et al 2020:
				1683-1697 cal AD (9.12%)	1672-1711 cal AD (14.88%)
				1723-1736 cal AD (8.02%)	1718-1744 cal AD (11.28%)
				1756-1760 cal AD (2.35%)	1748-1766 cal AD (5.69%)
				1801-1813 cal AD (6.96%)	1773-1778 cal AD (0.96%)
				1835-1880 cal AD (27.31%)	1798-1824 cal AD (10.31%)
				1910-1929 cal AD (11.84%)	1831-1893 cal AD (32.57%)
				1933-1938 cal AD (2.14%)	1905-1943 cal AD (18.52%)
				1952-1952 cal AD (0.23%)	1951-1954 cal AD (1.24%)
				1954-1954 cal AD (0.30%)	

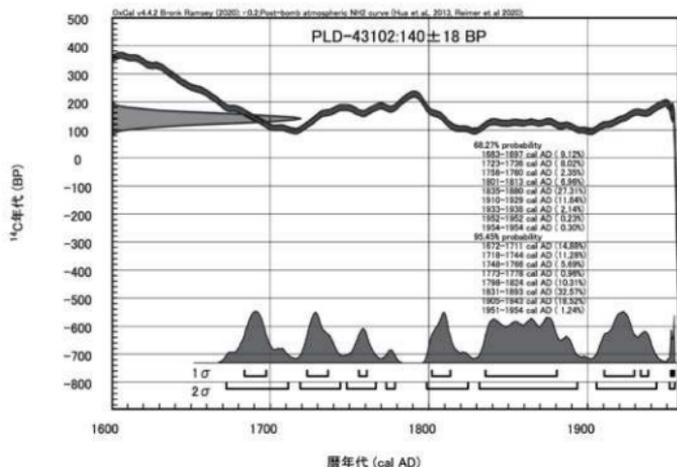


図 68 暦年較正結果

4 考察

以下、2 σ 暦年代範囲 (確率95.45%) に着目して結果を整理する。

SP17 出土の杭 (試料 No. 1: PLD-43102) は、1672-1711 cal AD (14.88%)、1718-1744 cal AD (11.28%)、1748-1766 cal AD (5.69%)、1773-1778 cal AD (0.96%)、1798-1824 cal AD (10.31%)、1831-1893 cal AD (32.57%)、1905-1943 cal AD (18.52%)、1951-1954 cal AD (1.24%) で、17 世紀後半から 20 世紀中頃の暦年代を示した。これは、近世前期から現代に相当する。

なお、木材の場合、最終形成年輪部分を測定すると枯死若しくは伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると、最終形成年輪から内側であるほど古い年代が得られる (古木効果)。今回の試料は最終形成年輪が残っていなかったが、辺材部が残っており、測定結果は実際に枯死若しくは伐採された年代に近い年代を示していると考えられる。

注

- 1) 記載にあたっては以下の文献を参考にした。

中村俊夫 2000 「放射性炭素年代測定法の基礎」 『日本先史時代の ^{14}C 年代』、日本第四紀学会。

Bronk Ramsey, C. 2009 「Bayesian Analysis of Radiocarbon dates」 『Radiocarbon』 51(1)

Hua, Q., Barbetti, M. Rakowski, A. Z. 2013 「Atmospheric Radiocarbon for the Period 1950- 2010」 『Radiocarbon』 55(4).

Reimer, P. J., Austin, W. E. N., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P. G., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R. L., Friedrich, M., Grootes, P. M., Guilderson, T. P., Hajdas, I., Heaton, T. J., Hogg, A. G., Hughen, K. A., Kromer, B., Manning, S. W., Muscheler, R., Palmer, J. G., Pearson, C., van der Plicht, J., Reimer, R. W., Richards, D. A., Scott, E. M., Southon, J. R., Turney, C. S. M., Wacker, L., Adolphi, F., Büntgen, U., Capano, M., Fahrni, S. M., Fogtmann-Schulz, A., Friedrich, R., Köhler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reinig, F., Sakamoto, M., Sookdeo, A. and Talamo, S. 2020 「The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP)」 『Radiocarbon』 62(4), 725- 757, doi:10.1017/RDC.2020.41. <https://doi.org/10.1017/RDC.2020.41> (cited 12 August 2020)

第5章 総括

第1節 遺構の変遷

本節では、今回の発掘区において時期が判断できた遺構を基に、5つの時期に分けて整理する¹⁾(図69・70)。

I期

美濃須衛Ⅱ期以前をI期とした。当該期以前の遺構は確認できなかった。

Ⅱ期

美濃須衛Ⅲ期から美濃須衛Ⅴ期の遺構をⅡ期に含めた。発掘区で遺構が確認できるのは当該期以降である。遺構は2基のみで極めて少ない。いずれも須恵器を含むが細片のため、詳細な時期は不明である。包含層からは、美濃須衛Ⅲ期から美濃須衛Ⅴ期にかけての須恵器が出土しており、この頃のものとする。当該期の遺構は、発掘区の北部に認められる。主要遺構は確認できなかった。

Ⅲ期

大原2号窯式から西坂1号窯式の遺構をⅢ期に含めた。当該期の遺構は、大原2号窯式までは確認できない。遺構は虎溪山1号窯式以降から認められるようになり、丸石2号窯式のもの为主体となる。一方、明和27号窯式以降は、再び遺構が確認できなくなる。当該期の遺構の分布的な特徴は見い出せなかった。主要遺構にはSB8がある。SB8の長軸方位は南北軸から東に傾いており、北西方向に向かって低くなる地形の影響を受けたと考える。

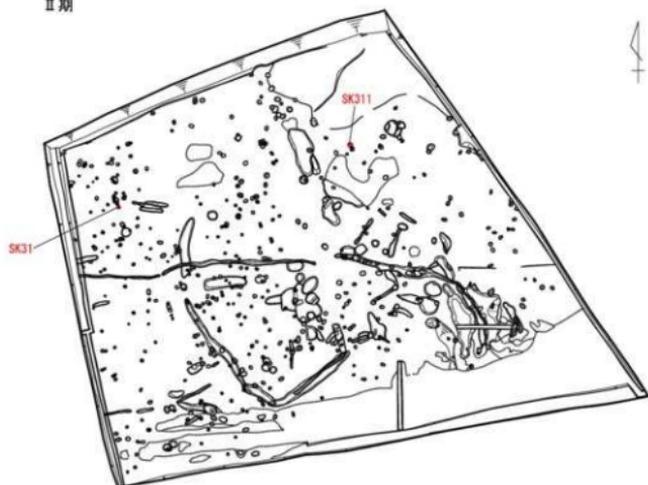
Ⅳ期

山茶碗第3型式から山茶碗第5型式までの遺構をⅣ期に含めた。当該期の遺構は、山茶碗第3型式までは確認できない。遺構は、山茶碗第4型式以降に確認できるようになり、山茶碗第5型式のものが主体となる。当該期も前時期同様に遺構の分布的な特徴は見い出せない。主要遺構としてはSB1・SB2・SB7・SD26がある。いずれも長軸方位が南北軸から西、若しくは東に傾いており、Ⅲ期同様に地形の影響を受けたと考える。

Ⅴ期

山茶碗第6型式から山茶碗第11型式までの遺構をⅤ期に含めた。当該期は、前時期に引き続き遺構が確認できる。当該期の遺構は、山茶碗第6型式のものが主である。ただし、重複関係から時期を判断し、山茶碗第6型式以降としたものも多い。また、遺構から明和1号窯式以降の遺物は出土していない。当該期の遺構の分布は発掘区の西部に偏る。主要遺構はSB3～SB6、SB9、SA3、SA4、SD2・SD8、SD6・SD7・SD13、SD11・SD16・SD18がある。遺構の長軸方位は、SB4、SB6、SA4、SD11・SD16・SD18のように南北軸から西、若しくは東に傾き、地形の影響を受けたと考えられるものが存在する一方で、SB3、SB5、SB9、SA3、SD2・SD8、SD6・SD7・SD13のように東西・南北軸に近いものも認められるようになる。地形との関係から排水溝としての機能を想定したSD11・SD16・SD18と、その内側にあるSB4、SB6、SA4は向きが類似することや、位置関係から同時期のものの可能性がある。重複関係から、SB5はSB6よりも新しく、長軸方位が東西・南北軸に近いものの方が後出す

Ⅱ期



Ⅲ期

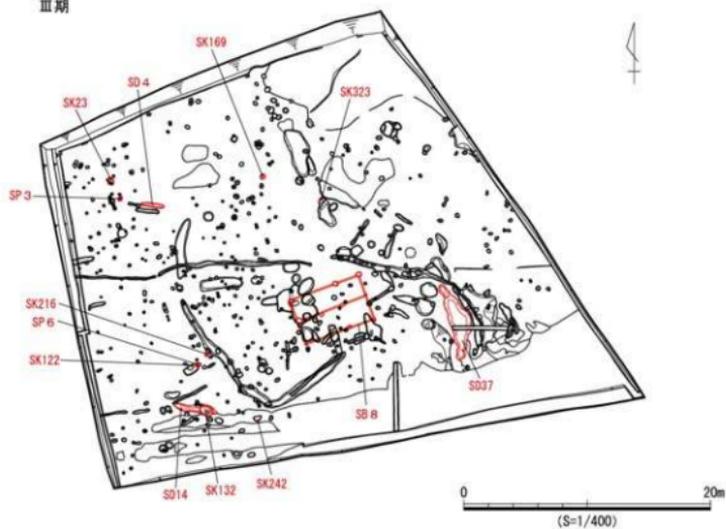


图 69 遺構変遷図 (1)

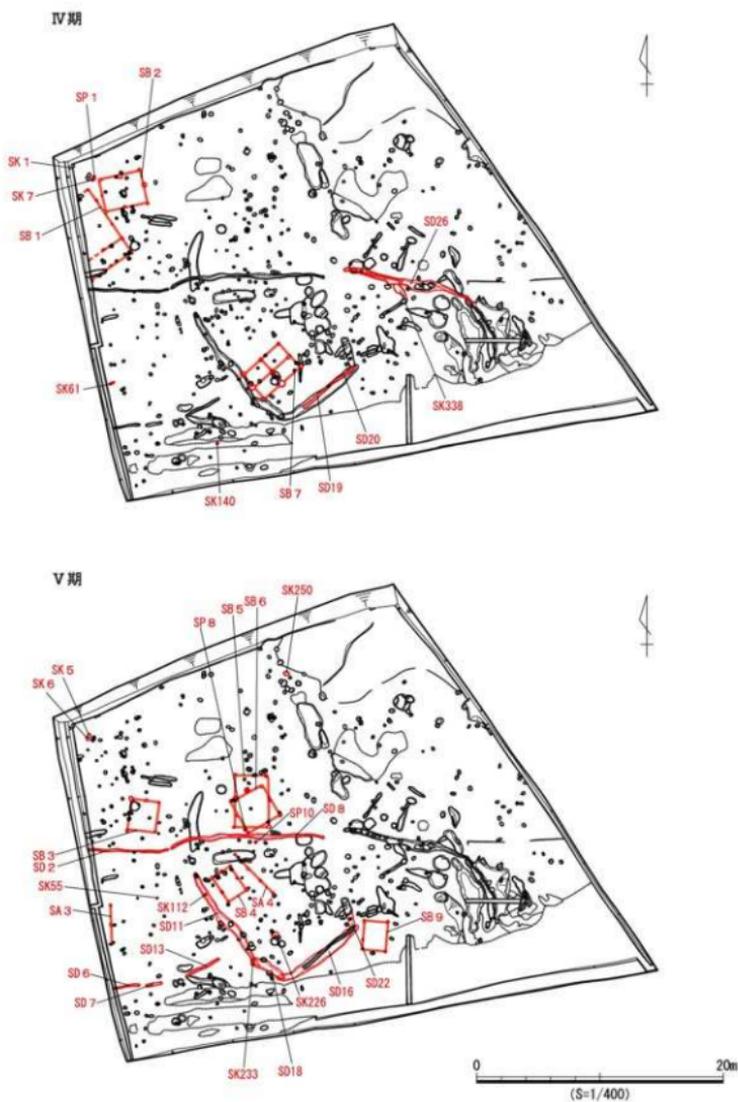


図 70 遺構変遷図 (2)

る可能性があるが、詳細は不明である。

VI期

大塚第1段階以降をVI期とした。当該期以降は遺構が激減する。SP17からは、近世前期から昭和時代と考えられる杭が出土した(第4章)。ただし、包含層からは当該期以降の遺物は出土していないため、この杭は包含層より上から打ち込まれた可能性が高い。発掘区東壁では包含層よりも上層で畦畔の痕跡(図6-1柱状図④)を確認したため、ある時期から耕作地として利用されたようであるが、詳細な時期は不明である。

注

1) 詳細な時期が判断できた遺構についてのみ、図69・70に示した。

第2節 遺物について

本節では発掘区から出土した遺物について検討する。種別毎に土器の出土量の推移を整理することで、土地利用状況の消長を検証し、まとまった量が出土した丸石2号窯式の灰軸陶器の調整や組成比について検討することで遺跡の性格を考える一助としたい。

1 出土土器の推移

発掘作業で記録できた遺構の状況は遺跡に残された最終的な痕跡で、遺構のみで遺跡の消長を把握するのは困難である。そこで、遺構出土遺物と包含層出土遺物を対象とし、種別毎に土器の出土量の推移を整理することで、遺跡の消長を把握する一助としたい¹⁾。なお、土器の編年は既存の研究に従う²⁾。分類可能なものについて、時期毎の接合後破片数を種別毎に表34～36に示す。詳細な時期が特定できないものは、接合後破片数を想定される時期（期間）の合計数で按分した数量で示す。

須恵器

美濃須恵Ⅲ期第3小期からⅤ期第1小期の遺物が認められるが、2点のみと極めて少ない。器種は有台坏と甕が認められる。

灰軸陶器

虎浜山1号窯式から丸石2号窯式までのものに限られる。丸石2号窯式が主体で、灰軸陶器全体の91%を占める。器種は碗・輪花碗・皿・段皿・折縁皿・耳皿・長頸瓶・広口瓶が認められる。

山茶碗

尾張型と東濃型が認められるが、いずれの時期も東濃型が主体をなし、主に在地で生産されたものが利用されていたようである。尾張型は第4型式から第6型式まで、東濃型は谷迫間2号窯式から生田2号窯式までのものが認められる。尾張型は、第5型式が主で、第4型式と第6型式のものはほとんど認められない。東濃型は丸石3号窯式から大畑大洞4号窯式までのものが多く、特に明和1号窯式のものが多。器種は碗・小皿・片口鉢が認められる。

古瀬戸

中Ⅲ期から後Ⅳ期までのものが認められる。ただし、合計13点と数は少ない。中Ⅲ期から後Ⅲ期までのものは少なく、ほとんどが後Ⅳ期で古瀬戸全体の66%を占める。藤澤良祐氏は、前期から中Ⅲ期までは鎌倉を中心に出土するが、それ以降は鎌倉以外の港湾遺跡・城館跡・寺院跡でも出土量が増加し始め、後Ⅰ・Ⅱ期には全国的に出土するようになることや、後Ⅳ期古段階には東海地域や南関東にかけて村落部を含めて出土量が増加することを指摘している³⁾。中Ⅲ期から後Ⅲ期までの土器は認められるものの数は僅かで、生産地から近いことが関係している可能性がある。一方、後Ⅳ期に遺物が増加する点は、藤澤氏が指摘した傾向と一致する。器種は天目茶碗・縁輪小皿・盤類・折縁深皿・卸目付大皿・播鉢・壺類・仏供・桶が認められる。

以上、出土土器の推移について検討した。今回の発掘区では7世紀後半から15世紀後半までの土器を確認したが断続的であり、大原2号窯式並行と明和27号窯式並行から山茶碗第3型式並行の土器は認められなかった。ただし、土器の量は一定ではなく、大きく3つのピークを確認した(表37)。1つ目のピークは、丸石2号窯式で、Ⅲ期の中頃にあたる。時期が判断出来た土器の中でこの時期のものが最も多く、土器全体の52%を占める。2つ目のピークは、浅間窯下1号窯式から明和1号窯式ま

表34 須恵器・灰釉陶器の破片数

器種	美濃東濃部						東濃部			合計
	Ⅲ 小期 第3	Ⅳ 小期 第1	Ⅳ 小期 第2	Ⅳ 小期 第3	Ⅴ 小期 第1	小計	虎 溪 山 1	丸 石 2	小計	
須恵器	有台坏	1				1	-		-	2
	甕					1				
灰釉陶器	碗					-	8	80	89	187
	輪花碗						1			
	皿						6	41	47	
	段皿						2	40	42	
	折縁皿							3	3	
	耳皿						1		1	
	長頸瓶							1	1	
広口瓶							2	2		
確定	0	0	0	0	0	17	168	185		
按分	0.25	0.25	0.25	0.75	0.5	2	1	1	2	
総計	0.25	0.25	0.25	0.75	0.5	2	18	169	187	

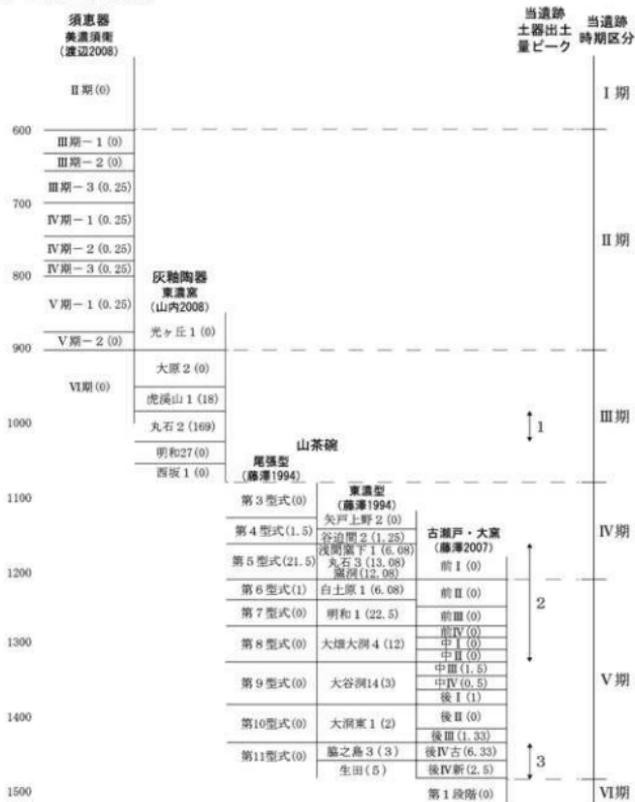
表35 山茶碗の破片数

器種	尾張型			小計	東濃型										合計		
	第4 型式	第5 型式	第6 型式		谷 迫 間 2	浅 間 瀬 下 1	丸 石 3	窯 洞 1	白 土 原 1	明 和 1	大 畑 大 洞 4	大 谷 洞 14	大 洞 東 1	脇 之 島 3		生 田 2	小計
碗	20			21	1	1	8	3	8	17	7	3	1	2	5	64	85
	1				1	3			1								
					2				1								
小皿				0	4			10						35	35		
片口鉢	1	1	1	3											0	3	
確定	1	21	1	23	1	1	8	7	18	17	7	3	1	2	5	70	
按分	0.5	0.5	0	1	0.25	5.08	5.08	5.08	1	5.5	5	0	1	1	0	29	123
総計	1.5	21.5	1	24	1.25	6.08	13.08	12.08	19	22.5	12	3	2	3	5	99	

表36 古瀬戸の破片数

器種	用途	古瀬戸中期		古瀬戸後期				小計	合計	
		Ⅲ	Ⅳ	I	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ古			Ⅳ新
碗 皿	天目茶碗	喫茶具						1	1	2
	縁軸小皿	供膳具						1	1	
鉢 盤	盤類	供膳具						1	2	9
	折縁深皿	供膳具	1		1				2	
	卸目付大皿	調理具					1		1	
	摺鉢	調理具						1	2	
その他	壺類	貯蔵具	1						1	1
	仏供 桶	神仏具 その他						1	1	2
確定		1	0	1	0	1	4	0	7	
按分		0.5	0.5	0	0	0.33	2.33	2.33	6	13
総計		1.5	0.5	1	0	1.33	6.33	2.33	13	

表37 土器出土量の推移



で、IV期の後半からV期の前葉にあたり、この間は安定して量が認められる。なかでもIV期後半（山茶碗第5型式）が多く、時期が山茶碗全体の53%を占める。3つ目のピークは、脇之島3号窯式から生田2号窯式までで、この時期に再び土器の量が増加する。特に古瀬戸後IV期が多いが、3つ目のピークは1つ目と2つ目のピークには及ばない。

2 丸石2号窯式の土器について

今回の発掘区からは、丸石2号窯式の灰釉陶器の碗や皿類がまとめて出土した。ここでは、これらについて器種毎の調整や器種組成の比率を整理し、生産地との比較をすることで遺跡の性格について検討したい。

碗の分類

生産地では、口径と器高の比率から、碗を碗A（浅碗）と碗B（深碗）に分けられることや、それぞれに法量差があることが指摘されている⁴⁾。一方、発掘区から出土した碗は底部のみが残存するのがほとんどで、生産地と同じ基準の分類は困難である。ただし、碗Aと碗Bは高台の高さに差があり碗Aより碗Bの方が高いことや、高台の径は器の大きさによって左右されることが指摘されている⁵⁾。そこで今回は、碗の高台の径と高さをもとに、碗Aと碗Bの分類を試みたい⁶⁾。発掘区から出土した碗と、生産地から出土した碗の高台の径と高さを計測した結果を図71に示した⁷⁾。発掘区から出土した碗の高台の径に着目すると、5.2cmから6.0cmのもの、6.4cmから8.5cmのもの、9.2～9.5cmのもの3つに分けられる。前者から小・中・大とする。小・中・大それぞれの高台の高さをみると、小については0.55cmから0.60cmにまとまり、これを「1群」とする。いずれも低く、生産地の碗Aの分布と重なる。一方、中については、高さが0.6cmから1.6cmまで幅広く分布する。中の範囲と重なる生産地における碗の高台の高さをみると碗Aは0.80cm以下、碗Bは0.9cm以上となる。中のうち、高台が0.85cm以下と低く、概ね生産地における碗Aの分布と重なるものを「2群」、高台が1.0cm以上と高く、概ね生産地における碗Bの分布と重なるものを「3群」とする。大は2点のみで、これを「4群」とする。大は生産地の分布とは重ならないが、生産地のいずれの碗Bよりも高台は径が大きく高さが高い。高台の低い1群と2群を碗A、高台の高い3群と4群を碗Bとして論を進める。

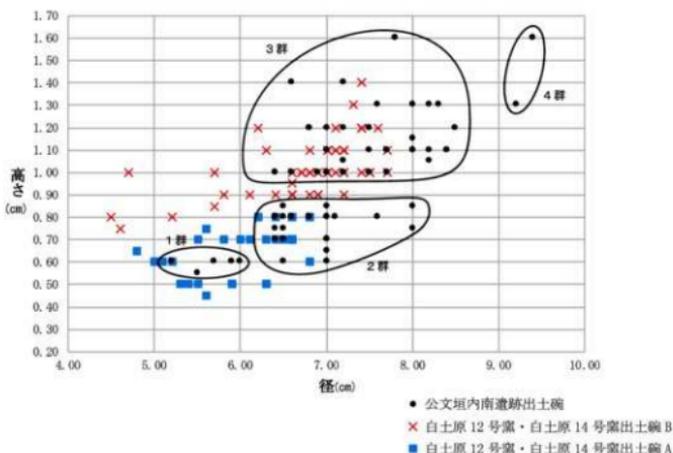


図71 高台法量散布図

調整について

碗Aと碗Bを分類したところで、各器種の底部外面の調整について、生産地と発掘区から出土したものを比較する。当該期の灰軸陶器の底部外面には回転ヘラケズリやナデを施すものと、回転糸切痕跡をそのまま残すものがあり、当該期の典型例とされる白土原12号窯及び白土原14号窯では器種毎の調整について整理されている⁹⁾。これによると碗Aは、白土原12号窯では回転糸切痕を残すものや回転ナデを施すものが多く、白土原14号窯では半数以上が回転糸切痕を残すとされ、碗Aは概して回転ヘラケズリを施すものが少ない。一方で碗Bは、いずれもの窯も回転ヘラケズリを施すものが多い。皿は、白土原12号窯では約半数に回転ヘラケズリを施し、白土原14号窯は回転糸切痕を残すものが多いとされ、窯によって傾向が異なる。段皿は、白土原12号窯では回転ヘラケズリを施すものが約半数を占め、白土原14号窯では回転糸切痕を残すものが多いとされ、これも窯によって傾向が異なる。発掘区から出土した灰軸陶器の底部外面も調整にバラエティーが認められる(写真9～11)。器種毎の底部外面の調整について、表37にまとめた。碗Aは約54%が回転糸切痕を残し、回転ヘラケズリを施すものの方が少ない。調整が粗雑なものも多く、生産地の傾向と一致する。碗Bは約79%が回転ヘラケズリを施す。調整が丁寧なものも多く、生産地の傾向と一致する。皿は回転糸切痕を残すものが約69%と多い。調整が粗雑なものも多く、白土原14号窯式の傾向に近い。段皿は回転ヘラケズリを施すものが約58%を占める。調整が丁寧なものも多く、白土原12号窯の傾向に近い。

組成の比率について

次に器種毎の組成比を検討したい。生産地では出土個体数をもとに組成を比較しており、今回はこれに則る⁹⁾。当該期の生産地における器種の組成比は、多治見市教育委員会が実施した各窯の調査で検討されており、これらとの比較を試みる。検討結果は図72に示した¹⁰⁾。碗Aは当該期に生産量が激減するとされ、20%を超えるのは明和26号窯のみで多くが10%程度となる。発掘区から出土した碗A

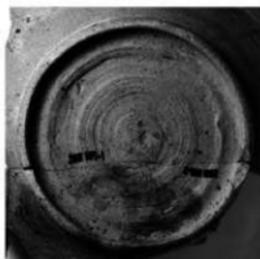


写真9 底部外面回転ヘラケズリ

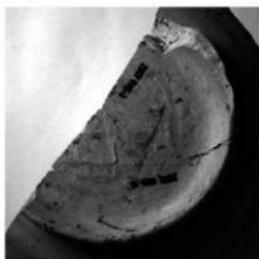


写真10 底部外面ナデ



写真11 底部外面回転糸切痕

表38 底部調整比率

底部調整	碗A	底部調整比率	碗B	底部調整比率	皿	底部調整比率	段皿	底部調整比率	合計	底部調整比率
回転ヘラケズリ	12	42.8%	30	78.9%	11	31.4%	14	58.3%	67	53.6%
ナデ	1	3.6%	2	5.3%	0	0.0%	0	0.0%	4	3.2%
回転糸切痕	15	53.6%	6	15.8%	24	68.6%	10	41.7%	54	43.2%
合計	28	100.0%	38	100.0%	35	100.0%	24	100.0%	125	100.0%

は22.4%を占め、同時期の窯と比べ割合が高い。碗Bは当該期に生産量が増加するとされ、白土原15号窯式や明和13号窯では約67%を占め、最も割合の低い白土原12号窯では34%である。発掘区から出土した碗Bは30.4%で、同時期の窯と比べて割合が低い。皿は、当該期に生産量が激減することが指摘されており、最も割合の高い白土原12号窯でも12%程度で3%以下の窯も認められる。それに対し、発掘区から出土した皿は28.0%を占め、同時期の窯に比べて割合の高さが顕著である。段皿は当該期に生産量が増加することが指摘されているが、40%以上を占める窯もある一方で、11%ほどの窯もあり生産量にバラつきがある。当遺跡の段皿は19.2%を占め、生産量を検討されている窯の平均値が28.2%であることを考慮すれば、割合が低い。

以上、出土した灰釉陶器の調整や組成の比率について整理した。その結果、発掘区で出土した灰釉陶器は、生産地と比べて調整が粗雑な碗Aや皿の割合が高く、調整が丁寧な碗Bや段皿の比率が低い傾向が見出せた。現時点では他の集落との比較ができず不明確な部分が多いが、粗雑なものの比率が高い理由としては、当遺跡が生産地に近いことや、一般的な階層の集落であることを考えておきたい。今後その他の消費地や、より多くの生産地の動向が明らかになり、詳細な比較検討が可能になることに期待したい。

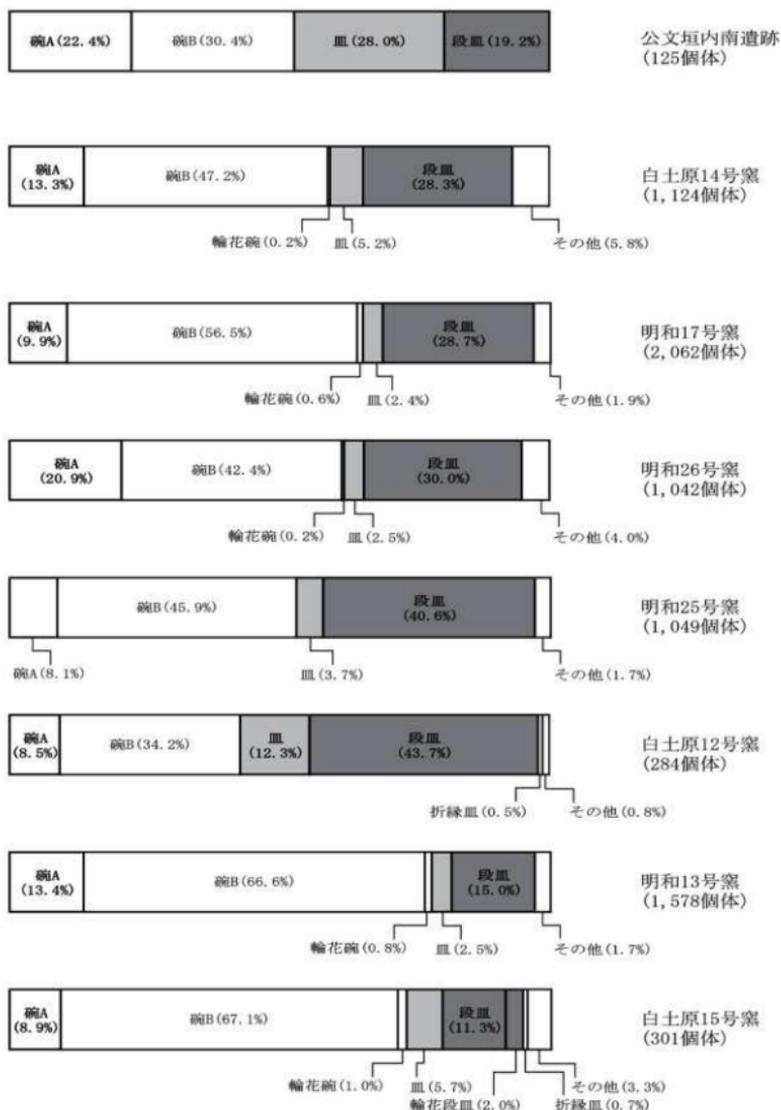


図72 丸石2号窯期器種比率

注

- 1) 包含層出土遺物は遺構出土遺物と接合した例が複数あり、発掘区から大きくは移動していないと考えたため、数量を含めた。
- 2) 第3章第3節、注1に同じ。
- 3) 藤澤良祐 2007「第1章 総論」『愛知県史 別編 窯業2 中世・近世 瀬戸系』、愛知県
- 4) 以下の文献を参考にした。
 多治見市教育委員会 1994A『白土原 11・12・13号窯発掘調査報告書』（多治見市埋蔵文化財発掘調査報告書 第41号）
 多治見市教育委員会 1994B『白土原 14号窯発掘調査報告書』（多治見市埋蔵文化財発掘調査報告書 第42号）
- 5) 以下の文献を参考にした。
 多治見市教育委員会 1994B『白土原 14号窯発掘調査報告書』（多治見市埋蔵文化財発掘調査報告書 第42号）
- 6) 底径が2分の1以下のものは同心円を用いて径を推定した。
- 7) 図71の生産地の例については、丸石2号窯式の典型例とされる白土原12号窯と白土原14号窯の報告書に掲載されている窯の実測図を計測して示した。報告書は1)に示したものと同一。
- 8) 1)に同じ。
- 9) 生産地では、出土個体数を「底部を2分の1以上残すものは1個体として数える。ただし、2分の1以下でも破片の状況から個体識別が可能な場合その限りではない」としている。定義は以下の文献に則った。
 多治見市教育委員会 1994A『白土原 11・12・13号窯発掘調査報告書』（多治見市埋蔵文化財発掘調査報告書 第41号）
 多治見市教育委員会 1994B『白土原 14号窯発掘調査報告書』（多治見市埋蔵文化財発掘調査報告書 第42号）
 多治見市教育委員会 1997『白土原 15号窯発掘調査報告書』（多治見市埋蔵文化財発掘調査報告書 第56号）
- 10) 図72の各窯の組成比は5)に示した各文献に示された以下の表を基に作成した。
 多治見市教育委員会 1994A、表7
 多治見市教育委員会 1994B、表4・5
 多治見市教育委員会 1997、表5

第3節 まとめ

本章第1節・第2節で検討した内容を踏まえ、発掘区で得られた成果についてまとめる。

I 期

当該期以前の確実な遺構・遺物は認められず、発掘区において人々の活動はなかったと考えられる。

II 期

当該期以降に遺構・遺物が確認できるようになる。遺構の分布は、発掘区の北部に限られる。遺構・遺物ともに数が少なく、主要な遺構も確認できないことから、当該期の活動は低調であったと考える。

III 期

大原2号窯式の遺構・遺物は認められず、再び遺構・遺物が確認できるようになるのは虎渓山1号窯式以降である。当該期の遺構・遺物は丸石2号窯式のもが主体で、土器の1つ目のピークと重なる(第5章第1節)。土器は全時期を通してこの時期が最も多い。遺構は北部に加え、南部にも認められるようになる。遺構種別は掘立柱建物、溝等がみられ、自然地形に規制されながら遺構が展開する。SB8は規模が大きく、居住にも耐えうると考えられるため、居住域として利用されたと想定される。特殊な遺物としては、灰釉陶器の耳皿や緑釉陶器の碗が認められるが、いずれも1点のみである。これらの遺物が出土する理由としては、灰釉陶器と緑釉陶器の生産地に近いことや東山道が近接することが関係している可能性があるものの、詳細は不明である。遺物の大部分を占める灰釉陶器は作りが粗雑なものが目立つ(第5章第2節)ことを踏まえると、一般的な階層の居住域であったと考える。また、明和27号窯式以降は遺構・遺物が認められなくなり、居住域は継続しないようである。

IV 期

再び遺構・遺物が確認できるようになるのは山茶碗第4型式以降である。山茶碗第5型式の遺構が多い点は、土器の推移の2つ目のピークの前半と重なる。遺構は、III期と同様に発掘区の全域に認められる。遺構種別は掘立柱建物、溝等がみられ、III期同様に自然地形に規制されながら遺構が展開する。当該期には、SB2、SB7といった小規模な掘立柱建物が認められるようになる。居住には耐えられないと考えられるため、小屋等として使用された可能性がある。一方、規模の大きいSB1も認められ、当該期も居住域として利用されたことが窺える。遺物は山茶碗が主体をなす。包含層から出土した貿易陶磁器は1点のみで、一般的な階層の居住域であったと考えられる。

V 期

当該期の遺構・遺物は、IV期に継続して確認でき、山茶碗第6型式のもが多い点は、土器の2つ目のピークの後半と重なる。当該期の後葉は、土器の3つ目のピークと重なるが、このピークと重なる明確な遺構は見い出せない。遺構は発掘区の西部に集中するようになる。遺構種別は掘立柱建物、塀・柵、排水溝等がみられ、III期同様に自然地形に規制されながら展開する遺構のほかに、長軸方位が東西・南北軸に近いものも認められるようになる。後者が後出する可能性があるが、詳細は不明であり、両者が併存していた可能性もある。掘立柱建物は小規模なもののみで、集落の一部であったとしても、居住域としては利用されていなかったと考える。小規模な掘立柱建物は、小屋等として使用された可能性があるが、発掘区内で耕作の痕跡は見出すことは出来ず、耕作に伴うものとは考えにく

い。一方、周辺の状況に目を向けると、遺跡の南には丘陵が広がる(図5)。発掘区の南東には丘陵内への出入りに適した谷地形が認められ、この谷に沿って矢部川が北流し、発掘区東部を通り土岐川と合流する¹⁾。丘陵内への出入りがしやすい地形との関係を重視すれば、これらの掘立柱建物は山林資源を得るために山中で作業をするための作業小屋として機能した可能性がある。遺物は山茶碗が主体をなす。古瀬戸が僅かに認められるが、IV期のものが中心で、一般的な階層の集落であったと考えられる。

VI期

当該期以降には遺構が激減し、遺構・包含層ともに当該期以降の遺物は出土しなかったため、発掘区内での活動は低調化したようである。発掘区東壁の包含層よりも上層で畦畔を確認したため、ある時期以降からは耕作地として利用されたようである。

以上、各時期の状況について整理した。発掘区は古代から中世にかけて断続的に利用された一般的な集落であり、その後耕地化したようである。中世の集落が山茶碗第4型式頃に出現し、山茶碗第11型式までで廃絶するという、美濃地域の中世集落の傾向と一致する状況を捉えることができた点は重要である。また、当遺跡の周辺には古代から中世にかけて土岐川南岸の谷底平野に沿って古代東山道や東山道、下街道が通っていたことが推定されており、古代には土岐駅、中世には勅修寺領の公文屋敷が設けられたと推定されている²⁾。当遺跡は南側に控える丘陵の影響を受け、全域が緩く傾斜するのに対し、当遺跡北側の自然堤防上に位置する公文垣内遺跡(図5-14)では平坦面が広がり、現在も集落が展開する。公文垣内遺跡は古代から中世にかけての遺物散布地として知られ、当遺跡との関係が窺える。今回の発掘区で確認した遺構・遺物は、いずれの時期も数が少なく、集落の中でも端付近であったと想定されることや、地形、街道との関係を考えれば、古代から中世にかけての遺構は公文垣内遺跡を中心に展開していた可能性がある。今後の調査の進展により、公文垣内遺跡と併せて当遺跡の評価できるようになることを期待したい。

注

- 1) 加えて、発掘区南東部の谷は山中で行き止まりとなっており、道として機能していたとは考えにくい。
- 2) 以下の文献を参考にした。

伊藤秋男 1988 「瑞浪市の古墳と古東山道」『瑞浪陶磁資料館研究紀要』第4号、瑞浪陶磁資料館
 瑞浪市 1974 『瑞浪市史』歴史編
 瑞浪市教育委員会 2008 『歴史の道 中山道保存整備事業報告書』

引用・参考文献

- 愛知県史編さん委員会2007『愛知県史 別編 窯業2 中世・近世 瀬戸系』、愛知県
- 愛知県史編さん委員会2012『愛知県史 別編 窯業3 中世・近世 常滑系』、愛知県
- 愛知県史編さん委員会2015『愛知県史 別編 古代 猿投系』、愛知県
- 伊藤秋男1988「瑞浪市の古墳と古東山道」『瑞浪陶磁資料館研究紀要』第4号 瑞浪陶磁資料館
- 宇治谷孟1986『全訳一現代文 日本書紀』下巻、創芸出版株式会社
- 内堀信雄・井川祥子1996「美濃における古代土師器煮炊具の様相」『鍋と甕そのデザイン』、東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会
- 宇野隆夫1992「食器計量の意義と方法」『国立歴史民俗博物館研究報告』第40集、国立歴史民俗博物館
- 恵那市教育委員会1983『正家1号窯発掘区調査報告書』。
- 加藤寛治1982『からむし』第2号
- 各務原市教育委員会1981『美濃須術古窯跡群資料調査報告書』（各務原市資料調査報告書第4号）
- 岐阜県企画部地域振興課1989『5万分の1土地分類基本調査（地形分類図）恵那・中津川』
- 岐阜県教育委員会1924『濃飛兩國通史』
- 岐阜県教育委員会2004『岐阜県中世城館跡総合調査報告書』第3集
- 岐阜県教育委員会2007『改訂版 岐阜県 遺跡地図』
- 岐阜県神社庁瑞浪市支部1998『瑞浪市の神社一七十二社参拝案内』
- 岐阜県文化財保護センター2021『高屋遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第149集）
- 岐阜県文化財保護センター2022『土岐上平遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第156集）
- 小山正忠、竹原秀雄2015『新版標準土色帖』、日本色研事業株式会社
- 近藤行仁2012「釜戸上平遺跡における旧石器～縄文時代遺物の詳細報告」『瑞浪陶磁資料館研究紀要』第14号
- 田口昭二1983『美濃焼』（考古学ライブラリー17）、ニューサイエンス社
- 太宰府市教育委員会2000『太宰府条坊跡XV—陶磁器分類編—』（太宰府市の文化財第49集）
- 多治見市教育委員会1994A『白土原11・12・13号窯発掘調査報告書』（多治見市埋蔵文化財発掘調査報告書第41号）
- 多治見市教育委員会1994B『白土原14号窯発掘調査報告書』（多治見市埋蔵文化財発掘調査報告書第42号）
- 多治見市教育委員会1997『白土原15号窯発掘調査報告書』（多治見市埋蔵文化財発掘調査報告書第56号）
- 中村俊夫2000「放射性炭素年代測定法の基礎」『日本先史時代の¹⁴C年代』、日本第四紀学会
- 中野効四郎1956「三箇上人供養塔」『岐阜県指定文化財調査報告書』第3巻、岐阜県教育委員会
- 奈良国立文化財研究所1998『飛鳥藤原宮発掘調査出土木簡概報13』発掘調査出土木簡概報
- 藤澤良祐1994「山茶碗研究の現状と課題」『研究紀要』第3号、三重県埋蔵文化財センター
- 藤澤良祐2007『第1章 総論』『愛知県史 別編 窯業2 中世・近世 瀬戸系』、愛知県

- 藤澤良祐 2015『付編 中世常滑窯編年の再検討—5型式期以降を中心に—』『上県2号窯跡第9次発掘調査概要報告書』(愛知学院大学考古学発掘調査報告20)、愛知学院大学文学部歴史学科
- 瑞浪市 1974『瑞浪市史』歴史編
- 瑞浪市 2008『歴史の道 中山道保存整備事業報告書』
- 瑞浪市教育委員会 1964『瑞浪市の古墳』(瑞浪市史学研究報告書第1号)
- 瑞浪市教育委員会 1966『岐阜県瑞浪市釜戸町字吉原津島古墳発掘調査報告書』(瑞浪市史学研究報告書第4号)
- 瑞浪市教育委員会 1981『瑞浪市中央自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 瑞浪市教育委員会 2008『歴史の道 中山道保存整備事業報告書』
- 瑞浪市教育委員会 2014『瑞浪市遺跡詳細分布報告書』(瑞浪市埋蔵文化財調査報告書 第6集)
- 瑞浪市教育委員会 2014『笹山遺跡』(瑞浪市文化財調査報告書第7集)
- 瑞浪市教育委員会 2017『桜堂遺跡』範囲内容確認調査報告書(瑞浪市文化財調査報告書第8集)
- 瑞浪市陶磁資料館 2011『瑞浪市歴史資料集』第1集
- 瑞浪市陶磁器資料館 2012『薬師寺1200年展』
- 山内伸浩 2008「東濃地域における灰釉陶器・山茶碗生産の様相—一窯の分布とその変遷からの視点—」『日本考古学協会 2008年度愛知大会研究発表資料集』、日本考古学協会 2008年度愛知大会実行委員会
- 若尾正成 1992「第9章 白瓷・白瓷系陶器編年における一考察」明和古窯跡群発掘調査報告書、多治見市教育委員会
- 渡辺博人 2008「美濃須衛窯について」『日本考古学協会 2008年度愛知大会研究発表資料集』、日本考古学協会 2008年度愛知大会実行委員会
- Bronk Ramsey, C. 2009「Bayesian Analysis of Radiocarbon dates」『Radiocarbon』51(1)
- Hua, Q., Barbetti, M. Rakowski, A. Z. 2013「Atmospheric Radiocarbon for the Period 1950- 2010」『Radiocarbon』55(4).
- Reimer, P. J., Austin, W. E. N., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P. G., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R. L., Friedrich, M., Grootes, P. M., Guilderson, T. P., Hajdas, I., Heaton, T. J., Hogg, A. G., Hughen, K. A., Kromer, B., Manning, S. W., Muscheler, R., Palmer, J. G., Pearson, C., van der Plicht, J., Reimer, R. W., Richards, D. A., Scott, E. M., Southon, J. R., Turney, C. S. M., Wacker, L., Adolphi, F., Büntgen, U., Capano, M., Fahrni, S. M., Fogtmann-Schulz, A., Friedrich, R., Köhler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reinig, F., Sakamoto, M., Sookdeo, A. and Talamo, S. 2020「The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP)」『Radiocarbon』62(4), 725- 757, doi:10.1017/RDC.2020.41. <https://doi.org/10.1017/RDC.2020.41> (cited 12 August 2020)



東区全景 (西が上)



西区全景 (東が上)

図版2 遺構(2)



S8 完掘状況 (西から)



SP3 土層断面 (南東から)



SP6 土層断面 (南から)



SD4 遺物出土状況 (北から)



SK132 土層断面 (南西から)



SB1完掘状況(北西から)



SB1-P2土層断面(南から)



SB1-P5土層断面(西から)



SB2完掘状況(北西から)

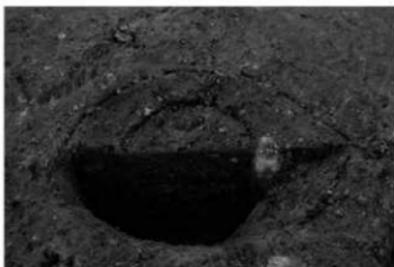
図版4 遺構(4)



SB 2-P1 土層断面 (南から)



SB 2-P2 土層断面 (南西から)



SB 4-P3 土層断面 (南西から)



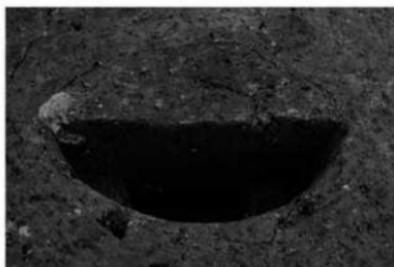
SB 4-P4 土層断面 (南西から)



SB 4-P5 土層断面 (南西から)



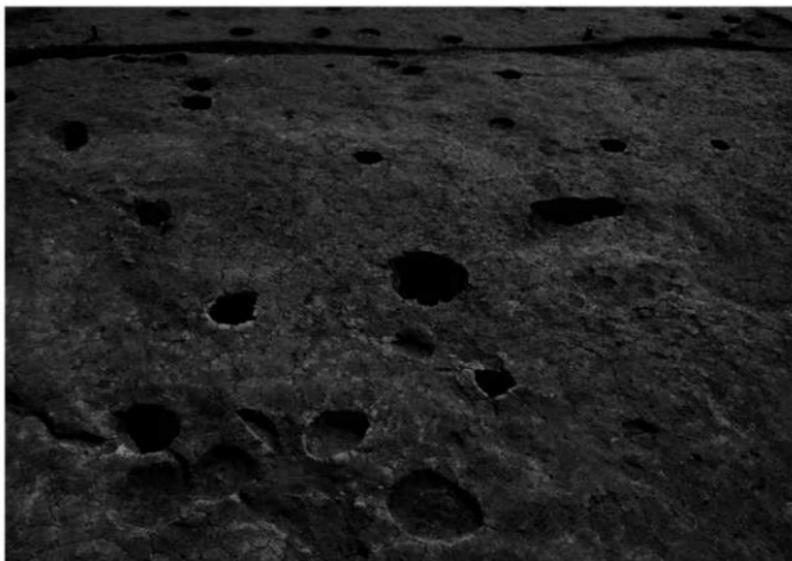
SB 4-P6 土層断面 (南東から)



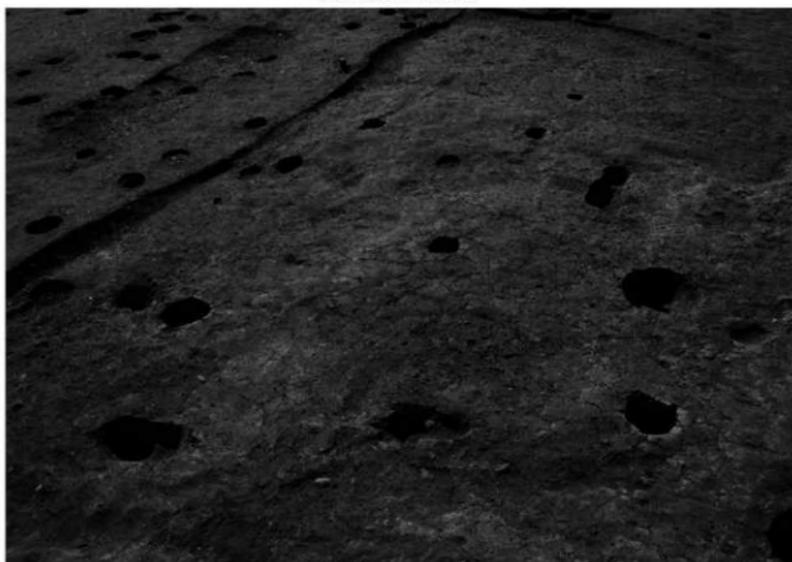
SB 5-P2 土層断面 (南西から)



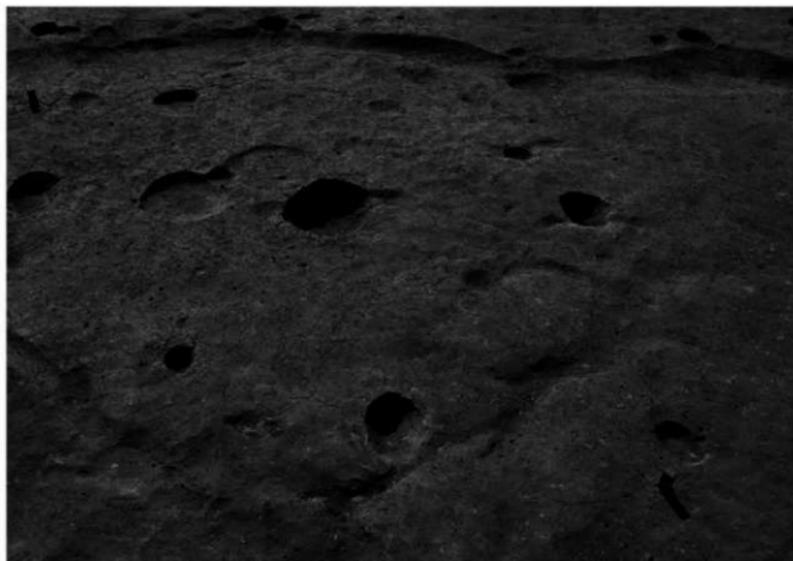
SB 6-P2 土層断面 (東から)



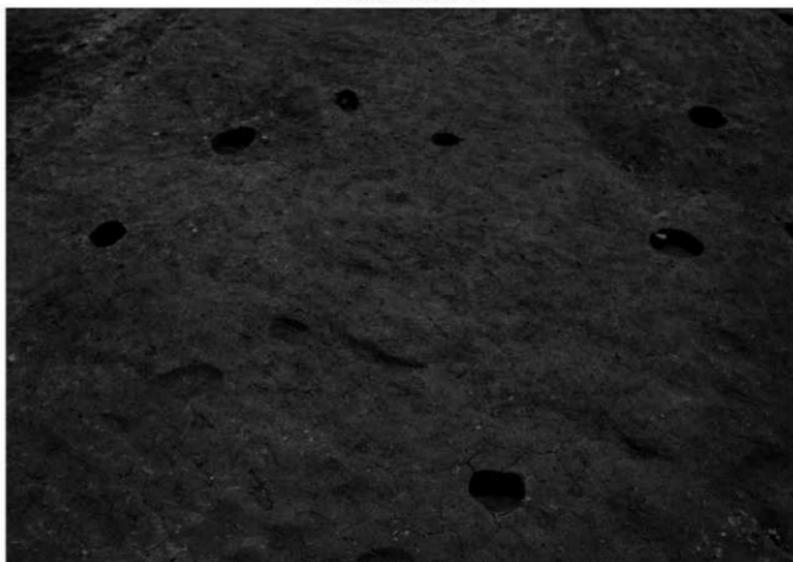
S85 完掘状況 (北から)



S86 完掘状況 (北東から)



SB 7 完掘状況 (北東から)



SB 9 完掘状況 (北東から)



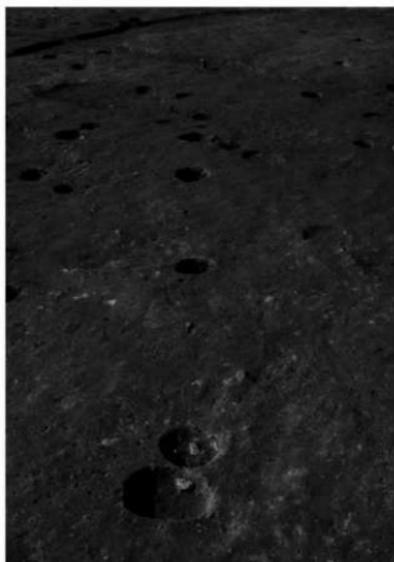
SA2-P1土層断面(南東から)



SA2-P4土層断面(南西から)



SA3完掘状況(南から)



SA4完掘状況(南東から)



SA3-P1土層断面(南西から)

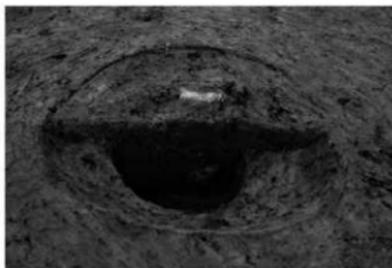


SP1土層断面(西から)

図版8 遺構(8)



SP8土層断面(南から)



SP10土層断面(南東から)



SD2遺物出土状況(北東から)



SD2完掘状況(南東から)



SD8完掘状況(北東から)



SD6 完掘状況(北から)



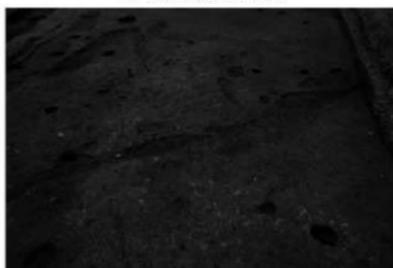
SD7 完掘状況(南から)



SD13 完掘状況(南から)



SD11 遺物出土状況(南東から)



SD11G・H12 グリッド完掘状況(東から)



SD11E・G11～12 グリッド完掘状況(東から)

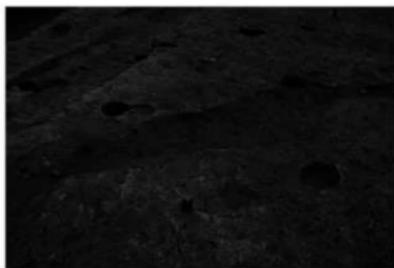


SD16G・H12～13 グリッド完掘状況(南東から)



SD16G13～14 グリッド完掘状況(北から)

図版 10 遺構 (10)



SD18 完掘状況 (東から)



SD19・20 完掘状況 (南東から)



SD26 C-C' 土層断面 (西から)



SD26 D-D' 土層断面 (北西から)



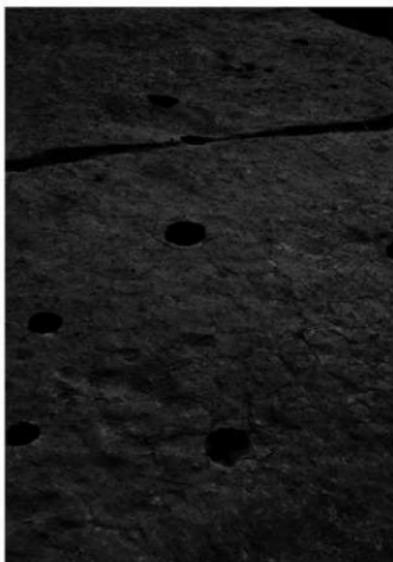
SD26 付属遺構完掘状況 (南東から)



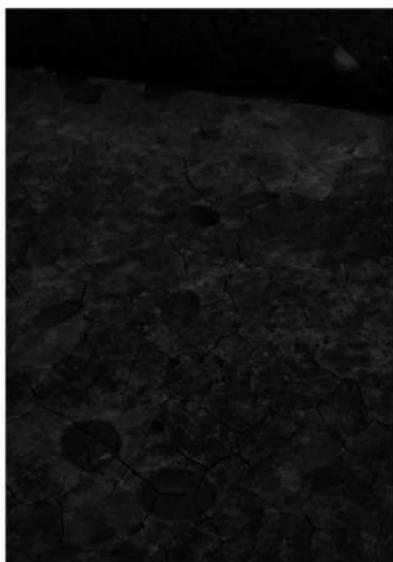
SK226 土層断面 (南東から)



SK226 掘出土状況 (南東から)



SA1 完掘状況 (北東から)



SA5 完掘状況 (南西から)

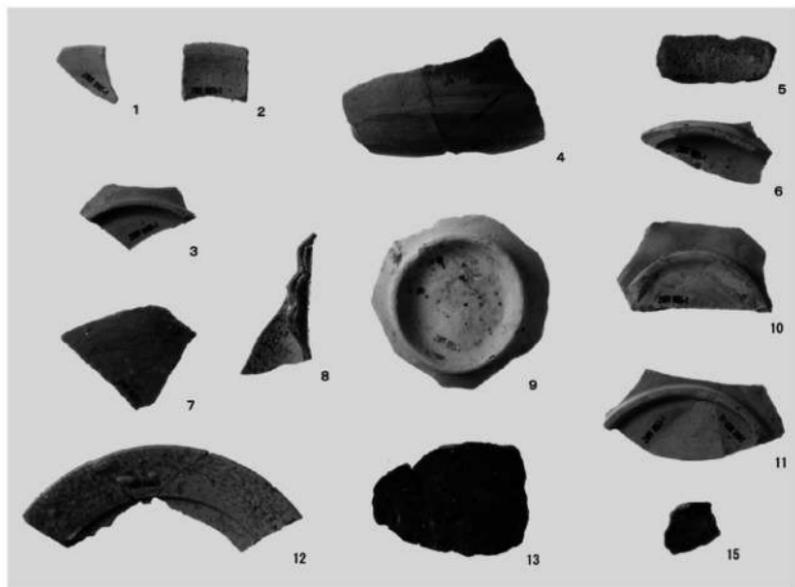


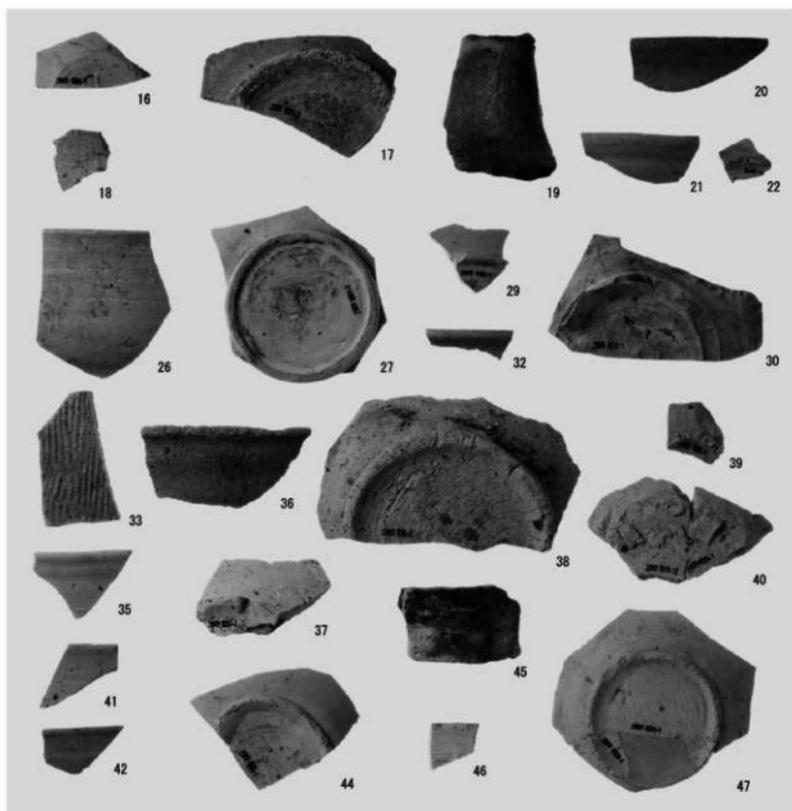
SA1-P1 土層断面 (南東から)



SP17 土層断面 (東から)

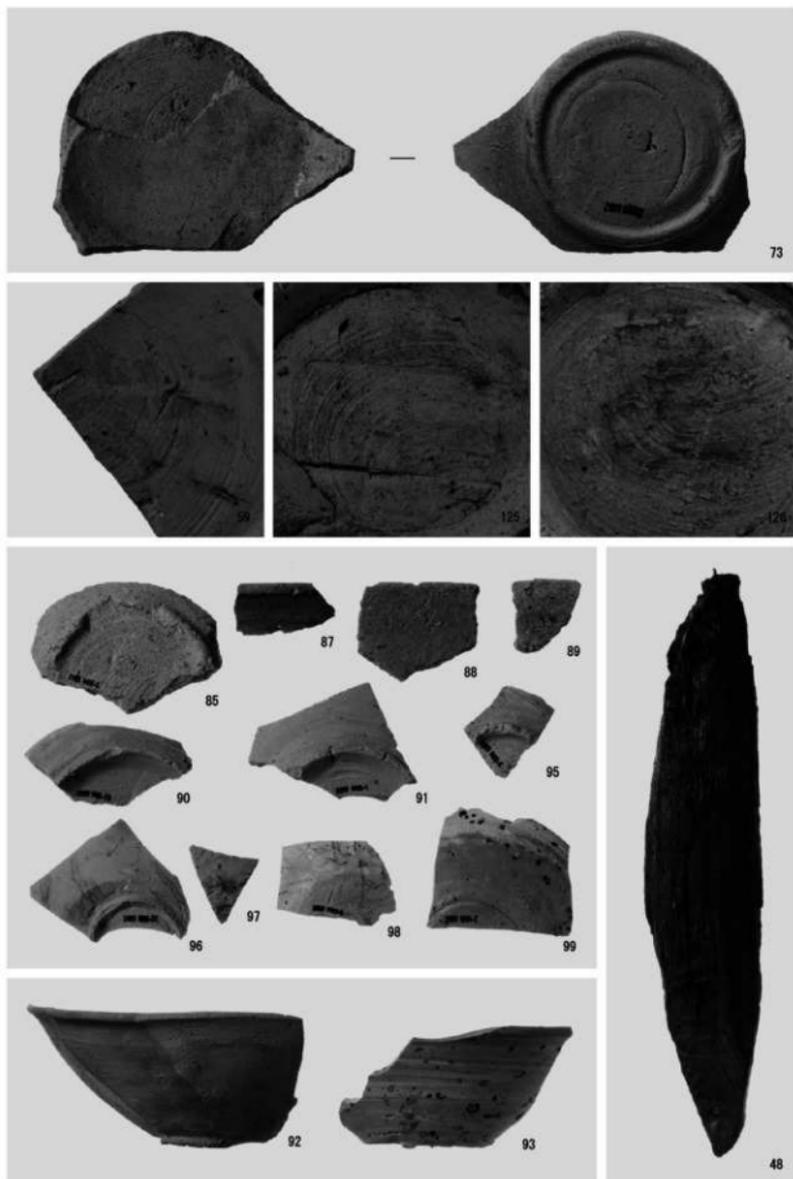
图版 12 出土遺物：遺構





圖版 14 出土遺物：表土・排土・包含層





報 告 書 抄 録

ふりがな	くもがいとみなみいせき							
書名	公文垣内南遺跡							
シリーズ名	岐阜県文化財保護センター調査報告書							
シリーズ番号	第159集							
編著者名	磯貝龍志							
編集機関	岐阜県文化財保護センター							
所在地	〒502-0003 岐阜市三田洞東1-26-1 TEL058-237-8550 FAX058-237-8551							
発行年月日	2023年3月3日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
公文垣内南 遺跡	岐阜県 瑞浪市 釜戸町	21208	07925	35° 23' 54"	137° 17' 30"	20200507 ～20201027	1,391.7	記録保存調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
公文垣内南遺跡	散布地 集落跡	古代 中世	掘立柱建物	9棟	土師器	70点	古代から中世にかけての集落跡を確認した。	
			塀・柵	5列	須恵器	49点		
			単立柱穴・杭穴	17基	灰釉陶器	1,009点		
			溝状遺構	37基	灰釉系陶器	7点		
			土坑	425基	山茶碗	1,932点		
					中近世陶磁器	185点		
					土製品	1点		
					木製品	1点		
要 約	<p>公文垣内遺跡は土岐川左岸に立地し、発掘区は矢部川が形成した小規模な扇状地上に位置する。</p> <p>今回の調査では、古代から中世後期にかけての遺構や遺物を確認した。主な遺構としては、古代・中世の掘立柱建物や中世の排水溝がある。遺物は、古代では灰釉陶器、中世では山茶碗が主体となる。遺構や遺物の様相から、発掘区周辺では、古代から中世にかけて一般的な集落が断続的に展開していたと考えられる。</p>							

岐阜県文化財保護センター調査報告書 第159集

公文垣内南遺跡

2023年3月3日

編集・発行 岐阜県文化財保護センター
岐阜市三田洞東1-26-1

印刷 株式会社もとしんさつ

